

Sterling Selling and Fulfillment Foundation



返品物流構成ガイド

バージョン 9.1

Sterling Selling and Fulfillment Foundation



返品物流構成ガイド

バージョン 9.1

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、477 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Sterling Selling and Fulfillment Foundation バージョン 9.1、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Sterling Selling and Fulfillment Foundation
Reverse Logistics Configuration Guide
Release 9.1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.4

© Copyright IBM Corporation 1999, 2011.

目次

第 1 章 返品物流の構成の概要	1
ビジネス・モデル	1
複数事業部制コーポレーション	2
サード・パーティー物流管理	2
マーケットプレイス	2
返品物流の構成	3
物流管理	3
会計	3
顧客	3
オーダー属性	3
オーダー検証	4
返品理由	4
指示タイプ	4
変更理由	4
バックオーダー理由	4
プロセス・タイプの構成	4
ページ条件	5
第 2 章 Applications Manager のナビゲート	7
Applications Manager の始動	7
Applications Manager のレイアウト	7
アプリケーション・ルールのサイド・パネル	9
作業領域	16
Applications Manager で使用可能なアクション	20
Applications Manager のルックアップ機能の使用	21
アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示	21
Applications Manager にログインしているユーザーの表示	23
リストおよびリスト・フィルタリングの使用	23
日時エントリー	24
コンテキスト・ヘルプの使用	25
エラーのトラブルシューティング	25
特殊文字の使用	25
第 3 章 アプリケーション共通物流管理コンポーネントの構成	27
アプリケーション共通物流管理コンポーネントの構成	27
物流属性の定義	27
運賃条件の定義	27
運送会社変更理由の定義	29
追加の物流ルールの定義	31
配送コードの定義	32
配送コードの作成	33
配送コードの変更	33
配送コードの削除	34
出荷モードの定義	34
出荷モードの作成	34

出荷モードの変更	35
出荷モードの削除	35
出庫制約の定義	35
ルーティング・ガイドの作成	38
ルーティング・ガイドの変更	40
ルーティング・ガイドの削除	46

第 4 章 アプリケーション共通価格設定コンポーネントの構成	47
価格プログラムと価格リストの定義	47
価格リストの作成	48
価格リストの変更	51
価格リストの削除	51
価格プログラムの作成	51
価格プログラムの変更	53
価格プログラムの削除	53

第 5 章 アプリケーション共通支払コンポーネントの構成	55
アプリケーション共通支払コンポーネントの構成	55
システム支払処理ルール	55
支払タイプの定義	56
支払タイプの作成	56
支払タイプの変更	60
支払タイプの削除	61
支払ルールの定義	61
支払ルールの作成	61
支払ルールの変更	65
支払ルールの削除	65

第 6 章 アプリケーション共通顧客コンポーネントの構成	67
顧客の分類コードの構成	67
顧客の分類の作成	67
顧客の分類の変更	67
顧客の分類の削除	68
追加の顧客ルールの定義	68
「顧客の定義」の定義	70
顧客定義の作成	70
顧客定義の変更	72
顧客定義の削除	82
連絡タイプの定義	82
顧客連絡タイプの作成	82
顧客連絡タイプの変更	83
顧客連絡タイプの削除	83

第 7 章 アプリケーション共通サービス実行コンポーネントの構成	85
サービス管理者の構成	85
ノードのサービスの管理者の定義	85

ノードのサービスの管理者の変更	86
ノードのサービスの管理者の削除	87
住所に関する質問の構成	87
住所に関する質問のグループの定義	87
住所に関する質問グループの変更	88
住所に関する質問グループの削除	89
住所に関する質問の定義	89
住所に関する質問の変更	90
住所に関する質問の削除	91
キャパシティーのインパクトの定義	91
キャパシティーのインパクトの変更	92
キャパシティーのインパクトの削除	93
住所に関する質問エンティティーの再編成	93

第 8 章 ドキュメントの属性の構成 . . . 95

ドキュメントの属性の構成	95
オーダー・タイプの定義	95
オーダー・タイプの作成	95
オーダー・タイプの変更	96
オーダー・タイプの削除	96
オーダー元の定義	97
オーダー元の作成	97
オーダー元の変更	97
オーダー元の削除	98
オーダー・レベルの外部参照の定義	98
オーダー・ヘッダー・レベルの外部参照の作成	98
オーダー・ヘッダー・レベルの外部参照の変更	99
オーダー・ヘッダー・レベルの外部参照の削除	99
オーダー明細レベルの外部参照の定義	100
オーダー明細レベルの外部参照の作成	100
オーダー明細レベルの外部参照の変更	100
オーダー明細レベルの外部参照の削除	101
オーダー住所タイプの定義	101
オーダー住所タイプの作成	101
オーダー住所タイプの変更	102
オーダー住所タイプの削除	102
明細タイプの定義	103
明細タイプの作成	103
明細タイプの変更	103
明細タイプの削除	104
他の属性の定義	104
事前構成済み番号から新規明細の主要明細番号を生成	104

第 9 章 ドキュメントのオーダー検証の構成 . . . 107

ドキュメントのオーダー検証の構成	107
------------------	-----

第 10 章 ドキュメントの返品理由の構成 . . . 111

返品理由の作成	111
返品理由の変更	112
返品理由の削除	112

第 11 章 ドキュメントの指示タイプの構成 . . . 113

ドキュメントの指示タイプの構成	113
指示タイプの作成	113
指示タイプの変更	114
指示タイプの削除	114

第 12 章 ドキュメントの変更理由の構成 . . . 115

ドキュメントの変更理由の構成	115
変更理由の作成	115
変更理由の変更	116
変更理由の削除	116

第 13 章 ドキュメントのバックオーダー理由の構成 . . . 119

ドキュメントのバックオーダー理由の構成	119
バックオーダー理由の作成	119
バックオーダー理由の変更	119
バックオーダー理由の削除	120

第 14 章 ドキュメントのメモ記載理由の構成 . . . 121

ドキュメントのメモ記載理由の構成	121
メモ記載理由の作成	121
メモ記載理由の変更	121
既存のメモ記載理由に基づく新規メモ記載理由の作成	122
メモ記載理由の削除	122

第 15 章 ドキュメントの明細関係タイプの構成 . . . 123

ドキュメントの明細関係タイプの構成	123
明細関係タイプの定義	123
明細関係タイプの変更	123
既存の明細関係タイプに基づく新規明細関係タイプの作成	124
明細関係タイプの削除	124

第 16 章 ドキュメントの変更コンポーネントの構成 . . . 125

ドキュメントの変更コンポーネントの構成	125
変更ルール	125
変更ルールの定義	125
変更ルールの変更	127
カスタム変更タイプの定義	128
カスタム変更タイプの作成	129
カスタム変更タイプの変更	130
カスタム変更タイプの削除	130
「変更が価格に影響」の定義	131
変更が価格に影響の変更タイプの追加/削除	131
監査を必要とする変更の定義	131

第 17 章 返品ドキュメントのフルフィルメント固有コンポーネントの構成 . . . 133

フルフィルメント固有コンポーネント: 保留タイプの定義	133
保留タイプの作成	134

フルフィルメント固有コンポーネント: 保留タイプの変更	148
フルフィルメント固有コンポーネント: 保留タイプの削除	149
フルフィルメント固有コンポーネント: プロセス・タイプ・パイプラインの構成	149
フルフィルメント固有コンポーネント: パイプラインの決定の定義	150
フルフィルメント固有コンポーネント: パイプライン	150
フルフィルメント固有コンポーネント: トランザクション	152
フルフィルメント固有コンポーネント: ステータス	155
フルフィルメント固有コンポーネント: 条件	158
フルフィルメント固有コンポーネント: アクション	161
トランザクション・ルール	161
ステータス在庫のタイプの定義	165
ステータス在庫のタイプの作成	167
ステータス在庫のタイプの変更	168
ステータス在庫のタイプの削除	169
フルフィルメント固有コンポーネント: モニター・コンポーネントの定義	169
フルフィルメント固有コンポーネント: 日付タイプの定義	169
フルフィルメント固有コンポーネント: マイルストーンの定義	171
フルフィルメント固有コンポーネント: モニター・イベントの定義	173
フルフィルメント固有コンポーネント: イベント・ルール	173
イベントの変更	175
フルフィルメント固有コンポーネント: イベントの削除	175
第 18 章 返品ドキュメントの出荷固有コンポーネントの構成	177
出荷固有コンポーネント: 保留タイプの定義	177
出荷固有コンポーネント: プロセス・タイプ・パイプラインの構成	178
出荷固有コンポーネント: パイプラインの決定の定義	178
出荷固有コンポーネント: パイプライン	179
出荷固有コンポーネント: トランザクション	181
出荷固有コンポーネント: ステータス	184
出荷固有コンポーネント: 条件	187
出荷固有コンポーネント: アクション	189
出荷固有コンポーネント: モニター・コンポーネントの定義	189
出荷固有コンポーネント: 日付タイプの定義	189
出荷固有コンポーネント: マイルストーンの定義	191
出荷固有コンポーネント: モニター・イベントの定義	193
出荷固有コンポーネント: イベント・ルールの作成	193

イベントの変更	195
出荷固有コンポーネント: イベントの削除	195
出荷プリファレンスの定義	195
超過出荷プリファレンス	195
トランザクション・ルール	198

第 19 章 オーダー・ドキュメントの受入固有コンポーネントの構成 201

受入固有コンポーネント: プロセス・タイプ・パイプラインの構成	201
受入固有コンポーネント: パイプラインの決定の定義	202
受入固有コンポーネント: パイプライン	202
受入固有コンポーネント: トランザクション	204
受入固有コンポーネント: ステータス	206
受入固有コンポーネント: 条件	208
受入固有コンポーネント: アクション	209
受入特有のルールの定義	210
予定外のアイテムの受入の許可	210
受入プリファレンスの定義	210
受入プリファレンスの作成	211
受入プリファレンスの変更	212
受入プリファレンスの削除	212
受入処分の定義	213
受入処分の作成	213
既存の受入処分からの新規受入処分の作成	214
受入処分の変更	214
受入処分の削除	215
受入不一致理由の定義	215
受入不一致理由の作成	215
受入不一致理由の変更	217
受入不一致理由の削除	217

第 20 章 ドキュメントの会計コンポーネントの構成 219

支払条件の定義	219
支払条件の作成	219
支払条件の変更	219
支払条件の削除	220
料金の定義の定義	220
料金カテゴリーの作成	221
料金カテゴリーの変更	223
料金カテゴリーの削除	223
税金名の定義	223
税金名の作成	224
税金名の削除	224
税金名の削除	225
追加の支払ルールの定義	225

第 21 章 ドキュメントのページ条件の構成 229

オーダー伝票種別のページ条件ルールの変更	230
----------------------	-----

第 22 章 時間トリガー・トランザクション参照 235

時間トリガー・トランザクション参照	235
時間トリガー・トランザクションの実行	236
時間トリガー・トランザクションをスケジュール する前に完了しておくステップ	236
エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成	237
前提条件	237
初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成	238
トランザクション情報の定義	239
ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクシ ン	240
非同期要求プロセッサ	240
大/小文字を区別しないデータ・ローダー	242
集合・混載ステータスの変更	243
出荷ステータスの変更	245
配送計画の終了	246
集合・混載を閉じる	248
積荷目録を閉じる (Close Manifest)	249
オーダーを閉じる	252
受入の完了	254
出荷を閉じる (Close Shipment)	255
出荷統計の収集	257
追加在庫の統合	259
出荷に統合	260
カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog Index)	263
連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order)	268
派生オーダーの作成 (Create Derived Order)	269
オーダー・インボイスの作成	271
出荷インボイスの作成	273
ESP 評価者	274
アイテム・ベースの割り当て	276
集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマ ーク	280
在庫の照合	282
支払集金	283
支払実行	286
在庫一致の公示	288
オーダー保留タイプの処理	290
保留作業オーダー・タイプの処理	292
交渉の発行結果	293
リリース	295
出荷のルーティング	297
スケジュール	299
インボイスの送付	303
アイテム変更の送信	305
顧客変更の送信	307
オーダーの送信	308
リリースの送信	310
オーダー開始交渉	311
コロニー・マップの同期化	312
ベスト・マッチ地域の更新	314
所有権転送サマリーの読み込み	316
時間トリガー・ページ・トランザクション	317
ページ方法	318
ページ・トランザクション・ログ・ファイルの構 成	318

使用可能なページ	318
タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・ トランザクション	409
集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム	409
オーダー配達タスク・キュー同期プログラム	411
オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同 期プログラム	412
オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム	413
見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プロ グラム	414
モニター	415
在庫状況モニター	415
例外モニター	417
在庫モニター	419
交渉モニター	420
強化したオーダー・モニター	422
強化した見積モニター	425
強化した返品モニター	427
リアルタイム在庫状況モニター	430
出荷モニター	438
作業オーダー・モニター	440
第 23 章 オーダー変更タイプ	443
オーダー変更タイプ	443
第 24 章 条件ビルダーの属性	455
条件ビルダーの属性	455
販売オーダー	456
オーダー・フルフィルメント	456
オーダー交渉	458
出荷	459
受入	460
計画済みオーダー	460
計画済みオーダー実行	460
計画済みオーダー交渉	460
返品オーダー	460
返品物流	460
返品出荷	462
返品受入	462
テンプレート・オーダー	463
購入オーダー	463
購入オーダー実行	463
購入オーダー交渉	464
入荷	465
購入オーダー受入	465
転送オーダー	465
転送オーダー実行	465
転送オーダー配達	465
転送オーダー受入	465
マスター・オーダー・フルフィルメント	465
見積	467
見積フルフィルメント	467
集合・混載実行	467
一般	468
WMS 格納	469
WMS レイアウト定義	469

WMS 在庫	469	VAS プロセス	473
トレーラー積み付け	469	案件	474
タスク実行	469	案件フルフィルメント	474
移動要請実行	469	アイテム・ペース割り当て (IBA) オーダー	474
積荷目録作成	469	特記事項.	477
超過梱包作成	470	索引	481
棚卸実行	470		
パック・プロセス	471		
出庫ピッキング	472		

第 1 章 返品物流の構成の概要

本書は、IBM® Sterling Reverse Logistics 構成を作り上げるルールおよびセットアップ構成に焦点を合わせています。本書は、IBM Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境のセットアップに Applications Manager を使用する、ハブ管理者とエンタープライズ管理者の両方を対象読者としています。さらにビジネス・アナリストも、ビジネス慣行が Sterling Selling and Fulfillment Foundation に関係している場合は、その計画に本書を使用してください。プログラマーは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の拡張に関する情報について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本*」を参照してください。システム・インテグレーターは、外部アプリケーションの拡張またはそれと Sterling Selling and Fulfillment Foundation との統合に関する情報について、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド*」を参照してください。

本書は、読者が「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を読み、そこに詳述されている概念およびビジネス機能を理解していることを前提としています。

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation を実装するために必要なすべてのルールとセットアップ構成の集合であり、各ビジネス・アプリケーションに対して個別に構成を実行できる仕方で編成されています。以下のビジネス・アプリケーションは、Applications Manager 内で構成できます。

- IBM Sterling Distributed Order Management
- IBM Sterling Global Inventory Visibility
- カタログ管理
- IBM Sterling Logistics Management
- IBM Sterling Supply Collaboration
- Sterling Reverse Logistics
- IBM Sterling Warehouse Management System
- IBM Sterling Application Platform

ビジネス・モデル

すべての Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーションが使用できる環境を包含する単一のビジネス・モデルはありません。したがって、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 環境を構成する単一の方法はありません。

例えば、会社が複数事業部制コーポレーション、サード・パーティーの物流管理企業、またはマーケットプレイス・ビジネス企業と見なされているとしましょう。これらの各ビジネス・モデルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成に対して異なる概念アプローチを必要とします。

複数事業部制コーポレーション

複数事業部制コーポレーション・モデルは、主要な焦点が購入と販売のアクティビティを管理することであるビジネス・コーポレーションです。標準的な複数事業部制コーポレーションには、バイヤー、セラー、またはその両方が可能です。これはさらに、小売店、製造業者、またはその両方も可能です。複数事業部制コーポレーションがどのような形式を取るとしても、それは通常、消費者、小売店、販売業者、および相手先商標製造業者などの、さまざまなタイプの顧客との複数のチャネルを持ちます。

複数事業部制コーポレーション・モデルでは、各事業部は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation でエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、事業部別のトランザクションの分離と、企業レベルでのグローバルな可視性の両方が可能になります。各エンタープライズは、固有のビジネス・ルール、ワークフロー、およびトランザクション処理を構成します。

サード・パーティー物流管理

従来のサード・パーティー物流管理会社は、倉庫保管、輸送、および委託製造などの幅広いアウトソーシング・サービスを提供します。

大規模な会社では、そのサプライ・チェーンのリアルタイム管理によって、競争上の優位性を得ることができます。この利点には、コストの削減や顧客サービスの向上が含まれます。さらに、Web ストア、ハンドヘルド・デバイス、および店舗内キオスクなどの新たな販売チャネルにより、企業がその顧客に到達する新しい方法が備えられています。このすべての結果により、フルフィルメント・プロセスの複雑さは増大しました。

サード・パーティー物流管理モデルでは、各クライアントをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、サード・パーティーの物流管理ハブは、ハブ環境内のすべてのトランザクションの可視性を持つことができますが、エンタープライズとしてセットアップされているクライアントは、それ自身のトランザクションに対してのみ可視性を持ちます。これによりサード・パーティーの物流管理ビジネスは、固有のトランザクション処理をそのクライアントに提供することができます。

マーケットプレイス

マーケットプレイスは、バイヤーとセラーを結び付けるオンラインの仲介です。マーケットプレイスは、多くのセラーからの提供アイテムを集約したり、交換またはオークションでバイヤーとセラーをマッチングさせることで、非効率を削減します。バイヤーは、これにより購入コストを引き下げ、新規のセラーに到達するために役立つことができます。セラーは、これによりセールス・コストを引き下げ、新規顧客へのアクセスを取得できます。これは中央ロケーション、つまりハブであり、そこでは信頼された仲介者がプロシージャーとテクノロジーの両方を統合して、コストを引き下げ、バイヤーとセラーのトランザクションの効率を強化します。

マーケットプレイス・モデルでは、各マーケットをエンタープライズとしてセットアップすることができます。このセットアップにより、各マーケットはその独自の製品またはサービスの取り扱いにおいて固有であることができます。

返品物流の構成

返品物流は、修理および返品サイクルをリアルタイムで制御することにより、顧客対応の向上、在庫レベルの削減、および運用コストの最小化を実現するために使用します。さまざまなタイプの返品処理を組織に可能にするプロセスを構成し、返品に関連するすべてのオーダーに対して統合制御を提供することができます。返品物流 (reverse logistics) は、アイテムが在庫に戻されるか破棄されるまでの返品物流および修理サイクル全体を通じて、交換オーダーが送信されたときから返品を追跡するように構成できます。

Applications Manager では、アプリケーション共通およびオーダー・ドキュメント固有の両方のルールおよび属性を確立するために、返品物流構成グループを使用できます。アプリケーション共通のルールと属性は、分散オーダー管理や供給コラボレーションなどの他のアプリケーションにも影響を与える可能性があります。オーダー・ドキュメント固有のルールと属性は、返品オーダーなどの、構成する他のオーダー・ドキュメント・タイプのみに関係します。他のアプリケーションやオーダー・ドキュメント・タイプに影響を与えない、個別のオーダー・ドキュメント・タイプごとに異なる構成を定義できます。

物流管理

分散オーダー管理ビジネス・アプリケーション・モジュール全体を通じて、さまざまな物流管理関連機能により使用されるコンポーネントを構成できます。

物流管理について詳しくは、第 5 章『アプリケーション共通物流管理コンポーネントの構成』を参照してください。

会計

分散オーダー管理ビジネス・アプリケーション・モジュール全体を通じて、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 会計エンジンにより使用されるコンポーネントを構成できます。

会計について詳しくは、アプリケーション共通価格設定コンポーネントの構成、および『ドキュメントの会計コンポーネントの構成』を参照してください。

顧客

分散オーダー管理モジュールの組織から購入する顧客を定義できます。

顧客について詳しくは、67 ページの『第 6 章 アプリケーション共通顧客コンポーネントの構成』を参照してください。

オーダー属性

アプリケーション・コンソールに表示されるオーダー・ドキュメントに関連付ける共通コードは、定義することができます。

オーダー属性について詳しくは、第 9 章『ドキュメントの属性の構成』を参照してください。

オーダー検証

オーダー・ドキュメントの作成中に、オーダーの特定の面を検証するための構成を定義できます。

オーダー検証について詳しくは、第 10 章『ドキュメントのオーダー検証の構成』を参照してください。

返品理由

返品オーダーの作成時に使用する返品理由の共通コードを定義できます。

指示タイプ

特別指示をオーダー・ドキュメントに追加するときに使用する共通コードを定義できます。

指示タイプについて詳しくは、第 11 章『ドキュメントの指示タイプの構成』を参照してください。

変更理由

変更理由の共通コードを定義できます。これらのコードは、ユーザーにより変更が行われた理由を定義します。

変更理由について詳しくは、第 12 章『ドキュメントの変更理由の構成』を参照してください。

バックオーダー理由

バックオーダー理由の共通コードを定義できます。これらのコードは、オーダー・ドキュメントがバックオーダー済みである理由を説明します。

バックオーダー理由について詳しくは、第 13 章『ドキュメントのバックオーダー理由の構成』を参照してください。

プロセス・タイプの構成

オーダー・ドキュメントのライフサイクルを実行するために、各ドキュメントには経ることができる一連のさまざまなプロセスがあります。これらのプロセスは、プロセス・タイプと呼ばれます。すべてのオーダー・ドキュメントには、Sterling Selling and Fulfillment Foundation に、定義済みの一連のプロセス・タイプがあります。

オーダー・ドキュメント・タイプに対しては、以下のプロセス・タイプが Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義されています。

- フルフィルメント
- 交渉
- 出荷
- 受入

オーダー・ドキュメントのプロセス・タイプを定義するルールとコンポーネントを構成できます。

プロセス・タイプ構成について詳しくは、オーダー・ドキュメントのフルフィルメント固有コンポーネントの構成およびオーダー・ドキュメントの出荷固有コンポーネントの構成を参照してください。

ページ条件

システムからオーダー・ドキュメント関連レコードをページするときに使用するパラメーターを定義できます。

ページ条件について詳しくは、第 24 章『ドキュメントのページ条件の構成』を参照してください。

第 2 章 Applications Manager のナビゲート

Applications Manager の始動

このタスクについて

Applications Manager にアクセスするには、以下の手順を実行します。

手順

1. ブラウザーで、`http://<hostname>:<portname>/smcfs/console/start.jsp`を参照します。

ここで、

- `hostname` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのコンピューター名または IP アドレスです。
- `portnumber` は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がインストールされているコンピューターのリスニング・ポートです。

ブラウザーで「サインイン」ウィンドウが表示されます。

2. ログイン ID とパスワードを入力して「サインイン」ボタンを選択します。コンソールのホーム・ページが表示されます。
3. メニュー・バーから「構成」>「コンフィギュレーターの起動」を選択します。

Applications Manager が新しいウィンドウに表示されます。

また、エンタープライズを管理するエンタープライズ・ユーザーは、

`http://<Sterling Selling and Fulfillment Foundation installation server>/smcfs/console/login.jsp`からも Applications Manager をアクセスできます。

Applications Manager と System Management Console のモニターが両方同時に開いている状態で、いずれか一方のアプリケーションのダイアログ・ウィンドウが開いていると、もう一方のアプリケーションはそのダイアログ・ウィンドウが閉じるまでユーザー入力に応答しません。これは、Java プラットフォームのバグに起因するものです。

Applications Manager のレイアウト

Applications Manager は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のさまざまな面を構成するために使用できるグラフィカル・ユーザー・インターフェースです。さまざまな構成は、Applications Manager メニュー・バーからアクセスできる、アプリケーションと呼ばれる論理グループによって定義されます。



図1. アプリケーション・メニュー

各アプリケーションは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の特定の面に焦点を合わせており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が実世界のビジネス設定で機能するために必要なすべてのルール、共通コード、および設定が含まれています。

以下のアプリケーションは、このバージョンの Sterling Selling and Fulfillment Foundation で構成できます。

- 分散オーダー管理
- 統合在庫管理
- カタログ管理
- 物流管理
- 供給コラボレーション
- 返品物流
- 倉庫管理
- アプリケーション・プラットフォーム

構成するアプリケーションを選択すると、Applications Manager は、選択したアプリケーションに使用できるすべての構成ルールと、それらのルールを構成できる作業領域が含まれているサイド・パネルを表示します。

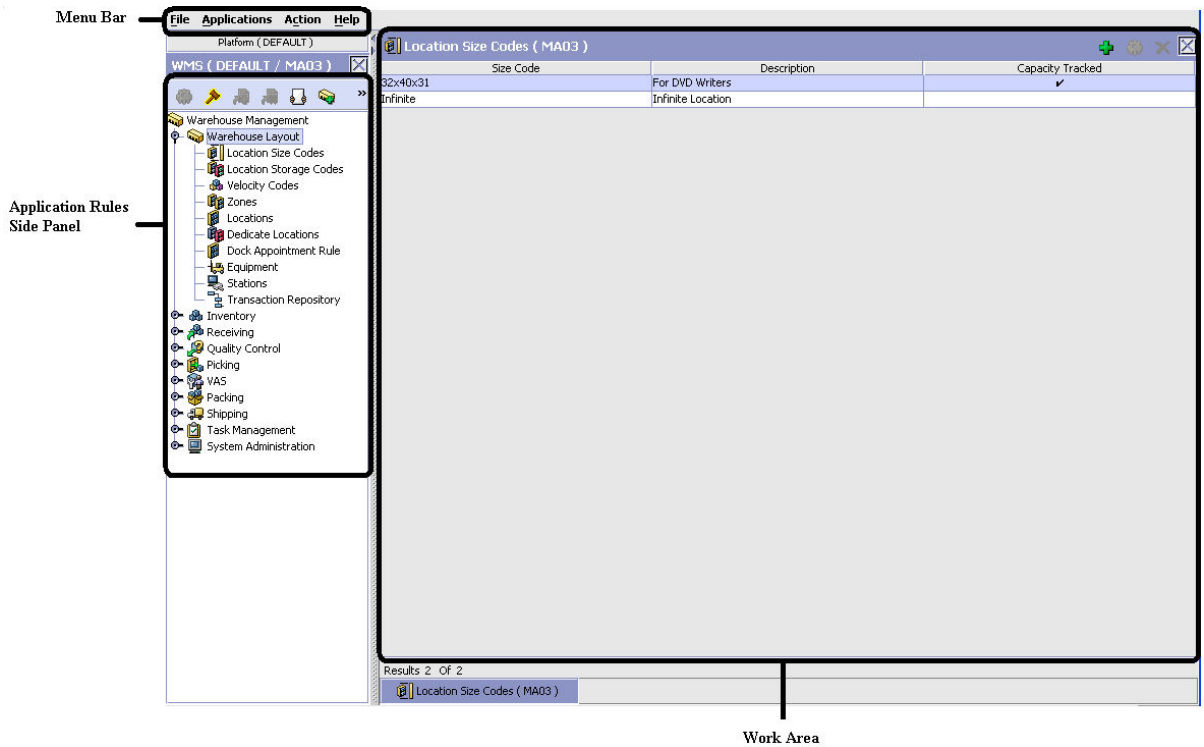


図 2. Applications Manager の標準インターフェース

アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルは、アプリケーション内で使用されるプロセスに固有の要素を、階層ツリーで表示します。

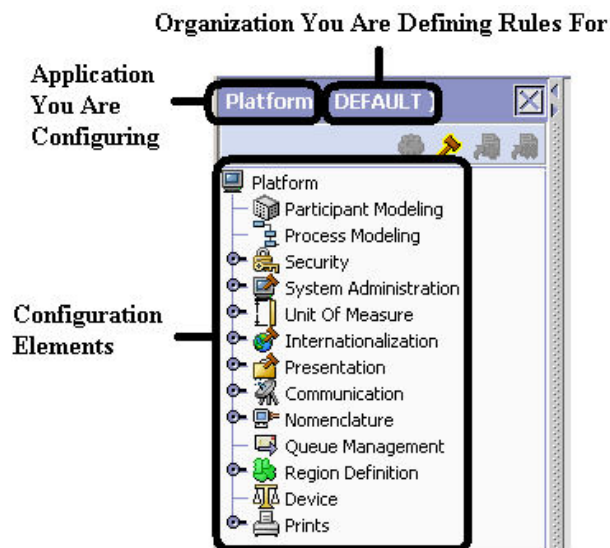


図 3. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの例

また、アプリケーション・ルール・サイド・パネルには、ルールを構成する対象となる組織と、もしあれば、別の組織から継承したルールも示されます。

アプリケーション・ルール・サイド・パネルは、構成画面へのアクセス、継承の決定、および別の組織のルールのロードに使用できます。

構成画面へのアクセス

アプリケーション・ルール・サイド・パネルの主な目的は、アプリケーションの個々の構成画面にアクセスするためのインターフェースを備えることです。構成画面にアクセスするには、アプリケーション・ツリーを表示して、該当する構成要素をダブルクリックすると、要素の構成画面が作業域に表示されます。

継承の決定

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、エンタープライズが作成されると、既存のエンタープライズの構成ルールのすべてまたは一部を継承できます。この継承は、構成グループ・レベルで実行されます。構成グループとは、類似の構成要素を分類したものです。例えば、アイテムを扱うルールと構成を、ある構成グループにまとめてグループ化し、組織を扱うすべてのルールと構成を、別の構成グループにグループ化します。

管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。別の組織のルールのロードについては、15 ページの『別の組織のルールをロード』を参照してください。

構成グループは、組織レベルに関連付けられます。組織レベルは、構成グループの継承方法と、それを保守できる組織を決定します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義されている組織レベルは、以下のとおりです。

- ハブ・レベル - ハブ組織に関連付けられる構成グループ。
- エンタープライズ・レベル - ハブ環境内の、個々のエンタープライズ組織に関連付けられる構成グループ。
- カタログ組織 - ハブ環境内の、カタログを保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 在庫組織 - ハブ環境内の、在庫を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 価格設定組織 - ハブ環境内の、価格設定を保守する組織 (複数可) に関連付けられる構成グループ。
- 組織 - ハブ環境内の、いずれかの組織に関連付けられる構成グループ。

アプリケーション・マネージャーは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で説明されているデータ・アクセス・ポリシーに基づく構成データと許可はロードしません。

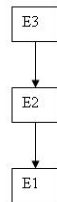
プロセス・モデルの拡張継承

エンタープライズは、他のエンタープライズから以下のエンティティの構成を継承できます。

- パイプライン
- 外部プログラム
- サービス
- アクション
- 条件
- ステータス
- トランザクション
- イベント

エンタープライズが他のエンタープライズからこれらのエンティティを継承する場合、現在のエンタープライズは、継承の階層内の (ハブを含む) 他のすべてのエンタープライズから継承される構成を表示できます。さらに、現在のエンタープライズは、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

例えば、以下の継承の階層について考慮してみましょう。



この階層では、エンタープライズ E1 はエンタープライズ E2 から継承しており、エンタープライズ E2 はエンタープライズ E3 から継承しています。エンタープライズ E1 は、エンタープライズ E2 とエンタープライズ E3 に対して定義されている構成を表示できます。さらに、エンタープライズ E1 は、ハブに対して定義されている構成を表示できます。

組織レベルのルール

以下の表では、組織レベルで定義された構成グループを保守できる組織の判別に使われるルールについて、詳しく記述しています。さらにこの表は、組織の作成時に構成グループの継承方法を決定するルールを説明しています。

表 1. 組織レベルのルール

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
ハブ・レベル	ハブ組織のみが、ハブ・レベルで構成グループを変更できます。他のすべての組織は、読み取り専用アクセス権限を持ちます。	すべての組織はこの情報を共有します。

表 1. 組織レベルのルール (続き)

組織レベル	このレベルで変更可能な組織...	継承詳細
エンタープライズ・レベル	エンタープライズ組織のみが、エンタープライズ・レベルで構成グループを変更できます。 エンタープライズ構成を必要とするすべてのビジネス・トランザクションは、トランザクション・コンテキストにより設定されたエンタープライズからピックアップされます。例えば、オーダー・ドキュメントには固有のエンタープライズがあります。	エンタープライズはこの構成を別のエンタープライズから継承できます。さらに、この構成は構成グループ・レベルでオーバーライドできます。
カタログ組織	カタログ組織として指定された組織は、カタログ組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
在庫組織	在庫組織として指定された組織は、在庫組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
価格設定組織	価格設定組織として指定された組織は、価格設定組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。
組織	役割 (セラー、バイヤーなど) が割り当てられている組織は、組織レベルで構成グループを変更できます。	なし。

構成する組織と同じ在庫、キャパシティー、およびカタログ組織を持たないエンタープライズからは継承できません。

アプリケーション・ルールのサイド・パネル

アプリケーション・ルールのサイド・パネルには、継承されているルールがグレー化されて表示されます。

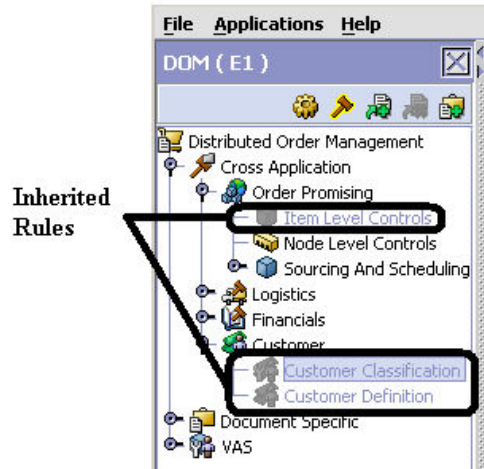


図4. アプリケーション・ルールのサイド・パネルの継承済みルール

上記の表で記述されているように、ログインしている組織によっては、継承済みルールの一部をオーバーライドできる場合があります。ルールがオーバーライド可能な場合、ルールを強調表示すると、アプリケーション・ルールのサイド・パネル内の「構成のオーバーライド」アイコンが使用可能になります。

Override Configuration Icon is Available

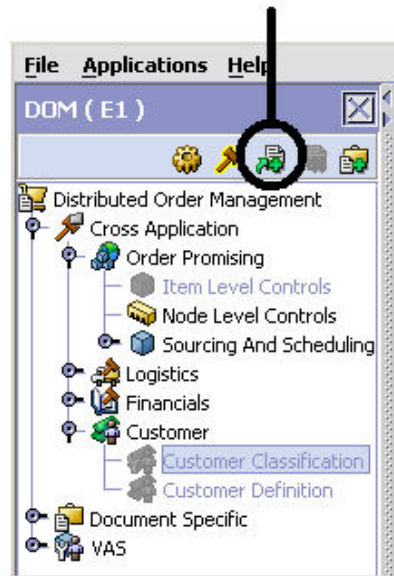


図5. 「構成のオーバーライド」アイコン

ルールのオーバーライドを選択した場合、オーバーライドするルールが関連付けられている構成グループ内の他のルールも、すべてオーバーライドされます。「構成のオーバーライド」アイコンを選択すると、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、オーバーライドされるルールが表示されます。

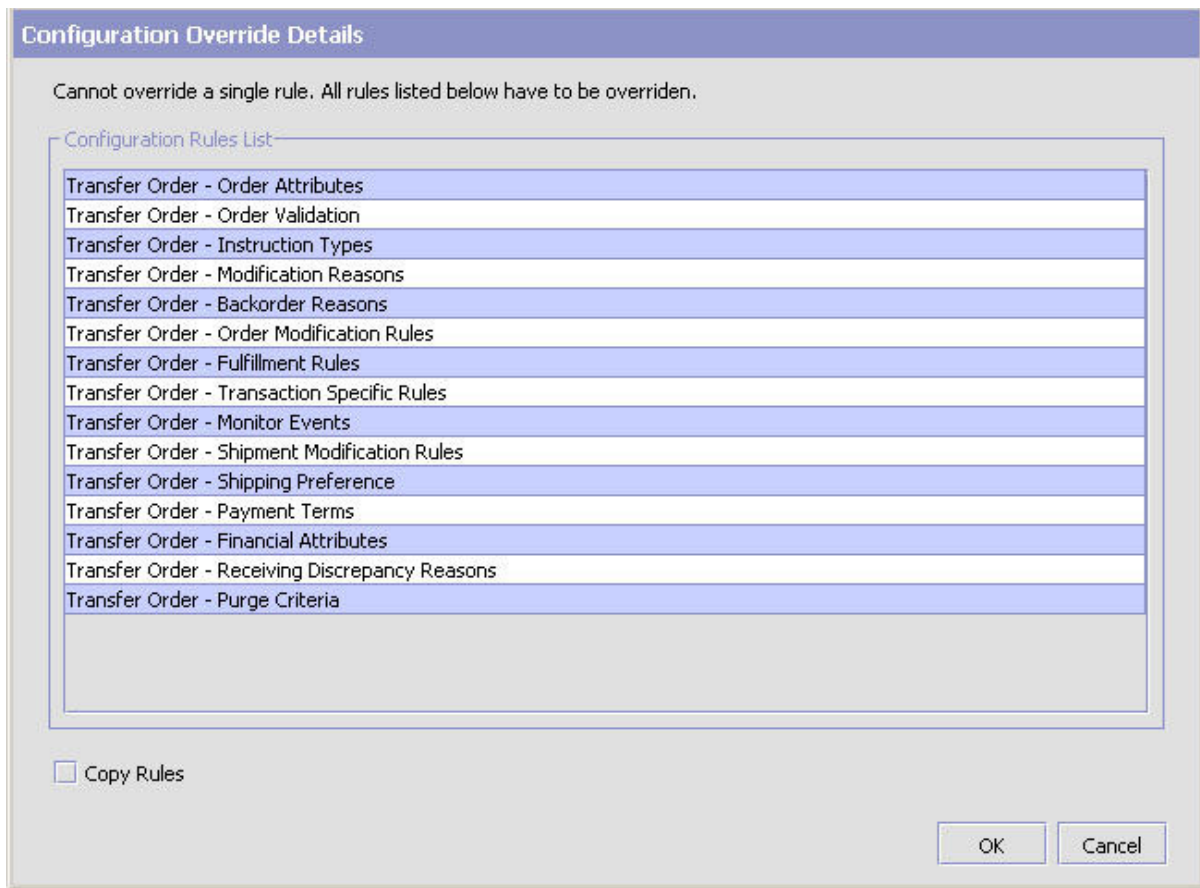


図6. 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウの例

構成グループのオーバーライド

構成グループをオーバーライドし、次いで元のルールを「再継承」することを決めた場合は、「構成所有権を戻す」アイコンを選択できます。このアイコンは、オーバーライドされているルールのアプリケーション・ルール・サイド・パネルで使用できます。

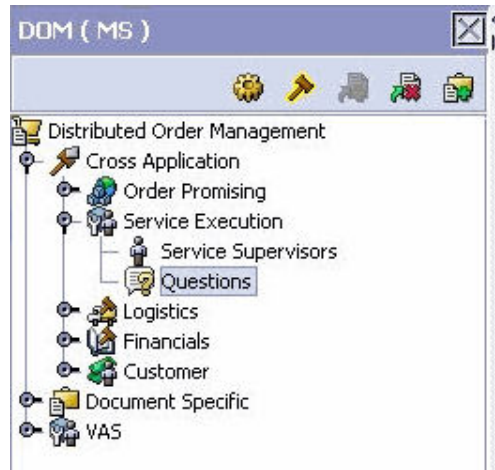


図7. 「構成所有権を戻す」アイコン

「構成所有権を戻す」アイコンを選択した場合、「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。このウィンドウに、再継承されるルールが示されます。

注: 「構成のオーバーライドの詳細」ポップアップ・ウィンドウで「ルールの削除」フィールドを選択した場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻し、そこから継承したすべてのルールを保持しないことになります。このフィールドを選択しなかった場合、ルールの所有権をオリジナルの継承元の組織に戻しますが、そこから継承したルールは保持することになります。

別の組織のルールをロード


このタスクについて

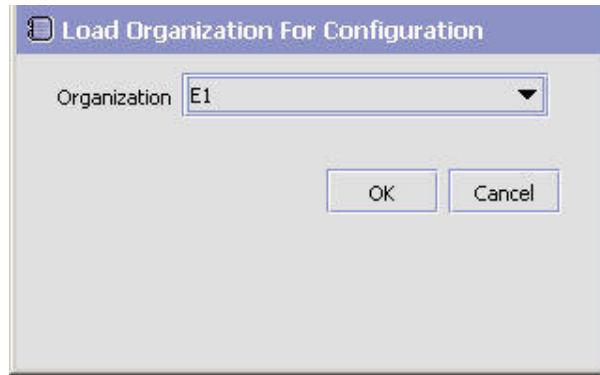
管理者組織は、システム内で定義されているすべての組織に対して設定されます。管理者組織のみが、特定の組織に対して定義されているルールを変更できます。特定の組織が複数の組織を管理する場合、アプリケーション・ツリー内にある管理対象の組織のルールをロードできます。管理可能な組織を判定するルールについては、11 ページの表 1 を参照してください。

アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから使用可能なルールは、選択した組織のタイプとそれが割り当てられている役割によって異なる場合があります。

別の組織のルールをロードするには、以下の手順を実行します。

手順

1. 該当するアプリケーション・ルールサイド・パネルで、 を選択します。「構成する組織のロード」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「組織」で、処理対象の組織を選択します。
3. 「OK」を選択します。その組織のルールがアプリケーション・ルールサイド・パネルに表示されます。

タスクの結果

アプリケーション・ルールサイド・パネルで、処理対象の組織が括弧の中に表示されます。

作業領域

作業領域は、さまざまな構成画面が表示されるメイン領域です。作業領域に表示される画面のメイン・タイプは、検索、リスト、詳細、およびドラッグ・アンド・ドロップのウィンドウです。

検索ウィンドウ

「検索」ウィンドウでは、フィルタリングされた検索を行うための手段を提供します。「検索」ウィンドウの上部パネルでは、検索するエンティティーに適用可能な条件を提供し、検索を絞り込むことができます。検索を実行すると、下部パネルに検索結果がリストされます。

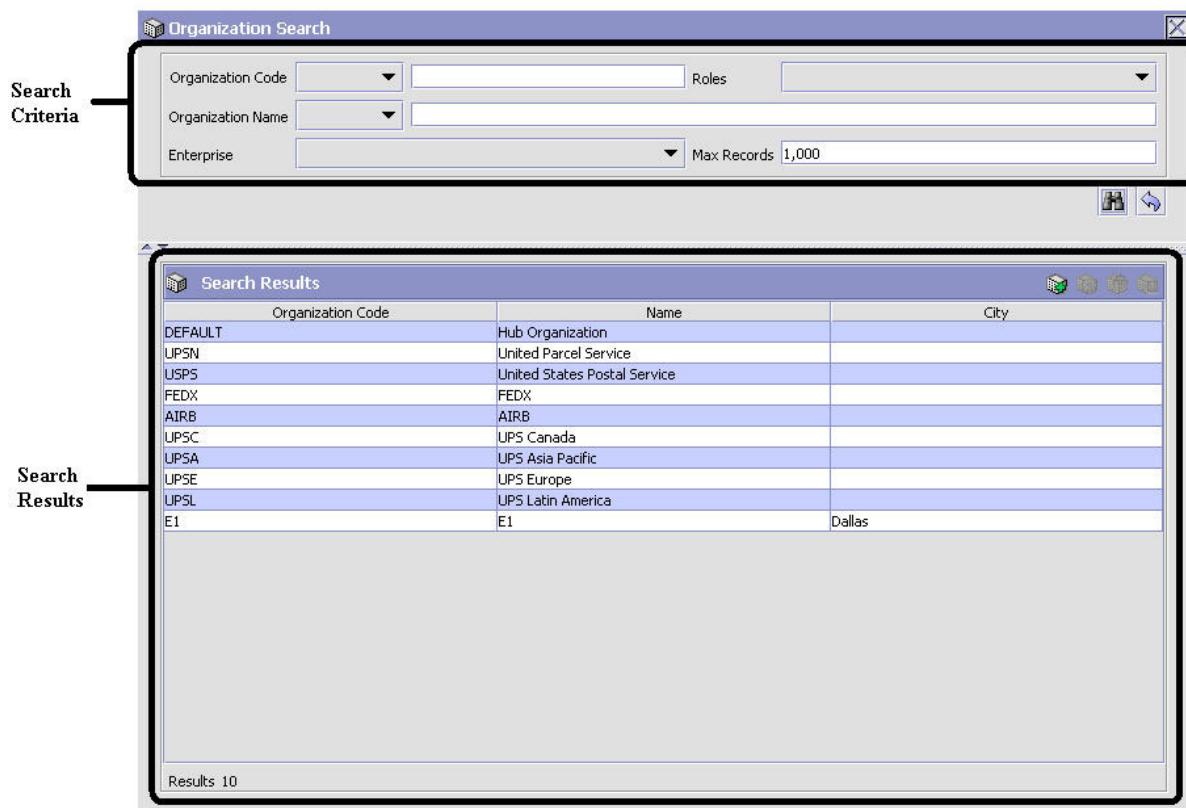


図 8. 「検索」ウィンドウ例

リスト・ウィンドウ

検索を必要としない特定のルールまたはコードを構成することを選択すると、Applications Manager は、前に構成済みのルールおよびコードの基本リスト・ウィンドウを表示する場合があります。

Dimension UOMs (DEFAULT)	
UOM Code	UOM Description
CM	Centimeter
FEET	Feet
IN	Inch
KM	Kilometer
METER	Meter
MILE	Mile

Results 6 Of 6

図9. リスト・ウィンドウの例

詳細ウィンドウ

詳細ウィンドウは、ほとんどの構成の実行に使用される、メイン・インターフェースです。詳細ウィンドウは、編集可能なフィールドとテーブル、エンティティのさまざまな特徴を構成するためのタブ、およびエンティティに対して実行可能な追加アクションを含むことができます。

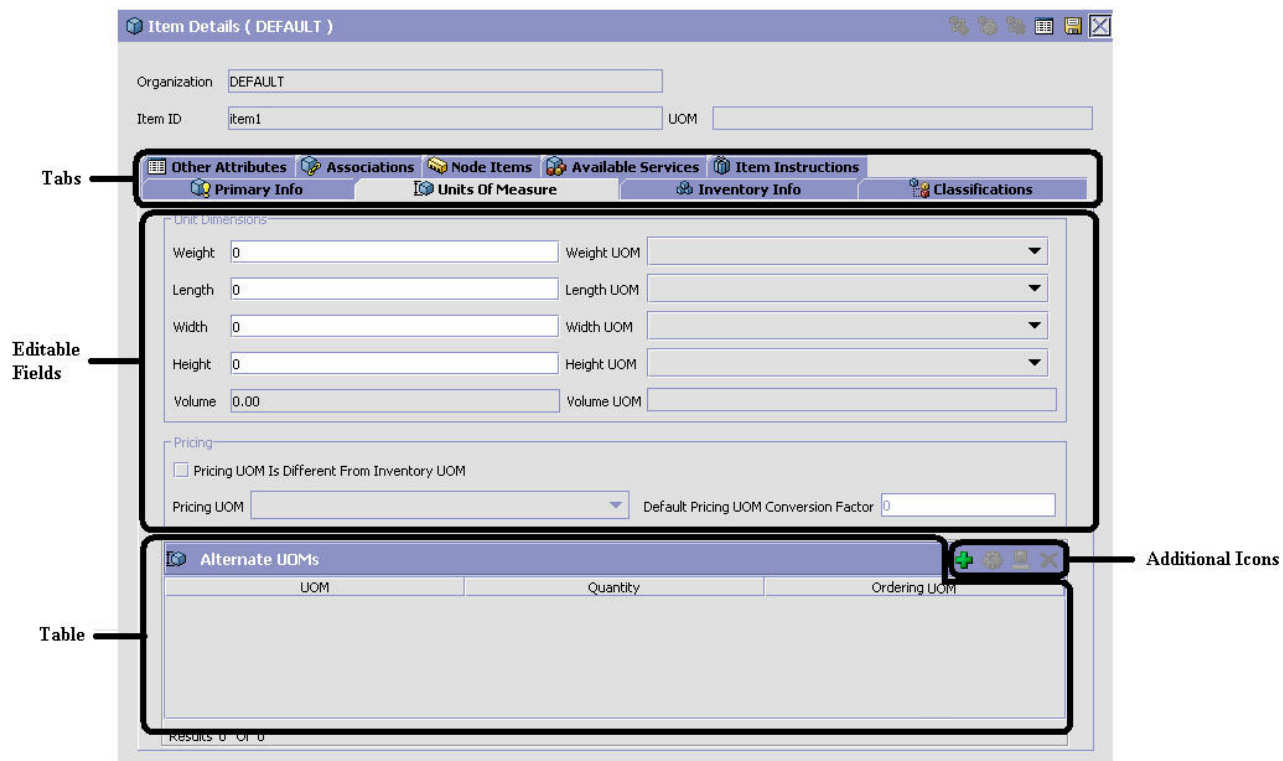
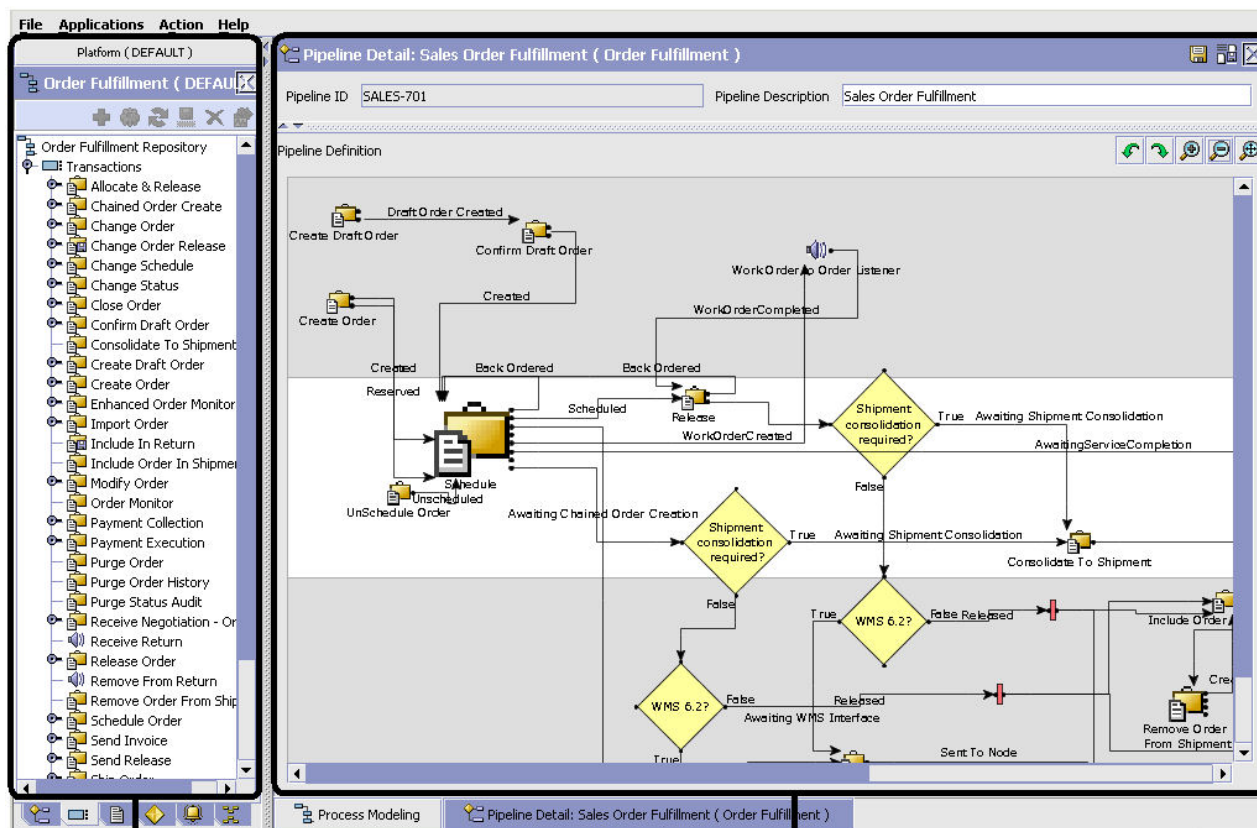


図 10. 詳細ウィンドウの例

ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウ

グラフィカルなドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウを使用して、パイプラインの作成、パイプラインの決定、イベント・ハンドラー、状況モニター・ルール、およびサービスを容易にできます。ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウは、パレットとグラフィカル作業領域から成ります。



Pallet

Graphical Work Area

図 11. ドラッグ・アンド・ドロップ・ウィンドウの例

これらのエンティティの構築を開始するには、トランザクションなどのコンポーネントをパレットから選択します。コンポーネントをグラフィカル作業領域にドラッグします。これでトランザクションが、それ自身のグラフィカル表現で表示されます。

1 つのコンポーネントを別のコンポーネントに接続するには、コンポーネントの出力ポートから、別のコンポーネントの入力ポートまでマウスでドラッグして、接続ラインを形成する必要があります。コンポーネント間のリンクを、水平方向または垂直方向に設定することができます。

コンポーネントまたはリンクを削除するには、コンポーネントを右クリックして、「削除」を選択します。コンポーネントとリンクが構築されると、それらを任意の場所にドラッグして移動し、その位置に従って自動的にリンクを再描画することができます。Ctrl キーを押したままコンポーネントをドラッグすると、グラフィカル作業領域内でコンポーネントがコピーされます。

Applications Manager で使用可能なアクション

Applications Manager では、検索機能の使用、ログイン・ユーザーの表示、リストとリスト・フィルタリングの使用、コンテキスト・ヘルプの使用、エラーのトラブルシューティング、および特殊文字の使用が可能です。

Applications Manager のルックアップ機能の使用

Applications Manager 全体で、ルックアップ機能があるフィールドが多数あります。ルックアップ機能は、このフィールドに属する追加レコードの検索や作成を行うための機能です。例えば、「組織の詳細情報」画面の「主要情報」タブで、「ロケール」フィールドには、画面から新規ロケールを作成するためのルックアップ機能があります。「新規作成」ルックアップ・ボタンを選択すると、ユーザーが変更するロケールの詳細情報がポップアップ画面に表示されます。



図 12. ルックアップ・アイコンの例


ルックアップ・フィールドに表示される情報は、その特定フィールドに属するレコードの数により変わります。レコード数が 20 以下の場合、ルックアップは「新規作成」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。レコード数が 21 から 75 の場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたドロップダウン・リストとして表示されます。

レコード数が 75 より多い場合、ルックアップは「検索」ボタンの付いたテキスト・ボックスとして表示されます。値をテキスト・ボックスに入力するか、その値を「検索」ボタンを使用して検索できます。値を入力する場合、値は保存する際に妥当性検査されます。値がドロップダウン・リストとして表示される場合、必ず表示されるとおりに値を入力する必要があります。例えば通貨ルックアップの場合、通貨コードがテーブルに保存されるとしても、通貨の説明をテキスト・ボックスに入力する必要があります。ユーザーが誤った値を入力した場合、保存時にエラーが表示されます。

Applications Manager 内で特定のフィールドに対してルックアップを使用する場合、本書の対応するセクションを参照して、特定の情報をセットアップする必要があります。

アプリケーションに関連付けられた伝票種別の表示

分散オーダー管理、供給コラボレーション、返品物流、および物流管理の構成アプリケーションで、アプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別を表示できます。販売オーダー、転送オーダー、マスター・オーダー、見積もり、および購入オーダーは、すべての伝票種別の例です。

アプリケーションの関連付けられた伝票種別を表示するには、該当するアプリケーションをメニューから開いて、 をアプリケーション・ルールのサイド・パネルから選択します。「関連付けられた伝票種別」ウィンドウでは、作業しているアプリケーションに関連付けられたすべての伝票種別のリストを表示します。

Document Type	Description
0004	Template Order
0006	Transfer Order
0001	Sales Order
0007	Master Order
0015	Quote

Results 5 of 5

図 13. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウ

伝票種別のアプリケーションへの追加


このタスクについて

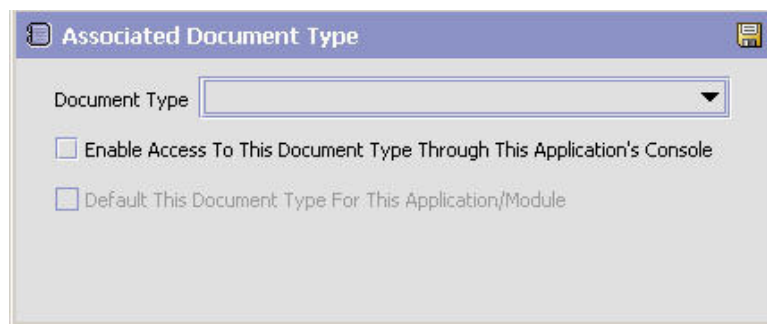
別のアプリケーションに関連付けられた伝票種別を、現在作業中のアプリケーションに追加することができます。

追加された伝票種別の関連する画面は、伝票種別を関連付けるアプリケーションに関係がない場合があります。


伝票種別をアプリケーションに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「関連付けられた伝票種別」ウィンドウから、 を選択します。「関連付けられた伝票種別」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「伝票種別」から、アプリケーションに関連付ける伝票種別を選択します。

3. 「このアプリケーションのコンソールを使用してこのドキュメントへのアクセスを可能にする (Enable Access To This Document Through This Application's Console)」を選択します。
4.  を選択します。

Applications Manager にログインしているユーザーの表示 このタスクについて

Applications Manager およびそのロケールにログインしているユーザーを表示できます。この情報を表示するには、アプリケーションの右下隅にあるユーザー・アイコンおよびロケール・アイコンの上にマウスを移動して、ツールチップを表示します。

リストおよびリスト・フィルタリングの使用 このタスクについて

Applications Manager で任意のリストを表示するときに、条件の定義に基づいてリストの内容をフィルタリングすることができます。リストの列見出しを任意の位置で右クリックし、リストに関連付けられたテーブル・フィルター・エディターを使用して、フィルタリングを行うことができます。

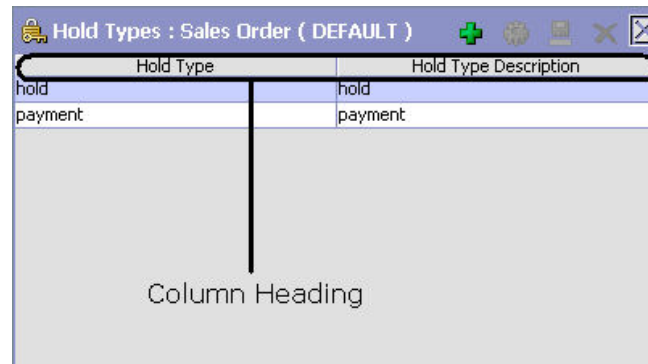


図 14. リストの列見出し

表 2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ

フィールド	説明
既存のレコードに適用	このボックスにチェック・マークを付けると、セット全体ではなく、事前にフィルタリングされた結果の新しいフィルター・セットを適用します。
最大レコード	フィルターから返されるレコードの最大数を指定します。デフォルトの数は 100 です。

表2. 「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
動的フィールド (Dynamic Fields)	<p>図 15 の「保留タイプ」や「保留タイプの説明」のフィールドは、表示しているリストに基づいて動的に読み込まれます。</p> <p>これらのフィールドは、テキスト・STRINGと「次と同じ」、「次から始まる」、または「次を含む」などの選択条件と組み合わせて検索することができます。</p>

「テーブル・フィルター・エディター」ウィンドウの例:

図 15. 保留タイプ: 販売オーダー

検索STRINGでは、大/小文字が区別されます。例えば、「Item」は「item」と同じ値を返しません。

日時エントリー

Applications Manager のすべての日付フィールドはカレンダー・アイコンを伴っており、これを使用してそのフィールドに関する日付を検索することができます。このアイコンをクリックすると、小さなカレンダーが表示されます。このカレンダーをナビゲートして目的の日付を指定することができます。例えば「カレンダーの作成」ウィンドウでは、「デフォルトの有効終了日」フィールドがカレンダー・アイコンを伴っており、このアイコンを使用して目的の出荷予定日を確認し、フィールドに入力することができます。

図 16. カレンダー・アイコンの例

Applications Manager のどの時刻情報も、入力することもできます。これを行うには、時刻フィールドをダブルクリックして、時刻を入力します。

Shift Name	Start Time	End Time
	<input type="text"/>	

図 17. 時刻フィールドの例

どの Applications Manager の場合も、時刻は 24 時間形式で入力する必要があります。

コンテキスト・ヘルプの使用

このタスクについて

「ヘルプ」ボタンをクリックして、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のコンテキスト・ヘルプにアクセスします。



エラーのトラブルシューティング

このタスクについて

Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生したエラーの説明と原因、およびトラブルシューティングするためのアクションについて表示することができます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のシステム・エラーの説明を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「ヘルプ」>「トラブルシューティング」を選択します。「エラー検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。エラー・コードのリストおよびその説明が表示されます。
3.  を選択して、エラーの原因およびトラブルシューティングするためのアクションを表示します。

特殊文字の使用

Applications Manager 全体で、データ入力の際に特殊文字の使用が必要なインスタンスがある可能性があります。Sterling Selling and Fulfillment Foundation での特殊文字の使用については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation カスタマイズ 基本」を参照してください。

第 3 章 アプリケーション共通物流管理コンポーネントの構成

アプリケーション共通物流管理コンポーネントの構成

ビジネス・アプリケーション・モジュール全体を通じて、さまざまな物流管理関連機能により使用されるコンポーネントを構成できます。

物流管理属性、配送コード、出荷モード、および出庫制約を定義するには、「物流管理」ブランチを使用できます。

物流属性の定義

オーダーの出荷の物流管理に関連付けられるルールと共通コードを定義できます。

運賃条件、出荷モード、運送会社変更理由、および追加の物流管理ルールを定義するには、「物流属性」ブランチを使用できます。

運賃条件の定義

運賃条件を運送会社に関連付けるときに使用する共通コードを定義できます。運賃条件は、輸送コストの計算方法を示します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの運賃条件は、以下のとおりです。

- 保険料および運賃 (CIF) - 運賃コストは、セラー、エンタープライズ、またはハブのいずれかにより完全に支払われます。
- 費用および運賃 (CFR) - 運賃コストは、バイヤーと、セラー、エンタープライズ、またはハブのいずれかにより支払われます。
- 本船渡し (FOB) - 運賃コストは、バイヤーにより支払われます。


運賃条件の作成、変更、および削除には、「運賃条件」タブを使用できます。


運賃条件の作成

このタスクについて

運賃条件を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「運賃条件」タブを選択します。
3.  を選択します。「運賃条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されません。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、28 ページの表 3 を参照してください。

5.  を選択します。

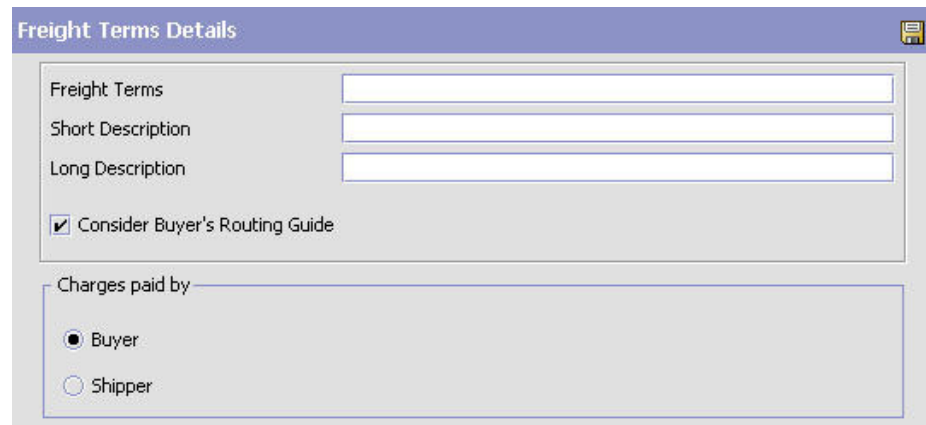


表 3. 運賃条件の詳細



フィールド	説明
運賃条件	運賃条件の名前を入力します。
簡略説明	運賃条件の短い説明を入力します。
詳細説明	運賃条件の詳細な説明を入力します。
バイヤーのルーティング・ガイドを考慮	<p>バイヤーとエンタープライズの両方が、アイテムの配送方法を制御するルーティング・ガイド (配送のルール) とエコノミック出荷パラメーター (ESP) を設定できます。バイヤー組織のみがこれらのルールに対する値を設定する場合があります。また、エンタープライズのみがこれらのルールに対する値を設定する場合があります。どちらも設定しない場合、ハブ・ルールが使用されます。</p> <p>バイヤーとエンタープライズの両方がこれらのルールに対する値を設定した場合、この設定によって、エンタープライズのルーティング・ルールを適用する前にバイヤーのルーティング・ルールを適用するかどうかが決まります。これらの配送の概念については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き</i>』を参照してください。</p>
最初にバイヤー、次にエンタープライズ	バイヤーが設定した出荷ルールを最初に使用する場合に選択します。該当するバイヤーのルールが存在しない場合、エンタープライズのルールが適用されます。
最初にエンタープライズ、次にバイヤー	エンタープライズが設定した出荷ルールを最初に使用する場合に選択します。該当するエンタープライズのルールが存在しない場合、バイヤーのルールが適用されます。
支払人	
バイヤー	バイヤーが出荷料を支払う場合、このオプションを選択します。
出荷者	出荷者が出荷料を支払う場合、このオプションを選択します。

運賃条件の変更

このタスクについて

運賃条件を変更する手順は、次のとおりです。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「運賃条件」タブを選択します。
3. 該当する運賃条件を選択し、を選択します。「運賃条件の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドに新しい情報を入力します。フィールドの値の説明については、28 ページの表 3 を参照してください。
5.  を選択します。

運賃条件の削除

このタスクについて

運賃条件を削除する手順は、次のとおりです。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「運賃条件」タブを選択します。
3. 該当する運賃条件を選択し、を選択します。

運送会社変更理由の定義

運送会社の変更時に「理由コード」ドロップダウン・リストに表示される共通コードを定義できます。このコードは、顧客が運送会社の変更を要求した場合に使用される「変更要請済み」などの、運送会社を変更する際の標準理由を示すものにする必要があります。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの運送会社変更理由は、「変更要請済み」です。


運送会社変更理由の作成、変更、および削除には、「運送会社変更理由」タブを使用できます。

運送会社変更理由の作成


このタスクについて

運送会社変更理由を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「運送会社変更理由」タブを選択します。
3.  を選択します。「運送会社変更理由の詳細 (Modify Carrier Reason Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。





4. 「運送会社変更理由」に、運送会社変更理由の名前を入力します。
5. 「簡略説明」に、運送会社変更理由の簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、運送会社変更理由の詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。

運送会社変更理由の変更

このタスクについて

運送会社変更理由を変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「運送会社変更理由」タブを選択します。
3. 該当する運送会社変更理由を選択し、 を選択します。「運送会社変更理由の詳細 (Modify Carrier Reason Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、運送会社変更理由の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、運送会社変更理由の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

運送会社変更理由の削除

このタスクについて

運送会社変更理由を削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「運送会社変更理由」タブを選択します。
3. 該当する運送会社変更理由を選択し、 を選択します。

追加の物流ルールの定義

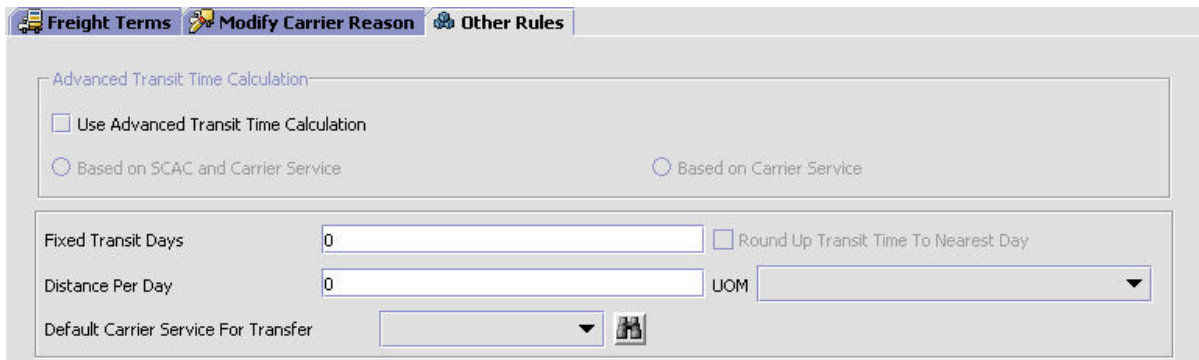
このタスクについて

オーダー伝票種別に関する追加のルールを定義できます。

追加の物流ルールを定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「物流属性」を選択します。作業領域に、「物流管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「他のルール」タブを選択します。




3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 4 を参照してください。
4.  を選択します。

表 4. 「他のルール」タブ

フィールド	説明
事前輸送時間計算	
事前輸送時間計算を使用	出荷日と配達日を検討する際に事前輸送時間計算が必要な場合は、このフィールドを選択します。 輸送時間は、「リード・タイム」+「1日あたりの距離」（どちらも、選択した運送会社サービスの「1日あたりの距離」から）として算出されます。
運送会社および運送会社サービスに基づく	オーダーで使用されている運送会社と運送会社サービスに基づいて輸送時間計算を行うには、「運送会社に基づく」を選択します。

表4. 「他のルール」タブ (続き)

フィールド	説明
運送会社サービスに基づく	オーダーで使用されている特定の運送会社サービスに基づいて輸送時間計算を行うには、「運送会社サービスに基づく」を選択します。
配達リード・タイム (日数)	<p>デフォルトの配達リード・タイムを入力します。</p> <p>配達リード・タイムと配達指定日に基づいて、オーダー明細を出荷するタイミングを決定します。配達リード・タイムとは、出荷ノードから顧客まで荷物を輸送するのにかかる時間の長さです。配達日を計算する際は、次のルールが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 出荷日と配達日のどちらも指定されていない場合は、出荷日はデフォルトである現在日付になり、配達日はデフォルトである「現在日付 + 配達リード・タイム」となります。 • 出荷日は指定されているが配達日は指定されていない場合は、配達日はデフォルトである「出荷日 + 配達リード・タイム」となります。 • 配達日は指定されているが出荷日は指定されていない場合は、出荷日はデフォルトである「配達日 - 配達リード・タイム」となります。 • 出荷日と配達日の両方が指定されている場合は、このルールは適用されません。
輸送時間を直近日に切り上げる	このオプションを選択した場合は、輸送時間は実際の時間レベルまで細かく計算されません。代わりに、システムによって計算された輸送時間は直近日に切り上げられます。
1日あたりの距離	運送会社サービスを選択していない場合は、または選択した運送会社サービスに1日あたりの距離が関連付けられていない場合は、輸送時間を計算するためのデフォルトの距離を入力します。
単位	距離の単位を選択します。
転送に使用するデフォルト運送会社サービス	<p>2つのノード間の転送時間を計算するために使用する運送会社サービスを選択します (これらのノードに対して転送スケジュールが構成されていない場合)。</p> <p>ノード間の転送スケジュールの構成については、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide</i>」を参照してください。</p>

配送コードの定義

運送会社の作成または変更時の配送コードを表すために使用する共通コードを定義できます。配送コードは、輸送コストを支払うエンティティを示します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの配送コードは、以下のとおりです。

- ENTERPRISE
- MARKETPLACE
- SUPPLIER


配送コードの作成、変更、および削除には、「配送コード」ブランチを使用できません。

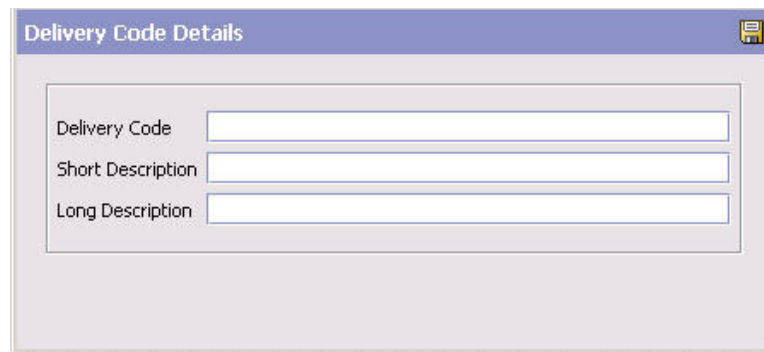
配送コードの作成


このタスクについて

配送コードを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「配送コード」を選択します。作業領域に、「配送コード」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「配送コードの詳細 (Delivery Code Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。





3. 「配送コード」に、配送コードの名前を入力します。
4. 「簡略説明」に、配送コードの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、配送コードの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

配送コードの変更

このタスクについて

配送コードを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「配送コード」を選択します。作業領域に、「配送コード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する配送コードを選択して、 を選択します。「配送コードの詳細 (Delivery Code Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、配送コードの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、配送コードの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

配送コードの削除

このタスクについて

配送コードを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「物流管理」>「配送コード」を選択します。作業領域に、「配送コード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する配送コードを選択して、 を選択します。

出荷モードの定義

出荷モードを指示するときに使用する共通コードを定義できます。出荷モードとは、オーダーの出荷方法のことです。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの出荷モードは、以下のとおりです。

- TL - 小口貨物
- LTL - 小口貨物未満
- PARCEL - 小包


出荷モードの作成、変更、および削除には、「出荷モード」タブを使用できます。

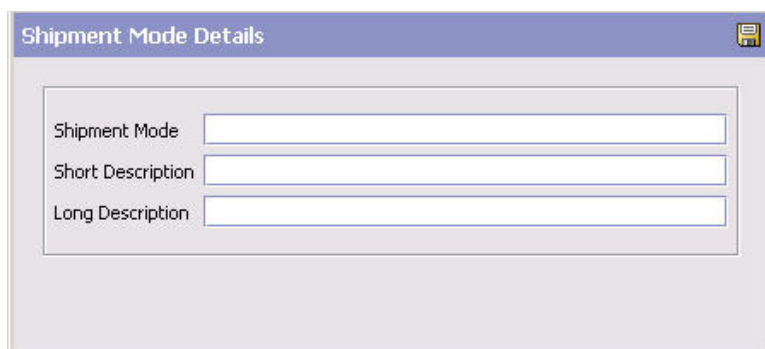
出荷モードの作成

このタスクについて

出荷モードを作成するには、次の手順を実行します。


手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「物流管理」>「出荷モード」を選択します。作業領域に、「出荷モード」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「出荷モードの詳細 (Shipment Mode Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Shipment Mode Details". It contains three text input fields: "Shipment Mode", "Short Description", and "Long Description".

3. 「出荷モード」に、出荷モードの名前を入力します。



4. 「簡略説明」に、出荷モードの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、出荷モードの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

出荷モードの変更

このタスクについて

出荷モードを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出荷モード」を選択します。作業領域に、「出荷モード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する出荷モードを選択して、 を選択します。「出荷モードの詳細 (Shipment Mode Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、出荷モードの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、出荷モードの詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

出荷モードの削除

このタスクについて

出荷モードを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出荷モード」を選択します。作業領域に、「出荷モード」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する出荷モードを選択して、 を選択します。

出庫制約の定義

出庫制約は、出荷の実行を制御する条件を記述するために使用されます。これには、標準オーダーとラッシュ・オーダーなどの特定のアイテムを一括出荷できるかどうか、エコノミック出荷パラメーターを使用できるかどうか、およびルーティングをどのように実行するかなどが含まれます。出庫制約は、ルーティング・ガイドの作成、変更、および削除にも使用できます。

出庫制約ノードは、「返品物流」または「供給コラボレーション」には適用されません。

出庫制約を定義する手順は、次のとおりです。

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出庫制約」を選択します。作業領域に、「出庫制約」ウィンドウが表示されます。


2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表5を参照してください。
3.  を選択します。

表5. 「出庫制約」ウィンドウ

フィールド	説明
1つの出荷内に混在させない	以下のいずれかが選択されている場合は、それらの属性の異なる値を持つアイテムに対して、別々の出荷を作成する必要があります。 例えば、「部門コード」を選択した場合、異なる部門のアイテムを同じ出荷に含めることはできません。
ノード ID のバイヤー・マーク	ノード ID のバイヤー・マーク。
顧客 PO 番号	顧客の購入オーダー番号。
部門コード	アイテムが対象としている部門。
贈答品フラグ	贈答品フラグ。
サービス・レベル	オーダーのサービスのレベル。
マーク対象	この出荷のマーク対象の個人。
オーダー番号	オーダー番号。
オーダー・タイプ	オーダー・タイプ。
輸送の最適化	

表 5. 「出庫制約」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
エコノミック出荷パラメーターを維持	<p>エコノミック出荷パラメーター (ESP) は、出荷集約で使用されます。このフィールドは、以下のエコノミック出荷パラメーターのフィールドを有効にするために選択します。</p> <p>重量または容積のしきい値が満たされるまで、または一定の時間が経過するまで、ESP は出荷の集約 (consolidation) をサポートします。出荷を集約することで、出荷コストは削減できます。</p> <p>例えば、出荷重量が 300 ポンド、または容積が 50 立方フィートまで出荷を集約するように設定できます。最終的に出荷が設定されていることを確認するために、条件が満たされるまで待機する最大日数を設定できます。</p> <p>重量、容積、または遅延のいずれかの出荷しきい値が満たされると、出荷は次の段階に移ります。</p>
出荷遅延時間の上限 __ 日	<p>出荷前にこの出荷が遅延可能な日数を入力します。</p> <p>例えば、重量のしきい値として 300 ポンドが設定されており、かつこのフィールドが 3 日に設定されている場合、重量のしきい値に達したかどうかに関係なく、3 日後に出荷されます。</p>
集約最大重量しきい値 (Consolidate up to weight threshold of)	重量を入力します。
集約最大容積しきい値 (Consolidate up to volume threshold of)	容積を入力します。
ルーティング・ガイド	
保持しない	手動ルーティングを使用するには、これを選択します。出荷は出荷コンソールで管理され、どのルーティング・ガイドも利用されません。
Sterling で保守 (Maintained in Sterling)	<p>Sterling Selling and Fulfillment Foundation で保守されるルーティング・ガイドを使用して出荷のルーティング方法を決定するには、これを選択します。 38 ページの『ルーティング・ガイドの作成』を参照してください。</p> <p>エンタープライズによりここで保守されるルーティング・ガイドに加え、バイヤー組織のルーティング・ガイドが存在している可能性があります。</p> <p>バイヤーとエンタープライズの両方のルーティング・ガイドの使用について詳しくは、 27 ページの『運賃条件の作成』を参照してください。</p>

表 5. 「出庫制約」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
外部で管理	<p>外部ルーティング・システムを使用することを示すには、これを選択します。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation で保守されているルーティング・ガイドは利用されません。</p> <p>外部ルーティング・システムの例には、統合された Transportation Management System (TMS) の使用や、バイヤー組織に問い合わせる外部プログラムの実装などがあります。</p>

ルーティング・ガイドの作成



このタスクについて

ルーティング・ガイド は、出荷のルーティング方法を決定する条件のリストです。ルーティング・ガイドは、有効である期間と、適用時期の条件があります。これらの条件は、運賃条件と部門に基づいています。

各ルーティング・ガイドには、ルーティング・ガイド明細 のリストが含まれており、それぞれには運送会社の選択についての詳細な条件が記述されています。ルーティング・ガイド情報は、VICS (Voluntary Interindustry Commerce Standards) ルーティングにより使用されるデータに基づいています。

ルーティング・ガイドを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出庫制約」を選択します。作業領域に、「出庫制約」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド」リスト・ウィンドウで  を選択します。作業領域に、「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、39 ページの表 6 を参照してください。
4.  を選択します。

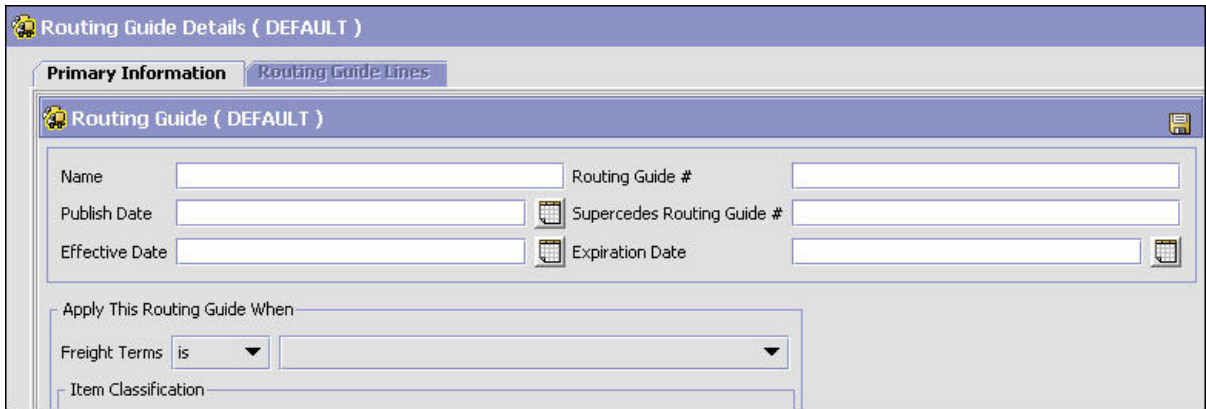


図 18. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウ

表 6. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウ



フィールド	説明
名前	ルーティング・ガイドの名前を入力します。
ルーティング・ガイド番号	ルーティング・ガイドの番号です。
発行日	このルーティング・ガイドがシステム内で使用可能になる日付です。
ルーティング・ガイド番号の置換 (Supersedes Routing Guide #)	追跡情報です。例えば、「1234」というルーティング・ガイドに小さな改訂を加えた場合は、「1234-A」というルーティング・ガイドを作成して、このルーティング・ガイドによってルーティング・ガイド「1234」を置き換える旨を入力できます。このフィールドは情報提供のみを目的としており、有効なルーティング・ガイドを決定するために使用されません。
有効日	このルーティング・ガイド内のルーティング情報の適用を開始する日付です。有効日と有効期限に基づいて、ルーティング・ガイド明細を特定の期間にわたって適用できます。
有効期限 (Expiration Date)	このルーティング・ガイド内のルーティング情報の適用を終了する日付です。
このルーティング・ガイドを適用する場面	
運賃条件	この条件が満たされた場合にこのルーティング・ガイドを適用します。「次と同じ」、「次のいずれか (is in)」、または「次に含まれない」を選択します。それぞれの説明は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 単一の運賃条件を指定するには、「次と同じ」を選択します。 いずれかに一致する必要がある一連の運賃条件を指定するには、「次のいずれか (is in)」を選択します。 一連の運賃条件を指定するには、「次のいずれでもない (is not in)」を選択します。運賃条件がこれらの値のいずれにも一致しない場合に、このルーティング・ガイドが使用されません。
製品分類	アイテムを分類できます。 このフィールドが表示されるのは、ルーティング・ガイドに対して有効なアイテム分類がセットアップされている場合です。

ルーティング・ガイドの変更

このタスクについて

ルーティング・ガイドを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出庫制約」を選択します。作業領域に、「出庫制約」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド」リスト・ウィンドウでルーティング・ガイドを選択して、 を選択します。
3. 作業領域に、「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、39ページの表6を参照してください。
5.  を選択します。

ルーティング・ガイド明細の作成

このタスクについて

ルーティング・ガイド明細には、出荷品をルーティングする際に使用する特定の条件が含まれています。1つのルーティング・ガイドに、複数のルーティング・ガイド明細を含めることができます。

ルーティング時には、出荷品がルーティング・ガイド明細と照合されます。指定された条件に基づいて、運送会社と運送会社サービスが選択されます。

ルーティングの結果として出荷宛先が変更された場合は、変更された宛先をルーティング要因として、システムによって再ルーティングされます。このタイプの構成は集約者ノードに使用されます。2回目のルーティング時に、宛先ノードが含まれているが、他のどの宛先パラメーター（住所など）も入力されていないルーティング・ガイド・エントリーがシステムによって検索されます。

ルーティング・ガイド明細を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウで、「ルーティング・ガイド明細 (Routing Guidelines)」タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細 (Routing Guidelines)」タブにアクセスするためには、「主要情報」タブで入力した情報を保存します。
2. 「ルーティング・ガイド明細の検索」ウィンドウが表示されます。

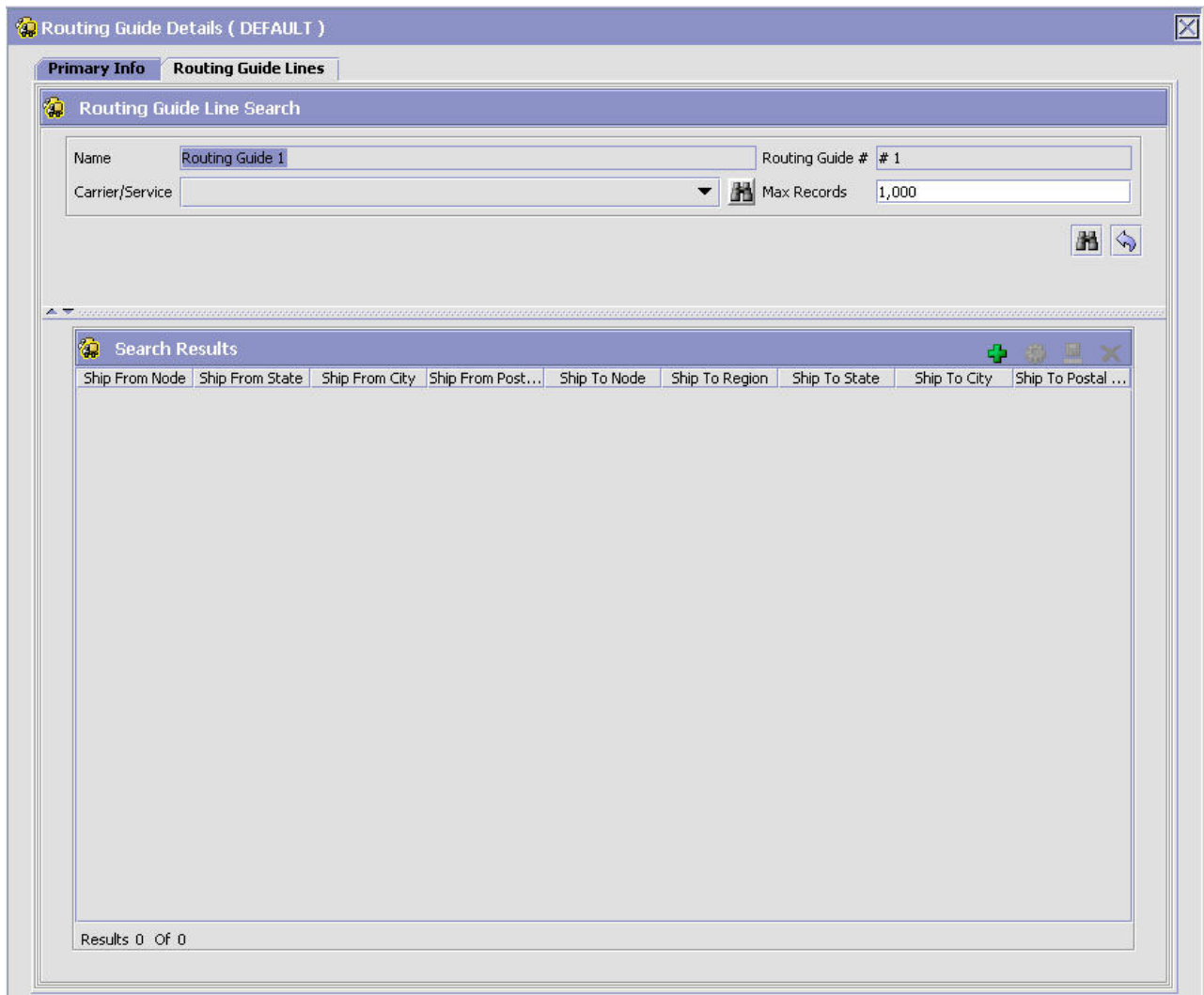


図 19. 「ルーティング・ガイドの詳細」ウィンドウ



3.  を選択します。「ルーティング・ガイド明細の詳細」画面が作業領域に表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、42 ページの表 7 を参照してください。
5.  を選択します。

表7. ルーティング・ガイド明細の詳細

<p>条件の設定:</p> <p>以下のフィールドの多くでは、「次と同じ」、「次のいずれか (is in)」、または「次のいずれでもない (is not in)」を選択してから、値を指定できます。それぞれの説明は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一致する必要がある単一の値を指定するには、「次と同じ」を選択します。 いずれかに一致する必要がある一連の値を指定するには、「次のいずれか (is in)」を選択します。 一連の値を指定するには、「次のいずれでもない (is not in)」を選択します。これらの値のいずれにも一致しない場合に、そのルーティング・ガイド明細が使用されます。 <p>例えば、一連の都道府県のいずれかに一致させるには、「都道府県」について「次のいずれか (is in)」を選択して、「東京」、「大阪」、「愛知」などを指定します。この条件の検証時に、「東京」は一致対象となりますが、「福岡」は一致対象となりません。</p>	
フィールド	説明
出荷元	
ノード	ノードを選択します。
出荷元がノードでない場合、以下の属性を選択する	出荷元がノードではない場合はこのオプションを有効にしてから、次の条件のうち 1 つ以上を入力します。
国/地域	国または地域の名前を選択します。
都道府県	都道府県の名前を入力します。
市区町村	市区町村の名前を入力します。
郵便番号	郵便番号または郵便番号の範囲を入力します。
出荷先	
ノード	ノードを選択します。
地域	地域を入力します。
出荷先がノードでも地域でもない場合、以下の属性を選択する	出荷先が特定地域内のノードではない場合はこのオプションを選択してから、次の条件のうち 1 つ以上を選択します。
国/地域	国または地域の名前を選択します。
都道府県	都道府県の名前を入力します。
市区町村	市区町村の名前を入力します。
郵便番号	郵便番号または郵便番号の範囲を入力します。
集約者	集約者の名前を選択します。
ストア	ストアの番号を選択します。
重量の範囲:	重量の条件を指定できます。例えば、重量が 100 から 500 ポンドの間のパッケージを特定の運送会社で出荷するには、「下限 (From)」に「100」と指定して、「上限 (To)」に「500」と指定します。
出荷元 (From)	最小値を入力します。
宛先 (To)	最大値を入力します。
容積の範囲:	容積を一致させることができます。例えば、容積が 3 から 10 立方フィートの間のパッケージを特定の運送会社で出荷するには、「下限 (From)」に「3」と指定して、「上限 (To)」に「10」と指定します。

表 7. ルーティング・ガイド明細の詳細 (続き)

出荷元 (From)	最小値を入力します。
宛先 (To)	最大値を入力します。
取り扱い単位の範囲:	容器の数です。
出荷元 (From)	最小値を入力します。
宛先 (To)	最大値を入力します。
要請された運送会社サービス・コードが以下の場合	
運送会社サービス・コード	運送会社サービス・コードを選択します。
運送会社サービスの定義について詳しくは、44 ページの『運送会社サービスの定義』を参照してください。	
出荷経路:	
優先順位	このルール相対的の重要度を決定する番号を指定します。 出荷品がルーティング・ガイド明細と照合された場合、使用可能な 2 つの運送会社サービスが存在する可能性があります。この優先順位は、そのような競合状況を解決するために使用されます。優先順位の番号が最も小さい運送会社サービスが使用されます。
運送会社/サービス	希望の運送会社とサービス・コードを指定します。
バルク仕分けノード (Break Bulk Node)	バイヤーに近接しているバルク仕分けノードです。
指定された連絡先	出荷品の連絡先詳細が指定されているかどうかを示します。
オーバーライドあり:	
運賃条件のオーバーライド	出荷品の運賃条件をオーバーライドする場合に選択します。
出荷先のオーバーライド	「出荷先」の値をオーバーライドするには、このフィールドを選択してから、次のいずれかを選択します。このフィールドが使用されるのは、出荷先住所が変更されたためにルーティングが再実行される場合のみです。
ノード	ノード名を選択します。
集約者	集約者の名前を選択します。
ストア	ストアの番号を選択します。

タスクの結果

設定された条件が検証されると、最も多くの条件に一致するルーティング・ガイド明細が使用されます。例えば、次の 3 つのルーティング・ガイド明細が存在するとします。

ルーティング・ガイド明細 A - 出荷元がマサチューセッツの場合に実行する内容

ルーティング・ガイド明細 B - 出荷元がマサチューセッツであり、かつ出荷元の郵便番号が 01810 の場合に実行する内容

ルーティング・ガイド明細 C - 出荷元がマサチューセッツまたはニューヨークの場合に実行する内容

出荷元の郵便番号が 01810 の場合は、これらのルーティング・ガイド明細のすべてに一致します。この場合は、最も多くの条件 (州と郵便番号) が満たされているルーティング・ガイド明細 B で指定されたアクションが使用されます。

出荷元がマサチューセッツであるが、出荷元の郵便番号が 01810 でない場合は、ルーティング・ガイド明細 A とルーティング・ガイド明細 C の両方が一致します。このような場合は、優先順位の番号が小さい方のガイド明細が使用されます。例えば、ルーティング・ガイド明細 A の優先順位番号が 3 であり、ルーティング・ガイド明細 C の優先順位番号が 5 の場合は、ルーティング・ガイド明細 A が使用されます。


運送会社サービスの定義: ルーティングが行われると、出荷はルーティング・ガイド明細に照らして照合されます。指定された選択条件に基づいて、使用する運送会社サービスを選択します。

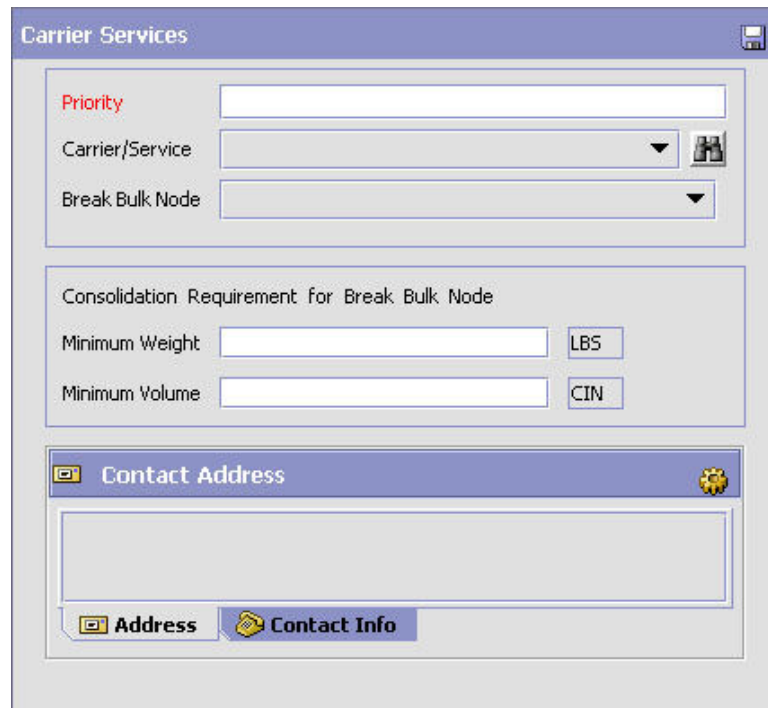
運送会社サービスの作成、変更、または削除には、「運送会社サービス」パネルを使用できます。

運送会社サービスの作成: このタスクについて

運送会社サービスを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウで、「運送会社サービス」パネルにある  を選択します。「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。



2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、45 ページの表 8 を参照してください。



3.  を選択します。



表 8. 運送会社サービス

フィールド	説明
優先順位	ルールで使用する相対重要度の数値を入力します。 出荷品がルーティング・ガイド明細と照合された場合、使用可能な 2 つの運送会社サービスが存在する可能性があります。この優先順位は、そのような競合状況を解決するために使用されます。優先順位の番号が最も小さい運送会社サービスが使用されます。
配送業者/サービス	目的の運送会社かサービスのコードを選択します。
バルク仕分けノード (Break Bulk Node)	バイヤーに近いバルク仕分けノードを選択します。
連絡先住所	運送会社サービスの連絡先住所の情報を指定するために使用します。  をクリックして、連絡先住所を変更します。

運送会社サービスの変更: このタスクについて

運送会社サービスを変更するには、以下の手順を実行します。



手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウの「運送会社サービス」パネルで、「運送会社サービス」リスト・ウィンドウ内のリストから運送会社サービスを選択して、 を選択します。「運送会社サービス」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するフィールドに新しい情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 8 を参照してください。
3.  を選択します。

運送会社サービスの削除: このタスクについて

運送会社サービスを削除するには、次の手順を実行します。



手順

1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウの「運送会社サービス」パネルで、「運送会社サービス」リスト・ウィンドウの運送会社サービスを選択し、 を選択します。
2.  を選択します。

ルーティング・ガイド明細の変更 このタスクについて

ルーティング・ガイド明細を変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guidelines Details)」ウィンドウで、「ルーティング詳細 (Routing Details)」タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド明細」リスト・ウィンドウでルーティング・ガイド明細を選択して、 を選択します。「ルーティング・ガイド明細の詳細」検索ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに新しい情報を入力します。フィールドの値の説明については、「ルーティング・ガイド明細の詳細」テーブルを参照してください。
4.  を選択します。

ルーティング・ガイド明細の削除

このタスクについて

ルーティング・ガイド明細を削除するには、以下の手順を実行します。

手順


1. 「ルーティング・ガイド明細の詳細 (Routing Guide Lines Details)」ウィンドウで、「ルーティング詳細 (Routing Details)」タブを選択します。「ルーティング・ガイド明細の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 「ルーティング・ガイド明細」リスト・ウィンドウでルーティング・ガイド明細を選択して、 を選択します。

ルーティング・ガイドの削除

このタスクについて

ルーティング・ガイドを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「物流管理」>「出庫制約」を選択します。作業領域に、「出庫制約」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するルーティング・ガイドを選択して、 を選択します。

第 4 章 アプリケーション共通価格設定コンポーネントの構成

- 本章で述べる機能は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation リリース 9.1 では推奨されていません。Sterling Selling and Fulfillment Foundation リリース 9.1 の新しい価格設定機能については、「*IBM Sterling Business Center 価格設定管理ガイド (Pricing Administration Guide)*」および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」の価格設定サービスについての情報を参照してください。
- 本章で述べる非推奨の価格設定機能を使用する場合は、まず「インストール・ルール」ウィンドウで「廃止が予定されている価格設定機能の使用」チェック・ボックスを選択する必要があります。このウィンドウにアクセスするには、「アプリケーション・プラットフォーム」アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」>「インストール・ルール」を選択します。作業領域に、「インストール・ルール」ウィンドウが表示されます。

返品物流ビジネス・アプリケーション・モジュール全体を通じて、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 会計エンジンにより価格設定で使用されるコンポーネントを構成できます。

価格プログラムと価格リストの定義

注: この構成は、外部価格設定エンジンを使用している場合は不要です。

価格プログラムは、さまざまな価格設定を、さまざまな顧客に、さまざまな時点で提供するための方法です。価格プログラムには 1 つ以上の価格リストを備えることができます。各価格リストは、特定の通貨の価格設定を定義します。価格プログラムの定義は、特定の期間に使用する価格リストを定義します。

例えば、得意先顧客がクリスマス前にオーダーを出す場合には、それらの顧客に割引価格でアイテムを提供する、特別価格プログラムをセットアップすることができます。「前 (Before)」と「後 (After)」の 2 つの価格リストを作成できます。「前 (Before)」には、クリスマス前の各アイテムの割引価格をリストします。「後 (After)」には、クリスマス後のアイテムの通常価格をリストします。次いで、現在から 12 月 25 日までは、その価格プログラムでのオーダーを「前 (Before)」を使用して計算し、12 月 25 日を過ぎた後は「後 (After)」を使用して計算することを指定する価格プログラムを作成できます。

顧客が価格プログラムの一部となっているアイテムをオーダーするが、そのオーダーが指定された日付範囲、数量範囲、または通貨の範囲外となっている場合、価格はゼロと算出されます。その場合、CSR は手動で価格を入力する必要があります。

注: エンタープライズとして定義されている組織は、「構成継承元」組織から価格プログラムを継承することはできません。

注: オーダー・ドキュメントのドラフト・オーダー作成中に価格を適用するには、「ドラフト・オーダーについて価格計算を許可」を選択する必要があります。ドラフト・オーダーの確認およびオーダーの作成の両方の実行中に価格を適用したい場

合は、「確認済みオーダーについて価格計算を許可」を選択する必要があります。
このパラメーターに関する詳細は、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

価格リストの作成

このタスクについて

価格リストを作成するには、以下の手順を実行します。

手順



1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「会計」>「価格リスト」を選択します。作業領域に、「価格リスト」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「価格リストの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値については、表 9 を参照してください。
4.  を選択します。

表 9. 「価格リストの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
価格リスト名	価格リストの名前を入力します。
通貨	価格リストのアイテムに適用する通貨を選択します。
説明	価格リストの短い説明を入力します。
有効期限	価格リストの有効期限の日付を入力します。
アクティブ	この価格リストをシステムでアクティブにする場合、「アクティブ」を選択します。

表9. 「価格リストの詳細」ウィンドウ (続き)



フィールド	説明
製品価格リスト	アイテムに対する価格リストを作成する場合、「製品価格リスト」を選択します。
配送サービス価格リスト	配送サービスに対する価格リストを作成する場合、「配送サービス価格リスト」を選択します。
提供サービス価格リスト	提供サービスに対する価格リストを作成する場合、「提供サービス価格リスト」を選択します。

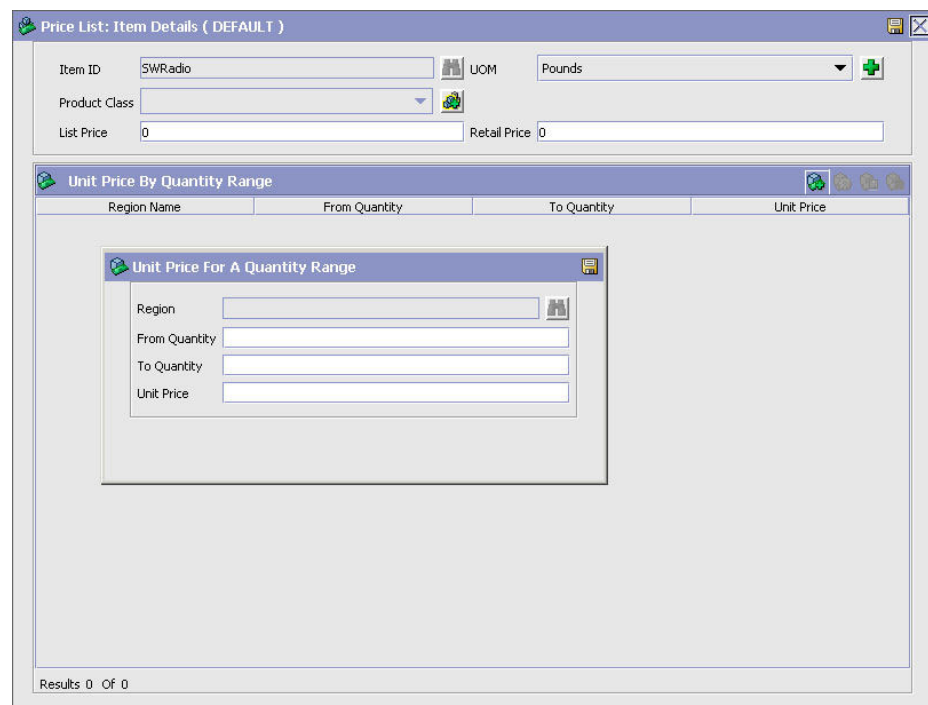
アイテムの価格リストへの追加

このタスクについて

アイテムを価格リストに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「価格リストの詳細」ウィンドウで、 をアイテム・レベル価格設定リストから選択します。「価格リスト: アイテムの詳細」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、アイテム価格リストの変更 を参照してください。
3.  を選択します。



アイテム価格リストの変更

このタスクについて

アイテム価格リストを変更するには、以下の手順を実行します。

手順







1. 「価格リストの詳細」ウィンドウの「アイテム・レベル価格設定」リストから該当するアイテムを選択し、 を選択します。「アイテム価格セットの詳細」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 10 を参照してください。
3.  を選択します。

表 10. 「価格リスト: アイテムの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
アイテム ID	価格リストに追加するアイテムのアイテム ID を入力します。
単位	アイテムの計測単位を選択します。
製品クラス	アイテムが入る製品クラスを選択します。
表示価格 (List Price)	アイテムの表示価格を入力します。
小売価格	アイテムの販売価格を入力します。
数量範囲別単価	アイテムの作成後、アイテムの価格セットの詳細を追加するには、  を選択します。 詳細を変更するには、  を選択します。 詳細を削除するには、  を選択します。
地域	アイテムの価格設定が適用される地域を入力します。 例えば、大都市圏と郊外地域の両方に配達するが、大都市圏への配達に対して請求する配送サービス・アイテムを追加する場合、大都市圏とその価格設定を指定するものと、郊外地域を指定するものの 2 つのレコードを作成することになります。 注: このフィールドはオプションです。ブランクのままにすると、任意の地域の大量注文価格の範囲が機能します。 注: ここで指定する地域は、作成するアイテムに関連付けられた地域スキーマに属している必要があります。価格設定の地域スキーマを関連付ける方法については詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド</i> 」を参照してください。
開始数量	価格設定の開始数量を入力します。
終了数量	特定の数のアイテムの購入に基づいて、価格範囲の終了数量を入力します。
単価	その開始数量および終了数量のアイテム当たりのコストを入力します。

アイテム価格リストの削除

このタスクについて



アイテム価格リストを削除するには、「価格リストの詳細」ウィンドウで該当するアイテムを選択し、 を選択します。

価格リストの変更

このタスクについて

価格リストを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「分散オーダー管理」を選択します。サイド・パネルに、「分散オーダー管理」ツリーが表示されます。
2. 「分散オーダー管理」ツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「価格リスト」を選択します。作業領域に、「価格リスト」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する価格リストを選択して、 を選択します。「価格セットの詳細」ウィンドウが表示されます。
4. 「説明」に、価格リストの簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

価格リストの削除

このタスクについて

価格リストを削除するには、以下の手順を実行します。

手順


1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「分散オーダー管理」を選択します。サイド・パネルに、「分散オーダー管理」ツリーが表示されます。
2. 「分散オーダー管理」ツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「価格リスト」を選択します。作業領域に、「価格リスト」ウィンドウが表示されます。
3. 該当する価格リストを選択して、 を選択します。

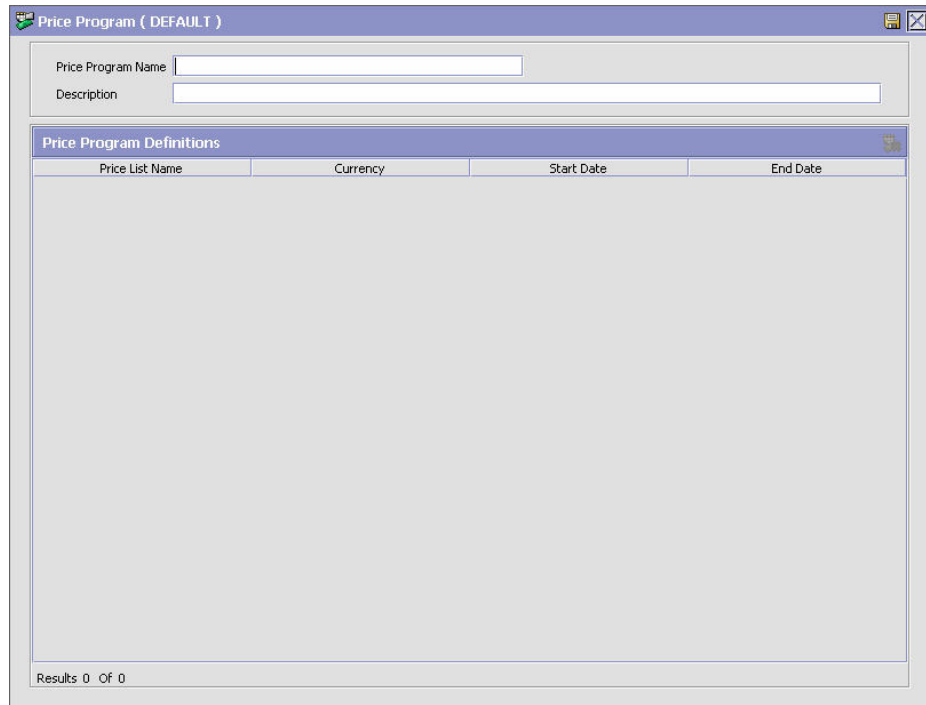
価格プログラムの作成


このタスクについて

価格プログラムを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. メニュー・バーから、「アプリケーション」>「分散オーダー管理」を選択します。サイド・パネルに、「分散オーダー管理」ツリーが表示されます。
2. 「分散オーダー管理」ツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「価格プログラム」を選択します。作業領域に、「価格プログラム」ウィンドウが表示されます。
3.  を選択します。「価格プログラムの詳細 (Price Program Details)」ウィンドウが表示されます。




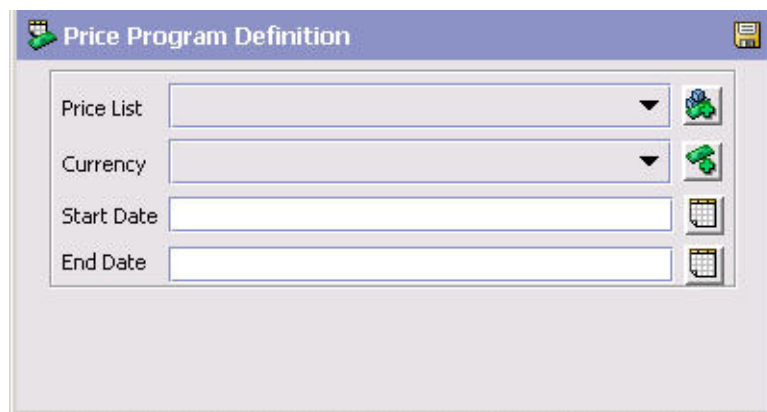
4. 「価格プログラム名」に、価格プログラムの名前を入力します。
5. 「説明」に、価格プログラムの簡単な説明を入力します。
6.  を選択します。

新規価格リストの価格プログラムへの追加 このタスクについて


新規価格リストを価格プログラムに追加するには、以下の手順を実行します。

手順


1. 「価格プログラムの詳細 (Price Program Details)」ウィンドウで、 を価格プログラムの定義リストから選択します。「価格プログラムの定義」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



2. 「価格リスト」から、価格プログラムに追加する価格リストを選択します。

3. 「通貨」から、価格リストの通貨を選択します。
4. 「開始日」に、価格プログラム内でアイテムに対して価格設定が開始される日付を入力します。
5. 「終了日」に、価格プログラム内でアイテムに対して価格設定が終了する日付を入力します。
6.  を選択します。



価格プログラム内の価格リストの削除 このタスクについて

価格プログラム内の価格リストを削除するには、「価格プログラムの詳細 (Price Program Details)」ウィンドウから該当する価格リストを選択して、 を選択します。

価格プログラムの変更 このタスクについて

価格プログラムを変更するには、以下の手順を実行します。


手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「価格プログラム」を選択します。作業領域に、「価格プログラム」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する価格プログラムを選択して、 を選択します。「価格プログラムの詳細 (Price Program Details)」ウィンドウが表示されます。
3. 「説明」に、価格プログラムの簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。

価格プログラムの削除 このタスクについて

価格プログラムを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「価格プログラム」を選択します。作業領域に、「価格プログラム」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する価格プログラムを選択して、 を選択します。

第 5 章 アプリケーション共通支払コンポーネントの構成

アプリケーション共通支払コンポーネントの構成

システムが受け入れる支払いのタイプと、支払集金に関するルールを定義するには、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で使用されるコンポーネントを構成できます。

支払タイプと支払ルールを定義するには、「会計」ブランチを使用できます。

システム支払処理ルール

このタスクについて

支払タイプまたは複数の支払タイプが適用される順番などの支払処理ルールは、セラー組織またはエンタープライズ・レベルのいずれかで決定できます。ドラフト・オーダーに対して支払処理を実行するかどうかも指定できます。

支払処理ルールを構成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「システム支払処理ルール」を選択します。作業領域に、「システム支払処理ルール」ウィンドウが表示されます。




2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 11 を参照してください。

表 11. 「システム支払処理ルール」ウィンドウ

フィールド	説明
支払ルール	
支払処理ルールの決定に (セラー組織の代わりに) オーダーのエンタープライズを使用する	支払処理ルールを有効にして、エンタープライズ・レベルで構成するには、このボックスにチェック・マークを付けます。 このルールは、コンソールだけではなく、互換性のある PCA を使用している場合にのみサポートされます。

表 11. 「システム支払処理ルール」 ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ドラフト・オーダー	
ドラフト・オーダー支払処理を有効にする	ドラフト・オーダーに対する支払処理を有効にするには、このボックスにチェック・マークを付けます。 このオプションはデフォルトでオンになっています。
ドラフト・オーダーの請求要請を無視する	承認するドラフト・オーダーの要請金額を計算するときに請求要請を無視するには、このボックスにチェック・マークを付けます。通常の請求要請の処理は、ドラフト・オーダーが確認されてから始まります。 このオプションはデフォルトではオフとなっており、「ドラフト・オーダー支払処理を有効にする」がオンになっている場合にのみ構成することができます。

3.  を選択します。

支払タイプの定義

「支払タイプ」の共通コードを定義できます。**支払タイプ**は、組織間の会計トランザクションで使用できる、さまざまな支払方法 (例えばクレジット・カードや小切手など) です。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの支払タイプは、以下のとおりです。

- CHECK
- CREDIT_CARD
- CUSTOMER_ACCOUNT
- OTHER


支払タイプの作成、変更、または削除には、「支払タイプ」ブランチを使用できます。

支払タイプの作成

このタスクについて

支払タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「支払タイプ」を選択します。作業領域に、「支払タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「支払タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、57 ページの表 12 を参照してください。


4.  を選択します。

表 12. 「支払タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
支払タイプ	
支払タイプ	支払タイプの名前を入力します。
支払タイプのグループ	支払タイプのグループを選択します。
説明	支払タイプの短い説明を入力します。
料金	
料金シーケンス	この支払タイプに対する優先料金シーケンスを入力します。0が最高位です。 支払タイプを定義する際、支払タイプが請求されるデフォルトの順序を設定できます。例えば、セラー組織が贈答品証明を使用し、贈答品証明から集金した後残額をクレジット・カードから集金することを希望する場合、「贈答品証明」支払タイプの料金シーケンスを 1 に構成し、「クレジット・カード」支払タイプの料金シーケンスを 2 に構成することができます。料金シーケンスについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き』を参照してください。

表 12. 「支払タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
承認に代わる請求	<p>この支払タイプに対して、承認要請ではなく請求要請を作成する場合、このフィールドを選択します。</p> <p>このフラグは、オーダー処理の際に支払タイプが請求されるとき、アカウントで使用可能な資金の金額を決定する <code>GetFundsAvailable</code> 外部プログラムをトリガーするために使用されます。 <code>GetFundsAvailable</code> 外部プログラムについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i>』を参照してください。</p>
料金上限	<p>使用可能な金額まで請求を許可するには、このフィールドを選択します。このフィールドは、「ストアード・バリュー・カード」支払タイプ・グループに属する支払タイプでのみ使用可能です。</p>
承認取り消し方法	
取り消さない	<p>承認取り消し方法を実装しない場合、このオプションを選択します。これはデフォルトです。</p>
有効期限満了時に取り消す	<p>このオプションを有効にした場合、承認の期限が切れたときに承認取り消し要求が生成されます。この要求は、同じ承認 ID に対するもので、負の金額です。承認の自動取り消しを有効にしており、該当する支払方法が承認の取り消しをサポートしていない場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が取り消し要求を生成し、支払システムで手数料が発生することを避けるために <code>YFSCollectionCreditCardUE</code> で成功を返すことができます。</p> <p>この機能を使用するには、決済と承認が必要です。このオプションは、承認が必要なすべての支払方法をサポートしますが、顧客アカウントは例外です。</p> <p>注: このオプションは、「同じ承認を複数回使用」支払ルールと相互に排他的です。</p> <p><code>collectionCreditCardUE</code> の実装によるこの方法の設定とさまざまな承認および決済金額の処理については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き</i>』を参照してください。</p>

表 12. 「支払タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
料金の集約が可能	<p>請求要請を集約する場合は、「料金の集約が可能」を選択します。</p> <p>このオプションを選択した場合、料金トランザクション・レコードが作成されると、そのレコードの集金日が、承認の実行日 + 「集約期間 (時間)」フィールドに入力した時間に設定されます。集金日の日付 (および時刻) の後に、executeCollection 時間トリガー・トランザクションが処理のためにレコードをピックアップします。</p> <p>特定のオーダーに対して同じ支払タイプで追加の請求が必要な場合、新規料金トランザクション・レコードが挿入されるのではなく、既存の料金トランザクション・レコードが更新されます。</p> <p>このフラグは、伝票種別にのみ適用されます。</p> <p>料金が承認から作成されていない場合、集約では考慮されません。</p>
集約期間 (時間)	「料金の集約が可能」を選択した場合、料金を集約できる時間フレーム (時間数) を入力します。
返金	
返品に有効	この支払タイプをセラーの商慣習にしたがって返金できるようにする場合、「返品に有効」を選択します。
返金シーケンス	<p>この支払タイプに対する優先返金シーケンスを入力します。0 が最高位です。</p> <p>支払タイプを定義する際、セラーがバイヤーの支払タイプを返金するデフォルトの順序を設定できます。例えば、セラー組織が顧客のアカウントに返金した後顧客のクレジット・カードに返金することを希望する場合、「顧客アカウント」支払タイプの返金シーケンスを 1 に構成し、「クレジット・カード」支払タイプの料金シーケンスを 2 に構成することができます。返金シーケンスについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き</i>』を参照してください。</p>
返品デフォルト	この支払タイプを、返品コンソールで返金されるデフォルトのタイプに指定する場合、「返品デフォルト」を選択します。返品が有効な支払いがオーダーにない場合、これが選択されている支払タイプを使用して新規支払レコードが作成されます。
同じ支払方法で返金	同じ支払方法に対する返金を許可するには、このフィールドを選択します。
新しい支払方法で返金	新規支払方法に対する返金を許可するには、このフィールドを選択します。



表 12. 「支払タイプの詳細」 ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
支払タイプの新しい支払方法で返金	<p>上記の「新しい支払方法で返金」を選択した場合、このフィールドを使用して、使用する新規支払タイプを選択します。</p> <p>STORED_VALUE_CARD または OTHER 支払タイプ・グループに属する支払タイプのみが有効です。</p> <p>STORED_VALUE_CARD または OTHER を選択した場合、同じ支払タイプを選択し、同じタイプの新規支払方法を選択できます。例えば、元の支払方法が STORED_VALUE_CARD であり、アイテムが返品された場合、このフィールドに STORED_VALUE_CARD と入力することで、新規ギフト・カードを発行できます。この新規 STORED_VALUE_CARD を追跡される在庫アイテムにする場合、後述する「以下を使用した返金フルフィルメント・オーダーの作成」フィールドにアイテム ID を入力します。</p> <p>異なる支払方法に返金するよう指定する場合、使用する支払方法の返金オプションを構成します。例えば、元の支払方法が CREDIT_CARD であり、新規支払方法を STORED_VALUE_CARD に指定した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は返品プロセスで、CREDIT_CARD の設定ではなく STORED_VALUE_CARD の設定を使用します。</p>
新しい支払方法で返金する場合	
以下の制約を使用	<p>この支払タイプに返金制約があることを示すには、このオプションを選択します。</p> <p>これにより、返金金額が特定の値より大きい場合や小さい場合に、異なる支払タイプを使用して返金を発行できます。</p>
返金額が次の場合	ドロップダウン・メニューから、「より大」または「未満」を選択し、制約として使用する返金金額を入力します。
支払タイプを使用した返金	制約が有効な場合、使用する返金支払タイプを選択します。
以下を使用した返金フルフィルメント・オーダーの作成	新規支払方法を作成するのではなく返金フルフィルメント・オーダーを作成する場合、このオプションを選択します。
アイテム ID	ドロップダウン・メニューから、返金を履行するアイテムのアイテム ID を選択します。
単位	アイテム ID を選択すると、対応する単位が入力されます。
返金支払および請求要請の作成	新規支払方法へ返金するときに返金支払および請求要請を作成する場合、このオプションを選択します。
返金支払および支払待ち情報の作成	返金請求要請を作成しない場合、このオプションを選択します。また、これを有効にした場合、「未完了支払情報」イベントが発生します。

支払タイプの変更 このタスクについて

支払タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「支払タイプ」を選択します。作業領域に、「支払タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する支払タイプを選択して、 を選択します。「支払タイプの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、57ページの表 12 を参照してください。
4.  を選択します。

支払タイプの削除

このタスクについて

支払タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「支払タイプ」を選択します。作業領域に、「支払タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する支払タイプを選択して、 を選択します。

支払ルールの定義

支払集金のときに組織が使用するルールをセットアップできます。

支払ルールの作成、変更、または削除には、「支払ルール」ブランチを使用できます。

支払ルールの作成

このタスクについて

支払ルールを作成するには、以下の手順を実行します。

手順



1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「支払ルール」を選択します。作業領域に、「支払ルール」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「支払ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、62ページの表 13 を参照してください。
4.  を選択します。

表 13. 「支払ルール」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
支払ルール ID (Payment Rule ID)	システム全体で表示する支払ルール ID を入力します。
インボイスの発行	<p>オーダーのインボイスを作成時に発行するには、「作成時」を選択します。</p> <p>オーダーのインボイスを、そのインボイスに対する支払いが集金された後に発行するには、「集金時」を選択します。</p> <p>インボイスを発行するには、PUBLISH_INVOICE_DETAIL イベントが構成されており、「インボイスの送付」時間トリガー・トランザクションが稼働している必要があります。</p>

表 13. 「支払ルール」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
社外の売掛を通じて集金	<p>チェックされている場合、すべてのインボイスの詳細が外部の売掛システムに対して発行されます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation の外部で実行されるすべての集金は、レポートする必要がありません。</p> <p>チェックされていない場合、集金のための外部プログラムをプログラムしていれば、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がすべての会計集金を処理します。</p> <p>外部システムを使用してアカウントを処理する場合、「社外の売掛を通じて集金」をチェックし、「要決済」と「要承認」のチェックを解除する必要があります。</p>
業者 ID	<p>組織で支払いの処理にサード・パーティー機関を使用する場合、その業者 ID を入力します。</p>
返品時に繰延クレジット項目が必要	<p>事前集金されたオーダーの一部がキャンセルされたとき、返金されていないキャンセル金額を伴うイベントを起動する場合、「返品時に繰延クレジット項目が必要」を選択します。</p>
保留金額からの即時返金を許可する	<p>事前集金された保留金額からクレジット金額を顧客に対して即座に返金する場合、「保留金額からの即時返金を許可する」を選択します。</p> <p>「保留金額からの即時返金を許可する」は、「返品時に繰延クレジット項目が必要」と相互に排他的です。</p>
要決済	<p>支払いを処理するために決済が必要な場合、「要決済」を選択します。</p>
パージの際に支払ステータスを無視する	<p>オーダーの支払ステータスにかかわらずオーダーをパージする場合、「パージの際に支払ステータスを無視する」を選択します。</p> <p>「要決済」が選択されている場合、「パージの際に支払ステータスを無視する」は使用できません。</p>
要承認	<p>支払いを処理するために何らかのタイプの承認が必要な場合、「要承認」を選択します。</p> <p>このルールを選択した場合、再承認オプションのある関連付けられた「再承認」ペインが使用可能になります。</p>
内部で管理される顧客アカウント	<p>アカウントの支払処理が Sterling Selling and Fulfillment Foundation の内部で処理される場合、「内部で管理される顧客アカウント」を選択します。</p> <p>このルールにより、「顧客支払方法」に限度が設定されている場合、承認のために YFSCollectionCustomerAccountUE 外部プログラムが呼び出されなくなります。</p>
再承認	
スケジュールリング前に承認し、期限切れの際に再承認する	<p>直前の承認が期限切れになるたびに、支払方法を承認してからオーダーをスケジュールリングして再承認する場合、このボタンを選択します。</p> <p>「要承認」が有効な場合、このルールがデフォルトです。</p>

表 13. 「支払ルール」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
承認に請求トランザクション要請を使用する	<p>オーダーの予約金額ではなく請求トランザクション要求 ID によって承認をトリガーする場合、「承認に請求トランザクション要請を使用する」を選択します。請求トランザクション要求 ID は、オーダーにおける 1 つのエンティティーまたはエンティティー・グループを表します。これは、決済が必要な場合はサポートされません。</p> <p>「承認に請求トランザクション要請を使用する」を使用可能にするには、「スケジューリング前に承認し、期限切れの際に再承認する」を選択する必要があります。</p>
スケジューリング前に承認し、再承認するまでの時間を指定する	<p>オーダーを承認してからスケジューリングし、再承認をリリース予定日または予定開始日まで遅らせる場合、このボタンを選択します。</p> <p>リリース予定日および予定開始日のフィールドに数値を入力し、その数値が異なっている場合、再承認は両方の日付に実行されます。</p>
時間前: 製品のリリース日まで	リリース予定日の前にアイテムに対する承認を実行する時間数を入力します。
時間前: サービスの約束した予定開始日まで	予定開始日の前に提供サービスおよび配送サービスに対する承認を実行する時間数を入力します。
再承認するまでの時間を指定する	リリース予定日または予定開始日の前にのみ承認を実行する場合、このボタンを選択します。
時間前: 製品のリリース日まで	リリース予定日の前にアイテムに対する承認を実行する時間数を入力します。
時間前: サービスの約束した予定開始日まで	予定開始日の前に提供サービスおよび配送サービスに対する承認を実行する時間数を入力します。

タスクの結果

承認オプションの業務に対する影響を詳しく説明するため、表 14 に、標準の承認構成で在庫を待ち受ける間に多くの承認が実行される可能性があることを示します。遅延再承認が構成されている場合、1 回ないし 2 回の承認のみが実行されます。

表 14. 標準の再承認と遅延再承認

構成オプション	オーダーがスケジューリングされる前	オーダーがスケジューリングされる前に承認の期限が切れたとき	リリースの <n> 時間前
スケジューリング前に承認し、期限切れの際に再承認する (標準)	承認	承認...承認...承認...	承認
スケジューリング前に承認し、出荷日の <n> 時間前まで再承認を遅らせる	承認		承認

表 14. 標準の再承認と遅延再承認 (続き)



構成オプション	オーダーがスケジュールリングされる前	オーダーがスケジュールリングされる前に承認の期限が切れたとき	リリースの <n> 時間前
出荷日の <n> 時間前まで再承認を遅らせる			承認

支払ルールの変更

このタスクについて

支払ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「支払ルール」を選択します。作業領域に、「支払ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する支払ルールを選択して、 を選択します。「支払ルールの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドの情報を変更します。フィールドの値の説明については、62 ページの表 13 を参照してください。
4.  を選択します。

支払ルールの削除

このタスクについて

支払ルールを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「会計」>「支払ルール」を選択します。作業領域に、「支払ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する支払ルールを選択して、 を選択します。

第 6 章 アプリケーション共通顧客コンポーネントの構成

組織から購買する顧客、およびその顧客に関する分類、主要情報、サービス・プリファレンスなどの属性を定義できます。

顧客の分類コードの構成

顧客 ID マスターに関連付ける顧客分類コードを構成できます。顧客 ID マスターの作成について詳しくは、『「顧客の定義」の定義』という題のセクションを参照してください。


顧客分類の作成、変更、および削除には、「顧客分類」ブランチを使用できます。

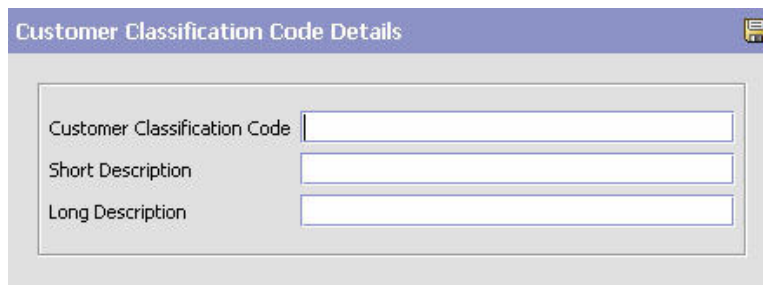
顧客の分類の作成

このタスクについて

顧客の分類を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「顧客」>「顧客ルール」を選択します。作業領域に、「顧客ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「顧客の分類」タブをクリックします。
3.  をクリックします。「顧客の分類コードの詳細 (Customer Classification Code Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。




Customer Classification Code Details

Customer Classification Code

Short Description

Long Description



4. 「顧客の分類コード」に、分類 ID コードを入力します。
5. 「簡略説明」に、分類 ID コードの簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、分類 ID コードの詳細な説明を入力します。
7.  をクリックします。

顧客の分類の変更

このタスクについて

顧客の分類を変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「顧客」>「顧客ルール」を選択します。作業領域に、「顧客ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「顧客の分類」タブをクリックします。
3. 該当する顧客の分類コードを選択して、 をクリックします。「顧客の分類コードの詳細 (Customer Classification Code Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、分類 ID コードの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、分類 ID コードの詳細な説明を入力します。
6.  をクリックします。

顧客の分類の削除

このタスクについて

顧客の分類を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「顧客」>「顧客ルール」を選択します。作業領域に、「顧客ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「顧客の分類」タブをクリックします。
3. 該当する顧客の分類コードを選択して、 をクリックします。

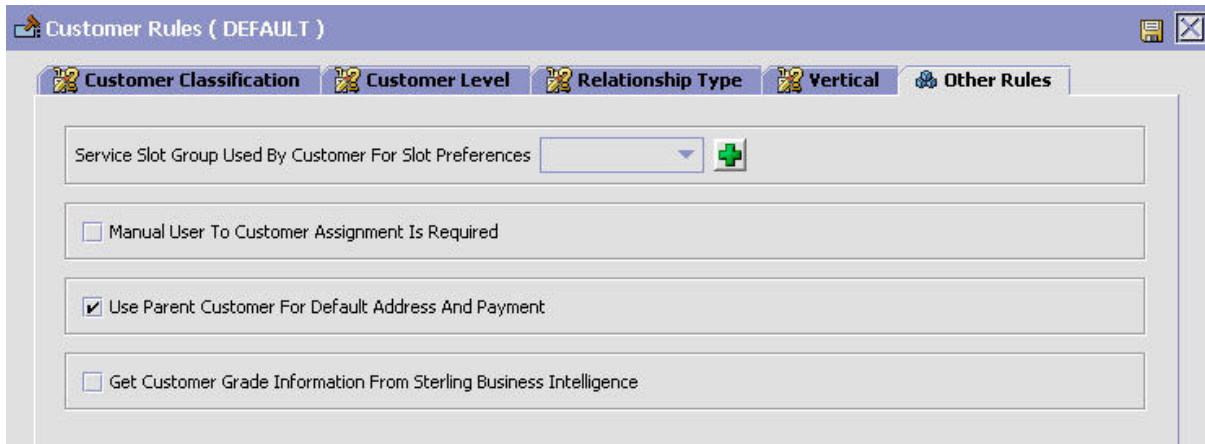
追加の顧客ルールの定義

このタスクについて

追加の顧客ルールを定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールをサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「顧客」>「顧客ルール」を選択します。作業領域に、「顧客ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「他のルール」タブをクリックします。



3. 「スロット・プリファレンス用に顧客が使用するサービス・スロット・グループ」フィールドで、顧客プリファレンスを定義するために使用するサービス・スロット・グループの ID をドロップダウン・リストから選択します。
4. 特定のユーザー（またはチームのメンバー）に特定の顧客との関係を管理させるには、「ユーザーから顧客への手動割り当てが必要」チェック・ボックスを選択します。これにより、割り当てられたユーザーは、この顧客のすべてのオーダーおよび関連情報にアクセスできるようになります。
5. 「デフォルトの住所および支払に親顧客を使用する」チェック・ボックスを選択した場合に、該当する顧客にデフォルトの住所や支払いの情報が設定されていない場合は、親顧客のデフォルトの住所や支払いの情報は、オーダーの不履行のために使用されます。
6. Sterling Business Intelligence™ から顧客グレードを取得するには、「Sterling Business Intelligence から顧客のグレード情報を取得する」チェック・ボックスを選択します。

注: このチェック・ボックスを選択した場合は、Sterling Business Intelligence がインストールされて Sterling Selling and Fulfillment Foundation と統合されていることを確認してください。インストールまたは統合のどちらかが未完了の場合は、エラー・メッセージが表示されます。Sterling Business Intelligence のインストールについては、「*Sterling Business Intelligence™*インストール・ガイド」を参照してください。Sterling Business Intelligence と Sterling Selling and Fulfillment Foundation の統合については、「*Sterling Business Intelligence™*実装ガイド」を参照してください。

「Sterling Business Intelligence から顧客のグレード情報を取得する」チェック・ボックスが選択されていない場合は、顧客グレードは（入手可能な場合）、外部のビジネス・インテリジェンス・システムから取得されて、YFS_CUSTOMER_ANALYTICS テーブルに保管されます。YFS_CUSTOMER_ANALYTICS テーブルについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

注: 顧客がこの構成をオーバーライドして、顧客グレードを計算および取得するための独自のカスタム・ロジックを実装することを可能にする外部プログラムが

用意されています。外部プログラム (YSCGetAdditionalCustomerInformationUE) について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」を参照してください。

7.  をクリックします。

「顧客の定義」の定義


組織とそのバイヤーとの間の関係を確立する顧客定義を構成できます。顧客定義を作成する場合は、既存のバイヤー組織と、特定の顧客 ID および分類とを関連付けます。顧客 ID は、複数の ERP システムがバイヤー情報を Sterling Selling and Fulfillment Foundation にダウンロードする場合に、バイヤー組織を一意的に識別します。

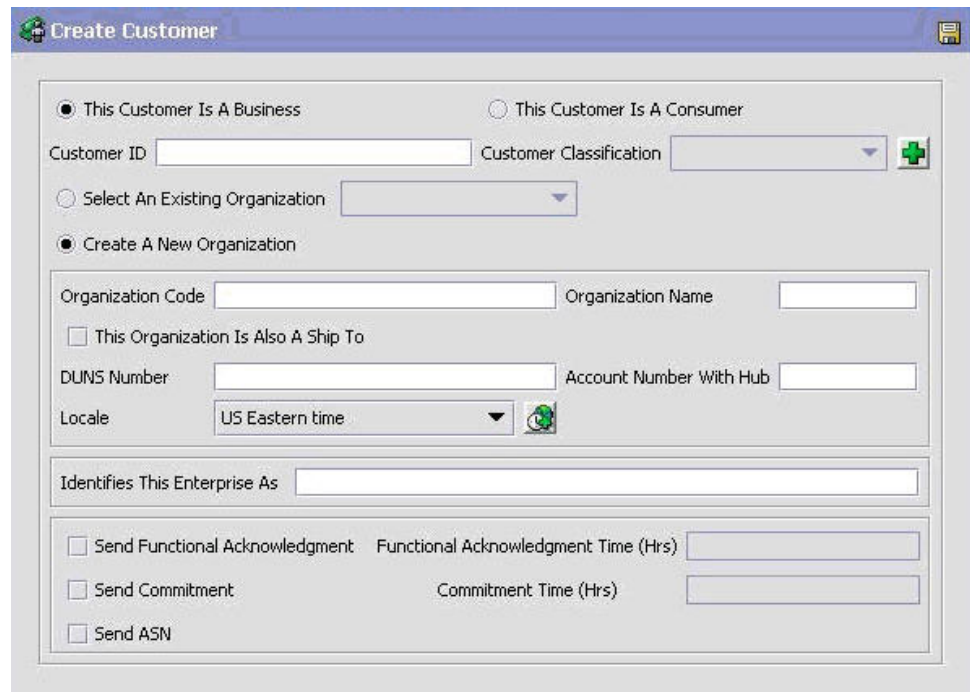
顧客定義の作成

このタスクについて

顧客定義を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「顧客」>「顧客定義」を選択します。作業領域に、「顧客の検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「顧客」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。




3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

表 15. 「顧客の作成」 ウィンドウ

フィールド	説明
この顧客は企業顧客である	取引する顧客が会社として関与する場合 (B2B シナリオの場合)、これを選択します。このオプションを選択した場合、このシナリオに固有の詳細情報について、この表の「企業顧客の詳細」を参照してください。
この顧客は消費者顧客である	取引する顧客が個人として関与する場合 (B2C シナリオの場合)、これを選択します。このオプションを選択した場合、このシナリオに固有の詳細情報について、この表の「企業顧客の詳細」を参照してください。
顧客 ID	固有の ID を入力します。
顧客の分類	必要に応じて、分類を選択します。
企業顧客の詳細	
既存組織の選択 (Select Existing Organization)	この顧客 ID を既存のバイヤー組織に関連付ける場合、これを選択して、該当するバイヤーを選択します。
新規組織の作成	この顧客に関連付ける新規組織を作成する場合、これを選択します。
組織コード	「バイヤー組織の作成」を選択した場合、そのバイヤーの組織コードを入力します。
組織名	新規組織を作成する場合、そのバイヤーの組織名を入力します。
この組織は出荷先でもあります (This Organization Is Also a Ship To)	新規組織を作成する際、その組織が受入ノードとしても機能する場合はこれを選択します。
DUNS 番号	「バイヤー組織の作成」を選択した場合、そのバイヤーの DUNS 番号を入力します。
ハブのあるアカウント番号	「バイヤー組織の作成」を選択した場合、そのバイヤーのハブ組織のあるアカウント番号を入力します。
ロケール	「バイヤー組織の作成」を選択した場合、そのバイヤーのロケールを選択します。
エンタープライズの ID	顧客がこのエンタープライズを識別するために割り当てたベンダー ID を入力します。
機能承認の送信	機能承認を顧客に送信する必要がある場合、このボックスをチェックします。
機能的承認時間 (時間数)	サプライヤーが機能承認を送信するまでにかかる時間の時間数を入力します。
コミットメントの送信	コミットメントを顧客に送信する必要がある場合、このボックスをチェックします。
コミット時間 (時間数)	サプライヤーがコミットメントを送信するまでにかかる時間の時間数を入力します。
ASN の送信	拡張出荷通知 (ASN) を顧客に送信する必要がある場合、このボックスをチェックします。

表 15. 「顧客の作成」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
消費者住所の詳細 (Consumer Address Details)	
住所	消費者の名前と配送先住所を入力します。
連絡先情報	消費者の電話番号、携帯電話番号、FAX 番号、および E メール・アドレスを入力します。



4.  を選択します。

顧客定義の変更

このタスクについて

顧客定義を変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「顧客」>「顧客定義」を選択します。作業領域に、「顧客の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。顧客のリストが表示されます。
3. 該当する顧客を見つけて、 を選択します。「顧客」ウィンドウが表示されます。




顧客の主要情報の定義

「主要情報」タブに表示される情報は、顧客が消費者 (consumer) であるか企業であるかによって変わります。


顧客が消費者である場合:




このタスクについて

顧客が消費者である場合、「消費者住所」パネルが表示されます。消費者の住所を編集するには、 をクリックします。

消費者である顧客には、出荷先住所をいくつでも定義できます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内の子の顧客は、ノード組織として定義されます。したがって、「子の顧客」パネルを使用して、製品の代替出荷先となる組織を追加、変更、または削除できます。 を使用すると、新規を定義し、 を使用すると、既存のものを変更し、 を使用すると、既存のものを削除できます。



顧客が企業である場合: 顧客が企業である場合、組織フィールドと、「出荷先」内部パネルが表示されます。  をクリックすると、組織の詳細情報を編集できます。組織の構成について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

企業顧客は、定義したい数だけいくつでも出荷先住所を持つことができます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation の出荷先住所は、ノード組織として定義されます。したがって、「出荷先」パネルを使用して、製品の代替発送先にできる組織を追加、変更、または削除できます。  を使用すると、新規を定義し、  を使用すると、既存のものを変更し、  を使用すると、既存のものを削除できます。

追加の出荷先住所の作成時には、独立バイヤーである組織の指定が必要になる場合があります。顧客がバイヤー組織でない場合、複数の出荷先住所を持つことはできません。したがって、「出荷先」内部パネルからポップアップする「作成」ウィンドウでは、「

この組織は出荷先でもあります (This Organization Is Also a Ship To)

」ラジオ・ボタンは、「この組織はバイヤーでもあります」ラジオ・ボタンに置き換えられています。

Customer ID	Organization	Customer Classification
Consumer1		
NewChild		
con3_child2		
sdfsaf		
BA Customer 1		
NewChild3		
newChild100		
newChild101		
newChild102		
newChild103		
newChild104		
Consumer2		
ChildL1	ChildL1	

顧客のサービス・プリファレンスの定義

Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義された顧客は、配達のスロット・プリファレンスを指定できます。

Slot	Start Time	End Time	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
Day	09:00:00	17:00:00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Evening	18:00:00	20:00:00	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

表 16. 配達プリファレンス

フィールド	説明
予定の計画中にデフォルトで追加キャパシティーを考慮 (Consider Supplemental Capacity While Planning Appointment By Default)	この顧客の予定を計画するときに、デフォルトで追加キャパシティーを考慮するには、これにチェックを付けます。
この顧客に対する予定の計画時	
どのスロットも使用可能	この顧客の予定を計画するときに、どのスロットも使用可能にするには、これにチェックを付けます。チェックすると、「スロット・プリファレンス」テーブルが非表示になります。
特定のスロットを使用してください	この顧客の予定を計画するときに、「スロット・プリファレンス」テーブルで指定したスロットのみが使用できる場合は、これにチェックを付けます。
顧客が特定のスロットを希望 (他のスロットを使用可能)	「スロット・プリファレンス」テーブルで指定されたスロットが、希望するスロット・テーブルの場合、これにチェックを付けます。
スロット・プリファレンス	
スロット	スロットの名前。
開始時刻	スロットの開始時刻 (24 時間形式)。
終了時刻	スロットの終了時刻 (24 時間形式)。
日 (Sun)	このスロットを顧客の優先スロットの一部にする場合は、これにチェックを付けます。

表 16. 配達プリファレンス (続き)

フィールド	説明
月 (Mon)	このスロットを顧客の優先スロットの一部にする場合は、これにチェックを付けます。
火 (Tue)	このスロットを顧客の優先スロットの一部にする場合は、これにチェックを付けます。
水 (Wed)	このスロットを顧客の優先スロットの一部にする場合は、これにチェックを付けます。
木 (Thu)	このスロットを顧客の優先スロットの一部にする場合は、これにチェックを付けます。
金 (Fri)	このスロットを顧客の優先スロットの一部にする場合は、これにチェックを付けます。
土 (Sat)	このスロットを顧客の優先スロットの一部にする場合は、これにチェックを付けます。

顧客住所関連の質問への回答

このタスクについて

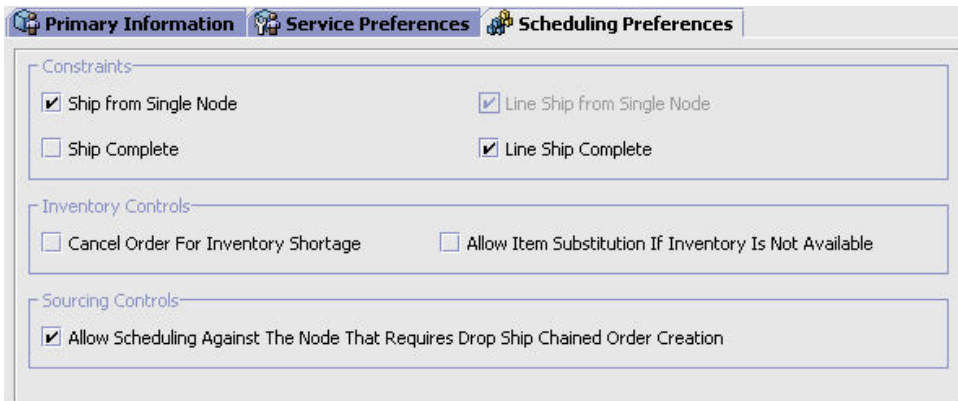
顧客住所関連の質問へ回答すると、この顧客がオーダーを次回に発注する際に、住所関連の質問の回答に設定されます。

手順

「サービス・プリファレンス」タブから、「住所に関する質問」タブを選択します。構成されていれば、エンタープライズ用に構成された住所に関する質問が表示されます。

顧客のスケジューリング制約の定義

以下のスケジューリング・プリファレンスを指定することによって、特定の顧客のスケジューリング制約を定義することができます。オーダー・レベルで渡された制約は、顧客のスケジューリング・プリファレンスをオーバーライドします。



フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

表 17. 顧客のスケジューリング制約

フィールド	説明
制約	
単一ノードから出荷	オーダーを単一ノードから必ず出荷するには、このボックスにチェックを付けます。これを指定すると、「単一ノードからの明細出荷」チェック・ボックスが自動的にチェックされます。
単一ノードからの明細出荷	オーダー明細を単一ノードから必ず出荷するには、このボックスにチェックを付けます。「単一ノードから出荷」チェック・ボックスがチェックされた場合、これは使用不可になります。
全部揃ってから配送する	オーダーがすべて揃ってから必ず出荷するには、このボックスにチェックを付けます。これを指定すると、「明細出荷完了」チェック・ボックスが自動的にチェックされます。
明細出荷完了	オーダー明細がすべて揃ってから必ず出荷するには、このボックスにチェックを付けます。「全部揃ってから配送する」チェック・ボックスをチェックした場合、これは使用不可になります。
在庫管理	
在庫切れのためオーダーをキャンセル	在庫切れの場合にバックオーダー済みの数量をキャンセルするには、このボックスにチェックを付けます。
在庫がない場合は代替アイテムでも可	選択されたアイテムの在庫がない場合に代替アイテムを許可するには、このボックスにチェックを付けます。
ソーシング管理	
連鎖されたドロップ出荷オーダーの作成が必要なノードに対するスケジューリングを許可する	連鎖されたドロップ出荷オーダーの作成が必要なノードに対してスケジューリングを許可するには、このボックスにチェックを付けます。

顧客ごとに複数の連絡先を定義

顧客ごとに複数の連絡先を定義できます。これらの連絡先は、顧客のロケーションにいる個人を表します。

Customer Contact ID	Last Name	First Name	Email Address	User ID	Spending Limit
UsrID	Consumer1	Contact			

詳しくは、以下の表を参照してください。

フィールド
定義

顧客連絡先 ID

顧客連絡先の ID。

姓 連絡先の姓。

名 連絡先の名。

E メール・アドレス

連絡先の E メール・アドレス。

ユーザー ID

連絡先のユーザー ID。


支出上限

連絡先の支出上限 (定義されている場合)。

顧客連絡先情報の定義:**このタスクについて**

顧客連絡先情報を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「顧客定義」画面で、「連絡先」タブを選択します。「顧客連絡先情報」画面が表示されます。
2. 顧客連絡先を追加するには、 を選択します。
3. 「顧客連絡先情報」タブを選択します。

The screenshot shows a web form titled 'Customer Contact Info' with two additional tabs: 'Limits' and 'Additional Address'. The form is organized into three main sections:

- Name Section:** Includes input fields for First Name, MiddleName, Last Name, and Company.
- Phone Section:** Includes input fields for Day Time Phone, Evening Phone, Cell Phone, and Fax.
- Email Section:** Includes input fields for Email, User ID, Date Of Birth, Spouse Date Of Birth, Wedding Anniversary, and Customer Contact ID.

4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値については、以下の表を参照してください。

表 18. 顧客連絡先情報

フィールド	説明
名前	
名	連絡先の名を入力します。
ミドルネーム	連絡先のミドルネームを入力します。
姓	連絡先の姓を入力します。
会社	連絡先の勤務先の会社を入力します。
電話	
日中連絡先	連絡先の日中の電話番号を入力します。
夜間の電話番号	連絡先の夜間の電話番号を入力します。
携帯電話	連絡先の携帯電話番号を入力します。
Fax	連絡先の Fax 番号を入力します。
E メール	連絡先の E メール・アドレスを入力します。
ユーザー ID	連絡先のユーザー ID を入力します。
誕生日	連絡先の誕生日を入力します。

表 18. 顧客連絡先情報 (続き)


フィールド	説明
配偶者の誕生日	連絡先の配偶者の誕生日を入力します。
結婚記念日	連絡先の結婚記念日を入力します。
顧客連絡先 ID	連絡先の顧客連絡先 ID を入力します。

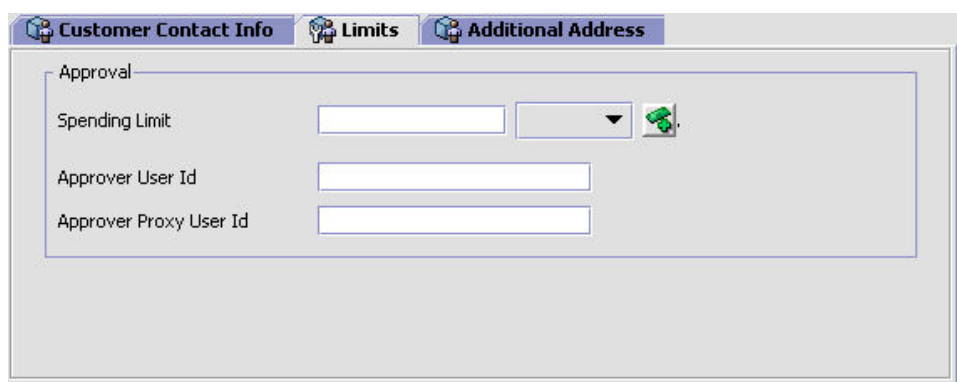
5. 「OK」を選択します。

**顧客連絡先の制限の定義:
このタスクについて**

顧客連絡先の制限を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「顧客定義」画面で、「連絡先」タブを選択します。「顧客連絡先情報」画面が表示されます。
2. 顧客連絡先を追加するには、 を選択します。
3. 「制限」タブを選択します。



4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。


表 19. 顧客連絡先の制限

フィールド	説明
承認	
支出上限	顧客連絡先の支出上限を入力します。ドロップダウン・リストから、支出上限が構成される通貨を選択します。新しい通貨を作成するには、該当するフィールドに関する情報を選択および入力します。
承認者のユーザー ID	主要な承認者のユーザー ID を入力します。
承認者のプロキシ	承認者のプロキシを入力します。

5. 「OK」を選択します。

追加の連絡先住所の定義:

手順

1. 「顧客定義」画面で、「連絡先」タブを選択します。「顧客連絡先情報」画面が表示されます。
2.  を選択して、新たな顧客連絡先情報を追加します。「顧客連絡先情報」画面が表示されます。
3. 「追加住所」タブを選択します。
4. 追加住所の定義については、『追加住所の定義』セクションの手順 2 を参照してください。

顧客の追加住所の定義: このタスクについて

1 件の顧客や連絡先に対して複数の追加住所や代替住所を定義できます。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

Additional Address				
Address ID	Is Ship To	Is Default Ship To	Is Bill To	Is Default Bill To
ID	✓	✓	✓	✓

フィールド

説明

追加住所 ID

追加住所の ID です。

出荷先 この住所が出荷先住所として構成されている場合は、このフィールドが選択された状態になります。

デフォルトの出荷先

この住所がデフォルトの出荷先住所として構成されている場合は、このフィールドが選択された状態になります


請求先 この住所が請求先住所として構成されている場合は、このフィールドが選択された状態になります

デフォルトの請求先

この住所がデフォルトの請求先住所として構成されている場合は、このフィールドが選択された状態になります

追加住所を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「顧客定義」画面で、「追加住所」タブを選択します。「追加住所」画面が表示されます。
2.  を選択して、追加住所を追加します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値については、以下の表を参照してください。

フィールド

説明

追加住所 ID

追加住所の ID を入力します。

請求先 これが請求先住所の場合は、このチェック・ボックスを選択します。

デフォルトの請求先

これがデフォルトの請求先住所の場合は、このチェック・ボックスを選択します。

出荷先 これが出荷先住所の場合は、このチェック・ボックスを選択します。


デフォルトの出荷先

これがデフォルトの出荷先住所の場合は、このチェック・ボックスを選択します。

販売先 これが販売先住所の場合は、このチェック・ボックスを選択します。

デフォルトの販売先

これがデフォルトの販売先住所の場合は、このチェック・ボックスを選択します。



4.  を選択して、追加住所を入力します。
5. 「OK」を選択します。

顧客定義の削除

このタスクについて

顧客定義を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「顧客」>「顧客定義」を選択します。作業領域に、「顧客の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。顧客のリストが表示されます。
3. 該当する顧客を見つけて、 を選択します。

連絡タイプの定義

作業オーダー・メモで顧客の連絡先情報を指定する場合は、ビジネス顧客と消費者顧客の両方の連絡タイプを構成できます。顧客の作成について詳しくは、『「顧客の定義」の定義』という題のセクションを参照してください。


顧客連絡タイプの作成、変更、または削除には、「連絡タイプ」ブランチを使用できます。

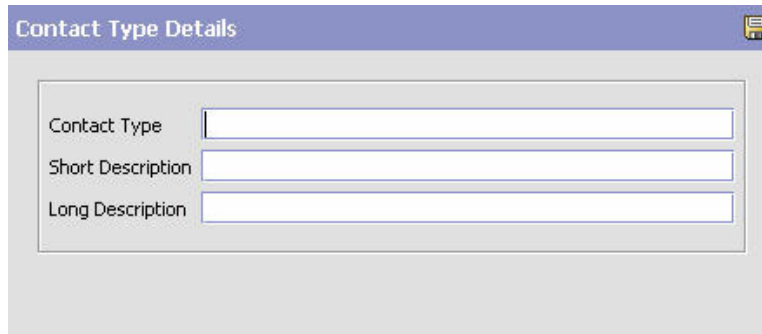
顧客連絡タイプの作成


このタスクについて

連絡タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「顧客」>「連絡タイプ」を選択します。作業領域に、「顧客連絡タイプ (Customer Contact Types)」ウィンドウが表示されます。
2.  をクリックします。「連絡タイプの詳細 (Contact Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。





3. 「連絡タイプ」に、連絡先のタイプを入力します。
4. 「簡略説明」に、連絡タイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、連絡タイプの詳細な説明を入力します。
6.  をクリックします。

顧客連絡タイプの変更

このタスクについて

連絡タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「顧客」>「連絡タイプ」を選択します。作業領域に、「顧客連絡タイプ (Customer Contact Types)」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する連絡タイプを選択して、 をクリックします。「連絡タイプの詳細 (Contact Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、連絡タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、連絡タイプの詳細な説明を入力します。
5.  をクリックします。

顧客連絡タイプの削除

このタスクについて

連絡タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「顧客」>「連絡タイプ」を選択します。作業領域に、「連絡タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 連絡タイプを選択して、 をクリックします。

第 7 章 アプリケーション共通サービス実行コンポーネントの構成

サービス管理者の構成

特定のセラー組織のノードに関連付けられている管理者を指定できます。さらに、すべてのセラー組織向けのノードのデフォルトの管理者を割り当てることもできます。

システムでは、特定のノードとセラー組織の組み合わせに対して 1 人の管理者のみを割り当てることができます。デフォルトの管理者のみが、そのノードとセラー組織の組み合わせに対して他の管理者が定義されていない場合に、ノードの管理者になることができます。どちらも定義されている場合、ノードとセラー組織の組み合わせに指定されている管理者は、デフォルトの管理者よりも優先します。



注: 管理者は、構成されるノードのコンテキストにおいて定義されたユーザーでなければなりません。ユーザーの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

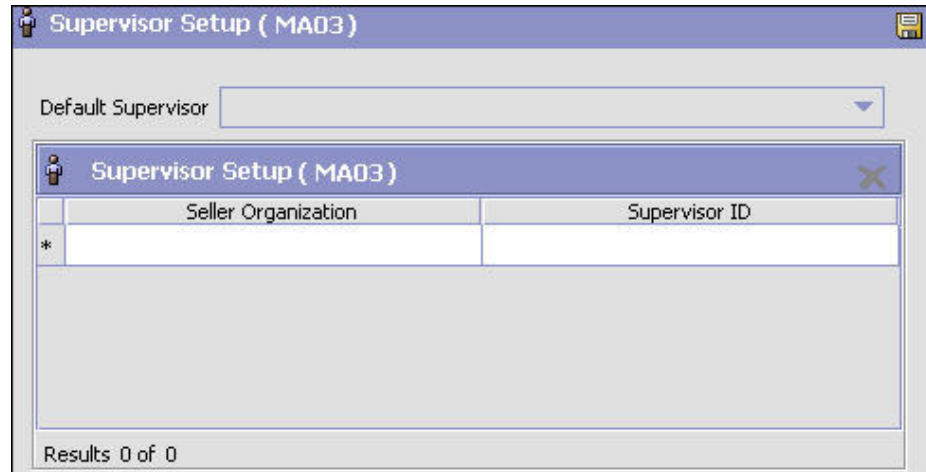
ノードのサービスの管理者の定義

このタスクについて

ノードのサービスの管理者を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「サービス実行」>「サービスの管理者」を選択します。「ノード管理者の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。ノードのリストが表示されます。管理者を割り当てるノードを選択し、 を選択します。「管理者の設定」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。




3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 20 を参照してください。
4.  を選択します。

表 20. 「管理者の設定」ポップアップ・ウィンドウ



フィールド	説明
デフォルトの管理者	ドロップダウン・リストからデフォルトの管理者を選択します。このノードの指定のセラー組織に対して管理者が定義されていない場合、指定されたユーザーが、未指定のセラー組織すべてに対する、ノードのデフォルトの管理者になります。
管理者の設定	
セラー組織	ドロップダウン・リストからセラー組織を選択します。セラー組織を定義する場合は、「管理者 ID」フィールドで管理者 ID を選択する必要があります。
管理者 ID	ドロップダウン・リストから管理者 ID を選択します。管理者を定義する場合は、「セラー組織」フィールドでセラー組織を選択する必要があります。


ノードのサービスの管理者の変更

このタスクについて

ノードのサービスの管理者を変更するには、以下のようにします。

手順





1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「サービス実行」>「サービスの管理者」を選択します。「ノード管理者の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。「ノード・リスト」が表示されます。管理者を割り当てるノードを選択して、 を選択します。「管理者の設定」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、86 ページの表 20 を参照してください。
4.  を選択します。

ノードのサービスの管理者の削除 このタスクについて

ノードのサービスの管理者を削除するには、以下のようにします。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「サービス実行」>「サービスの管理者」を選択します。「ノード管理者の検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。ノードのリストが表示されます。管理者を割り当てるノードを選択して、 を選択します。「管理者の設定」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 削除するセラー組織および管理者 ID を含む行を選択して、 を選択します。
4.  を選択します。

住所に関する質問の構成

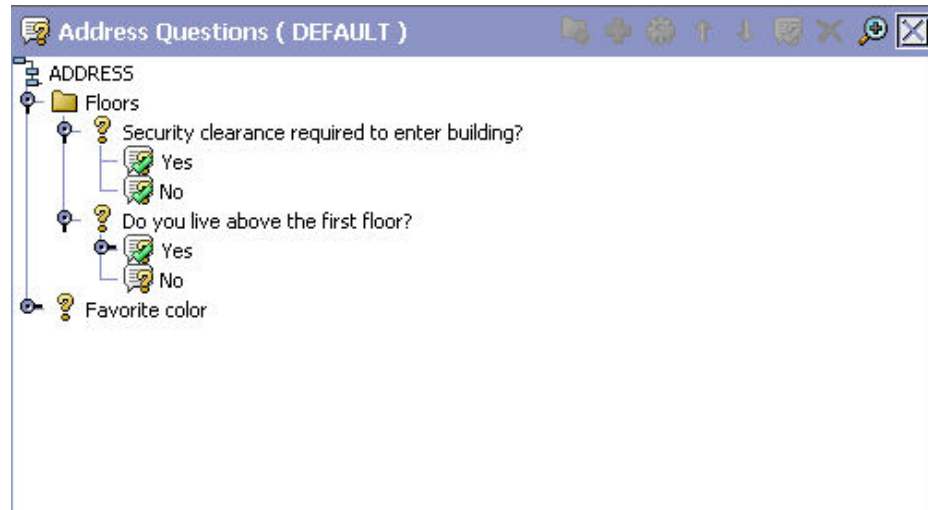
追加住所情報が必要であると判別された場合に顧客に尋ねることができる、一連の質問を定義できます。

住所に関する質問のグループの定義 このタスクについて

住所に関する質問のグループを定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「サービス実行」>「質問」を選択します。作業領域に、「質問」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「住所に関する質問」タブが表示されません。





2.  を選択します。「質問グループの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

表 21. 質問グループの詳細

フィールド	
質問グループ ID	固有の質問グループ ID を入力します。
質問グループ・テキスト	UI に表示させたい質問グループ・テキストを入力します。



3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、許可に関する質問グループの定義 を参照してください。
4.  を選択します。

注: ID は、すべての質問 ID と質問グループ ID の間で固有のもので。

住所に関する質問グループの変更 このタスクについて

住所に関する質問グループを変更するには、以下の手順を実行します。


手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「サービス実行」>「質問」を選択します。作業領域に、「質問」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「住所に関する質問」タブが表示されません。
2. 変更する質問グループを選択して、 を選択します。「質問グループの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、[t_DefiningPermitQuestionGroups.dita#wp1095524/wp1101345](#) を参照してください。
4.  を選択します。

住所に関する質問グループの削除 このタスクについて

住所に関する質問グループを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「サービス実行」>「質問」を選択します。作業領域に、「質問」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「住所に関する質問」タブが表示されません。
2. 削除する質問グループを選択して、 を選択します。

住所に関する質問の定義 このタスクについて

住所に関する質問を定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「サービス実行」>「質問」を選択します。作業領域に、「質問」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「住所に関する質問」タブが表示されません。
2. 質問は、ルート・レベルから、質問グループから、または回答オプションから定義できます。質問の派生元が回答オプションである場合は、その質問がコンソール内の質問状に表示されるのは、対応する回答オプションが選択されている場合のみです。フォローアップ質問を他のフォローアップ質問の回答オプションに追加することはできませんが、複数のフォローアップ質問を任意の質問の同じ回答オプションに追加することはできます。さらに、フォローアップ質問は、「はい」の回答オプションのチェック・ボックス、または表示管理タイプが「ドロップダウン」か「ラジオ・ボタン」である回答オプションからのみ定義できます。



質問に対する希望のロケーションを選択し、 を選択します。「質問の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。

表 22. 質問の詳細

フィールド	
質問 ID	質問の ID を入力します。
質問テキスト	UI に表示させたい質問テキストを入力します。
データ・タイプ	回答のデータ・タイプを選択します。選択したデータ・タイプによって、選択可能な表示管理タイプのオプションが決定されます。 テキスト - テキスト・ボックス、テキスト領域、ドロップダウン、ラジオ・ボタン 整数 - テキスト・ボックス 10 進数 - テキスト・ボックス ブール値 - チェック・ボックス
表示管理タイプ	回答オプションをどのように UI に表示させるかを選択します。使用可能な表示管理タイプは、選択したデータ・タイプによって異なります。
回答オプション - 希望の表示管理タイプとして「ドロップダウン」または「ラジオ・ボタン」を選択した場合は、次のフィールドが表示されます。	
値	回答オプションの値を入力します。
表示テキスト	UI に表示させたい回答オプション・テキストを入力します。


3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、許可に関する質問の定義 を参照してください。
4.  を選択します。


住所に関する質問の変更

このタスクについて

住所に関する質問を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「サービス実行」>「質問」を選択します。作業領域に、「質問」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「住所に関する質問」タブが表示されません。
2. 変更する質問を選択して、 を選択します。「質問の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。


3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、[t_DefiningPermitQuestions.dita#wp1095321/wp1096031](#) を参照してください。
4.  を選択します。

住所に関する質問の削除

このタスクについて

住所に関する質問を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「サービス実行」>「質問」を選択します。作業領域に、「質問」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「住所に関する質問」タブが表示されません。
2. 削除する質問を選択して、 を選択します。

キャパシティーのインパクトの定義

このタスクについて

サービス・タイプに基づいて、オーダーのキャパシティー需要に追加される回答オプションについてキャパシティーのインパクトを定義できます。異なるサービス・タイプに対して異なるキャパシティー・インパクト値を追加できます。キャパシティーのインパクトには 2 つのタイプがあります。

固定キャパシティーのインパクト - 固定キャパシティー値は、「はい」の回答オプションのチェック・ボックスに追加するか、表示管理タイプが「ドロップダウン」か「ラジオ・ボタン」である回答オプションに追加できます。

キャパシティーのインパクトの乗数 - キャパシティーのインパクトの乗数値は、表示管理タイプが整数か 10 進数である回答オプションに追加できます。値は、回答された数値で乗算されて、追加するキャパシティーの量が判断されます。

キャパシティーのインパクトを定義するには、次の手順を実行します。

手順



1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「サービス実行」>「質問」を選択します。作業領域に、「質問」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「住所に関する質問」タブが表示されません。
2. キャパシティーのインパクトを追加する回答オプションを選択し、 をクリックします。「回答オプションの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されません。

表 23. 回答オプションの詳細

フィールド	
質問 ID	この回答オプションの対象となる質問の ID。
質問テキスト	この回答オプションの対象となる質問のテキスト。
回答オプション値	回答オプションの値。
回答オプション・テキスト	回答オプションのテキスト。
回答キャパシティーのインパクト	
サービス・タイプ	キャパシティーを追加するサービス・タイプを選択します。
固定キャパシティーのインパクト	可能な場合は、この回答オプションが選択されたときに追加するキャパシティーの量を入力します。
キャパシティーのインパクトの乗数	可能な場合は、回答に掛ける値を入力します。これによって、この回答オプションに対して追加するキャパシティーの量が決まります。
単位	選択されたサービス・タイプの単位。このフィールドは変更できません。



- 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 23 を参照してください。
-  を選択します。

キャパシティーのインパクトの変更 このタスクについて

キャパシティーのインパクトを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

- アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション 共通」>「サービス実行」>「質問」を選択します。作業領域に、「質問」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「住所に関する質問」タブが表示されません。



2. キャパシティーのインパクトを変更する回答オプションを選択して、 をクリックします。「回答オプションの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、92ページの表 23 を参照してください。
4.  を選択します。

キャパシティーのインパクトの削除

このタスクについて

キャパシティーのインパクトを削除するには、以下の手順を実行します。



手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「アプリケーション共通」>「サービス実行」>「質問」を選択します。作業領域に、「質問」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「住所に関する質問」タブが表示されます。
2. キャパシティーのインパクトを削除する回答オプションを選択して、 をクリックします。「回答オプションの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 削除するキャパシティーのインパクトを選択して、 を選択します。

住所に関する質問エンティティの再編成

質問状ツリーは、コンソールでの質問状の表示方法を表します。質問グループ、質問、および回答オプションを調整することにより、質問状をコンソールでどのように表示するかを変更します。

質問グループ、質問、および回答オプションの移動に使用できる方法には、移動する方法に応じて 2 つの方法があります。

 アイコンおよび  アイコンを使用して、質問グループ、質問および回答オプションを質問状ツリー内で上下に移動できます。移動するのは、現在、以下に含まれているエンティティ内です。

- **質問グループ** - 質問状ツリーのルート・レベルで調整できます。
- **質問** - 質問グループ内で、質問グループに対する出し入れ、およびレベルの上下を調整できます。
- **回答オプション** - 質問内で調整できます。

ドラッグ・アンド・ドロップ機能を使用して、以下を実行できます。

- 質問グループに対する質問の出し入れ。
- 追加の質問を単独の質問に変更。質問グループまたはツリーのルートにドロップします。
- 質問を追加の質問に変更。追加の質問を許可する回答オプションにドロップします。

質問状ツリーは、質問がコンソール内の質問状に表示される方法を表します。質問グループ、質問、および回答オプションを調整することにより、質問状をコンソールでどのように表示するかを変更します。

第 8 章 ドキュメントの属性の構成

ドキュメントの属性の構成

アプリケーション・コンソールに表示されるオーダー・ドキュメントに関連付ける共通コードは定義できます。

「オーダー属性」ブランチを使用して、以下を行うことができます。

- オーダー・タイプの定義
- オーダー元の定義
- オーダー・レベルの外部参照の定義
- オーダー明細レベルの外部参照の定義
- オーダー住所タイプの定義
- 明細タイプの定義
- 他の属性の定義

オーダー・タイプの定義

このタスクについて

伝票種別上に表示されるオーダー・タイプに対してコードを定義できます。このコードには、関連付けられているアプリケーション・ロジックはなく、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。オーダー・タイプの例には、消費者のオーダー、サービス担当者のオーダー、小売のオーダーなどがあります。


「オーダー・タイプ」タブを使用して、オーダー・タイプを作成、変更、および削除できます。

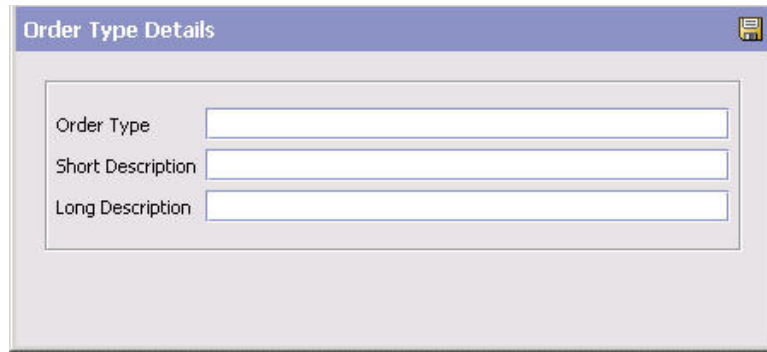
オーダー・タイプの作成


このタスクについて

オーダー・タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー・タイプ」タブを選択します。
3.  を選択します。「オーダー・タイプの詳細 (Order Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。





4. 「オーダー・タイプ」に、オーダー・タイプの名前を入力します。
5. 「簡略説明」に、オーダー・タイプの簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、オーダー・タイプの詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。

オーダー・タイプの変更

このタスクについて

オーダー・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー・タイプ」タブを選択します。
3. 該当するオーダー・タイプを選択して、 を選択します。「オーダー・タイプの詳細 (Order Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、オーダー・タイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、オーダー・タイプの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

オーダー・タイプの削除

このタスクについて

オーダー・タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー・タイプ」タブを選択します。
3. 該当するオーダー・タイプを選択して、 を選択します。

オーダー元の定義

伝票種別に表示されるオーダー元のコードを定義できます。このコードには、関連付けられているアプリケーション・ロジックはなく、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。


オーダー元の作成、変更、または削除には、「オーダー元」タブを使用できます。

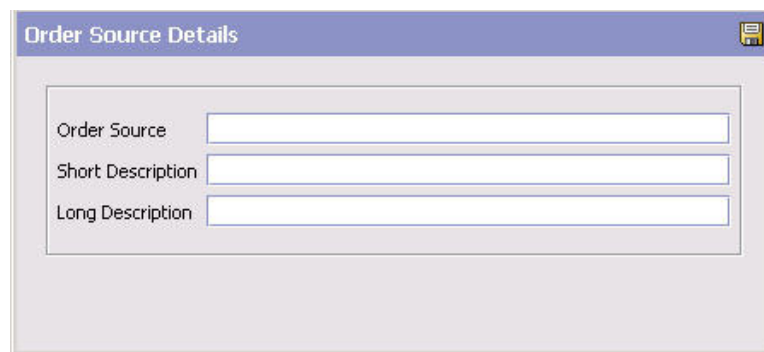
オーダー元の作成

このタスクについて


オーダー元を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー元」タブを選択します。
3.  を選択します。「オーダー元の詳細 (Order Source Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Order Source Details". It contains three text input fields labeled "Order Source", "Short Description", and "Long Description". The dialog has a standard Windows-style title bar with a close button in the top right corner.

4. 「オーダー元」に、オーダー元の名前を入力します。
5. 「簡略説明」に、オーダー元の簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、オーダー元の詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。



オーダー元の変更

このタスクについて

オーダー元を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー元」タブを選択します。


3. 該当するオーダー元を選択し、 を選択します。「オーダー元の詳細 (Order Source Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、オーダー元の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、オーダー元の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

オーダー元の削除

このタスクについて

オーダー元を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー元」タブを選択します。
3. 該当するオーダー元を選択し、 を選択します。

オーダー・レベルの外部参照の定義

オーダー・レベルで伝票種別に表示される外部参照のコードを定義できます。このコードには、関連付けられているアプリケーション・ロジックはなく、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。外部参照は作成、変更、および削除できます。


オーダー・ヘッダー・レベルの外部参照の作成、変更、または削除には、「オーダー参照」タブを使用できます。

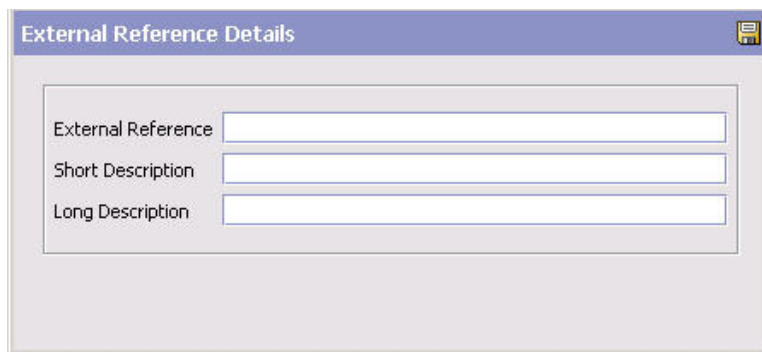
オーダー・ヘッダー・レベルの外部参照の作成


このタスクについて

オーダー・レベルのオーダー参照を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー参照」タブを選択します。
3. 「オーダー・ヘッダーの外部参照」リストから、 を選択します。「外部参照の詳細 (External Reference Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。





4. 「外部参照」に、外部参照の名前を入力します。
5. 「簡略説明」に、外部参照の簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、外部参照の詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。

オーダー・ヘッダー・レベルの外部参照の変更

このタスクについて

オーダー・レベルの外部参照を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー参照」タブを選択します。
3. 「オーダー・ヘッダーの外部参照」リストで、該当する外部参照を選択し、 を選択します。「外部参照の詳細 (External Reference Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、外部参照の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、外部参照の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。


オーダー・ヘッダー・レベルの外部参照の削除

このタスクについて

オーダー・レベルの外部参照を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー参照」タブを選択します。

3. 「オーダー・ヘッダーの外部参照」リストで、該当する外部参照を選択し、を選択します。

オーダー明細レベルの外部参照の定義

オーダー明細レベルで伝票種別に表示される外部参照のコードを定義できます。このコードには、関連付けられているアプリケーション・ロジックはなく、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。外部参照は作成、変更、および削除できます。


オーダー明細レベルの外部参照の作成、変更、または削除には、「オーダー参照」タブを使用できます。

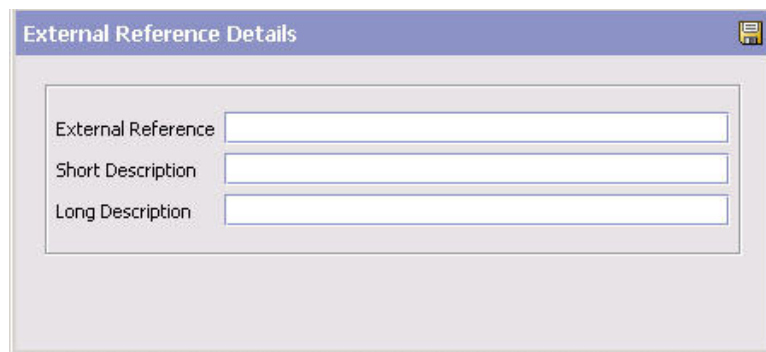
オーダー明細レベルの外部参照の作成


このタスクについて

オーダー明細レベルのオーダー参照を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー参照」タブを選択します。
3. 「オーダー明細の外部参照」リストから、を選択します。「外部参照の詳細 (External Reference Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。





4. 「外部参照」に、外部参照の名前を入力します。
5. 「簡略説明」に、外部参照の簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、外部参照の詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。

オーダー明細レベルの外部参照の変更

このタスクについて

オーダー明細レベルの外部参照を変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー参照」タブを選択します。
3. 「オーダー明細の外部参照」リストで、該当する外部参照を選択し、 を選択します。「外部参照の詳細 (External Reference Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、外部参照の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、外部参照の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

オーダー明細レベルの外部参照の削除

このタスクについて

オーダー・レベルの外部参照を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー参照」タブを選択します。
3. 「オーダー明細の外部参照」リストで、該当する外部参照を選択し、 を選択します。

オーダー住所タイプの定義

伝票種別のユーザー・インターフェースの「追加住所」ビューに表示される、オーダー住所タイプのコードを定義できます。

オーダー住所タイプの作成、変更、または削除には、「オーダー住所タイプ」タブを使用できます。


オーダー住所タイプの作成

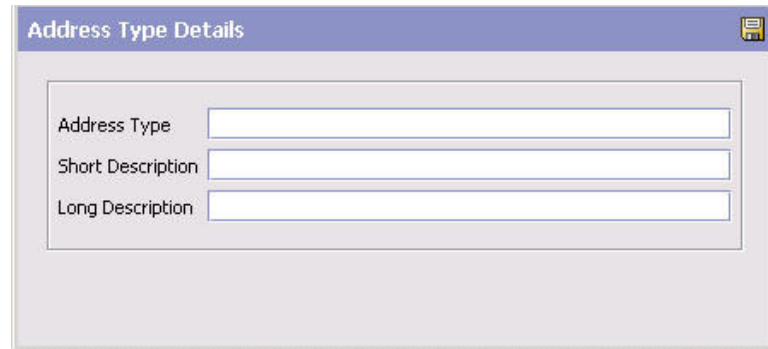
このタスクについて

オーダー住所タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー住所タイプ」タブを選択します。

3.  を選択します。「オーダー住所タイプの詳細 (Order Address Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。




Address Type Details

Address Type

Short Description

Long Description



4. 「オーダー住所タイプ」に、オーダー住所タイプの名前を入力します。
5. 「簡略説明」に、オーダー住所タイプの短い説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、オーダー住所タイプの詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。

オーダー住所タイプの変更

このタスクについて

オーダー住所タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー住所タイプ」タブを選択します。
3. 該当するオーダー住所タイプを選択して、 を選択します。「オーダー住所タイプの詳細 (Order Address Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、オーダー・タイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、オーダー・タイプの詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。


オーダー住所タイプの削除

このタスクについて

オーダー住所タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。

2. 「オーダー住所タイプ」タブを選択します。
3. 該当するオーダー住所タイプを選択して、 を選択します。

明細タイプの定義

伝票種別に表示されるコードと明細タイプを定義できます。



明細タイプの作成、変更、または削除には、「明細タイプ」タブを使用できます。

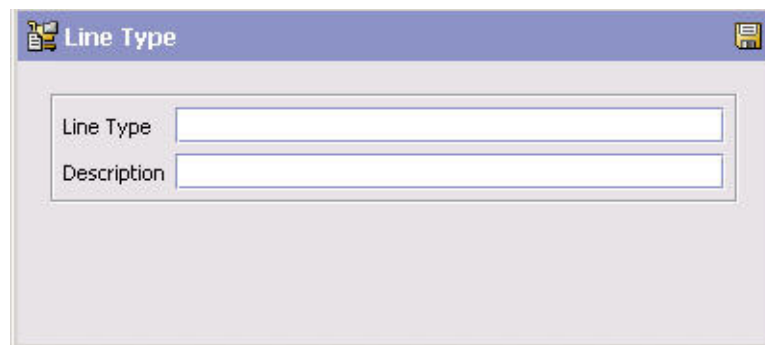
明細タイプの作成

このタスクについて

明細タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「明細タイプ」タブを選択します。
3.  を選択します。「明細タイプの詳細 (Line Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「明細タイプ」に、明細タイプの名前を入力します。
5. 「説明」に、明細タイプの簡単な説明を入力します。
6.  を選択します。



The screenshot shows a dialog box titled "Line Type". It has a title bar with a save icon on the left and a close icon on the right. The main area contains two text input fields: "Line Type" and "Description".



明細タイプの変更

このタスクについて

明細タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「明細タイプ」タブを選択します。


3. 該当する明細タイプを選択して、 を選択します。「明細タイプの詳細 (Line Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「説明」に、明細タイプの簡単な説明を入力します。
5.  を選択します。

明細タイプの削除

このタスクについて

明細タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「明細タイプ」タブを選択します。
3. 該当する明細タイプを選択して、 を選択します。

他の属性の定義

伝票種別に表示されるその他の属性を定義できます。

事前構成済み番号から主要明細番号を生成するには、「その他 (Others)」タブを使用できます。


事前構成済み番号から新規明細の主要明細番号を生成

このタスクについて

事前構成済み番号から新規明細の主要明細番号を生成することにより、オーダーの同期を行う際に Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内の主要明細番号と外部システムの主要明細番号間の競合が回避されます。

事前構成済み開始番号を指定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー属性」を選択します。作業領域に、「オーダー属性」ウィンドウが表示されます。
2. 「その他 (Others)」タブを選択します。
3. 「次から開始される新規明細用の主要明細番号を生成」に、開始番号を入力します。開始する主要明細番号は、正整数でなければなりません。
4.  を選択します。

タスクの結果

「次から開始される新規明細用の主要明細番号を生成:」フィールドに入力した値は、直接 API 呼び出しではなく (例: `createOrder()`)、コンソール UI を介して作成されたオーダーにのみ影響します。

第 9 章 ドキュメントのオーダー検証の構成

ドキュメントのオーダー検証の構成


このタスクについて

特定のエンタープライズおよび伝票種別に関してオーダーを作成する際にセラーおよびバイヤーの検証を行うデフォルト設定の構成を定義できます。この検証は、オーダーを作成できるセラーおよびバイヤーかを判定するのに使用され、また、構成した検証タイプに基づきアプリケーション・コンソールでの検索結果を絞り込みます。

例えば、ハブ環境を 10 のエンタープライズ、50 のセラー、および 100 のバイヤーで構成しているとします。特定のエンタープライズのみが、組織階層で定義される、50 セラーの内の 10 セラーおよび 100 バイヤーの内の 25 バイヤーと取引します。セラー検証およびバイヤー検証の両方に「エンタープライズ階層に定義済み (Defined In The Enterprise Hierarchy)」を設定する場合、ユーザーがオーダーを作成すると、システムは、オーダーのセラーがエンタープライズの階層に定義される 10 のセラーのいずれかであること、およびオーダーのバイヤーがエンタープライズの階層に定義される 25 のバイヤーのいずれかであることを検証します。また、ユーザーが「セラー」フィールドまたは「バイヤー」フィールドのいずれかのルックアップを選択する場合、そのエンタープライズ用に定義されるセラーおよびバイヤーのみが、結果に表示されます。

オーダー・ドキュメントのオーダー検証を定義するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「オーダー検証」を選択します。「オーダー検証」ポップアップ・ウィンドウが作業領域に表示されます。
2. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、108 ページの表 24 を参照してください。
3.  を選択します。

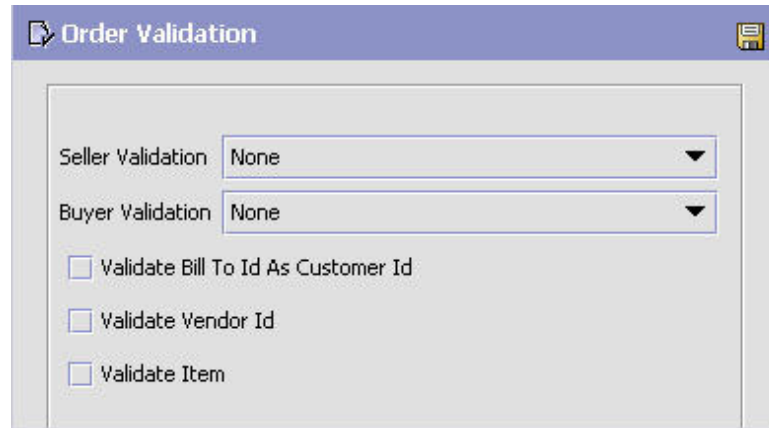


表 24. 「オーダー検証」ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
セラー検証	<p>オーダー・ドキュメントのセラーを検証するのに使用する検証タイプを選択します。以下のオプションから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし - オーダーのセラーに対して検証は行われません。オーダーの作成時には、システム内のすべてのセラーを使用できます。また、アプリケーション・コンソールで「セラー」のルックアップを選択する場合、システム内のすべてのセラーが表示されます。
	<ul style="list-style-type: none"> エンタープライズと同じ - システムは、オーダーのセラーがエンタープライズと同じであることを検証します。 エンタープライズ階層に定義済み (Defined In The Enterprise Hierarchy) - システムは、オーダーのセラーがエンタープライズの組織階層内に定義されていることを検証します。また、アプリケーション・コンソールで「セラー」のルックアップを選択する場合、エンタープライズの組織階層内に定義されるセラーのみ表示されます。組織階層の構成については、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド</i>」を参照してください。 <p>エンタープライズの顧客 (Customer Of The Enterprise) - システムは、オーダーのセラーが顧客として構成されていることを検証します。また、アプリケーション・コンソールで「セラー」のルックアップを選択する場合、そのエンタープライズの顧客として定義される組織のみ表示されます。</p>

表 24. 「オーダー検証」ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
バイヤー検証	<p>オーダー・ドキュメントのバイヤーを検証するのに使用する検証タイプを選択します。以下のオプションから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> なし - オーダーのバイヤーに対して検証は行われません。オーダーの作成時には、システム内のすべてのバイヤーを使用できます。また、アプリケーション・コンソールで「バイヤー」のルックアップを選択する場合、システム内のすべてのバイヤーが表示されます。 エンタープライズと同じ - システムは、オーダーのバイヤーがエンタープライズと同じであることを検証します。 エンタープライズ階層に定義済み (Defined In The Enterprise Hierarchy) - システムは、オーダーのバイヤーがエンタープライズの組織階層内に定義されていることを検証します。また、アプリケーション・コンソールで「バイヤー」のルックアップを選択する場合、エンタープライズの組織階層内に定義されるバイヤーのみ表示されます。組織階層の構成について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。 エンタープライズの顧客 (Customer Of The Enterprise) - システムは、オーダーのバイヤーが顧客として構成されていることを検証します。また、アプリケーション・コンソールで「バイヤー」のルックアップを選択する場合、そのエンタープライズの顧客として定義される組織のみ表示されます。
請求先 ID を顧客 ID として検証する	<p>オーダーの顧客 ID がエンタープライズに対して定義されていることを検証する場合、「請求先 ID を顧客 ID として検証する」を選択します。</p>
ベンダー ID の検証	<p>オーダーのベンダー ID がエンタープライズに対して定義されていることを検証する場合、「ベンダー ID の検証」を選択します。</p>
アイテムの検証	<p>オーダーのアイテムがエンタープライズのカタログに属していることを検証する場合、「アイテムの検証」を選択します。これに対し、サービス・アイテムはエンタープライズのカタログ内に常に存在する必要があります。</p>

第 10 章 ドキュメントの返品理由の構成


返品オーダーの作成時に使用する返品理由の共通コードを定義できます。この共通コードは、伝票種別のアイテム (item) またはサービスの返品理由を示します。

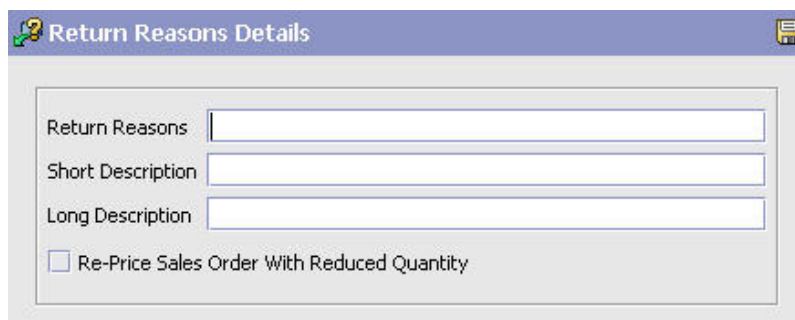
返品理由の作成

このタスクについて

返品理由を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「処理するオーダー伝票種別 (例: 返品オーダー)」>「返品理由」を選択します。作業領域に、「返品理由」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「返品理由の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されません。




3. 「返品理由」に、返品理由の名前を入力します。
4. 「簡略説明」に、返品理由の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、返品理由の詳細な説明を入力します。
6. この返品理由で、数量が削減されたためにオーダーの価格を再計算する必要がある場合、「減少後の数量で販売オーダーの価格を再計算する」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

このフラグは、減少後の数量に対して価格の再計算を行う必要がある場合のみ適用されます。オーダー明細の価格再計算の対象となる数量 (価格再計算数量) は、減少後の数量に調整されます。価格再計算数量について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

この返品理由が、数量を削減しない変更で使用される場合、このフラグは適用されません。

このフィールドは、「集合・混載の変更」にはありません。


7.  を選択します。

返品理由の変更

このタスクについて

返品理由を変更するには、以下の手順を実行します。


手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「処理するオーダー伝票種別 (例: 返品オーダー)」>「返品理由」を選択します。作業領域に、「返品理由」ウィンドウが表示されます。
2. 返品理由テーブルで、該当する返品理由を選択して、 を選択します。「返品理由の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、返品理由の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、返品理由の詳細な説明を入力します。
5. この返品理由で、数量が削減されたためにオーダーの価格を再計算する必要がある場合、「減少後の数量で販売オーダーの価格を再計算する」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

このフラグは、減少後の数量に対して価格の再計算を行う必要がある場合のみ適用されます。オーダー明細の価格再計算の対象となる数量 (価格再計算数量) は、減少後の数量に調整されます。価格再計算数量について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

この返品理由が、数量を削減しない変更で使用される場合、このフラグは適用されません。

このフィールドは、「集合・混載の変更」にはありません。


6.  を選択します。

返品理由の削除

このタスクについて

返品理由を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「処理するオーダー伝票種別 (例: 返品オーダー)」>「返品理由」を選択します。作業領域に、「返品理由」ウィンドウが表示されます。
2. 返品理由テーブルで、該当する返品理由を選択して、 を選択します。

第 11 章 ドキュメントの指示タイプの構成

ドキュメントの指示タイプの構成

特別指示をオーダー・ドキュメントに追加するときに使用する共通コードを定義できます。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの指示タイプは、以下のとおりです。

- ピック
- 梱包
- 出荷
- 贈答品
- 順序付け
- その他


指示タイプの作成、変更、または削除には、「指示タイプ」ブランチを使用できます。

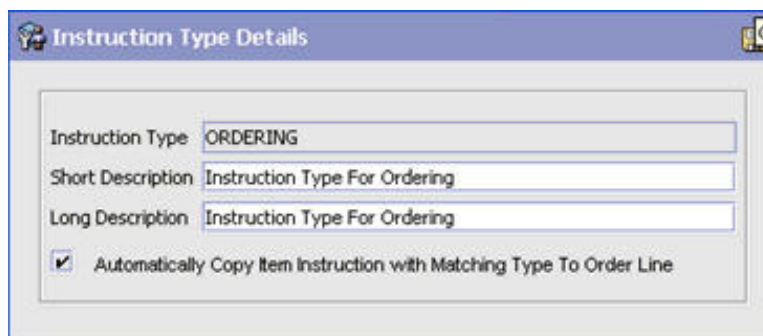
指示タイプの作成

このタスクについて


指示タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「指示タイプ」を選択します。作業領域に、「指示タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「指示タイプの詳細 (Instruction Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



3. 「指示タイプ」に、指示タイプを入力します。
4. 「簡略説明」に、指示タイプの簡単な説明を入力します。



5. 「詳細説明」に、指示タイプの詳細な説明を入力します。
6. 「指示タイプが一致するアイテム指示をオーダー明細に自動でコピーする」にチェックを付けて、アイテムがオーダーに追加されたときに、指示タイプが一致するアイテム指示をオーダー明細に自動的にコピーするようにシステムを強制します。
7.  を選択します。

指示タイプの変更

このタスクについて

指示タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「指示タイプ」を選択します。作業領域に、「指示タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する指示タイプを選択して、 を選択します。「指示タイプの詳細 (Instruction Type Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、指示タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、指示タイプの詳細な説明を入力します。
5. 「指示タイプが一致するアイテム指示をオーダー明細に自動でコピーする」にチェックを付けて、アイテムがオーダーに追加されたときに、指示タイプが一致するアイテム指示をオーダー明細に自動的にコピーするようにシステムを強制します。
6.  を選択します。

指示タイプの削除

このタスクについて

指示タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「指示タイプ」を選択します。作業領域に、「指示タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する指示タイプを選択して、 を選択します。

第 12 章 ドキュメントの変更理由の構成

ドキュメントの変更理由の構成

変更理由の共通コードを定義できます。これらのコードは、アプリケーション・コンソールでユーザーにより変更が行われた理由を定義します。

変更理由に加え、定義するコードは、アプリケーション・コンソールでオーダーを保留にしたときの保留理由として使用されます。


変更理由の作成、変更、および削除には、「変更理由」 ブランチを使用できます。

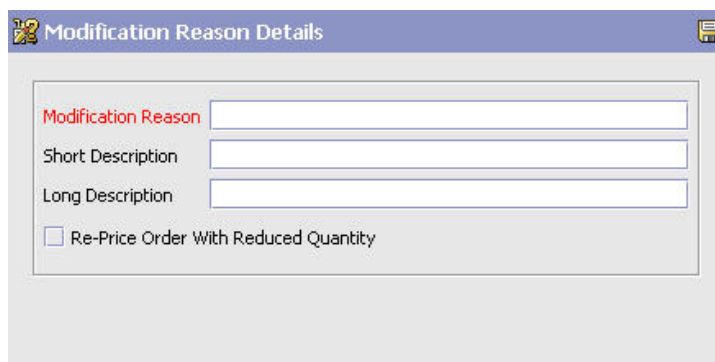
変更理由の作成

このタスクについて

変更理由を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」 > 「(伝票種別)」 > 「変更理由」を選択します。作業領域に、「変更理由」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「変更理由の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。




3. 「変更理由」に、変更理由を入力します。
4. 「簡略説明」に、変更理由の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、変更理由の詳細な説明を入力します。
6. この変更理由で、数量が削減された場合にオーダーの価格を再計算する必要がある場合、「減少後の数量でオーダーの価格を再計算する」チェック・ボックスをチェックします。

このフラグは、この変更理由が取り消しに使用される場合のみ適用されます。取り消しでは、減少後の数量に対して価格の再計算を行う必要があります。オーダー明細の価格再計算の対象となる数量 (価格再計算数量) は、減少後の数量に調

整されます。価格再計算数量について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

この変更理由が、数量を削減しない変更で使用される場合、このフラグは適用されません。

このフィールドは、「集合・混載の変更」にはありません。


7.  を選択します。

変更理由の変更

このタスクについて

変更理由を変更するには、以下の手順を実行します。


手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「変更理由」を選択します。作業領域に、「変更理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する変更理由を選択し、 を選択します。「変更理由の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、変更理由の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、変更理由の詳細な説明を入力します。
5. この変更理由で、数量が削減された場合にオーダーの価格を再計算する必要がある場合、「減少後の数量でオーダーの価格を再計算する」チェック・ボックスをチェックします。

このフラグは、この変更理由が取り消しに使用される場合のみ適用されます。取り消しでは、減少後の数量に対して価格の再計算を行う必要があります。オーダー明細の価格再計算の対象となる数量 (価格再計算数量) は、減少後の数量に調整されます。価格再計算数量について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

この変更理由が、数量を削減しない変更で使用される場合、このフラグは適用されません。

このフィールドは、「集合・混載の変更」にはありません。


6.  を選択します。

変更理由の削除

このタスクについて

変更理由を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「変更理由」を選択します。作業領域に、「変更理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する変更理由を選択し、 を選択します。

第 13 章 ドキュメントのバックオーダー理由の構成

ドキュメントのバックオーダー理由の構成

バックオーダー理由の共通コードを定義できます。これらのコードは、オーダーがバックオーダー済みである理由を説明します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトのバックオーダー理由は、「在庫なし」です。


バックオーダー理由の作成、変更、および削除には、「バックオーダー理由」ブランチを使用できます。

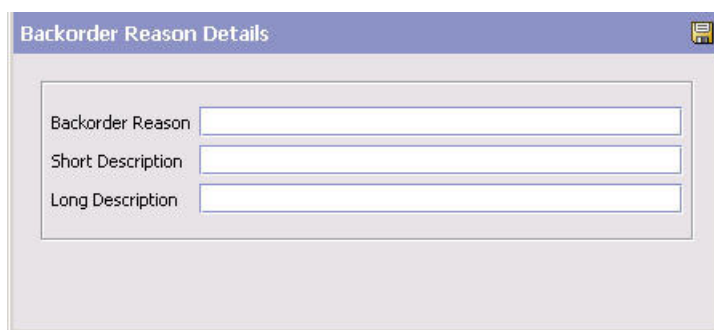
バックオーダー理由の作成


このタスクについて

バックオーダー理由を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「バックオーダー理由」を選択します。作業領域に、「バックオーダー理由」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「バックオーダー理由の詳細 (Backorder Reason Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。





3. 「バックオーダー理由」に、バックオーダーの理由を入力します。
4. 「簡略説明」に、バックオーダー理由の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、バックオーダー理由の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

バックオーダー理由の変更

このタスクについて

バックオーダー理由を変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「バックオーダー理由」を選択します。作業領域に、「バックオーダー理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するバックオーダー理由を選択し、 を選択します。「バックオーダー理由の詳細 (Backorder Reason Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されません。
3. 「簡略説明」に、バックオーダー理由の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、バックオーダー理由の詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

バックオーダー理由の削除

このタスクについて

バックオーダー理由を削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「バックオーダー理由」を選択します。作業領域に、「バックオーダー理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するバックオーダー理由を選択し、 を選択します。

第 14 章 ドキュメントのメモ記載理由の構成

ドキュメントのメモ記載理由の構成

メモ入力の原因コードを定義できます。これらのコードは、コンソールでユーザーによりメモが入力された理由を定義します。


メモ記載理由の作成、変更、および削除には、「メモ記載理由」ブランチを使用できます。

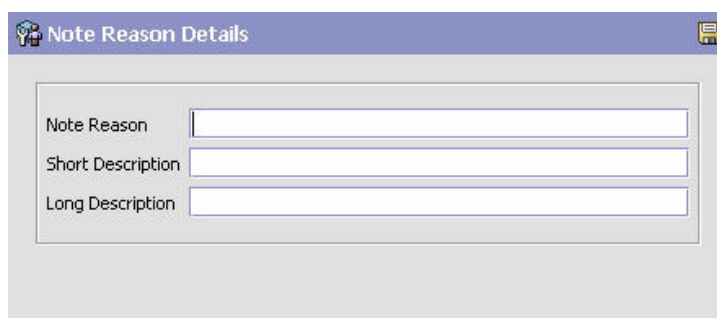
メモ記載理由の作成


このタスクについて

メモ記載理由を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルール・サイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「メモ記載理由」を選択します。作業領域に、「メモ記載理由」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「メモ記載理由の詳細 (Note Reason Details)」ウィンドウが表示されます。





3. 「メモ記載理由」に、システム全体で表示するメモ記載理由を入力します。
4. 「簡略説明」に、メモ記載理由の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、メモ記載理由の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

メモ記載理由の変更

このタスクについて

メモ記載理由を変更するには、以下の手順を実行します。

手順



1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「メモ記載理由」を選択します。作業領域に、「メモ記載理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する予定失敗理由を選択して、 を選択します。「メモ記載理由の詳細 (Note Reason Details)」ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、メモ記載理由の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、メモ記載理由の詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

既存のメモ記載理由に基づく新規メモ記載理由の作成

このタスクについて

既存のメモ記載理由に基づいて新規メモ記載理由を作成するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「メモ記載理由」を選択します。作業領域に、「メモ記載理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当するメモ記載理由を選択し、 を選択します。「メモ記載理由の詳細 (Note Reason Details)」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。
4.  を選択します。

メモ記載理由の削除

このタスクについて

メモ記載理由を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「メモ記載理由」を選択します。作業領域に、「メモ記載理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する予定失敗理由を選択して、 を選択します。「確認」ウィンドウが表示されます。
3. 「OK」を選択します。

第 15 章 ドキュメントの明細関係タイプの構成

ドキュメントの明細関係タイプの構成


2 つの関連明細を相互にリンクさせるときに使用する関係タイプを定義できます。これらの関係は、類似の製品をまとめて 1 オーダーにグループ化する際に使用されます。

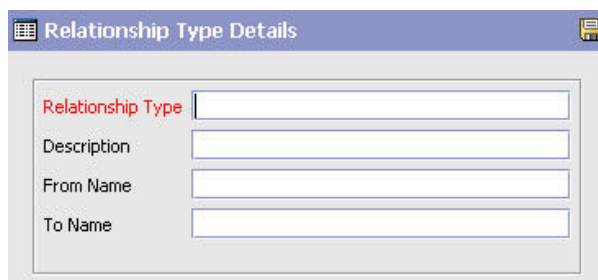
明細関係タイプの定義

このタスクについて


明細関係タイプを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「明細関係タイプ」を選択します。「明細関係タイプ」ウィンドウが作業領域に表示されます。
2.  を選択します。「明細関係の詳細 (Line Relationship Details)」ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Relationship Type Details". It contains four input fields with labels: "Relationship Type", "Description", "From Name", and "To Name".



3. 「関係タイプ」に、関係タイプを入力します (この入力値はシステム全体にわたって表示されます)。
4. 「簡略説明」に、関係タイプの簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、関係タイプの詳細な説明を入力します。
6. この関係タイプに基づいたソートを可能にするには、「ソートを考慮する」チェック・ボックスを選択します。
7.  を選択します。

明細関係タイプの変更

このタスクについて

明細関係タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順



1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「明細関係タイプ」を選択します。作業領域に、「関係タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する関係を選択して、 を選択します。「関係タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、関係タイプの簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、関係タイプの詳細な説明を入力します。
5. この関係タイプに基づいたソートを可能にするには、「ソートを考慮する」チェック・ボックスを選択します。
6.  を選択します。

既存の明細関係タイプに基づく新規明細関係タイプの作成

このタスクについて

既存の明細関係タイプに基づいて新規明細関係タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「明細関係タイプ」を選択します。作業領域に、「関係タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する関係タイプを選択し、 を選択します。「関係タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。
4.  を選択します。

明細関係タイプの削除

このタスクについて

明細関係タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「明細関係タイプ」を選択します。作業領域に、「関係タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する関係タイプを選択し、 を選択します。「確認」ウィンドウが表示されます。
3. 「OK」を選択します。

第 16 章 ドキュメントの変更コンポーネントの構成

ドキュメントの変更コンポーネントの構成

ドキュメントが特定のステータスにある場合は、その変更ルールおよびタイプを構成できます。これらのルールは、ドキュメントの変更可能な部分と、変更を実行できるステータスを決定します。

分散オーダー管理モジュールを使用している場合、以下のプロセス・タイプ・レベルで変更コンポーネントを構成できます。

- フルフィルメント
- 出庫物流

物流管理モジュールを使用している場合、集合・混載プロセス・タイプ・レベルで変更コンポーネントを構成できます。

供給コラボレーション・モジュールを使用している場合、以下のプロセス・タイプ・レベルで変更コンポーネントを構成できます。

- フルフィルメント
- 入庫物流

返品物流モジュールを使用している場合、以下のプロセス・タイプ・レベルで変更コンポーネントを構成できます。

- フルフィルメント
- 物流管理
- 受入

変更ルール、カスタム変更タイプ、および「変更が価格に影響」を定義するには、「オーダー変更」ブランチを使用できます。

変更ルールの定義

大半のドキュメントは、パイプラインを経て流れ、顧客サービス担当者による介入は必要ありません。ただし、クレジット・カード情報または数量の変更などの、変更が必須となる場合もあります。は、アプリケーション・コンソールおよび API による変更をサポートします。各変更タイプ、変更レベル、およびステータスの組み合わせに対してどの変更を許可するかを決定することは重要です。

注: システム・デフォルトの一部として許可されていない変更については、それを許可する前に、ビジネスおよびシステム統合への影響について十分に考慮してください。例えば、リリースがノードに送られた後は、伝票種別への指示の追加は許可されません。変更を許可するように変更した場合、リリースは既に送られているので、システムには新しい指示をノード・センターに通信する手段はありません。

変更タイプは、ドキュメントに対して実行される変更のタイプを示します。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、特定の属性に対して変更を実行する機能を提供します。変更タイプの例としては、オーダーへのオーダー明細の追加があります。

変更レベルは、特定の変更タイプが実行されるレベルを示します。これには以下のレベルが含まれます。

- ヘッダー
- 明細
- リリース
- リリース明細
- 交渉
- 交渉明細
- 出荷
- 受入

システム修正変更タイプとその変更レベルの完全なリストについては、443 ページの『オーダー変更タイプ』を参照してください。

変更は、特定のレベルと、特定の処理ステータスに適用されます。例えば、ヘッダー・レベルまたは明細レベルでドキュメントに対して変更が要求された場合、オーダー明細と、オーダー・リリース明細が、それらのオーダー状況に対して変更が許可されているかどうかを検証するためにピックアップされます。リリース・レベルまたはリリース明細レベルで変更が要求された場合、オーダー・リリース明細が、それらのオーダー状況に対して変更が許可されているかどうかを検証するためにピックアップされます。

「変更ルール」ウィンドウでは、「分類基準」から対応するグループ化を選択することで、変更タイプ、変更レベル、またはステータス別に変更をグループ化できます。次いで「変更ルール」ウィンドウは、階層構造で選択されたグループ化を表示します。

すべての変更ルールは、特定のシステム定義範囲内で作動します。例えば、販売オーダーの場合、オーダー・エンティティに対するキャンセル変更は、必ずステータス 1000 (ドラフト・オーダー作成済み) から 3350 (出荷に含まれている) までの範囲内になるように定義されます。システムは、ステータス 3701 (返品作成済み) のキャンセル変更は決して許可しません。一方、ステータス 1000 から 3350 までの範囲内の間の変更は許可できます。エンティティが複数のステータスの場合、少なくとも 1 つのステータスがシステム定義範囲内であれば、変更は許可されます。

オーダーが出荷されたかまたは返品が作成された後に請求先住所を変更するなどの変更を行う場合、変更された請求先住所は、出荷や返品オーダーなどには伝搬されません。

以下の表では、変更に応用できるさまざまな設定を定義しています。

表 25. オーダー・ドキュメント・タイプのルール変更

フィールド	説明
ステータス	変更レベルとタイプに適用できるそれぞれのステータスを示します。
許可	指定されたステータスの変更レベルとタイプで変更を行うことができるかどうかを示します。
禁止 (Disallow)	指定されたステータスの変更レベルとタイプでは変更を行えないことを示します。
無視	指定されたステータスの変更レベルとタイプでは変更が無視されることを示します。
<p>「許可」、「禁止 (Disallow)」、および「無視」の設定には、以下のいくつかの考慮すべきシナリオがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ある明細が「ステータス 1」であり、別の明細が「ステータス 2」である場合、両方のステータスは「許可」に設定され、変更は許可されます。 ある明細が「ステータス 1」であり、別の明細が「ステータス 2」であり、さらに別の明細が「ステータス 3」であり、1 と 2 のステータスは「許可」に設定されているが、3 のステータスは「禁止 (Disallow)」に設定されている場合、現在適用されているステータスの 1 つが禁止であるため、すべての変更は許可されません。 ある明細が「ステータス 1」であり、別の明細が「拡張ステータス 2」である場合、1 のステータスが「許可」に設定されているが、拡張ステータスが「無視」に設定されていれば (すべての拡張ステータスはデフォルトでは「無視」であるため、設定を明示的にオーバーライドしない限り、それらはその基本ステータス設定をピックアップする)、すべての変更は、基本ステータスが「許可」に設定されている場合に限って許可されます。基本ステータスが「禁止 (Disallow)」に設定されている場合、すべての変更は許可されません。 <p>すべての明細が「無視」に設定されている場合、基本ステータス設定に関係なく、すべての変更は禁止になります。</p>	

アプリケーション・コンソール・ユーザーには、ユーザー・グループ許可により、変更ルールをオーバーライドする許可を付与することができます。ユーザーがこの許可を付与されている場合、そのユーザーはアプリケーション・コンソール内で禁止になっている変更を実行できます。ユーザー・グループのアクセス権について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

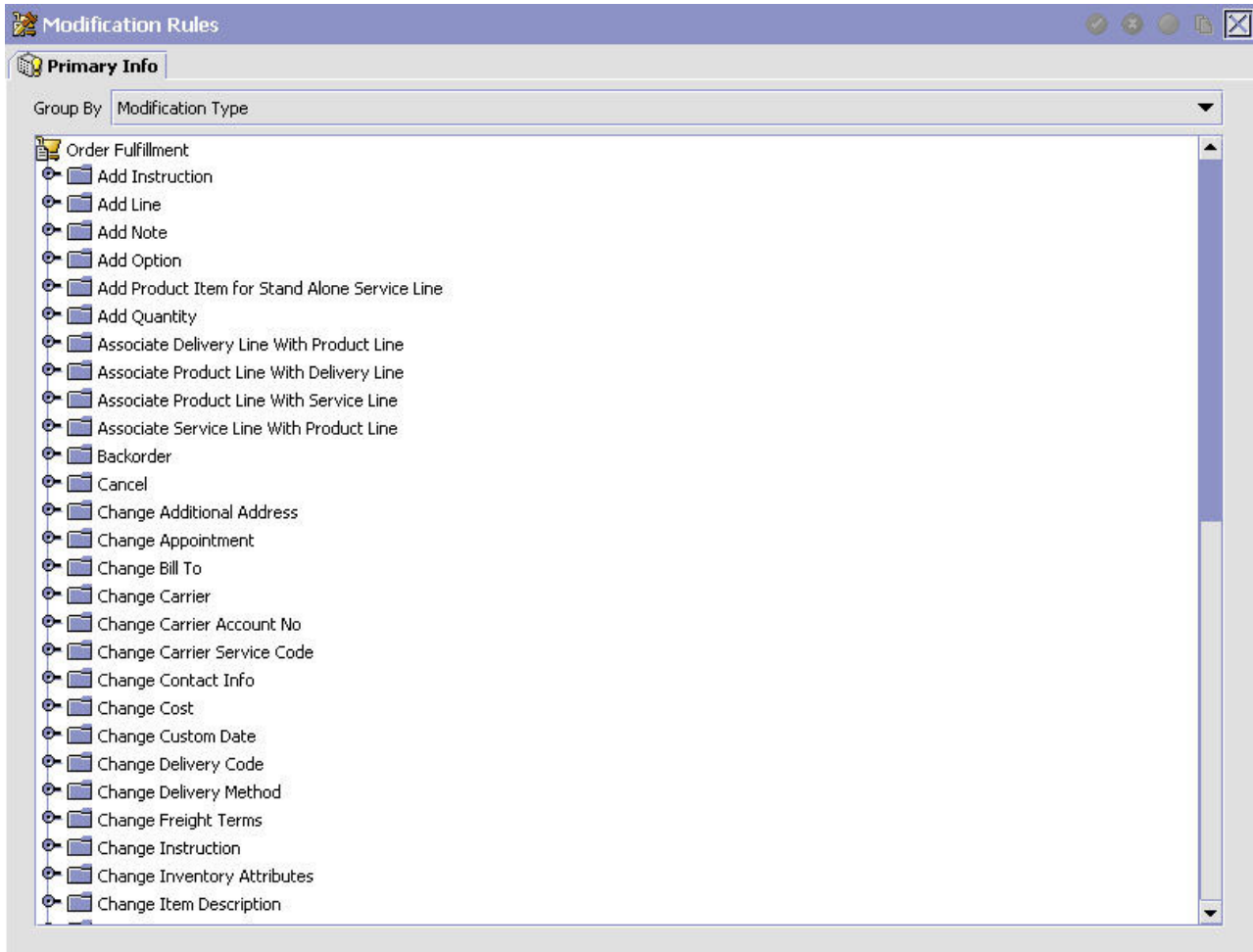
変更ルールの変更

このタスクについて

変更ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「(プロセス・タイプ)」>「(プロセス・タイプ) 変更」>「(プロセス・タイプ) 変更ルール」を選択します。作業領域に、「変更ルール」ウインドウが表示されます。



2. 該当する変更タイプおよび変更レベルを展開して、ルールを設定します。
3. 該当するルールを右クリックし、ビジネスの慣習に従い、許可、禁止、または無視を選択します。フィールドの値の説明については、127 ページの表 25 を参照してください。

カスタム変更タイプの定義

プロセス・タイプのカスタム変更タイプを定義できます。変更タイプの作成により、(拡張属性を含む) 特定の属性を 1 つのグループに分類することができます。そのグループに対して、それらの属性を変更できる時とできない時を決定するルールを定義できます。



作成すると、カスタム変更タイプは、定義するプロセス・タイプのビジネス・ドキュメントの変更ルールの下で表示されます。そこから、特定のステータスのカスタム変更タイプを許可、禁止、または無視するかどうかを決定できます。

カスタム変更タイプを作成、変更、および削除するには、「オーダー変更タイプ」ブランチを使用できます。

カスタム変更タイプの作成 このタスクについて

カスタム変更タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「(プロセス・タイプ)」>「(プロセス・タイプ) 変更」>「(プロセス・タイプ) 変更タイプ」を選択します。作業領域に、「カスタム変更リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 「カスタム変更リスト」から、 を選択します。「カスタム変更」ウィンドウが表示されます。必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 26 を参照してください。
3.  を選択します。変更内容を有効にするにはアプリケーションからサインアウトする必要があることを警告するポップアップが表示されます。

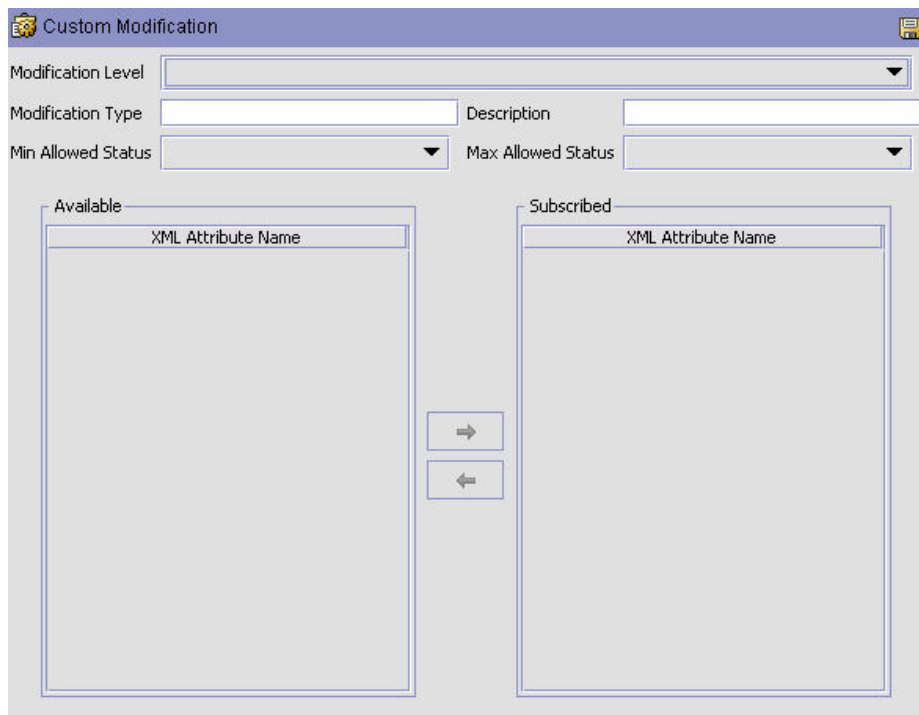




表 26. 「カスタム変更」ウィンドウ

フィールド	説明
変更レベル	変更タイプのレベルを選択します。ヘッダー、明細、またはリリースなどです。
変更タイプ	変更タイプの名前を入力します。
説明	変更タイプの短い説明を入力します。
最小許容ステータス	変更タイプを実行できる最小ステータスを選択します。
最大許容ステータス	変更タイプを実行できる最大ステータスを選択します。

表 26. 「カスタム変更」ウィンドウ (続き)



フィールド	説明
使用可能 (Available)	変更タイプに関連付けることのできる XML 属性のリスト。使用可能属性を変更タイプに追加するには、追加する属性を選択して  を選択します。
登録済み	変更タイプに関連付けられた XML 属性のリスト。登録済み属性を削除するには、削除する属性を選択して  アイコンを選択します。

カスタム変更タイプの変更

このタスクについて

カスタム共通コード・タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「(プロセス・タイプ)」>「(プロセス・タイプ) 変更」>「(プロセス・タイプ) 変更タイプ」を選択します。作業領域に、「カスタム変更リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 「カスタム変更リスト」から該当するカスタム変更を見つけて、 を選択します。「カスタム変更」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、129 ページの表 26 を参照してください。
4.  を選択します。

カスタム変更タイプの削除

このタスクについて

カスタム変更タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「(プロセス・タイプ)」>「(プロセス・タイプ) 変更」>「(プロセス・タイプ) 変更タイプ」を選択します。作業領域に、「カスタム変更リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 「カスタム変更リスト」から該当するカスタム変更を見つけて、 を選択します。





「変更が価格に影響」の定義

変更タイプがオーダーの価格設定に影響を与えるかどうかを指定できます。これらの変更タイプの変更が行われるときに、OrderRepricingUE が呼び出され、その変更タイプに指示されたレベルで価格と料金情報が更新されます。OrderRepricingUE について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

変更が価格に影響の変更タイプの追加/削除 このタスクについて

変更タイプに価格に影響があるかどうかを指定するには、以下の手順を実行します。


手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「(プロセス・タイプ)」>「(プロセス・タイプ) 変更」>「変更が価格に影響」を選択します。「変更が価格に影響リスト (Modifications Impacting Pricing List)」ウィンドウが作業領域に表示されます。
2. 「変更が価格に影響リスト (Modifications Impacting Pricing List)」から、 を選択します。「変更タイプ・リスト」ウィンドウが表示されます。
3. 変更タイプを「変更が価格に影響」リストに追加するには、希望する変更タイプ (複数の場合あり) を「変更タイプ」から選択して、 を選択します。
4. 変更タイプを「変更が価格に影響」リストから削除するには、希望する変更タイプ (複数の場合あり) を「変更タイプ」から選択して、 を選択します。
5.  を選択します。



監査を必要とする変更の定義

完了後に監査を必要とする変更タイプを指定できます。

監査を必要とする変更タイプを指定するには、以下のようになります。

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「オーダー変更」>「監査を必要とする変更」を選択します。作業領域に、「監査を必要とする変更」ウィンドウが表示されます。
2. 「監査を必要とする変更」ウィンドウから、 を選択します。

「監査を必要とする変更」を初めて開くときには、すべての変更タイプが必須監査としてリストされています。
3. 変更タイプを「監査を必要とする変更」リストに追加するには、「変更タイプ」列から希望する変更タイプを選択し、 を選択します。

4. 変更タイプを「監査を必要とする変更」リストから削除するには、「変更タイプ」列から希望する変更タイプを選択し、 を選択します。
5.  を選択します。

第 17 章 返品ドキュメントのフルフィルメント固有コンポーネントの構成

注: 返品フルフィルメントではソーシング構成が必要です。この構成は「分散オーダー管理」構成グループ化からアクセスできます。ソーシングの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

オーダー・ドキュメントのライフサイクルを実行するために、各ドキュメントには経ることができる一連のさまざまなプロセスがあります。これらのプロセスは、プロセス・タイプと呼ばれます。すべてのオーダー・ドキュメントには、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* に、定義済みの一連のプロセス・タイプがあります。

オーダー・ドキュメント・タイプに対しては、以下のプロセス・タイプが *Sterling Selling and Fulfillment Foundation* で定義されています。

- フルフィルメント
- 交渉
- 出荷
- 受入

オーダー・ドキュメントのフルフィルメント・プロセス・タイプに固有のルールとコンポーネントを構成できます。

フルフィルメント固有コンポーネント: 保留タイプの定義

オーダーおよびオーダー明細は、特定の保留タイプを適用することで、手動または自動で保留することができます。特定のトランザクションを、特定のタイプの保留状態であるドキュメントを処理しないように構成できます。同様に、変更タイプを、特定のタイプの保留状態であるドキュメントを処理しないように構成できます。デフォルトでは、すべてのトランザクションおよび変更タイプは、すべての保留タイプのすべてのドキュメントを処理できます。



特定のタイプの保留状態にあるオーダーまたはオーダー明細を処理しないようにできるトランザクションには、「トランザクションの詳細」画面の「その他 (Others)」タブに、「このトランザクションは保留中のオーダーの処理を停止できます (This Transaction Can Be Stopped From Processing Orders That Are On Hold)」というチェック・ボックスがあり、それにチェック・マークが付けられています。トランザクションの詳細の表示について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

保留タイプの作成

このタスクについて

保留タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有 (出荷)」>「販売オーダー」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2.  をクリックします。「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「保留タイプ」に、保留のタイプを入力します。
4. 「保留タイプの説明」に、保留の説明を入力します。
5. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、135 ページの表 27、136 ページの表 28、および 137 ページの表 29を参照してください。
6.  をクリックします。

Hold Type Hold Type Description

Hold Creation | Hold Resolution | Hold Effects

Hold Created Automatically

On Shipment Creation

On Resolution Of The Hold Type

When The Following Modifications Are Performed

Modification Type	Modification Level
-------------------	--------------------

For All Shipments

Only For Shipments Satisfying The Following Condition

Hold Created Manually

By Any User

By Users Who Belong To The Following Groups

Group ID	Group Name
----------	------------

表 27. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留作成」タブ



フィールド	説明
自動的に作成された保留	
出荷作成時	この保留タイプを、すべての出荷に対して出荷作成時に適用する場合、このボックスをチェックします。
保留タイプの解決時	この保留タイプを、別の保留タイプの解決時に適用する場合、このボックスをチェックします。ドロップダウン・リストから、解決時にこの保留タイプを起動する保留タイプを選択します。 注: Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、保留タイプの定義が循環していないかどうかをチェックしません。例えば、保留タイプ A の解決時に適用されるよう保留タイプ B を定義し、保留タイプ B の解決時に適用されるよう保留タイプ A を定義すると、無限ループが作成される場合がありますが、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそれに対して警告しません。
以下の変更の実行時	この保留タイプを出荷に対して自動的に適用する変更タイプについて、このボックスをチェックします。 リストを変更する場合は、  をクリックします。「変更タイプ・リスト」ポップアップウィンドウで、以下を実行します。 <ul style="list-style-type: none">この保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。この保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。
すべての出荷 (For All Shipments)	上に示す条件をすべての出荷に適用する場合、このオプションを選択します。 注: このオプションを選択するには、作成した保留を保存する必要があります。
次の条件を満たす出荷のみ (Only For Shipments Satisfying The Following Condition)	上に示す条件を、特定の条件を満たす出荷に適用する場合、このオプションを選択します。  をクリックして、評価する条件を作成または変更します。条件ビルダーの使用について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。 この条件で使用可能な属性は、拡張可能です。詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張」を参照してください。 注: このオプションを選択するには、作成した保留を保存する必要があります。
手動で作成された保留	
すべてのユーザー	すべてのユーザー・グループがこの保留を出荷に適用できるようにする場合、このオプションを選択します。

表 27. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留作成」タブ (続き)


フィールド	説明
以下のグループに属するユーザー	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留を出荷に適用できるようにする場合、このオプションを選択します。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

表 28. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留解決」タブ




フィールド	説明
自動的に解決された保留	
次の時間トリガー・トランザクションにより、作成された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、作成された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
次の時間トリガー・トランザクションにより、拒否された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、拒否された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
手動で解決された保留	
この保留はどのユーザーでも処理可能	すべてのユーザー・グループがこの保留を処理できるようにする場合、このオプションを選択します。
以下のユーザー・グループに属するユーザーはこの保留の処理可能	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留を処理できるようにする場合、このオプションを選択します。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

表 29. 「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウの「保留効果」タブ



フィールド	説明
この保留で以下のトランザクションの出荷処理が停止する (The Following Transactions Will Be Stopped From Processing Shipments On This Hold)	<p>この保留タイプが出荷に適用された場合に拒否されるトランザクション。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。
この保留で以下の変更の出荷が拒否される (The Following Modifications Are Not Allowed For Shipments On This Hold)	<p>この保留タイプが出荷に適用された場合に拒否される変更タイプ。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能なトランザクションを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除するトランザクションを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

オーダー・レベルの保留タイプの作成

このタスクについて

オーダー・レベルの保留タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

- アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
- 「オーダー保留タイプ」パネルで、 をクリックします。「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
- 「保留タイプ」フィールドに、保留のタイプを入力します。
- 「保留タイプの説明」フィールドに、保留タイプの説明を入力します。
- 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、138 ページの表 30、140 ページの表 31、および 142 ページの表 32を参照してください。
-  をクリックします。

Hold Type [] Hold Type Description []

Hold Creation | **Hold Resolution** | **Hold Effects**

Hold Created Automatically

On Draft Order Creation

On Draft Order Confirmation

On Order Creation

On Resolution Of The Hold Type []

When The Following Modifications Are Performed

Modification Type	Modification Level

For All Orders

Only For Orders Satisfying The Following Condition []

Hold Created Manually

By Any User

By Users Who Belong To The Following Groups

Group ID	Group Name

表 30. 「保留タイプ」画面の「保留作成」タブ

フィールド	説明
自動的に作成された保留	
ドラフト・オーダー作成時	この保留タイプを、ドラフト・オーダーの作成時にすべてのオーダーに適用する場合、このオプションをチェックします。
ドラフト・オーダー確認時	この保留タイプを、ドラフト・オーダーの確認時にすべてのオーダーに適用する場合、このオプションをチェックします。
オーダー作成時	この保留タイプを、オーダーの作成時にすべてのオーダーに適用する場合、このオプションをチェックします。
保留タイプの解決時	この保留タイプを、別の保留タイプの解決時に適用する場合、このオプションをチェックします。ドロップダウン・リストから、解決時にこの保留タイプを起動する保留タイプを選択します。 注: Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、保留タイプの定義が循環していないかどうかをチェックしません。例えば、保留タイプ A の解決時に適用されるよう保留タイプ B を定義し、保留タイプ B の解決時に適用されるよう保留タイプ A を定義すると、無限ループが作成される場合がありますが、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそれに対して警告しません。

表 30. 「保留タイプ」画面の「保留作成」タブ (続き)







フィールド	説明
以下の変更の実行時	<p>この保留タイプをオーダーに対して自動的に適用する変更タイプ。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。
すべてのオーダー (For All Orders)	<p>上記の条件をすべてのオーダーに対してチェックする場合、このラジオ・ボタンを選択します。</p> <p>注: このオプションを選択するには、作成した保留を保存する必要があります。</p>
次の条件を満たすオーダーのみ (Only For Orders Satisfying The Following Condition)	<p>上記の条件を、特定の条件を満たすオーダーのみに対してチェックする場合、このラジオ・ボタンを選択します。 をクリックして、評価する条件を作成または変更します。条件ビルダーの使用について詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。</p> <p>この条件で使用可能な属性は、拡張可能です。条件属性の拡張について詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>注: このオプションを選択するには、作成した保留を保存する必要があります。</p>
手動で作成された保留	
すべてのユーザー	<p>すべてのユーザー・グループがこの保留をオーダーに適用できるようにする場合、このラジオ・ボタンを選択します。</p>
以下のグループに属するユーザー	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留をオーダーに適用できるようにする場合、このラジオ・ボタンを選択します。</p> <p>ユーザー・グループのリストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

表 31. 「保留タイプ」画面の「保留解決」タブ

フィールド	説明
自動的に解決された保留	
次の時間トリガー・トランザクションにより、作成された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、作成された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
次の時間トリガー・トランザクションにより、拒否された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、拒否された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
キャンセル時に解決可能	オーダーがキャンセルされたときに保留を自動的に削除する場合、このラジオ・ボタンを選択します。
手で解決された保留	
この保留はどのユーザーでも処理可能	すべてのユーザー・グループがこの保留を処理できるようにする場合、このラジオ・ボタンを選択します。
以下のユーザー・グループに属するユーザーはこの保留の処理可能	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留を処理できるようにする場合、このラジオ・ボタンを選択します。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

 **Hold Type** 

Hold Type Hold Type Description

Hold Creation **Hold Resolution** **Hold Effects**

Hold Resolved Automatically

The Following Time Triggered Transaction Will Process Created Holds


The Following Time Triggered Transaction Will Process Rejected Holds

Can Resolve On Cancel

Hold Resolved Manually

Any User Can Process This Hold

Users Belonging To The Following User Groups Can Process This Hold

	Group ID	Group Name

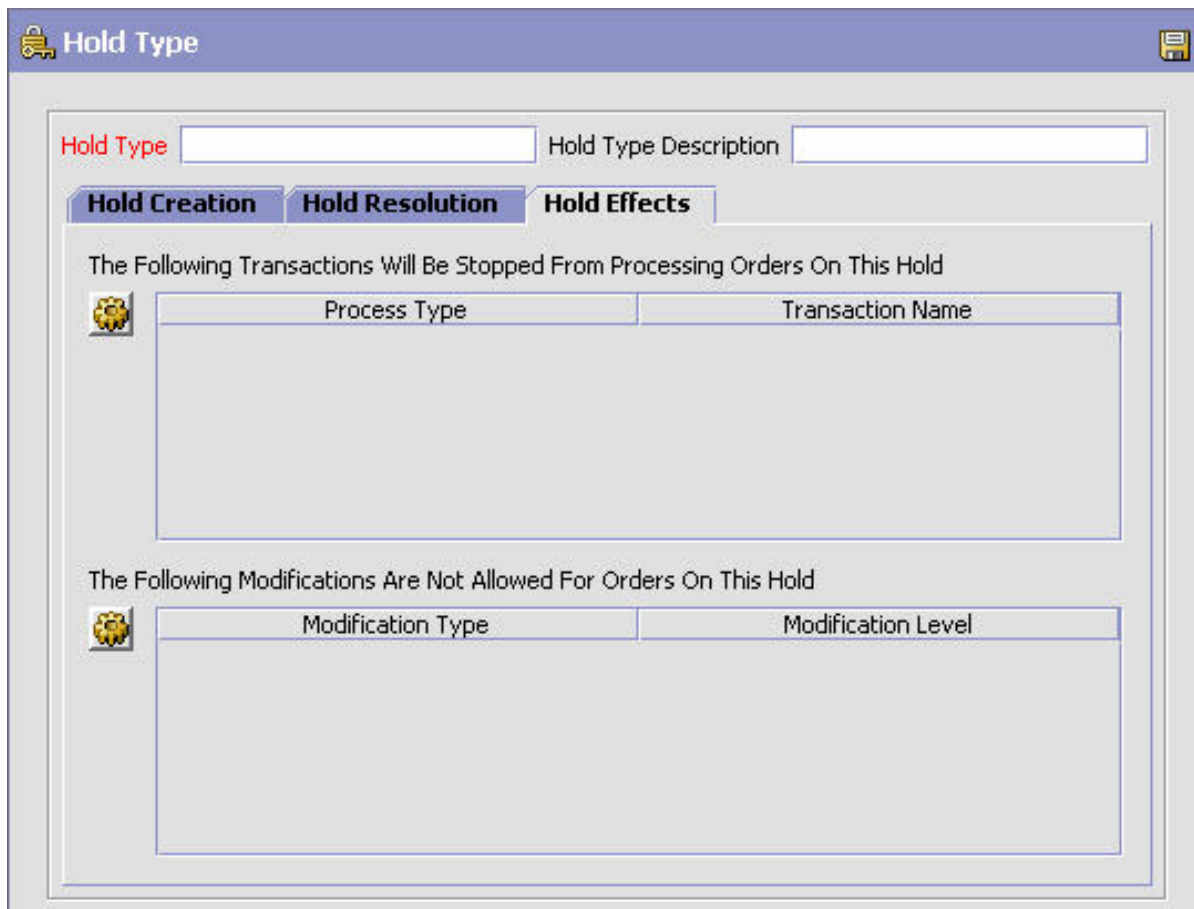


表 32. 「保留タイプ」画面の「保留効果」タブ



フィールド	説明
この保留で以下のトランザクションのオーダー処理が停止する (The Following Transactions Will Be Stopped From Processing Orders On This Hold)	<p>この保留タイプがオーダーに適用された場合に拒否されるトランザクション。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能なトランザクションを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除するトランザクションを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

表 32. 「保留タイプ」画面の「保留効果」タブ (続き)



フィールド	説明
この保留で以下の変更のオーダーが拒否される (The Following Modifications Are Not Allowed For Orders On This Hold)	<p>この保留タイプがオーダーに適用された場合に拒否される変更タイプ。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

オーダー明細レベルの保留タイプの作成

このタスクについて

オーダー明細レベルの保留タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 「オーダー明細保留タイプ」パネルで、 をクリックします。「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「保留タイプ」フィールドに、保留のタイプを入力します。
4. 「保留タイプの説明」フィールドに、保留タイプの説明を入力します。
5. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、144 ページの表 33、146 ページの表 34、および 148 ページの表 35を参照してください。
6.  をクリックします。

Hold Type Hold Type Description

Hold Creation | **Hold Resolution** | **Hold Effects**

Hold Created Automatically

On Draft Order Creation With Lines Or Adding Lines To A Draft Order

On Draft Order Confirmation

On Order Creation Or Adding Lines To An Order

On Resolution Of The Hold Type

When The Following Modifications Are Performed

Modification Type	Modification Level
<input type="text"/>	<input type="text"/>

For All Order Lines

Only For Order Lines Satisfying Following Condition

Hold Created Manually

By Any User

By Users Who Belong To The Following Groups

Group ID	Group Name
<input type="text"/>	<input type="text"/>

表 33. 「保留タイプ」画面の「保留作成」タブ

フィールド	説明
自動的に作成された保留	
明細を含むドラフト・オーダー作成時、または、ドラフト・オーダーへの明細の追加時	この保留タイプを、「ドラフト・オーダー作成済み」ステータスになったとき、または既に「ドラフト・オーダー作成済み」ステータスになっているオーダーに明細が追加されたときに、オーダーのすべての明細に適用する場合、このオプションをチェックします。
ドラフト・オーダー確認時	この保留タイプを、ドラフト・オーダーの確認時に明細に適用する場合、このオプションをチェックします。
オーダー作成時、または、オーダーへの明細の追加時	この保留タイプを、オーダーの作成時またはオーダーへの追加時に明細に適用する場合、このオプションをチェックします。

表 33. 「保留タイプ」画面の「保留作成」タブ (続き)



フィールド	説明
保留タイプの解決時	<p>この保留タイプを、別の保留タイプの解決時に適用する場合、このオプションをチェックします。ドロップダウン・リストから、解決時にこの保留タイプを起動する保留タイプを選択します。</p> <p>注: Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、保留タイプの定義が循環していないかどうかをチェックしません。例えば、保留タイプ A の解決時に適用されるよう保留タイプ B を定義し、保留タイプ B の解決時に適用されるよう保留タイプ A を定義すると、無限ループが作成される場合がありますが、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそれに対して警告しません。</p>
以下の変更の実行時	<p>この保留タイプをオーダーに対して自動的に適用する変更タイプ。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。
すべてのオーダー明細	<p>上記の条件をすべてのオーダー明細に対してチェックする場合、このラジオ・ボタンを選択します。</p> <p>注: このオプションを選択するには、作成した保留を保存する必要があります。</p>
次の条件を満たしているオーダー明細のみ	<p>上記の条件を、特定の条件を満たすオーダー明細のみに対してチェックする場合、このラジオ・ボタンを選択します。 をクリックして、評価する条件を作成または変更します。条件ビルダーの使用については詳しくは、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。</p> <p>この条件で使用可能な属性は、拡張可能です。条件属性の拡張については詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>注: このオプションを選択するには、作成した保留を保存する必要があります。</p>
手動で作成された保留	
すべてのユーザー	<p>すべてのユーザー・グループがこの保留をオーダーに適用できるようにする場合、このラジオ・ボタンを選択します。</p>

表 33. 「保留タイプ」画面の「保留作成」タブ (続き)



フィールド	説明
以下のグループに属するユーザー	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留をオーダーに適用できるようにする場合、このラジオ・ボタンを選択します。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

表 34. 「保留タイプ」画面の「保留解決」タブ

フィールド	説明
自動的に解決された保留	
次の時間トリガー・トランザクションにより、作成された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、作成された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
次の時間トリガー・トランザクションにより、拒否された保留を処理する	ドロップダウン・リストから、拒否された保留を処理する時間トリガー・トランザクションを選択します。
キャンセル時に解決可能	オーダーがキャンセルされたときに保留を自動的に削除する場合、このラジオ・ボタンを選択します。
手動で解決された保留	
この保留はどのユーザーでも処理可能	すべてのユーザー・グループがこの保留を処理できるようにする場合、このラジオ・ボタンを選択します。
以下のユーザー・グループに属するユーザーはこの保留の処理可能	<p>特定のユーザー・グループに所属するユーザーのみがこの保留を処理できるようにする場合、このラジオ・ボタンを選択します。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能なユーザー・グループを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除するユーザー・グループを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

Hold Type [Save]

Hold Type Hold Type Description

Hold Creation | **Hold Resolution** | **Hold Effects**

Hold Resolved Automatically

The Following Time Triggered Transaction Will Process Created Holds

The Following Time Triggered Transaction Will Process Rejected Holds

Can Resolve On Cancel

Hold Resolved Manually

Any User Can Process This Hold

Users Belonging To The Following User Groups Can Process This Hold

Group ID	Group Name

Hold Type [Save]

Hold Type Hold Type Description

Hold Creation | **Hold Resolution** | **Hold Effects**



The Following Transactions Will Be Stopped From Processing Orders On This Hold

Process Type	Transaction Name	Hold Effect Level

The Following Modifications Are Not Allowed For Orders On This Hold

Modification Type	Modification Level


表 35. 「保留タイプ」画面の「保留効果」タブ

フィールド	説明
<p>この保留で以下のトランザクションのオーダー処理が停止する (The Following Transactions Will Be Stopped From Processing Orders On This Hold)</p>	<p>この保留タイプがオーダーに適用された場合に拒否されるトランザクション。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能なトランザクションを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除するトランザクションを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。 <p>3 つ目のカラムは、この保留の効果レベルを選択するために使用します。これは、トランザクションがオーダー・レベルまたはオーダー明細レベルのどちらで保留されるかを決定します。</p>
<p>この保留で以下の変更のオーダーが拒否される (The Following Modifications Are Not Allowed For Orders On This Hold)</p>	<p>この保留タイプがオーダーに適用された場合に拒否される変更タイプ。</p> <p>リストを変更する場合は、 をクリックします。後続のポップアップ・ウィンドウで、以下を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> この保留タイプと関連付ける使用可能な変更タイプを、登録済みリストに移動する場合は、右矢印を使用します。 この保留タイプとの関連付けを解除する変更タイプを登録解除して、使用可能リストに戻す場合は、左矢印を使用します。

フルフィルメント固有コンポーネント: 保留タイプの変更 このタスクについて

保留タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する保留タイプを選択して、 をクリックします。「保留タイプ」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。必要なフィールドに情報を入力します。フィールド値の説明については、137 ページの『オーダー・レベルの保留タイプの作成』、137 ページの『オーダー・レベルの保留タイプの作成』、および 137 ページの『オーダー・レベルの保留タイプの作成』（オーダー・レベルの保留の場合）、または 143 ページの『オーダー明細レベルの保留タイプの作成』、143 ページの『オーダー明細レベルの保留タイプの作成』、および 143 ページの『オーダー明細レベルの保留タイプの作成』（オーダー明細レベルの保留の場合）を参照してください。

3.  をクリックします。

フルフィルメント固有コンポーネント: 保留タイプの削除 このタスクについて

保留タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「保留タイプ」を選択します。作業領域に、「保留タイプ」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する保留タイプを選択して、 をクリックします。

フルフィルメント固有コンポーネント: プロセス・タイプ・パイプラインの構成

プロセス・タイプ・パイプラインとは、販売オーダーなどの伝票種別を、定義済みのプロセスによって手引きする一連のトランザクションとステータスのことです。パイプラインは、フルフィルメント、交渉、出荷、または受入時にドキュメントが経るさまざまなステータスで構成されます。構成するパイプラインに関連するトランザクション (イベント、アクション、および条件から成る) を設定することもできます。

リポジトリ

リポジトリとは、ビジネス・プロセスのワークフローを定義する、エンティティの論理的な集合体です。

リポジトリ (repository) には、以下のエンティティが含まれています。

- パイプライン
- トランザクション
- ステータス
- 条件
- アクション
- サービス

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各システム定義プロセス・タイプの基本リポジトリを提供します。リポジトリ内のエンティティの一部は、新規伝票種別の作成時にコピーされます。新規伝票種別の作成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品フルフィルメントのプロセスは、パイプラインを経てモデル化されます。これは組織に固有のプロセス構成を表します。組織は、各参加エンタープライズに対して固有のプロセスを指定する場合があります。

フルフィルメント固有コンポーネント: パイプラインの決定の定義

パイプラインの決定は、ビジネス・プロセス・ワークフローの開始時に使用されるパイプラインに影響を与える条件のセットアップに使用されます。例えば、組織によっては危険物が含まれる販売オーダーを扱うことがあります。これには 2 つの別個のパイプラインがあり、1 つはオーダー明細に危険物がないオーダーが通過するもので、もう 1 つは、オーダー・プロセスを続ける前に、オーダー明細に危険物が含まれているオーダーが検査のために通過しなければならないものです。組織は、オーダー明細に危険物が含まれているかどうかを判別し、オーダー明細を正しいパイプラインに送信する条件をセットアップするために、パイプラインの決定を使用します。

「パイプラインの決定」 ブランチを展開表示する場合に表示されるコンポーネントは、ユーザーのログイン時の役割に応じて異なります。「ハブ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」が表示されます。「エンタープライズ」の役割でログインしている場合、「ハブ・ルール」と「マイ・ルール」の両方のコンポーネントが表示されます。該当するノードをダブルクリックすると、パイプラインの決定ルールが表示されます。

注: 「エンタープライズ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」画面はグレー化されて編集不能になります。

パイプラインの決定ルールを構成するには、条件とパイプラインを作業領域にドラッグします。1 つのパイプラインまたは条件はルートでなければなりません。条件は、チェーン内の以前のコンポーネントに戻ってリンクさせることはできません。パイプラインには 2 度リンクさせることはできません。

オーダー・ドキュメント・タイプのパイプラインに対してパイプラインの決定を構成する場合、パイプラインの決定は、明細の追加またはオーダーの作成時のみ考慮されることに注意してください。変更がドラフト・オーダーに対して行われる場合、パイプラインの決定は行われません。

パイプラインの決定の返品ヘッダーおよび返品明細レベルで使用できる条件変数のリストについては、条件ビルダーの属性を参照してください。

フルフィルメント固有コンポーネント: パイプライン

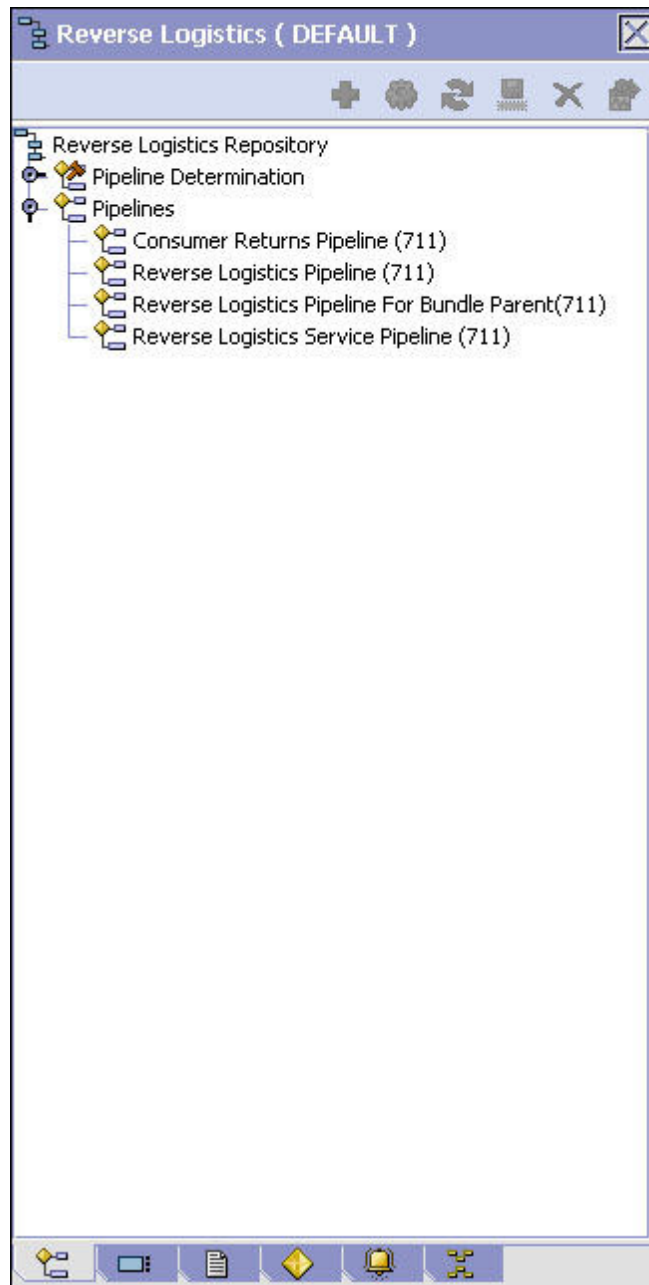
このタスクについて

パイプラインの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品物流のパイプラインの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

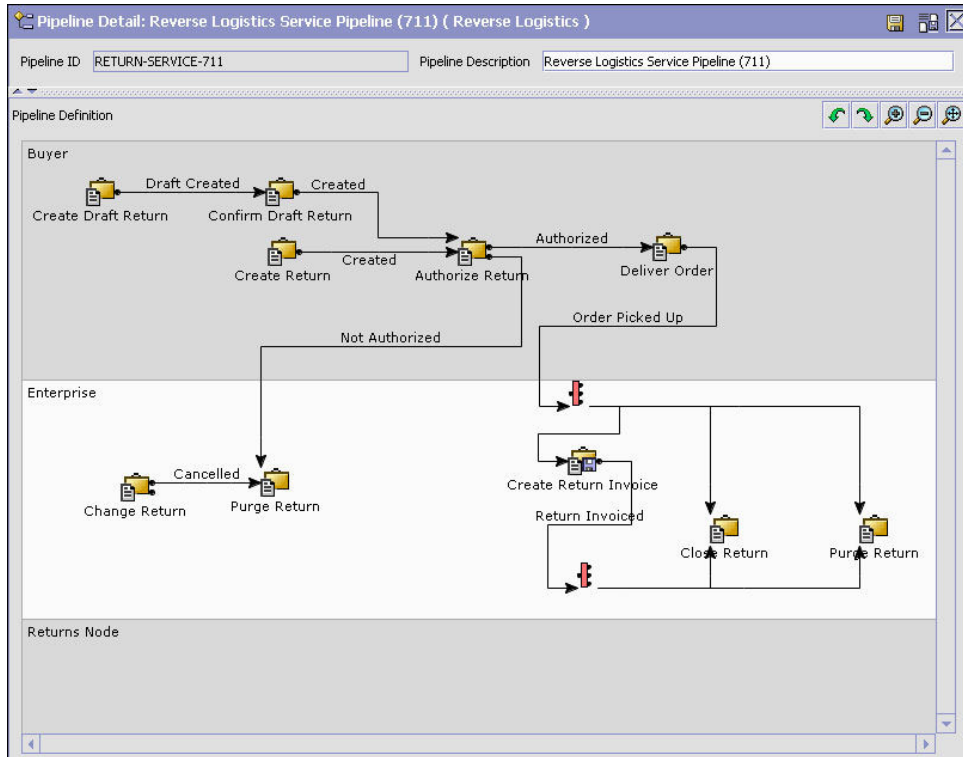
1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「フルフィルメント・プロセス・モデル」を選択します。「返品物流」ウィンドウが表示されます。



2. 「返品物流」ウィンドウで、「返品物流リポジトリ (Reverse Logistics Repository)」>「パイプライン」>「返品物流サービス・パイプライン」を選択します。
3. 「パイプラインの詳細: 返品物流サービス・パイプライン」(「返品物流」)ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

パイプラインの作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。




フルフィルメント固有コンポーネント: トランザクション このタスクについて

各プロセス・タイプには、独自に定義された基本トランザクションのセットがあります。トランザクションとは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内でアクティビティを実行するために必要な作業論理単位です。基本トランザクションとは、トランザクションの動作に関する情報（プロセス・タイプにトランザクションのコピーをいくつ保持するか、構成可能な基本ピックアップ/ドロップ・ステータスをプロセス・タイプに含めるかどうかなど）を含む、事前定義されたトランザクションです。基本トランザクションは、新規のトランザクションを作成する場合に使用できます。これらのトランザクションは、基本トランザクションに定義された制限内で変更することができます。

トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品物流パイプラインに関するトランザクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「フルフィルメント・プロセス・モデル」を選択します。「返品物流」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品物流」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「トランザクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

トランザクションの作成および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

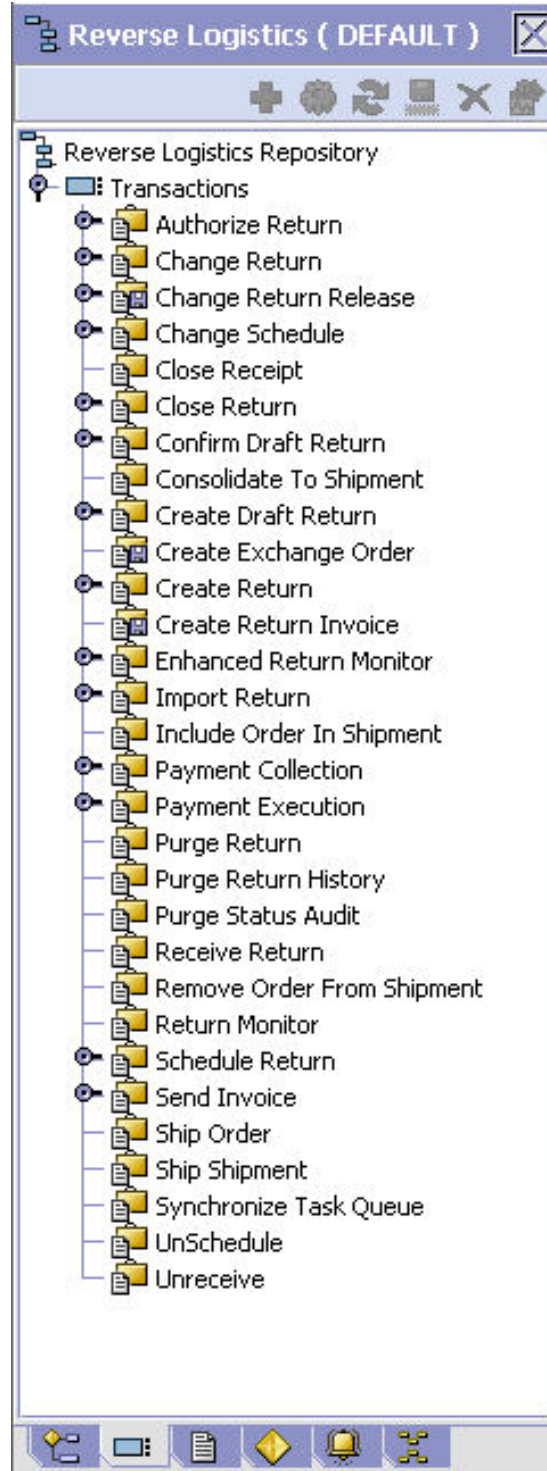


表 36. 返品物流のパイプライン - 「トランザクション」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
返品承認	このトランザクションは、受入ノードで返品を手動で承認するプロセスを表します。
返品の変更	このトランザクションは、返品に対する任意の変更を表します。
返品リリースの変更	このトランザクションは、返品リリースに対する任意の変更を表します。
スケジュールの変更	このトランザクションは、返品リリースのスケジューリング・ロジックに対する任意の変更を表します。
入荷の完了	このトランザクションは、受入の完了を表します。
返品の完了	このトランザクションは、返品の完了を表します。
ドラフト返品の確認	このトランザクションは、ドラフト返品が手動で確認され、システムにおいて実際の返品と見なされていることを表します。
出荷に統合	このトランザクションは、指定の返品リリースを含めることが可能な出荷を見つけるプロセスを表します。
ドラフト返品の作成	このトランザクションは、システムにおけるドラフト返品の作成を表します。
派生返品オーダーの作成	このトランザクションは、システムにおける交換オーダーの作成を表します。
返品の作成	このトランザクションは、システムにおける返品の作成を表します。
返品請求書の作成	このトランザクションは、既存の返品のインボイス作成プロセスを表します。
強化した返品モニター	このトランザクションは、システムにおける返品のモニターで使用されるパラメーターの拡張セットを使用した、代替返品のモニターを表します。
返品のインポート	このトランザクションは、外部システムにより既にある程度処理済みである返品のインポートのプロセスを表します。
出荷にオーダーを含める	このトランザクションは、既存の出荷に返品を追加するプロセスを表します。このトランザクションは、内部的に <code>confirmShipment API</code> が呼び出されます。詳しくは、 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i> を参照してください。
支払集金	このトランザクションは、承認または請求が保留中の返品に対してクレジットの検証を要求するプロセスを表します。
支払実行	このトランザクションは、承認および請求が保留中であるすべての要求の処理を表します。
返品のページ	このトランザクションは、ページして、テーブルから履歴テーブルに移動できる返品を表します。
返品履歴のページ	このトランザクションは、返品を履歴テーブルからページして、システムから削除するプロセスを表します。
ステータス監査のページ	このトランザクションは、システムから返品ステータスの監査データを削除するプロセスを表します。

表 36. 返品物流のパイプライン - 「トランザクション」タブ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
返品を受入	このリスナー・トランザクションでは、返品物流パイプラインをモニターし、オーダーに対する返品が返品ノードでいつ受け付けられたかを示します。
出荷からオーダーを削除	このトランザクションは、既存の出荷から返品を削除するプロセスを表します。このトランザクションは、内部的に <code>confirmShipment API</code> が呼び出されます。詳しくは、 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i> を参照してください。
返品のスケジュール	このトランザクションは、特定の受入ノードへの返品をスケジュールするプロセスを表します。
インボイスの送付	このトランザクションは、外部の売掛システムに送信可能なインボイスのデータを発行するプロセスを表します。
出荷オーダー	このトランザクションは、内部的に <code>confirmShipment API</code> が呼び出されます。詳しくは、 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i> を参照してください。
荷の発送	このトランザクションは、内部的に <code>confirmShipment API</code> が呼び出されます。詳しくは、 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i> を参照してください。
タスク・キューの同期化	このトランザクションは、返品物流のタスク・キューを同期させるプロセスを表します。
スケジュール解除	このトランザクションは、既にスケジュールした受入ノードへの返品のスケジュールを解除するプロセスを表します。
未受入	このトランザクションは、受け入れた返品を「受入取り消し済み」ステータスに戻すプロセスを表します。

フルフィルメント固有コンポーネント: ステータス


このタスクについて

ステータスは、ドキュメントがパイプラインを移動する実際の状態です。トランザクションには、「ドロップ・ステータス」と「ピックアップ・ステータス」の 2 つのタイプのステータスを含めることができます。ドキュメントは、トランザクションのイベントと条件が完了すると、**ドロップ・ステータス**に移動します。**ピックアップ・ステータス**は、直前のドロップ・ステータスからドキュメントを取り出し、次のトランザクションへと移動させます。ステータスの例としては、「作成済み」や「スケジュール済み」があります。

ステータスについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品物流のパイプラインに関するステータスの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「フルフィルメント・プロセス・モデル」を選択します。「返品物流」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品物流」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「ステータス」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

ステータスの作成および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

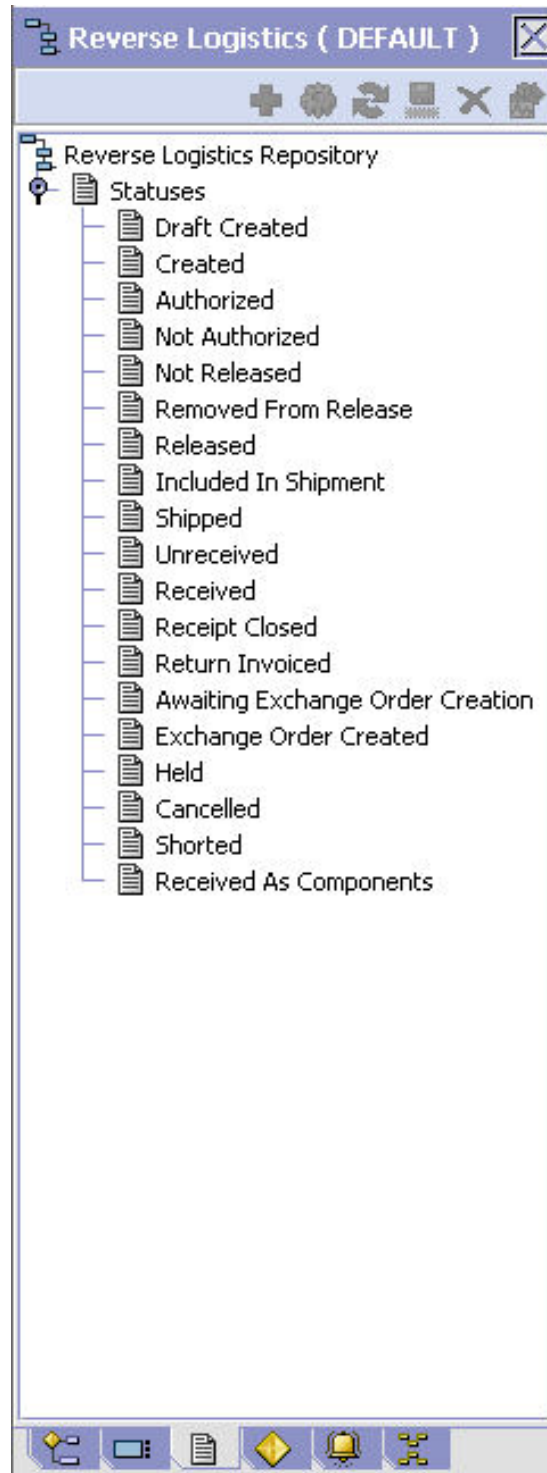


表 37. 返品物流のパイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
ドラフト作成済み	これは、ドラフト作成済みが作成されたことを示します。
作成済み	これは、返品が作成されたことを示します。
承認済み	これは、返品がノードによって承認済みであることを示します。

表 37. 返品物流のパイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
未承認	これは、返品がノードによって承認されていないことを示します。
未リリース	これは、返品がノードにリリースされていないことを示します。
リリースから削除済み	これは、返品の中の 1 つ以上のアイテムが返品リリースから削除されたことを示します。
リリース済み	これは、フルフィルメント用にオーダーにスケジュールする十分な在庫があることを示します。オーダーは、アプリケーション・コンソール、Sterling Warehouse Management System、またはその他サード・パーティーの倉庫管理システムへリリースされます。
出荷に含まれている	これは、返品が出荷に含まれていることを示します。
配送済み (Shipped)	これは、返品がノードに出荷済みであることを示します。
受け取り済み	これは、返品がノードで受入済みで、「返品受入」パイプラインで「受入進行中」ステータスであることを示します。
受入終了	これは、すべてのアイテムが返品されており、この受入をシステムから削除できることを示します。 注: 返品を受入が「返品受入」パイプラインの「受入済み」ステータスに移った後に、返品が「受入終了」ステータスに移ります。
返品のリクエスト済み	これは、既存の返品に対するインボイスが生成済みであることを示します。
交換オーダー作成待機中	これは、返品がパイプライン内で進むために、交換オーダーを返品から作成する必要があることを示します。
交換オーダー作成済み	これは、交換オーダーが返品から作成済みであることを示します。
保留 (Hold)	これは、返品が保留されており、その保留が解除されるまでは変更できないことを示します。
キャンセル済み (Cancelled)	これは、返品がキャンセルされたことを示します。
不足	これは、返品に含まれている量が受入時に示された量よりも少ないことを示します。
コンポーネントとして受入済み	返品が 1 つ以上の個別コンポーネントとして受け入れられました。


フルフィルメント固有コンポーネント: 条件 このタスクについて

条件は、決定点に照らして伝票種別属性と突き合わせられ、指定された属性と値の組み合わせに基づいて、ドキュメントをさまざまなパスにルーティングします。条件を作成可能な伝票種別属性は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義されます。これらの属性は任意の組み合わせで使用できます。または特定の状況向けに適切なアプリケーション・ロジックを実行する条件を作成できます。

条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品物流のパイプラインに関する条件の詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「フルフィルメント・プロセス・モデル」を選択します。「返品物流」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品物流」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「条件」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

条件の作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

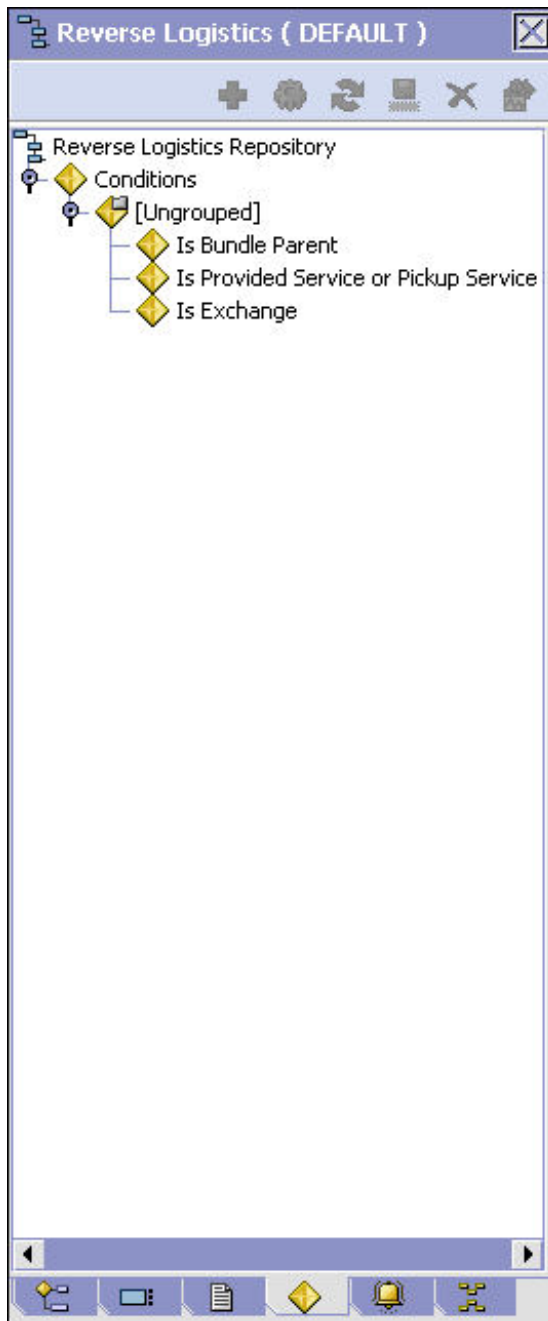


表 38. 返品物流のパイプライン - 「条件」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
条件	返品物流のパイプラインに固有の条件があれば、それを表示します。

フルフィルメント固有コンポーネント: アクション このタスクについて


アクションは、イベントにより起動されるプロセスまたはプログラムです。これらのプロセスやプログラムは、ユーザーに警告通知を送信し、問題を自動的に解決します。

例えば、オーダーがリリースされると (イベント)、顧客に E メールを送信するアクションを設定できます。

アクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品物流のパイプラインに関するアクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「フルフィルメント・プロセス・モデル」を選択します。「返品物流」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品物流」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「アクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

アクションの作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

トランザクション・ルールの定義 このタスクについて

出荷通知、出荷確認、オーダー・エントリー、オーダー・モニター、および交渉モニターに対する追加ルールを定義できます。

注: 見積の追加のトランザクション・ルールを定義するには、見積のトランザクション・ルールの定義を参照してください。

追加のトランザクション・ルールを定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「トランザクション固有のルール」を選択します。「トランザクション・ルール」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、162 ページの表 39 を参照してください。


3.  を選択します。

表 39. 「トランザクション・ルール」 ウィンドウ

フィールド	説明
出荷通知	
価格情報を指示に含める	<p>これが選択された場合、システムは、出荷通知指示の一部としてオーダーに関する価格情報を送信します。</p> <p>これは DCS 固有のパラメーターです。Sterling Selling and Fulfillment Foundation からの主要な価格関連要素は、タイプ SHC (オーダー・ヘッダー・レベルの出荷および処理料金)、PRM (オーダー・ヘッダー・レベルの割引金額)、および STX (オーダー・ヘッダー・レベルの税金) の指示として DCS に送信されます。</p>
出荷確認	
在庫切れの場合はオーダーをキャンセル	これが選択された場合、アイテムが在庫切れのときはキャンセルまたはバックオーダーされます。
オーダー・モニター	

表 39. 「トランザクション・ルール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
オーダー・モニターの再ログ間隔	<p>伝票種別がパイプライン内で同じステータスにある場合、何時間経過したらオーダー・モニターがアクションを発生させるかをを入力します。</p> <p>在庫モニターおよびオーダー・モニターは、事前定義された(スケジュール済み) 間隔で実行されます。ある警告がいったん発生した場合、実行のたびに同じ警告が何度も発生することは回避すべきです。再ログ間隔は、ある警告の発生後、次の警告がトリガーされるまでの時間を制御します。</p> <p>重要: このフィールドは、強化したオーダー・モニターには影響しません。</p>
交渉モニター	
交渉モニターの再ログ間隔	伝票種別が交渉パイプライン内で同じステータスにある場合、何時間経過したら交渉モニターがアクションを発生させるかをを入力します。
オーダーされている、後で無効化する販売	
次の期間の経過後、自動キャンセル処理を実行するよう「後で無効化する販売」にマークを付ける	オーダーに設定される自動キャンセル日を決めるための時間数を入力します。
再出荷オーダー	
再出荷までの最小期間	オーダー明細の出荷後、オーダー明細の再出荷が必要となる期日までの許容最小日数を入力します。
連鎖明細が取り消された場合に親明細に対して行うアクション	
スケジュール解除	これが選択された場合、連鎖オーダー明細が取り消されると、スケジュール解除されたアクションが親オーダー明細で実行されます。スケジュール解除された親明細は、バックオーダーされた明細と同じ意味です。連鎖オーダーについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。
キャンセル (Cancel)	これが選択された場合、連鎖オーダー明細が取り消されると、親明細が取り消されます。連鎖オーダーについて詳しくは、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。
作業オーダーのあるオーダー明細のキャンセル	

表 39. 「トランザクション・ルール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
作業オーダー取り消し不可の場合でも取り消しを許可	<p>オーダーは、顧客のアイテムをカスタマイズするために作業オーダーを生成している場合があります。一部のシナリオでは、作業オーダーを取り消すことはできません。例えば、作業オーダーが既に完了しているため、または作業オーダーの取り消しを許容しない組織によって作業オーダーが実行されるために、作業オーダーを取り消すことができません。</p> <p>デフォルトでは、作業オーダーに関連付けられたオーダーを取り消すことはできません。作業オーダーが取り消し不可の場合でも親オーダーを取り消すことができるようにするには、「作業オーダー取り消し不可の場合でも取り消しを許可」を選択します。</p>
日付の同期	
マスター・オーダーの日付とオーダー明細およびスケジュールの日付を同期する	<p>オーダー、オーダー・ヘッダー、オーダー明細、およびオーダー明細スケジュールの希望日と出荷予定日を同期するには、このボックスにチェックを付けます。</p> <p>希望日は、オーダー明細またはオーダー・ヘッダーの出荷指定日、配達希望日、およびキャンセル日と同期されます。</p> <p>予定日付は、オーダー・スケジュールと同期されます。</p> <p>注: このルールが選択されない場合、日付の同期化を行うことはできません。</p>
オーダーの予定日	
オーダーの依頼日が変更された場合に予定日を再計算しない	<p>オーダー明細の希望日をオーダー明細スケジュールの予定日と同期しない場合は、このボックスにチェックを付けます。</p> <p>注: 日付は、明細の作成時にのみ同期されます。</p> <p>注: 予定日と希望日が同期されないオーダーでは、スケジュールリングを使用しないでください。</p>
ピックアップ・オーダー明細	
ピックアップ・オーダー明細の希望日が変更された場合、予定日を計算する	<p>顧客がオーダーの一部またはオーダーのすべてを後日ピックアップすることを選択した場合にアイテムの出荷予定日を再計算するには、このボックスにチェックを付けます。</p> <p>注: このフラグは、アウトバウンド・オーダーに対してのみ使用可能です。</p>
ドラフト・オーダーの確認	
ドラフト・オーダーの確認時にオーダー日を更新する	<p>オーダーの作成時の日付ではなく、オーダーの確認時の日付にオーダー日を設定するには、このボックスにチェックを付けます。</p>
最後の製品明細のスケジュールを解除する際に実行するアクション	
配送サービス明細への関連付けを維持	<p>これが選択された場合、作業オーダーの最後の製品明細が取り消されても、配達明細への関連付けは維持されます。</p>
配送サービス明細への関連付けを削除	<p>これが選択された場合、作業オーダーの最後の製品明細が取り消されると、配達明細への関連付けは削除されます。</p>
オーダー承認	

表 39. 「トランザクション・ルール」ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
オーダーが承認を必要とする場合に適用する保留タイプ	<p>オーダーが承認を必要する場合に適用する保留タイプを選択します。</p> <p>保留はシステムによって内部的にトリガーされるため、保留構成で自動的に適用されるように設定してはいけません。</p> <p>注: この機能は、見積のオーダー承認機能とは異なります。</p>
オーダー変更時、オーダー承認の保留を自動的に解決する (Automatically Resolve Order Approval Hold On Order Change)	<p>オーダーが変更され、かつ承認のために必要な条件が満たされなくなったときにオーダー承認の保留が自動的に解決されるようにしたい場合は、このボックスにチェックを付けます。</p>
顧客連絡先ステータス	
顧客連絡先が保留中の場合、オーダーに適用する保留タイプ	顧客連絡先が保留中の場合にオーダーに適用する保留タイプを選択します。
保留中のオーダー変更	
保留中のオーダー変更が期限切れになるまでの時間	保留中のオーダー変更が期限切れになるまでの時間数を入力します。
オーダーに保留中の変更がある場合に適用する保留	保留中の変更があるオーダーに適用する保留タイプを選択します。

ステータス在庫のタイプの定義

セラーとバイヤーの在庫の追跡については、ステータス別ベースで、在庫の更新方法および更新時を定義できます。「ステータス在庫のタイプ」テーブルは、組織ごとに、ステータスと特定の供給タイプおよび需要タイプとを関連付けるために使用されます。オーダーが特定のフルフィルメント・パイプラインの各ステータスを移動すると、オリジナルのステータスに関連付けられているバイヤー供給タイプおよびセラー需要タイプに対応する値は減り、オーダーの移動先となるステータスの値は増えます。

例

「ステータス在庫のタイプ」テーブルに、以下のレコードがあると想定します。

表 40. サンプルの「ステータス在庫のタイプ」レコード

ステータス	バイヤー供給タイプ	セラー需要タイプ	セラー供給タイプ	セラーの供給を増加
1100	購入オーダー発注済み	未完了オーダー	手持ち在庫	いいえ
3200	購入オーダー・リリース済み	リリース済み	手持ち在庫	いいえ
3700	輸送中			はい

明細アイテムの数量が 10 のオーダーが「作成済み (1100)」ステータスで作成された場合、「購入オーダー発注済み」供給レコードは、数量 10 で更新されます。セラーには数量が 10 の「オープン・オーダー」需要タイプが作成されます。

この例では、数量 3 は「リリース済み (3200)」ステータスに移動し、「購入オーダー発注済み」供給レコードは 3 だけ減少し、数量 3 の新規供給レコードが「購入オーダー・リリース済み」供給タイプに作成されます。「オープン・オーダー」需要レコードも 3 だけ減少し、数量 3 の新規需要レコードが「リリース済み」需要タイプに作成されます。

オーダーが「リリース済み (3200)」ステータスから「出荷済み (3700)」ステータスに移動する場合、バイヤーの供給は「購入オーダー・リリース済み」供給タイプについては減少し、「輸送中」については増加します。セラーの需要は、「リリース済み」需要タイプについては減少します。ただし、「出荷済み (3700)」ステータスに関連付けられている「セラー需要タイプ」がブランクであるため、新規タイプについて需要タイプは増加しません。

上記の構成では、「セラーの供給を増加」フラグが「Y」に設定されており、「出荷済み (3700)」ステータスのセラーの供給タイプは「手持ち在庫」です。セラーの供給を示す「セラーの供給を増加」フラグは、数量を「出荷済み (3700)」ステータスに移動させるときに調整する必要があります。

「セラー供給タイプ」列の値は、更新する必要がある供給タイプを示します。この例では「手持ち在庫」です。「リリース済み (3200)」ステータスのレコードには、関連付けられている「手持ち在庫」セラー供給タイプがあり、「出荷済み (3700)」ステータスのレコードには、関連付けられているブランクのセラー供給タイプがあるため、「手持ち在庫」セラー供給タイプは、「リリース済み (3200)」ステータスが「出荷済み (3700)」ステータスに移動すると減少します。セラー供給タイプは、「出荷済み (3700)」ステータスの「セラー供給タイプ」列の値がブランクであるため、このステータスの移動では増加しません。

プロセス・タイプのステータス在庫のタイプを表示するには、アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「ステータス在庫のタイプ」を選択します。「ステータス在庫 (Status Inventory)」ウィンドウが表示されます。詳しくは、167 ページの表 41 を参照してください。

Status	Buyer Supply Type	Seller Supply Type	Update Seller Supply	Seller Demand Type
Draft Order Reserved	Purchase Order Placed	Onhand	N	Reserved Order
Created	Purchase Order Placed	Onhand	N	Open Order
Reserved	Purchase Order Placed	Onhand	N	Reserved Order
Being Negotiated	Purchase Order Placed	Onhand	N	Open Order
Accepted	Purchase Order Placed	Onhand	N	Open Order
Backordered	Purchase Order Backorder	Onhand	N	Backorder
Unscheduled	Purchase Order Backorder	Onhand	N	Backorder
Scheduled	Purchase Order Scheduled	Onhand	N	Scheduled
Awaiting Chained Order Cre...	Purchase Order Released	Onhand	N	Allocated
Work Order Created	Purchase Order Scheduled	Onhand	N	Scheduled
Released	Purchase Order Released	Onhand	N	Allocated
Sent To Node	Purchase Order Released	Onhand	N	Allocated
Included In Shipment	Purchase Order Released	Onhand	N	Allocated
Shipped	In Transit		Y	
Cancelled		Onhand	N	

表 41. 「ステータス在庫のタイプ」ウィンドウ

フィールド	説明
連鎖なしオーダー「子が連鎖しているオーダー」/調達オーダー	<p>関連する連鎖オーダーがない、プロセス・タイプ・パイプラインを経て流れるオーダーのステータス在庫タイプを表示するには、「連鎖なしオーダー」タブを選択します。</p> <p>関連するドロップ出荷連鎖オーダーがあるオーダーのステータス在庫タイプを表示するには、「子が連鎖しているオーダー」タブを選択します。</p> <p>調達オーダーのステータス在庫タイプを表示するには、「調達オーダー」タブを選択します。</p>
ステータス	オーダー・ドキュメントのステータス。
バイヤー供給タイプ	オーダー・ドキュメントのステータスに関連付けられたバイヤーの供給タイプ。
セラー供給タイプ	オーダー・ドキュメントのステータスに関連付けられたセラーの供給タイプ。
セラーの供給を更新する	オーダー・ドキュメントが関連ステータスに移動したときに、在庫の更新が行われるかどうかを示します。
セラー需要タイプ	オーダー・ドキュメントのステータスに関連付けられたセラーの需要タイプ。



供給タイプと需要タイプ、およびそれらが相互にどのように関連しているかについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

ステータス在庫のタイプの作成

このタスクについて

ステータス在庫のタイプを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. 「ステータス在庫のタイプ」ウィンドウで、 を選択します。「ステータス在庫タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 42 を参照してください。
3.  を選択します。

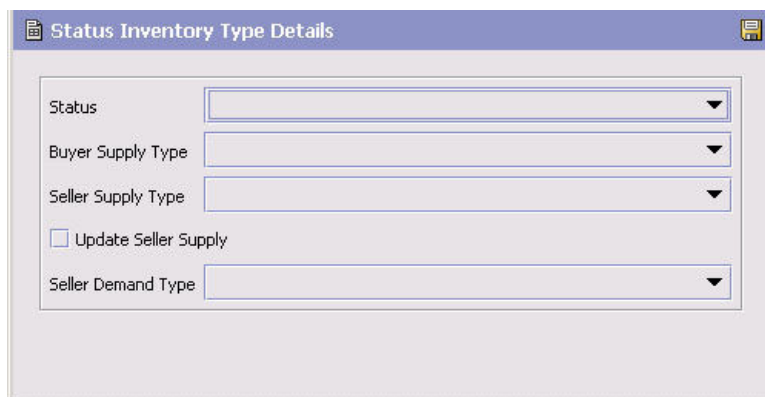



表 42. 「ステータス在庫タイプの詳細」ウィンドウ


フィールド	説明
ステータス	在庫タイプを関連付けるオーダー伝票ステータスを選択します。
バイヤー供給タイプ	オーダー伝票ステータスに関連付けるバイヤー供給タイプを選択します。
セラー供給タイプ	オーダー伝票ステータスに関連付けるセラー供給タイプを選択します。
セラーの供給を更新する	オーダー伝票がこのステータスになったときに、関連付けられた在庫タイプに対して在庫の更新を実行するには、このフィールドを選択します。 注: Sterling Warehouse Management System と統合する場合は、このフィールドを選択して、セラー供給タイプを指定する必要があります。
セラー需要タイプ	オーダー伝票ステータスに関連付けるセラー需要タイプを選択します。

ステータス在庫のタイプの変更 このタスクについて

ステータス在庫のタイプを変更するには、以下の手順を実行します。


手順

1. 「ステータス在庫のタイプ」ウィンドウで該当するステータス在庫のタイプを見つけ、 を選択します。「ステータス在庫タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。

2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、168ページの表 42 を参照してください。
3.  を選択します。

ステータス在庫のタイプの削除

このタスクについて

ステータス在庫のタイプを削除するには、「ステータス在庫のタイプ」ウィンドウで該当するステータス在庫のタイプを見つけ、 を選択します。

もともと Sterling Selling and Fulfillment Foundation に同梱されていたデフォルトのステータス在庫のタイプは削除できません。

フルフィルメント固有コンポーネント: モニター・コンポーネントの定義

オーダー・ドキュメントのライフサイクル内の予期しない条件や遅延の測定およびレポートに使用するコンポーネントを定義できます。モニター・ルールを構成するためにこれらのコンポーネントを使用することについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

プロセス・タイプのモニター・コンポーネントを定義するには、アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「オーダー・モニター」を選択します。「モニター」ウィンドウが表示されます。

フルフィルメント固有コンポーネント: 日付タイプの定義

カスタム日付タイプを定義できます。これらの日付は、構成画面と、アプリケーション・コンソールの「オーダー」/「出荷日」ウィンドウに自動的に表示されます。

フルフィルメント固有コンポーネント: 日付タイプの作成

このタスクについて

日付タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順



1. 「モニター」ウィンドウで、「日付タイプ」タブを選択します。
2. 日付タイプのリストから、 を選択します。「日付タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、170ページの表 43 を参照してください。
4.  を選択します。



表 43. 「日付タイプの詳細」ウィンドウ

フィールド	説明
日付タイプ	日付タイプの名前を入力します。
説明	日付タイプの簡単な説明を入力します。
要求済み	日付タイプが、バイヤー、ユーザーなどにより要求された日付を表す場合は、このフィールドを選択します。
予定	日付タイプが、何かが起こるとシステムが予想または計算した日付を表す場合は、このフィールドを選択します。
実際の日付	日付タイプが実際の日付を表す場合は、このフィールドを選択します。

フルフィルメント固有コンポーネント: 日付タイプの変更 このタスクについて

日付タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. 「モニター」ウィンドウで、「日付タイプ」タブを選択します。
2. 日付タイプのリストから該当する日付タイプを見つけて、 を選択します。「日付タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 43 を参照してください。
4.  を選択します。

フルフィルメント固有コンポーネント: 日付タイプの削除 このタスクについて

システムによって生成された返品日は削除できません。

日付タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「モニター」ウィンドウで、「日付タイプ」タブを選択します。
2. 日付タイプのリストから該当する日付タイプを見つけて、 を選択します。

フルフィルメント固有コンポーネント: マイルストーンの定義



マイルストーンにする、プロセス・タイプ内の適切なステータスを構成できます。マイルストーンは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がオーダーを別のステータスに移動させる時を自動的に決定する日付の 1 タイプです。マイルストーンは、モニターの基準として使用できる、プロセス・ライフサイクルにおける重要なポイントを表します。マイルストーンは、オーダー、オーダー明細、オーダー・リリース、およびオーダー・リリース明細レベルで定義できます。

マイルストーンは、オーダー明細に変更がある場合ではいつでも達成できます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、オーダー明細がマイルストーンとしてマークを付けられているステータスに到達した場合は、到達済みとマークを付けます。ただし、オーダー明細の一部のみが、マイルストーンとして定義されている特定のステータスに到達する場合があります。

フルフィルメント固有コンポーネント: マイルストーンの作成 このタスクについて

マイルストーンを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「モニター」ウィンドウで、「マイルストーン」タブを選択します。
2. マイルストーンのリストから、 を選択します。「マイルストーンの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 44 を参照してください。
4.  を選択します。

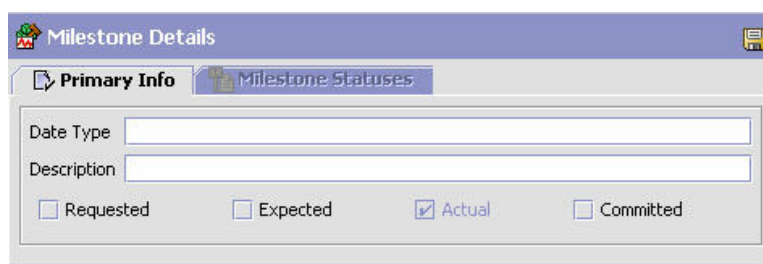



表 44. マイルストーンの詳細

フィールド	説明
日付タイプ	作成するマイルストーンの名前を入力します。 注: 「日付タイプ」タブで作成した日付タイプを使用することはできません。マイルストーン用に固有の名前を作成する必要があります。
説明	マイルストーンの簡単な説明を入力します。
要求済み	マイルストーンが、バイヤー、ユーザーなどにより要求された日付を表す場合は、このフィールドを選択します。
予定	マイルストーンが、何かが起こるとシステムが予想または計算した日付を表す場合は、このフィールドを選択します。

表 44. マイルストーンの詳細 (続き)



フィールド	説明
実際の日付	このフィールドはマイルストーンには適用されません。
マイルストーン・ステータス	 を選択し、該当するフィールドに情報を入力して、マイルストーンに関連付けるステータスを追加できます。 注: このタブは、「主要情報」タブの記入を完了し、保存した後にのみアクセスできます。
日付タイプ	マイルストーンに関連付けられている任意の日付タイプ。
ステータス	マイルストーンが達成されたことを示すステータスを選択します。
レベル	<p>このステータスをオーダー・ヘッダー・レベルで達成する必要があることを示すには、「オーダー」を選択します。</p> <p>このステータスをオーダー明細レベルで達成する必要があることを示すには、「オーダー明細」を選択します。</p> <p>このステータスをオーダー・リリース・レベルで達成する必要があることを示すには、「オーダー・リリース」を選択します。</p>
数量タイプ	<p>上記で選択されたレベルにある任意の数量がこのステータスに移動したときにマイルストーンが達成されたことを示すには、「初期」を選択します。</p> <p>上記で選択されたレベルにあるすべての数量がこのステータスに移動したときにマイルストーンが達成されたことを示すには、「完了」を選択します。</p>

フルフィルメント固有コンポーネント: マイルストーンの変更 このタスクについて

注: 既存のマイルストーンを変更した場合、その変更は新規のオーダーに対してのみ適用されます。マイルストーン・レコードが既に作成されている既存のオーダーについては考慮されません。

マイルストーンを変更するには、以下の手順を実行します。


手順

1. 「モニター」ウィンドウで、「マイルストーン」タブを選択します。
2. マイルストーンのリストから、該当するマイルストーンを見つけて、 を選択します。「マイルストーンの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、171 ページの表 44 を参照してください。
4.  を選択します。

フルフィルメント固有コンポーネント: マイルストーンの削除 このタスクについて

マイルストーンを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「モニター」ウィンドウで、「マイルストーン」タブを選択します。
2. マイルストーンのリストから、該当するマイルストーンを見つけて、 を選択します。



フルフィルメント固有コンポーネント: モニター・イベントの定義

イベントは、強化したオーダー・モニターが同じタイプの複数の警告を出す可能性がある場合に使用されます。例えば、一緒に出荷される複数の明細があるオーダーに出荷遅延があり、強化したオーダー・モニターが、出荷が遅延したときに明細レベルで警告を出すように構成されている場合、同じタイプの警告がオーダーの各明細に対して出されます。これらすべての類似警告を集約して、1 つの「根本原因」を示す警告を出すルールを作成できます。

フルフィルメント固有コンポーネント: イベント・ルールの作成 このタスクについて

イベント・ルールを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「イベントのモニター」を選択します。「イベントのモニター」ウィンドウが表示されます。
2. イベントのモニターのリストから、 を選択します。「イベントのモニターの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、174 ページの表 45 を参照してください。
4.  を選択します。

ほとんどの場合、イベントを識別する属性はイベント集約を指定する属性のサブセットです。

The screenshot shows a window titled "Monitor Event Details". It has several input fields and checkboxes:

- Event Id:** A text input field.
- Description:** A text input field.
- Requires Realert:** A checkbox.
- Realert Interval:** A text input field.
- Automatically Resolve Alerts:** A checkbox.
- Event Identified By:** A section containing:
 - Return:** A checked checkbox.
 - Return Line:** An unchecked checkbox.
- Service To Be Invoked:** A dropdown menu.
- Aggregate And Invoke Service For:** A section containing:
 - Return:** A checked checkbox.
 - Return Line:** An unchecked checkbox.

表 45. 「イベントのモニターの詳細」 ポップアップ・ウィンドウ



フィールド	説明
イベント ID	イベント ID を入力します。
説明	イベントについての簡単な説明を入力します。
再警告が必要	特定の時間フレーム内で問題が解決しなかった場合にユーザーに再警告するには、このフィールドを選択します。
再警告間隔	「再警告が必要」を選択した場合、再警告を送信する間隔 (時間数) を入力します。
警告を自動的に解決	警告条件が有効でなくなった場合に自動的に警告を削除するには、このフィールドを選択します。警告が解決された後、再度その条件が検出された場合は、新規警告が発生します。
イベントの識別内容	
返品	同じ返品に属している 2 つ以上の警告条件を同一に扱う場合は、このフィールドを選択します。 注: このフィールドは、「返品明細」フィールドと同時に選択できません。
返品明細	同じ返品明細に属している 2 つ以上の警告条件を同一に扱う場合は、このフィールドを選択します。 注: このフィールドは、「返品」フィールドと同時に選択できません。
呼び出すサービス	イベント集約ルールが満たされた場合に呼び出す警告サービスを選択します。
集約とサービス起動の対象	
返品	警告条件が検出されたときに、返品に対して 1 つの警告のみを発行する場合は、このフィールドを選択します。
返品明細	警告条件が検出されたときに、返品明細ごとに 1 つの警告のみを発行する場合は、このフィールドを選択します。

イベントの変更

このタスクについて

イベント・ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「イベントのモニター」を選択します。「イベントのモニター」ウィンドウが表示されます。
2. イベントのモニターのリストから該当するイベント・ルールを選択して、 を選択します。「イベントのモニターの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、174 ページの表 45 を参照してください。
4.  を選択します。

フルフィルメント固有コンポーネント: イベントの削除

このタスクについて

イベント・ルールを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「フルフィルメント」>「イベントのモニター」を選択します。「イベントのモニター」ウィンドウが表示されます。
2. イベントのモニターのリストから該当するイベント・ルールを選択して、 を選択します。

第 18 章 返品ドキュメントの出荷固有コンポーネントの構成

注: 返品フルフィルメントではソーシング構成が必要です。この構成は「分散オーダー管理」構成グループ化からアクセスできます。ソーシングの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

返品ドキュメントのライフサイクルを実行するために、各ドキュメントには経ることができる一連のさまざまなプロセスがあります。これらのプロセスは、プロセス・タイプと呼ばれます。すべての返品ドキュメントには、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* に、定義済みの一連のプロセス・タイプがあります。

返品ドキュメント・タイプに対しては、以下のプロセス・タイプが *Sterling Selling and Fulfillment Foundation* で定義されています。

- フルフィルメント
- 交渉
- 出荷
- 受入
- 受入

返品ドキュメントの出荷プロセス・タイプに固有のルールとコンポーネントを構成できます。

出荷固有コンポーネント: 保留タイプの定義

出荷は、特定の保留タイプを適用することで、手動または自動で保留することができます。特定のトランザクションを、保留中の出荷が処理されないように構成することができます。同じように、変更タイプを、保留中の出荷が処理されないように構成することもできます。デフォルトでは、すべてのトランザクションおよび変更タイプは、すべての保留タイプのすべてのドキュメントを処理できます。

トランザクションが保留中の出荷を処理しないようにするには、「トランザクションの詳細」画面の「その他 (Others)」タブで、「このトランザクションは保留中の出荷の処理を停止できます (This Transaction Can Be Stopped From Processing Shipments That Are On Hold)」ボックスにチェック・マークを付けます。トランザクションの詳細の表示について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

保留タイプを作成、変更、および削除するには、アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「物流管理」>「保留タイプ」を選択します。保留タイプの定義について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Logistics Management Configuration Guide*」を参照してください。

出荷固有コンポーネント: プロセス・タイプ・パイプラインの構成

プロセス・タイプ・パイプラインとは、販売オーダーなどの伝票種別を、定義済みのプロセスによって手引きする一連のトランザクションとステータスのことです。パイプラインは、フルフィルメント、交渉、出荷、または受入時にドキュメントが経るさまざまなステータスで構成されます。構成するパイプラインに関連するトランザクション (イベント、アクション、および条件から成る) を設定することもできます。

リポジトリ

リポジトリとは、ビジネス・プロセスのワークフローを定義する、エンティティの論理的な集合体です。

リポジトリには、以下のエンティティが含まれています。

- パイプライン
- トランザクション
- ステータス
- 条件
- アクション
- サービス

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各システム定義プロセス・タイプの基本リポジトリを提供します。リポジトリ内のエンティティの一部は、新規伝票種別の作成時にコピーされます。新規伝票種別の作成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品出荷のプロセスは、パイプラインを経てモデル化されます。これは組織に固有のプロセス構成を表します。組織は、各参加エンタープライズに対して固有のプロセスを指定する場合があります。

出荷固有コンポーネント: パイプラインの決定の定義

パイプラインの決定は、ビジネス・プロセス・ワークフローの開始時に使用されるパイプラインに影響を与える条件のセットアップに使用されます。例えば、組織はときには危険物が含まれる販売オーダーを扱うことがあります。これには 2 つの別個のパイプラインがあり、1 つはオーダー明細に危険物がないオーダーが通過するもので、もう 1 つは、オーダー・プロセスを続ける前に、オーダー明細に危険物が含まれているオーダーが検査のために通過しなければならないものです。組織は、オーダー明細に危険物が含まれているかどうかを判別し、オーダー明細を正しいパイプラインに送信する条件をセットアップするために、パイプラインの決定を使用します。

「パイプラインの決定」 ブランチを展開表示する場合に表示されるコンポーネントは、ユーザーのログイン時の役割に応じて異なります。「ハブ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」が表示されます。「エンタープライズ」の役割で

ログインしている場合、「ハブ・ルール」と「マイ・ルール」の両方のコンポーネントが表示されます。該当するノードをダブルクリックすると、パイプラインの決定ルールが表示されます。

注: 「エンタープライズ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」画面はグレー化されて編集不能になります。

パイプラインの決定ルールを構成するには、条件とパイプラインを作業領域にドラッグします。1つのパイプラインまたは条件はルートでなければなりません。条件は、チェーン内の以前のコンポーネントに戻ってリンクさせることはできません。パイプラインには2度リンクさせることはできません。

オーダー・ドキュメント・タイプのパイプラインに対してパイプラインの決定を構成する場合、パイプラインの決定は、明細の追加またはオーダーの作成時のみ考慮されることに注意してください。変更がドラフト・オーダーに対して行われる場合、パイプラインの決定は行われません。

出荷固有コンポーネント: パイプライン

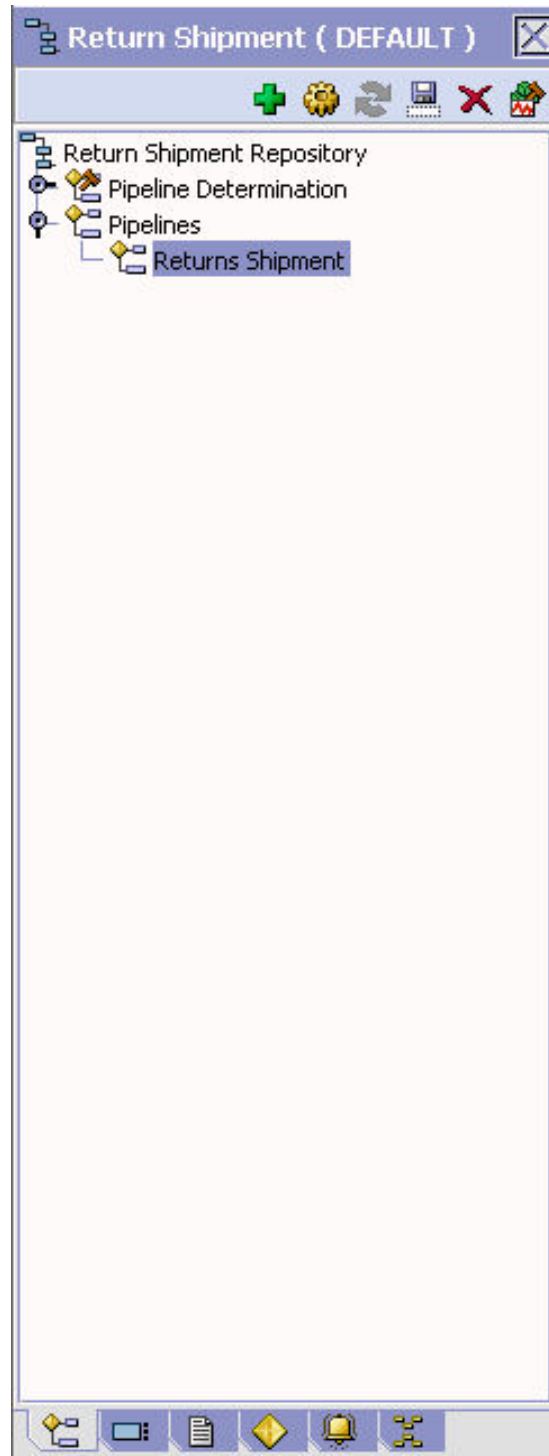
このタスクについて

パイプラインの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品出荷のパイプラインの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「物流管理」>「出荷プロセス・モデル」を選択します。「返品出荷」ウィンドウが表示されます。

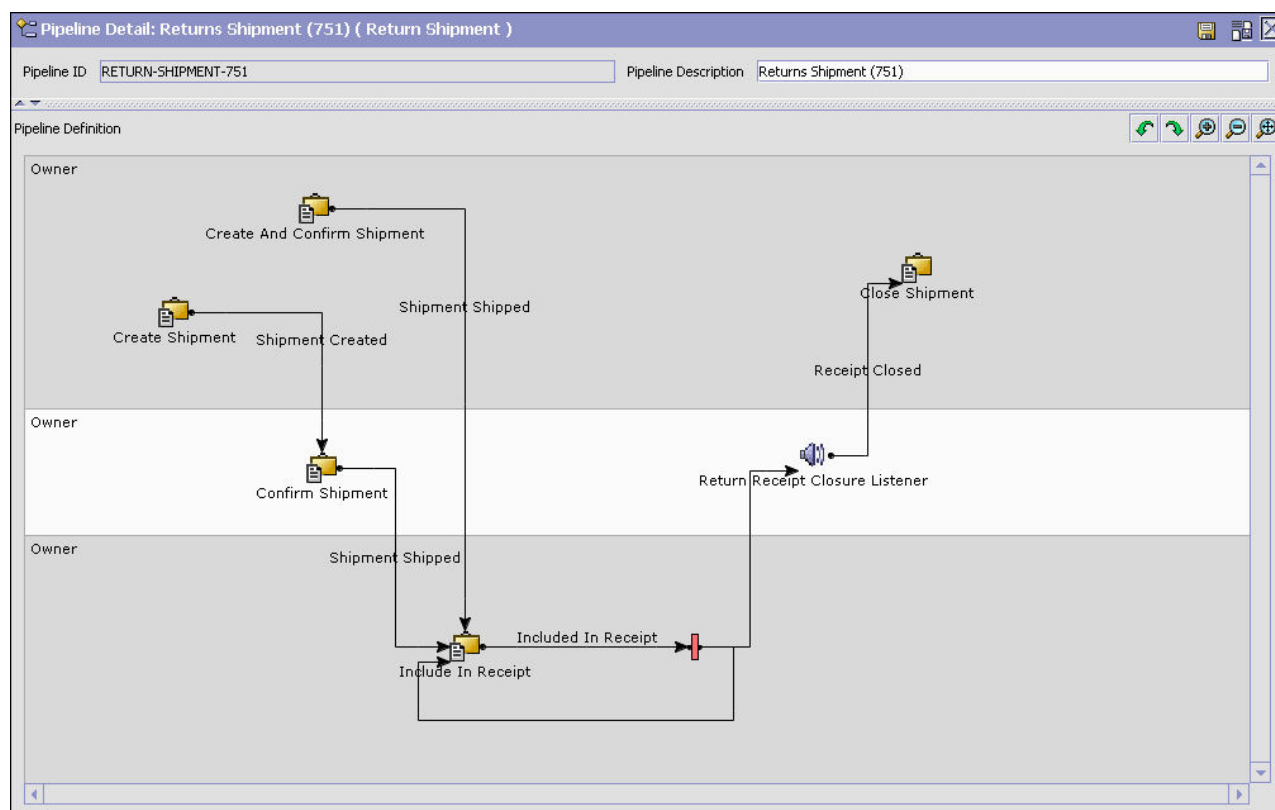


2. 「返品出荷」ウィンドウで、「返品出荷リポジトリ (Return Shipment Repository)」>「パイプライン」>「返品出荷」を選択します。
3. 「パイプラインの詳細: 返品出荷 (返品出荷)」ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

パイプラインの作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください

い。




出荷固有コンポーネント: トランザクション このタスクについて

各プロセス・タイプには、独自に定義された基本トランザクションのセットがあります。トランザクションとは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内でアクティビティを実行するために必要な作業論理単位です。基本トランザクションとは、トランザクションの動作に関する情報（プロセス・タイプにトランザクションのコピーをいくつ保持するか、構成可能な基本ピックアップ/ドロップ・ステータスをプロセス・タイプに含めるかどうかなど）を含む、事前定義されたトランザクションです。基本トランザクションは、新規のトランザクションを作成する場合に使用できます。これらのトランザクションは、基本トランザクションに定義された制限内で変更することができます。

トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品出荷のパイプラインに関するトランザクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「物流管理」>「出荷プロセス・モデル」を選択します。「返品出荷」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品出荷」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「トランザクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

トランザクションの作成および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

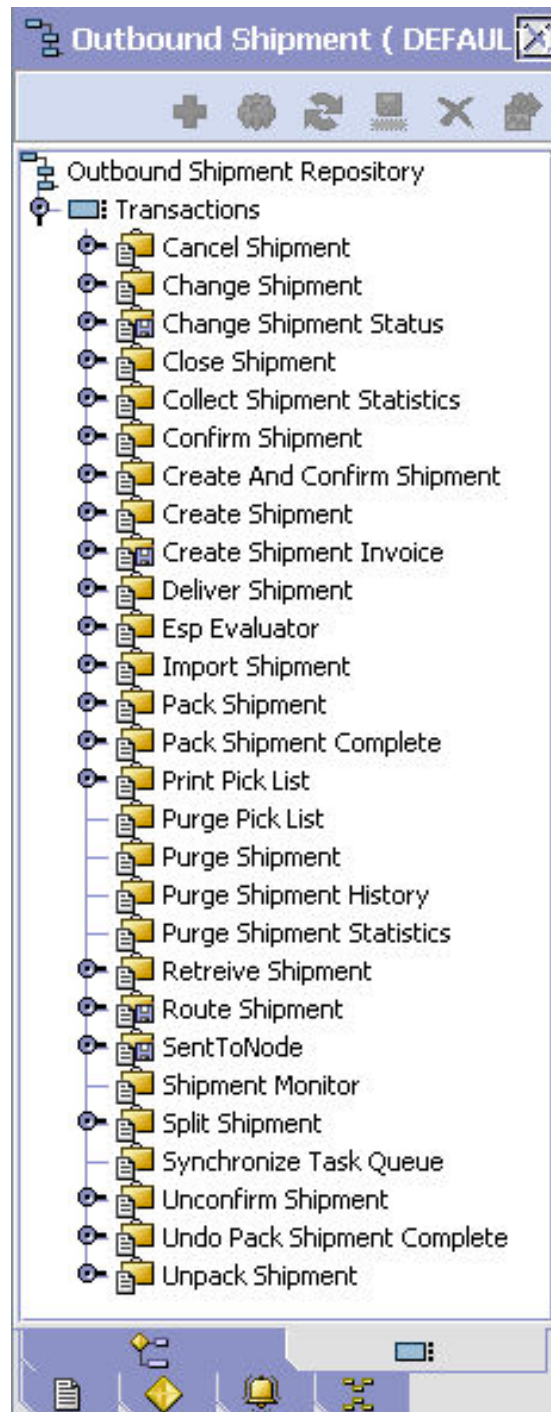


表 46. 返品出荷のパイプライン - 「トランザクション」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
出荷の変更	このトランザクションは、返品出荷に対する任意の変更を表します。
出荷ステータスの変更	このトランザクションは、返品出荷のステータスに関する任意の変更を表します。
出荷を閉じる (Close Shipment)	このトランザクションは、システムにおける返品出荷のクローズおよびアーカイブを表します。

表 46. 返品出荷のパイプライン - 「トランザクション」タブ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
配送の確認	このトランザクションは、返品出荷の手動での確認および配送を表します。
出荷の作成および確認	このトランザクションは、返品出荷の作成および配送のプロセスを表します。
出荷の作成	このトランザクションは、システムにおける返品出荷の作成を表します。
出荷の配達	このトランザクションは、返品出荷の返品ノードへの配達を表します。
出荷のインポート	このトランザクションは、外部システムにより既にある程度処理済みである出荷のインポートのプロセスを表します。
出荷の梱包	このトランザクションは、返品出荷の梱包のプロセスを表します。
ピック・リストの印刷	このトランザクションは、ピック・リストの印刷のプロセスを表します。
ピック・リストのページ	このトランザクションは、システムからページ可能なピック・リストを表します。
出荷のページ	このトランザクションは、返品出荷を履歴テーブルに移動するプロセスを表します。
出荷履歴のページ	このトランザクションは、返品出荷を履歴テーブルからページして、システムから削除するプロセスを表します。
出荷モニター	このトランザクションは、システム内の返品出荷を定義されたパラメーターに基づいてモニターするプロセスを表します。
タスク・キューの同期化	このトランザクションは、返品物流のタスク・キューを同期させるプロセスを表します。
出荷の開梱	このトランザクションは、「出荷の梱包」トランザクションを通過した出荷が開梱されていないことを示します。

出荷固有コンポーネント: ステータス


このタスクについて

ステータスは、ドキュメントがパイプラインを移動する実際の状態です。トランザクションには、「ドロップ・ステータス」と「ピックアップ・ステータス」の 2 つのタイプのステータスを含めることができます。ドキュメントは、トランザクションのイベントと条件が完了すると、**ドロップ・ステータス**に移動します。**ピックアップ・ステータス**は、直前のドロップ・ステータスからドキュメントを取り出し、次のトランザクションへと移動させます。ステータスの例としては、「作成済み」や「スケジュール済み」があります。

ステータスについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品出荷のパイプラインに関するステータスの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「物流管理」>「出荷プロセス・モデル」を選択します。「返品出荷」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品出荷」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「ステータス」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

ステータスの作成および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

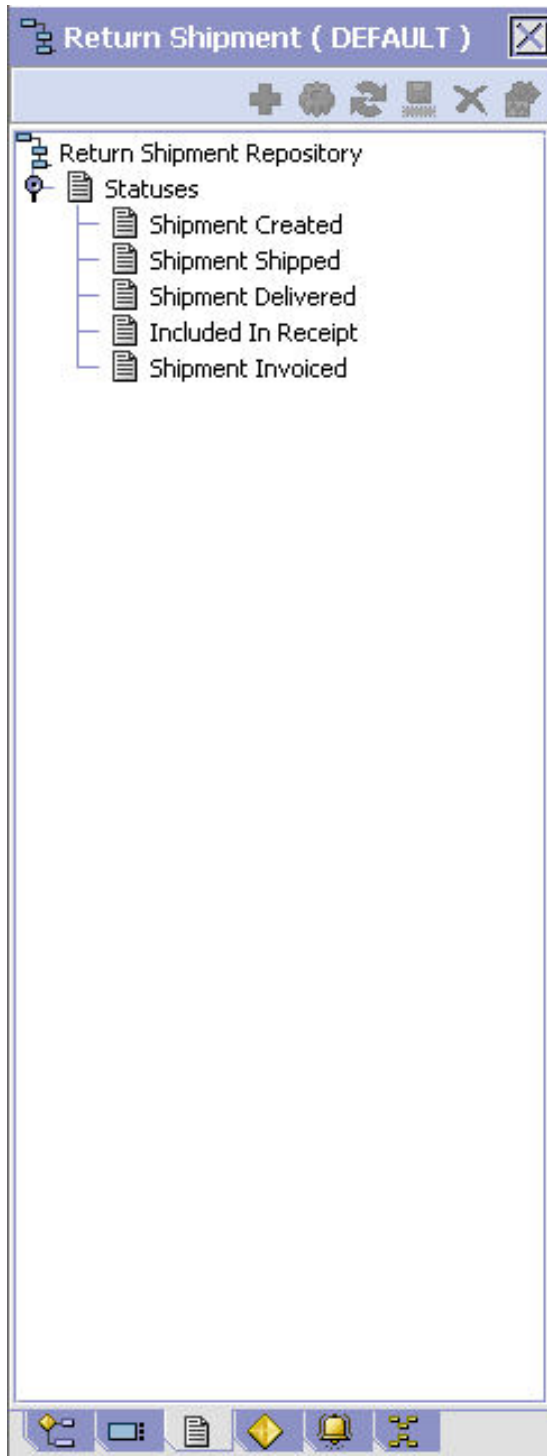


表 47. 返品出荷のパイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
荷作成済み	これは、返品出荷が作成されたことを示します。
出荷完了	これは、返品出荷が返品ノードに出荷されたことを示します。
出荷配達済み	これは、返品出荷が返品ノードに配達されたことを示します。
受入に含まれる	これは、返品出荷が受入に含まれていることを示します。

表 47. 返品出荷のパイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
出荷の請求済み	これは、返品出荷に対する請求書が作成されたことを示します。

出荷固有コンポーネント: 条件


このタスクについて

条件は、決定点に照らして伝票種別属性と突き合わせられ、指定された属性と値の組み合わせに基づいて、ドキュメントをさまざまなパスにルーティングします。条件を作成可能な伝票種別属性は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義されます。これらの属性は任意の組み合わせで使用できます。または特定の状況向けに適切なアプリケーション・ロジックを実行する条件を作成できます。

条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品出荷のパイプラインに関する条件の詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「物流管理」>「出荷プロセス・モデル」を選択します。「返品出荷」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品出荷」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「条件」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

条件の作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

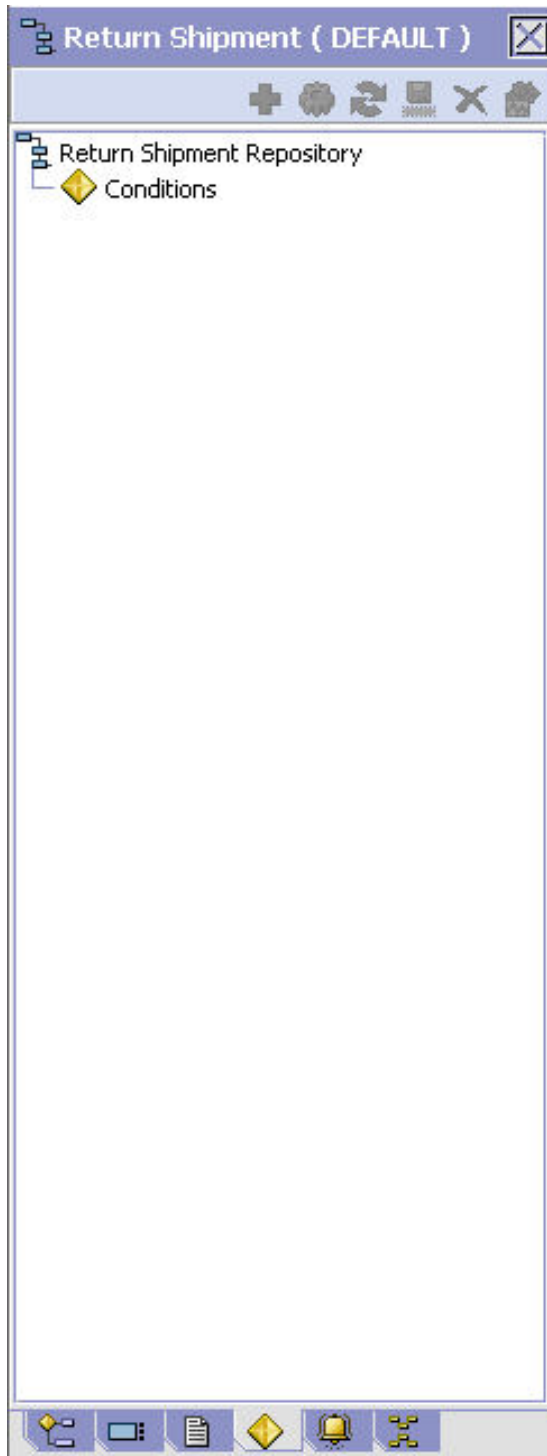


表 48. 返品出荷のパイプライン - 「条件」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
条件	返品出荷のパイプラインに固有の条件があれば、それを表示します。

出荷固有コンポーネント: アクション このタスクについて


アクションは、イベントにより起動されるプロセスまたはプログラムです。これらのプロセスやプログラムは、ユーザーに警告通知を送信し、問題を自動的に解決します。

例えば、オーダーがリリースされると (イベント)、顧客に E メールを送信するアクションを設定できます。

アクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

出荷のパイプラインに関するアクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「物流管理」>「出荷プロセス・モデル」を選択します。「返品出荷」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品出荷」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「アクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

アクションの作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

出荷固有コンポーネント: モニター・コンポーネントの定義

オーダー・ドキュメントのライフサイクル内の予期しない条件や遅延の測定およびレポートに使用するコンポーネントを定義できます。モニター・ルールを構成するためにこれらのコンポーネントを使用することについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

モニター・コンポーネントを定義するには、アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「出庫物流」>「出荷モニター」を選択します。「モニター」ウィンドウが表示されます。

出荷固有コンポーネント: 日付タイプの定義



カスタム日付タイプを定義できます。これらの日付は、構成画面と、アプリケーション・コンソールの「オーダー」/「出荷日」ウィンドウに自動的に表示されます。

出荷固有コンポーネント: 日付タイプの作成

このタスクについて

日付タイプを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「モニター」ウィンドウで、「日付タイプ」タブを選択します。
2. 日付タイプのリストから、 を選択します。「日付タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 49 を参照してください。
4.  を選択します。

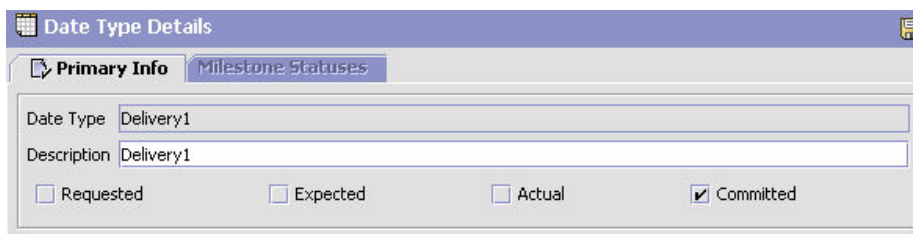


表 49. 「日付タイプの詳細」ウィンドウ



フィールド	説明
日付タイプ	日付タイプの名前を入力します。
説明	日付タイプの簡単な説明を入力します。
要求済み	日付タイプが、バイヤー、ユーザーなどにより要求された日付を表す場合は、このフィールドを選択します。
予定	日付タイプが、何かが起こるとシステムが予想または計算した日付を表す場合は、このフィールドを選択します。
実際の日付	日付タイプが実際の日付を表す場合は、このフィールドを選択します。

出荷固有コンポーネント: 日付タイプの変更

このタスクについて

日付タイプを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「モニター」ウィンドウで、「日付タイプ」タブを選択します。
2. 日付タイプのリストから該当する日付タイプを見つけて、 を選択します。「日付タイプの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、表 49 を参照してください。
4.  を選択します。


出荷固有コンポーネント: 日付タイプの削除

このタスクについて

「配達日」および「出荷日」のシステム日付は削除できません。

日付タイプを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「モニター」ウィンドウで、「日付タイプ」タブを選択します。
2. 日付タイプのリストから該当する日付タイプを見つけて、 を選択します。

出荷固有コンポーネント: マイルストーンの定義

マイルストーンにする、プロセス・タイプ内の適切なステータスを構成できます。マイルストーンは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がオーダーを別のステータスに移動させる時を自動的に決定する日付の 1 タイプです。マイルストーンは、モニターの基準として使用できる、プロセス・ライフサイクルにおける重要なポイントを表します。マイルストーンは、オーダー、オーダー明細、オーダー・リリース、およびオーダー・リリース明細レベルで定義できます。



マイルストーンは、オーダー明細に変更がある場合ではいつでも達成できます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、オーダー明細がマイルストーンとしてマークを付けられているステータスに到達した場合は、到達済みとマークを付けます。ただし、オーダー明細の一部のみが、マイルストーンとして定義されている特定のステータスに到達する場合があります。

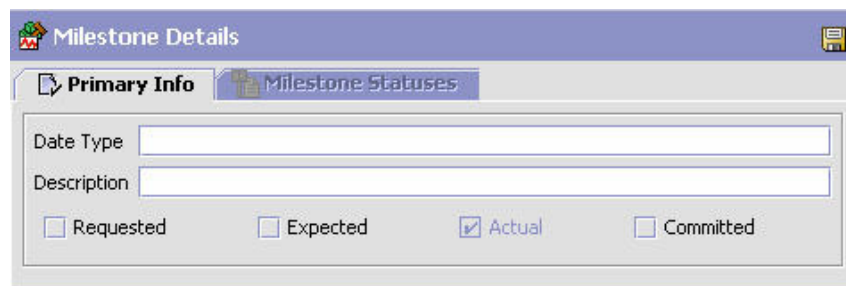
出荷固有コンポーネント: マイルストーンの作成

このタスクについて

マイルストーンを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「モニター」ウィンドウで、「マイルストーン」タブを選択します。
2. マイルストーンのリストから、 を選択します。「マイルストーンの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、192 ページの表 50 を参照してください。
4.  を選択します。



Milestone Details


Primary Info | Milestone Statuses

Date Type

Description

Requested Expected Actual Committed

表 50. マイルストーンの詳細

フィールド	説明
日付タイプ	作成するマイルストーンの名前を入力します。 注: 「日付タイプ」タブで作成した日付タイプを使用することはできません。マイルストーン用に固有の名前を作成する必要があります。
説明	マイルストーンの簡単な説明を入力します。
要求済み	マイルストーンが、バイヤー、ユーザーなどにより要求された日付を表す場合は、このフィールドを選択します。
予定	マイルストーンが、何かが起こるとシステムが予想または計算した日付を表す場合は、このフィールドを選択します。
実際の日付	このフィールドはマイルストーンには適用されません。
マイルストーン・ステータス	 を選択し、該当するフィールドに情報を入力して、マイルストーンに関連付けるステータスを追加できます。 注: このタブは、「主要情報」タブの記入を完了し、保存した後にのみアクセスできます。
日付タイプ	マイルストーンに関連付けられている任意の日付タイプ。
ステータス	マイルストーンが達成されたことを示すステータスを選択します。
レベル	このステータスをオーダー・ヘッダー・レベルで達成する必要があることを示すには、「オーダー」を選択します。 このステータスをオーダー明細レベルで達成する必要があることを示すには、「オーダー明細」を選択します。 このステータスをオーダー・リリース・レベルで達成する必要があることを示すには、「オーダー・リリース」を選択します。
数量タイプ	上記で選択されたレベルにある任意の数量がこのステータスに移動したときにマイルストーンが達成されたことを示すには、「初期」を選択します。 上記で選択されたレベルにあるすべての数量がこのステータスに移動したときにマイルストーンが達成されたことを示すには、「完了」を選択します。

出荷固有コンポーネント: マイルストーンの変更



このタスクについて

既存のマイルストーンを変更した場合、その変更は新規のオーダーに対してのみ適用されます。マイルストーン・レコードが既に作成されている既存のオーダーについては考慮されません。

マイルストーンを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. 「モニター」ウィンドウで、「マイルストーン」タブを選択します。

2. マイルストーンのリストから、該当するマイルストーンを見つけて、 を選択します。「マイルストーンの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、192 ページの表 50 を参照してください。
4.  を選択します。

出荷固有コンポーネント: マイルストーンの削除 このタスクについて

マイルストーンを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「モニター」ウィンドウで、「マイルストーン」タブを選択します。
2. マイルストーンのリストから、該当するマイルストーンを見つけて、 を選択します。



出荷固有コンポーネント: モニター・イベントの定義

イベントは、オーダー・モニターが同じタイプの複数の警告を出す可能性がある場合に使用されます。例えば、一緒に出荷される複数の明細があるオーダーに出荷遅延があり、オーダー・モニターが、出荷が遅延したときに明細レベルで警告を出すように構成されている場合、同じタイプの警告がオーダーの各明細に対して出されます。これらすべての類似警告を集約して、1 つの「根本原因」を示す警告を出すルールを作成できます。

出荷固有コンポーネント: イベント・ルールの作成 このタスクについて

イベント・ルールを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「物流管理」>「イベントのモニター」を選択します。「イベントのモニター」ウィンドウが表示されます。
2. イベントのモニターのリストから、 を選択します。「イベントのモニターの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、194 ページの表 51 を参照してください。
4.  を選択します。

タスクの結果

ほとんどの場合、イベントを識別する属性はイベント集約を指定する属性のサブセットです。

表 51. 「イベントのモニターの詳細」 ポップアップ・ウィンドウ



フィールド	説明
イベント ID	イベント ID を入力します。
説明	イベントについての簡単な説明を入力します。
再警告が必要	特定の時間フレーム内で問題が解決しなかった場合にユーザーに再警告するには、このフィールドを選択します。
再警告間隔	「再警告が必要」を選択した場合、再警告を送信する間隔 (時間数) を入力します。
警告を自動的に解決	警告条件が有効でなくなった場合に自動的に警告を削除するには、このフィールドを選択します。警告が解決された後、再度その条件が検出された場合は、新規警告が発生します。
イベントの識別内容	
出荷	同じ出荷に属している 2 つ以上の警告条件を同一に扱う場合は、このフィールドを選択します。
呼び出すサービス	イベント集約ルールが満たされた場合に呼び出す警告サービスを選択します。
集約とサービス起動の対象	
出荷	警告条件が検出されたときに、出荷に対して 1 つの警告のみを発行する場合は、このフィールドを選択します。

イベントの変更

このタスクについて

イベント・ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「物流管理」>「イベントのモニター」を選択します。「イベントのモニター」ウィンドウが表示されます。
2. イベントのモニターのリストから該当するイベント・ルールを選択して、 を選択します。「イベントのモニターの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールド・レベルの説明については、194 ページの表 51 を参照してください。
4.  を選択します。

出荷固有コンポーネント: イベントの削除

このタスクについて

イベント・ルールを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「物流管理」>「イベントのモニター」を選択します。「イベントのモニター」ウィンドウが表示されます。
2. イベントのモニターのリストから該当するイベント・ルールを選択して、 を選択します。

出荷プリファレンスの定義

出荷プリファレンスを作成して、製品の超過出荷を可能にしたり、システム内のオーダー情報なしで出荷の作成を可能にしたりできます。

超過出荷プリファレンス

超過出荷とは、オーダーされた数量を超過して出荷できるということです。超過出荷許容度定義は、以下の条件を使用して構成できます。

- 明細タイプ
- セラー組織コード
- 顧客とベンダーの分類/バイヤーとセラーの組織コード
- アイテム分類/アイテム ID

出荷時に、出荷プリファレンスが荷の明細の条件に一致するように構成されていない場合、超過出荷は許可されません。構成されている場合、指定されたパーセント内の超過出荷は許可されます。

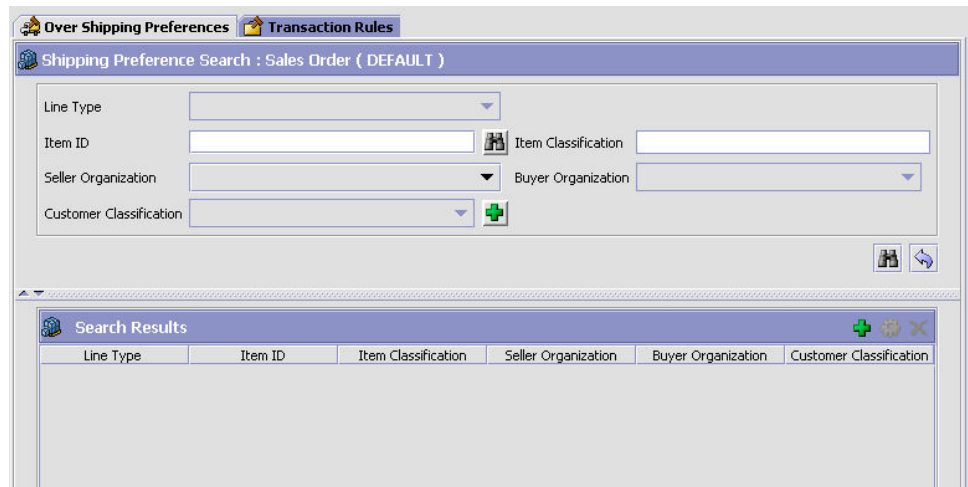
出荷プリファレンスの作成

このタスクについて

出荷プリファレンスを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「出庫物流」>「出荷プリファレンス」を選択します。「出荷プリファレンス」ウィンドウが表示されます。
2. 「出荷プリファレンス」ウィンドウで、「超過出荷プリファレンス」タブを選択します。「出荷プリファレンスの検索」パネルが表示されます。





3. 「検索結果」パネルで、 を選択します。「出荷プリファレンスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、197 ページの表 52 を参照してください。
5.  を選択します。

表 52. 出荷プリファレンスの詳細

フィールド	説明
明細タイプ	超過出荷を許可する明細タイプを選択します。
アイテム ID	超過出荷を許可するアイテムのアイテム ID を入力します (該当する場合)。
アイテム分類	超過出荷を許可するアイテム分類グループを入力します (該当する場合)。アイテム分類について詳しくは、「カタログ管理: 構成ガイド」を参照してください。
セラー組織	超過出荷を許可するセラー組織を選択します。
バイヤー組織	超過出荷を受領可能にするバイヤー組織を選択します。
顧客の分類	超過出荷を受領可能にする顧客の分類を選択します (該当する場合)。
超過出荷率	許可する超過出荷率を入力します。




出荷プリファレンスの変更

このタスクについて

出荷プリファレンスを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルール・サイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「出庫物流」>「出荷プリファレンス」を選択します。「出荷プリファレンス」ウィンドウが表示されます。
2. 「出荷プリファレンス」ウィンドウで、「超過出荷プリファレンス」タブを選択します。「出荷プリファレンスの検索」パネルが表示されます。



3. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。プリファレンスのリストが表示されます。
4. 該当するプリファレンスを選択して、 を選択します。「出荷プリファレンスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
5. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、197 ページの表 52 を参照してください。
6.  を選択します。

出荷プリファレンスの削除

このタスクについて

出荷プリファレンスを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「出庫物流」>「出荷プリファレンス」を選択します。「出荷プリファレンス」ウィンドウが表示されます。
2. 「出荷プリファレンス」ウィンドウで、「超過出荷プリファレンス」タブを選択します。「出荷プリファレンスの検索」パネルが表示されます。
3. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。プリファレンスのリストが表示されます。
4. 該当するプリファレンスを選択して、 を選択します。


トランザクション・ルール

このタスクについて

トランザクション・ルールでは、システム上に既存オーダー情報がない状態で出荷の作成を許可するかどうかを定義します。

トランザクション・ルールを定義するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルール of サイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「出庫物流」>「出荷プリファレンス」を選択します。「出荷プリファレンス」ウィンドウが表示されます。
2. 「出荷プリファレンス」ウィンドウで、「トランザクション・ルール」タブを選択します。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、199 ページの表 53 を参照してください。
4.  を選択します。

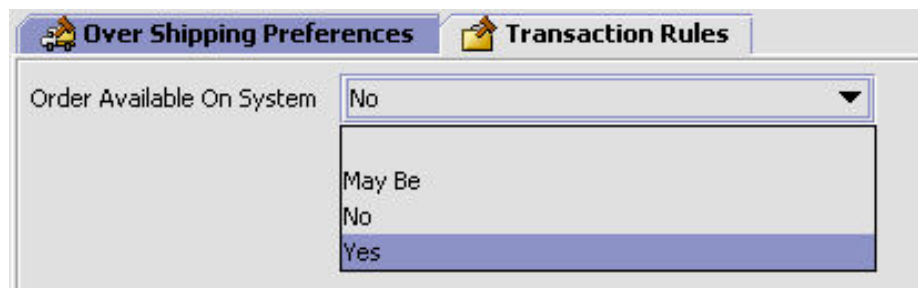


図 20. トランザクション・ルール、出荷プリファレンス

表 53. 「トランザクション・ルール」タブ

フィールド	説明
システムで使用可能なオーダー	<p>既存のオーダーに対して作成された出荷かどうかの確認に、ドロップダウン・リストから適切なオプションを選択します。オプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • おそらく - システム上にオーダーが存在する可能性がある場合は、このオプションを選択します。 • いいえ - システム上にオーダーが存在していない場合は、このオプションを選択します。 • はい - システム上にオーダーが存在している場合は、このオプションを選択します。

第 19 章 オーダー・ドキュメントの受入固有コンポーネントの構成

注: 返品フルフィルメントではソーシング構成が必要です。この構成は「分散オーダー管理」構成グループ化からアクセスできます。ソーシングの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」を参照してください。

オーダー・ドキュメントのライフサイクルを実行するために、各ドキュメントには経ることができる一連のさまざまなプロセスがあります。これらのプロセスは、プロセス・タイプと呼ばれます。すべてのオーダー・ドキュメントには、Sterling Selling and Fulfillment Foundation に、定義済みの一連のプロセス・タイプがあります。

オーダー・ドキュメント・タイプに対しては、以下のプロセス・タイプが Sterling Selling and Fulfillment Foundation で定義されています。

- フルフィルメント
- 交渉
- 出荷
- 受入

オーダー・ドキュメントの受入プロセス・タイプに固有のルールとコンポーネントを構成できます。

受入固有コンポーネント: プロセス・タイプ・パイプラインの構成

プロセス・タイプ・パイプラインとは、販売オーダーなどの伝票種別を、定義済みのプロセスによって手引きする一連のトランザクションとステータスのことです。パイプラインは、フルフィルメント、交渉、出荷、または受入時にドキュメントが経るさまざまなステータスで構成されます。構成するパイプラインに関連するトランザクション (イベント、アクション、および条件から成る) を設定することもできます。

リポジトリー

リポジトリーとは、ビジネス・プロセスのワークフローを定義する、エンティティの論理的な集合体です。

リポジトリーには、以下のエンティティが含まれています。

- パイプライン
- トランザクション
- ステータス
- 条件
- アクション
- サービス

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各システム定義プロセス・タイプの基本リポジトリを提供します。リポジトリ内のエンティティの一部は、新規伝票種別の作成時にコピーされます。新規伝票種別の作成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。

返品受入のプロセスは、パイプラインを経てモデル化されます。これは組織に固有のプロセス構成を表します。組織は、各参加エンタープライズに対して固有のプロセスを指定する場合があります。

受入固有コンポーネント: パイプラインの決定の定義

パイプラインの決定は、ビジネス・プロセス・ワークフローの開始時に使用されるパイプラインに影響を与える条件のセットアップに使用されます。例えば、組織はときには危険物が含まれる販売オーダーを扱うことがあります。これには 2 つの別個のパイプラインがあり、1 つはオーダー明細に危険物がないオーダーが通過するもので、もう 1 つは、オーダー・プロセスを続ける前に、オーダー明細に危険物が含まれているオーダーが検査のために通過しなければならないものです。組織は、オーダー明細に危険物が含まれているかどうかを判別し、オーダー明細を正しいパイプラインに送信する条件をセットアップするために、パイプラインの決定を使用します。

「パイプラインの決定」ブランチを展開表示する場合に表示されるコンポーネントは、ユーザーのログイン時の役割に応じて異なります。「ハブ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」が表示されます。「エンタープライズ」の役割でログインしている場合、「ハブ・ルール」と「マイ・ルール」の両方のコンポーネントが表示されます。該当するノードをダブルクリックすると、パイプラインの決定ルールが表示されます。

「エンタープライズ」の役割としてログインした場合、「ハブ・ルール」画面はグレー化されて編集不能になります。

パイプラインの決定ルールを構成するには、条件とパイプラインを作業領域にドラッグします。1 つのパイプラインまたは条件はルートでなければなりません。条件は、チェーン内の以前のコンポーネントに戻ってリンクさせることはできません。パイプラインには 2 度リンクさせることはできません。

オーダー・ドキュメント・タイプのパイプラインに対してパイプラインの決定を構成する場合、パイプラインの決定は、明細の追加またはオーダーの作成時にのみ考慮されることに注意してください。変更がドラフト・オーダーに対して行われる場合、パイプラインの決定は行われません。

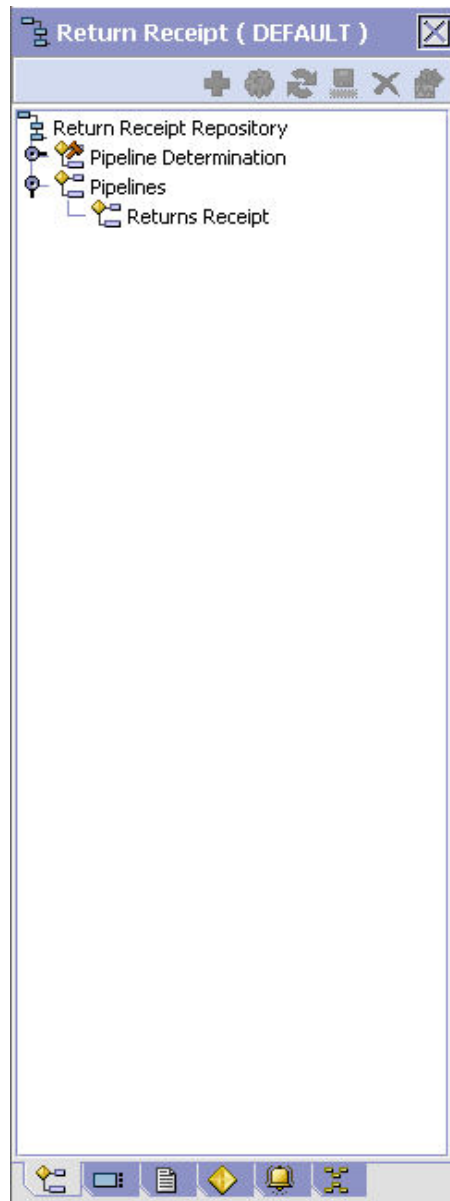
受入固有コンポーネント: パイプライン このタスクについて

パイプラインの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。

返品受入のパイプラインの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

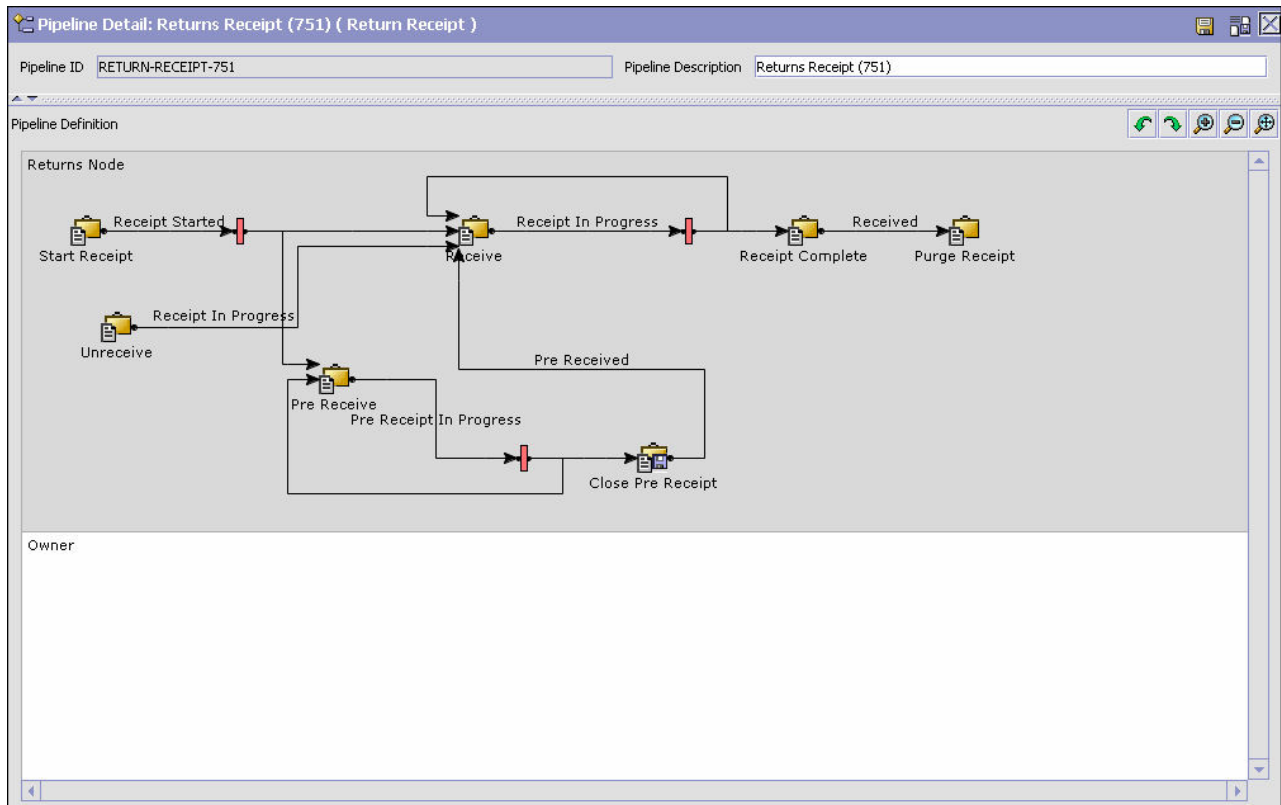
1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入プロセス・モデル」を選択します。「返品受入」ウィンドウが表示されます。



2. 「返品受入」ウィンドウで、「返品受入りポジトリリー (Return Receipt Repository)」>「パイプライン」>「返品受入」の順に選択します。
3. 「パイプラインの詳細: 返品受入 (返品受入)」ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

パイプラインの作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。



受入固有コンポーネント: トランザクション このタスクについて


各プロセス・タイプには、独自に定義された基本トランザクションのセットがあります。トランザクションとは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内でアクティビティを実行するために必要な作業論理単位です。基本トランザクションとは、トランザクションの動作に関する情報 (プロセス・タイプにトランザクションのコピーをいくつ保持するか、構成可能な基本ピックアップ/ドロップ・ステータスをプロセス・タイプに含めるかどうかなど) を含む、事前定義されたトランザクションです。基本トランザクションは、新規のトランザクションを作成する場合に使用できます。これらのトランザクションは、基本トランザクションに定義された制限内で変更することができます。

トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品受入のパイプラインに関するトランザクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入プロセス・モデル」を選択します。「返品受入」ウィンドウが表示されます。

2. 「返品受入」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「トランザクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

トランザクションの作成および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

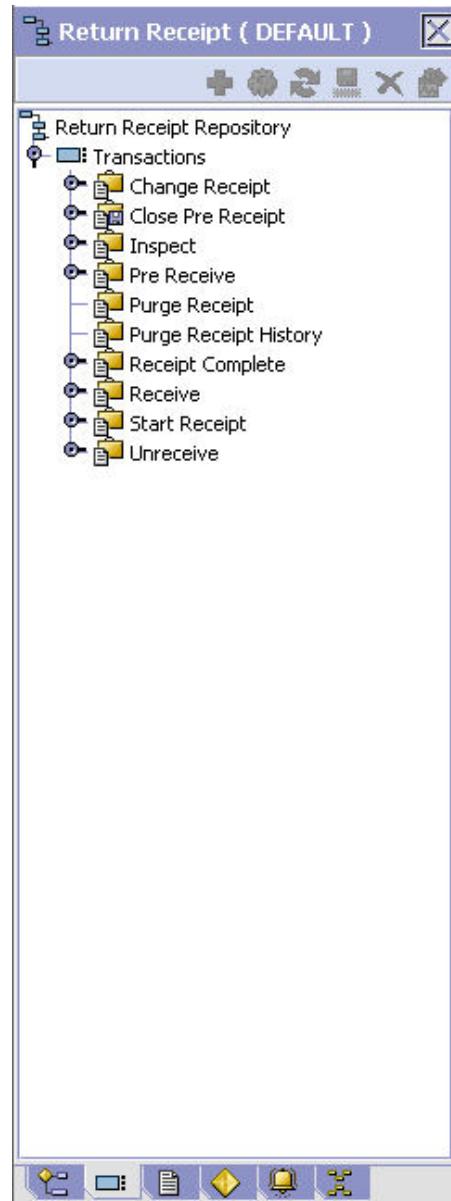


表 54. 返品受入のパイプライン - 「トランザクション」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
受入の変更	このトランザクションは、返品受入に対する任意の変更を表します。
前受けを閉じる	このトランザクションは、前受けプロセスの完了を表します。

表 54. 返品受入のパイプライン - 「トランザクション」タブ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
検査	このトランザクションは、返品受入の手動での検査を表します。
前受け	このトランザクションは、容器の前受けを表します。容器の内容は、実際の受入が実行されるまでシステムでは分かりません。
受入のページ	このトランザクションは、返品受入を履歴テーブルに移動するプロセスを表します。
受入履歴のページ	このトランザクションは、返品受入を履歴テーブルからページして、システムから削除するプロセスを表します。
受入完了	このトランザクションは、受入の完了を表します。
受け取り	このトランザクションは、返品受入を受け取るプロセスを表します。
入荷の開始	このトランザクションは、返品受入プロセスの開始を示します。
未受入	このトランザクションは、実行された受入の取り消しを表します。これは、誤って記録された可能性のある受入を修正するために使用します。

受入固有コンポーネント: ステータス


このタスクについて

ステータスは、ドキュメントがパイプラインを移動する実際の状態です。トランザクションには、「ドロップ・ステータス」と「ピックアップ・ステータス」の 2 つのタイプのステータスを含めることができます。ドキュメントは、トランザクションのイベントと条件が完了すると、**ドロップ・ステータス**に移動します。**ピックアップ・ステータス**は、直前のドロップ・ステータスからドキュメントを取り出し、次のトランザクションへと移動させます。ステータスの例としては、「作成済み」や「スケジュール済み」があります。

ステータスについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。

返品受入のパイプラインに関するステータスの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入プロセス・モデル」を選択します。「返品受入」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品受入」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「ステータス」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

ステータスの作成および変更については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

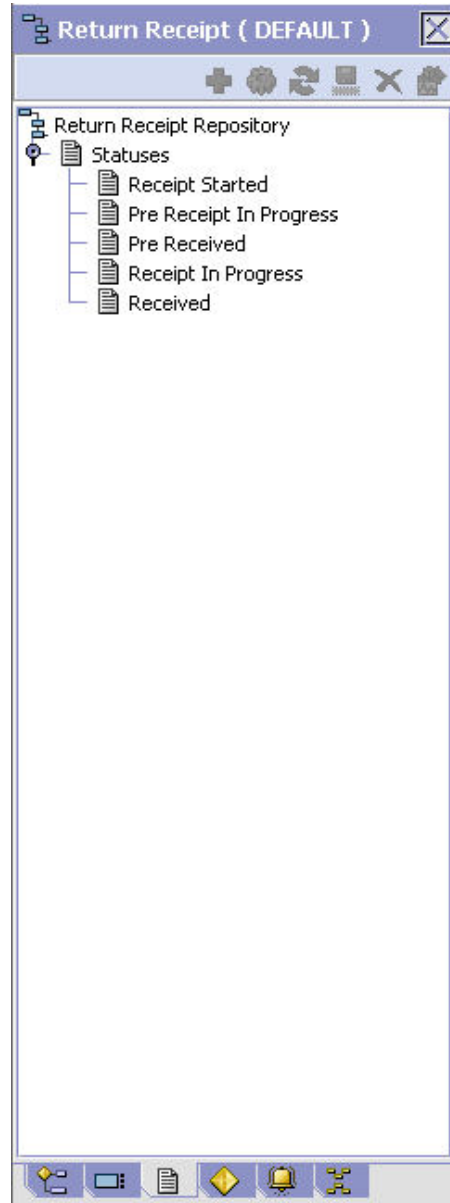


表 55. 返品受入のパイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
受入開始済み	これは、返品受入が開始したことを示します。
前受け進行中	これは、返品受入を前受中であり、前受けが完了するまでパイプラインで続行できないことを示します。
前受け済み	これは、返品受入の前受けが完了したことを示します。

表 55. 返品受入のパイプライン - 「ステータス」タブ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
受入進行中	これは、返品受入を受入中であり、「受入済み」のマークが付くまでパイプラインで続行できないことを示します。 注: 返品受入が「受入進行中」ステータスに移ると、返品オーダーが「返品物流」パイプラインで「受入済み」ステータスに移ります。
受け取り済み	これは、返品受入の受入が完了したことを示します。 注: 返品受入が「受入済み」ステータスに移ると、返品オーダーが「返品物流」パイプラインで「受入終了」ステータスに移ります。

受入固有コンポーネント: 条件


このタスクについて

条件は、決定点に照らして伝票種別属性と突き合わせられ、指定された属性と値の組み合わせに基づいて、ドキュメントをさまざまなパスにルーティングします。条件を作成可能な伝票種別属性は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義されます。これらの属性は任意の組み合わせで使用できます。または特定の状況向けに適切なアプリケーション・ロジックを実行する条件を作成できます。

条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品受入のパイプラインに関する条件の詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入プロセス・モデル」を選択します。「返品受入」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品受入」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「条件」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果

条件の作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

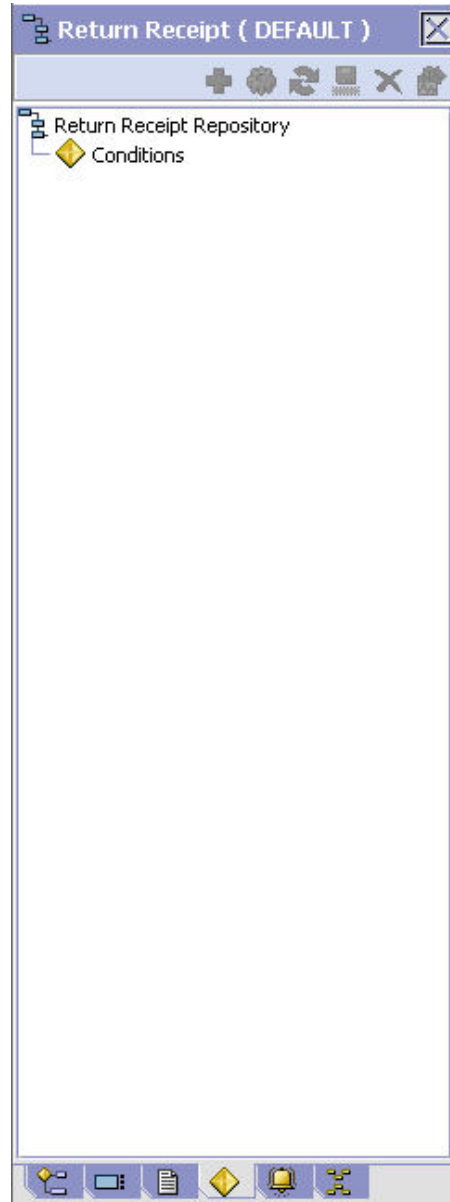


表 56. 返品受入のパイプライン - 「条件」タブ・ウィンドウ

フィールド	説明
条件	返品受入のパイプラインに固有の条件があれば、それを表示します。

受入固有コンポーネント: アクション このタスクについて


アクションは、イベントにより起動されるプロセスまたはプログラムです。これらのプロセスやプログラムは、ユーザーに警告通知を送信し、問題を自動的に解決します。

例えば、オーダーがリリースされると (イベント)、顧客に E メールを送信するアクションを設定できます。

アクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

返品受入のパイプラインに関するアクションの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入プロセス・モデル」を選択します。「返品受入」ウィンドウが表示されます。
2. 「返品受入」ウィンドウで、 を選択します。
3. 「アクション」タブ・ウィンドウが表示されます。

タスクの結果


アクションの作成および変更について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

受入特有のルールの定義

予定外のアイテムの受入の許可 このタスクについて

予定外のアイテムの受入を許可するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入特有のルール」を選択します。「受入特有のルール」ウィンドウが表示されます。
2. 「予定外のアイテムの受入を許可する (Allow Receipt of Unexpected Items)」にチェック・マークを付けます。
3.  を選択します。

受入プリファレンスの定義

受入プリファレンスを作成して、システム内の製品の超過受入を可能にすることができます。超過受入とは、オーダーされた数量を超過して受入できるということです。超過受入許容度定義は、以下の条件を使用して構成できます。

- 明細タイプ
- セラー組織コード
- 顧客とベンダーの分類/バイヤーとセラーの組織コード
- アイテム分類/アイテム ID



受入時に、受入プリファレンスが受入明細の条件に一致するように構成されていない場合、超過受入は許可されません。構成されている場合、指定されたパーセント内の超過受入は許可されます。

受入プリファレンスの作成

このタスクについて

受入プリファレンスを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入プリファレンス」を選択します。「受入プリファレンスの検索」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「受入プリファレンスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 57 を参照してください。
4.  を選択します。

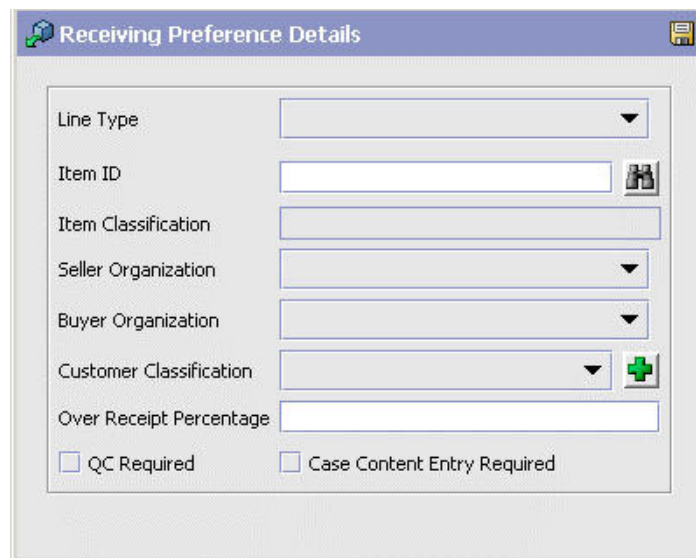


表 57. 受入プリファレンスの詳細

フィールド	説明
明細タイプ	超過受入を許可する明細タイプを選択します。
アイテム ID	超過受入を許可するアイテムのアイテム ID を入力します (該当する場合)。
アイテム分類	超過受入を許可するアイテム分類グループを入力します (該当する場合)。アイテム分類について詳しくは、「カタログ管理: 構成ガイド」を参照してください。
セラー組織	超過受入を許可するセラー組織を選択します。
バイヤー組織	超過受入を受領可能にするバイヤー組織を選択します。




表 57. 受入プリファレンスの詳細 (続き)

フィールド	説明
顧客の分類	超過受入を受領可能にする顧客の分類を選択します (該当する場合)。
超過出荷率	許可する超過受入率を入力します。
QC が必要	受入に対する品質管理チェックが必要な場合は、このフィールドを選択します。
ケース内容の入力が必要	受入時にケースの内容をシステムに入力する必要がある場合は、このフィールドを選択します。

受入プリファレンスの変更 このタスクについて

受入プリファレンスを変更するには、以下の手順を実行します。



手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入プリファレンス」を選択します。「受入プリファレンスの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。プリファレンスのリストが表示されます。
3. 該当するプリファレンスを選択して、 を選択します。「受入プリファレンスの詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、211 ページの表 57 を参照してください。
5.  を選択します。

受入プリファレンスの削除 このタスクについて

受入プリファレンスを削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入プリファレンス」を選択します。「受入プリファレンスの検索」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する検索条件を入力して、 を選択します。プリファレンスのリストが表示されます。
3. 該当するプリファレンスを選択して、 を選択します。

受入処分の定義



受入の取り扱い時に使用する受入処分の共通コードを定義できます。この共通コードは、伝票種別のアイテムの受け入れ時に生じることを識別します。

受入処分の作成

このタスクについて

受入処分を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入処分」を選択します。「返品処分」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「受入処分の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 58 を参照してください。
4.  を選択します。

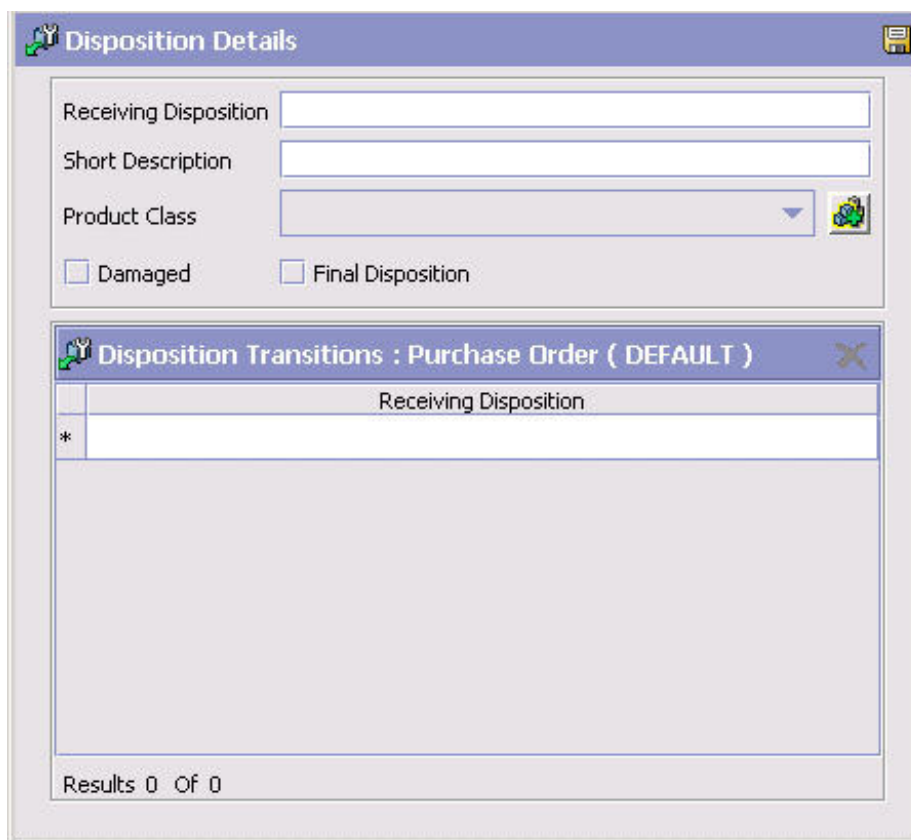


表 58. 受入処分の詳細

フィールド	説明
受入処分	受入処分の名前を入力します。

表 58. 受入処分の詳細 (続き)



フィールド	説明
簡略説明	受入処分の簡単な説明を入力します。
製品クラス	受入済みアイテムに関連付ける製品クラス (product class) を入力します (該当する場合)。例えば、「返品済み (Returned)」の製品クラスを任意の返品アイテムに割り当てることができます。
破損品	損傷品の取り扱いに受入処分を使用する場合は、「破損品 (Is Damaged)」を選択します。
最終処分	受入処分が受入の最終処分として使用される場合は、「最終処分」を選択します。 「最終処分」により、処分コードには「最終」のマークが付けられ、さらなる処分推移を実行できなくなります。
処分推移	これにより、作成または変更中の受入処分と推移を関連付けるために使用可能な既存の受入処分コードが表示されます。
受入処分	推移の関連付けに使用できる既存の受入処分コード。

既存の受入処分からの新規受入処分の作成

このタスクについて

既存の受入処分から新規受入処分を作成するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「返品オーダー」>「受入」>「受入処分」を選択します。
2. 「受入処分」ウィンドウに、受入処分のリストが表示されます。
3. コピーする受入処分を選択します。 を選択します。「処分の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、213 ページの表 58 を参照してください。
5.  を選択します。


受入処分の変更

このタスクについて

受入処分を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入処分」を選択します。「返品処分」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する受入処分を選択して、 を選択します。「受入処分の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。


3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、213 ページの表 58 を参照してください。
4.  を選択します。

受入処分の削除

このタスクについて

受入処분을削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入処分」を選択します。「返品処分」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する受入処分を選択して、 を選択します。

受入不一致理由の定義

出荷の受入または返品時に生じる可能性があるすべての不一致の理由を示すコードを定義できます。

受入不一致には、次の 3 つのタイプがあります。

- 超過受入 - 受入ノードが予定数量と比較して追加の数量を受け取る時に発生します。
- 過少受入 - 受入ノードが受入の予定数量より少ない量を受け取る時に発生します。
- 受入時の破損 - 受入処分コードが破損品を受入済みであることを示しているときに発生します。


特定の不一致タイプでは、定義されている複数の理由コードが存在する場合があります。例えば、予定受入数量より数量が 10 少ない出荷を受け入れた場合、その過少受入不一致は、6 ユニットが SHORT_SHIPMENT であり、4 ユニットが CARRIER_FAULT であるといった、2 つの異なる受入理由を持つ可能性があります。

受入不一致理由の作成

このタスクについて

受入不一致理由を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入不一致理由」を選択します。作業領域に、「受入不一致理由」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「受入不一致理由の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。


3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、表 59 を参照してください。
4.  を選択します。

表 59. 受入不一致理由の詳細

フィールド	説明
不一致理由コード	不一致理由コードの名前を入力します (この名前はシステム全体にわたって表示されます)。
不一致理由の説明	不一致理由の簡単な説明を入力します。
不一致の参照	各自のビジネス慣習に従って追加の参照情報を入力します。
不一致のタイプ・グループ	
超過受入	この不一致理由によって受入ノードが想定より多い数量を受け入れるシナリオを識別するには、「超過受入」を選択します。
過少受入	この不一致理由によって受入ノードが想定より少ない数量を受け入れるシナリオを識別するには、「過少受入」を選択します。
受入時の破損	受入処分で破損品として識別されたアイテムを受入ノードが受け入れるシナリオを識別するには、「受入時の破損」を選択します。
インボイス調整が必要	受入不一致がこの不一致理由に関連付けられている場合に金額調整を行う必要がある場合は、「インボイス調整が必要」を選択します。
インボイス調整タイプ・グループ	
クレジット	「インボイス調整が必要」を選択した場合に、調整額がクレジット・インボイスをもたらす場合は、「クレジット」を選択します。
デビット	「インボイス調整が必要」を選択した場合に、調整額がデビット・インボイスをもたらす場合は、「デビット」を選択します。

表 59. 受入不一致理由の詳細 (続き)



フィールド	説明
インボイス明細の参照	「インボイス調整が必要」を選択した場合は、その調整の名前を入力します。この参照値は、同じオーダー明細に対して複数の調整インボイスが作成される場合に使用されます。この場合は、これらの調整インボイスごとにインボイス明細の参照が異なる場合は、これらの調整インボイスは別々のインボイス明細に分割されます。

受入不一致の理由の変更

このタスクについて

受入不一致の理由を変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入不一致理由」を選択します。作業領域に、「受入不一致理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する受入不一致の理由を選択して、 を選択します。「受入不一致理由の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 該当するフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、216 ページの表 59 を参照してください。
4.  を選択します。

受入不一致の理由の削除

このタスクについて

受入不一致の理由を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルール of サイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「受入」>「受入不一致理由」を選択します。作業領域に、「受入不一致理由」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する受入不一致の理由を選択して、 を選択します。

第 20 章 ドキュメントの会計コンポーネントの構成

特定のオーダー・ドキュメントでの支払いと料金にルール (rule) と共通コード (common codes) が関連するとき、それらを定義できます。

支払条件の定義


顧客と共有できる「支払条件」の共通コードを定義できます。これらの条件は、事前定義された支払いの方法です。

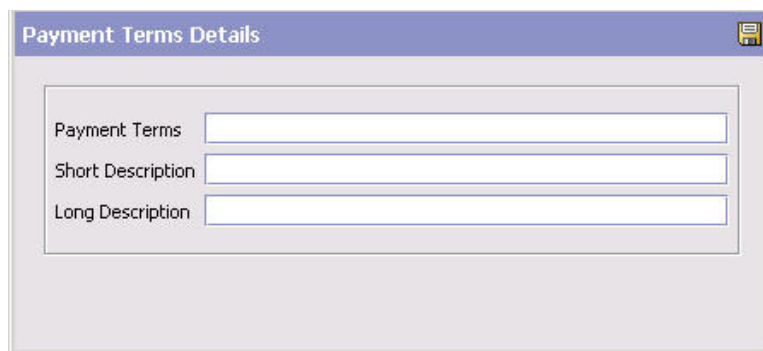
支払条件の作成


このタスクについて

支払条件を作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「会計」>「支払条件」を選択します。作業領域に、「支払条件」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「支払条件の詳細 (Payment Term Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。





3. 「支払条件」に、支払条件の名前を入力します。
4. 「簡略説明」に、支払条件の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、支払条件の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

支払条件の変更

このタスクについて

支払条件を変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「会計」>「支払条件」を選択します。作業領域に、「支払条件」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する支払条件を選択して、 を選択します。「支払条件の詳細 (Payment Term Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
3. 「簡略説明」に、支払条件の簡単な説明を入力します。
4. 「詳細説明」に、支払条件の詳細な説明を入力します。
5.  を選択します。

支払条件の削除

このタスクについて

支払条件を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「会計」>「支払条件」を選択します。作業領域に、「支払条件」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する支払条件を選択して、 を選択します。

料金の定義の定義

料金カテゴリーを作成することで、オーダーやインボイスに関連付けることができる「**料金の定義**」を定義できます。これらのカテゴリーには、特定のカテゴリーの使用時に使用できる関連料金名のグループが入ります。料金をオーダー・ヘッダーまたはオーダー明細に追加する場合は、ここで定義した料金カテゴリーを使用する必要があります。オーダー・ヘッダーまたはオーダー明細で使用する料金名は、追加の支払ルールの「料金名の確認」ルールに応じて定義できますが、定義しなくても構いません。このルールについて詳しくは、225 ページの『追加の支払ルールの定義』を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation のデフォルトの料金の定義は、以下のとおりです。

- 配送
- 取り扱い
- カスタマイズ
- 割引


デフォルトの料金の定義は、インストール時にハブ組織のみが使用できます。作成されたエンタープライズは、独自の料金の定義を作成する必要があります。

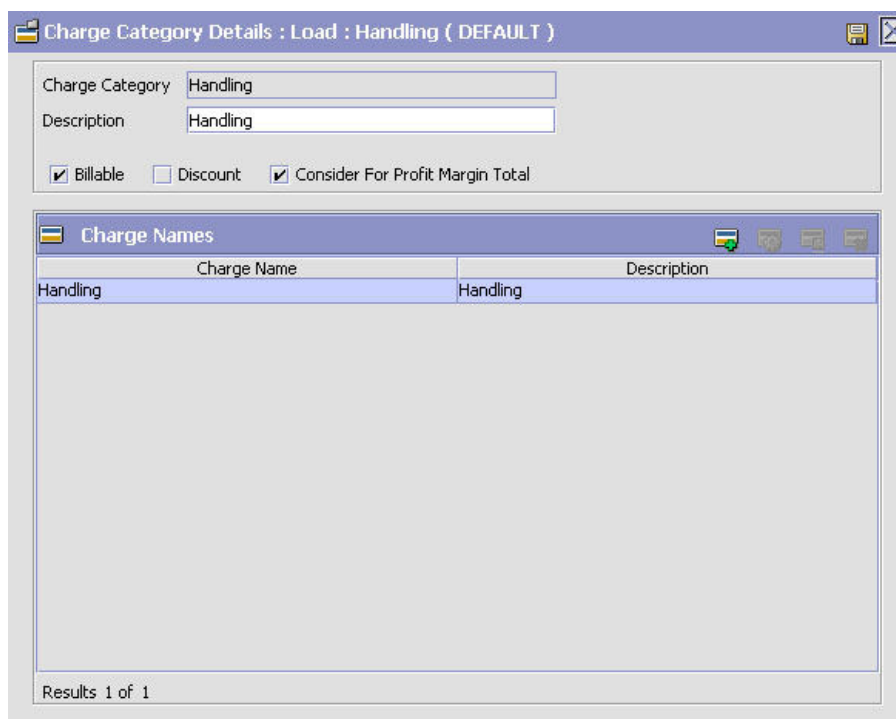
料金カテゴリーの作成

このタスクについて


料金カテゴリーを作成するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「料金カテゴリー」を選択します。作業領域に、「料金カテゴリー」ウィンドウが表示されます。
2.  を選択します。「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウが表示されます。



Charge Name	Description
Handling	Handling

3. 「料金カテゴリー」に、料金カテゴリーの名前を入力します。
4. 「説明」に、料金カテゴリーの簡単な説明を入力します。
5. 請求可能な料金である場合は、「請求可能」を選択します。請求不可能な料金は、オーダー合計では考慮されませんが、インボイスに表示されます。
6. 作成する料金が割引料金タイプである場合は、「割引」を選択します。
7. カテゴリーを利益率計算のために使用する必要がある場合は、「利益率合計を考慮する」を選択します。
8.  を選択します。

タスクの結果


料金カテゴリーはローカライズできません。ローカライズについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* ローカライズ・ガイド」を参照してください。

料金カテゴリーに関連付けられた料金名の追加 このタスクについて

料金名は、料金の定義に含まれる実際の料金の名前です。


料金名を料金カテゴリーに追加するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウで、 を選択します。「料金名の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Charge Name Details". It has a standard Windows-style title bar with a close button on the right. The main area contains three input fields stacked vertically. The first field is labeled "Charge Category" and contains the text "Shipping". The second field is labeled "Charge Name" and is empty. The third field is labeled "Description" and is also empty. There is a save icon in the top right corner of the dialog box.

2. 「料金名」に料金名を入力します。
3. 「説明」に、料金名の簡単な説明を入力します。
4.  を選択します。



タスクの結果

料金名をローカライズすることはできません。ローカライズについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation ローカライズ・ガイド*」を参照してください。

料金カテゴリーに関連した料金名の変更 このタスクについて


料金カテゴリーの料金名を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウで、該当する料金名を選択して、 を選択します。「料金名の詳細」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
2. 「説明」に、料金名の簡単な説明を入力します。
3.  を選択します。

料金カテゴリーに関連した料金名の削除

このタスクについて



料金カテゴリーの料金名を削除するには、「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウで該当する料金名を選択し、 を選択します。

料金カテゴリーの変更

このタスクについて

料金カテゴリーを変更するには、以下の手順を実行します。

手順


1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「料金カテゴリー」を選択します。作業領域に、「料金カテゴリー」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する料金カテゴリーを選択して、 を選択します。「料金カテゴリーの詳細」ウィンドウが表示されます。
3. 「説明」に、料金カテゴリーの簡単な説明を入力します。
4. 請求可能な料金である場合は、「請求可能」を選択します。請求不可能な料金は、オーダー合計では考慮されませんが、インボイスに表示されます。
5. 作成する料金が割引料金タイプである場合は、「割引」を選択します。
6. カテゴリーを利益率計算のために使用する必要がある場合は、「利益率合計を考慮する」を選択します。
7.  を選択します。

料金カテゴリーの削除

このタスクについて

料金の定義を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「集合・混載」>「料金カテゴリー」を選択します。作業領域に、「料金カテゴリー」ウィンドウが表示されます。
2. 該当する料金カテゴリーを選択して、 を選択します。

税金名の定義

税金名の共通コードを定義できます。**税金名**は、オーダーとインボイスに関連付けることができる、特定の税です。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、価格に対する税、料金に対する税、または均等税の 3 つの異なる税タイプがあることを識別します。

- 価格に対する税は、オーダー明細の価格の一定パーセントの追加コストです。


- 料金に対する税は、オーダー・ヘッダーまたはオーダー明細の既存の料金の一定パーセントの追加コストです。料金に対する税を追加する場合、料金カテゴリーは、オーダー・ヘッダーまたはオーダー明細に既に存在しているものでなければなりません。
- 均等税は、料金や価格に関係なく、オーダーに適用される固定税です。

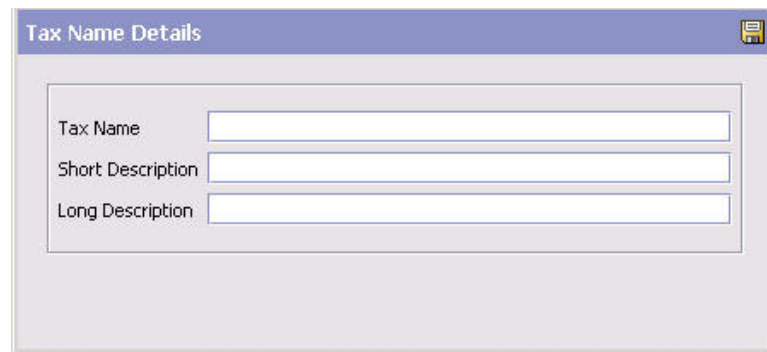
税金名の作成

このタスクについて


税金名を作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「会計」>「会計属性」を選択します。作業領域に、「会計」ウィンドウが表示されます。
2. 「税金名」タブを選択します。
3.  を選択します。「税金名の詳細 (Tax Name Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Tax Name Details". It contains three text input fields stacked vertically, labeled "Tax Name", "Short Description", and "Long Description". The dialog has a standard Windows-style title bar with a close button on the right.

4. 「税金名」に、税金名の名前を入力します。
5. 「簡略説明」に、税金名の簡単な説明を入力します。
6. 「詳細説明」に、税金名の詳細な説明を入力します。
7.  を選択します。



税金名の削除

このタスクについて

税金名を変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「会計」>「会計属性」を選択します。作業領域に、「会計」ウィンドウが表示されます。
2. 「税金名」タブを選択します。


3. 該当する税金名を選択して、 を選択します。「税金名の詳細 (Tax Name Details)」ポップアップ・ウィンドウが表示されます。
4. 「簡略説明」に、税金名の簡単な説明を入力します。
5. 「詳細説明」に、税金名の詳細な説明を入力します。
6.  を選択します。

税金名の削除

このタスクについて

税金名を削除するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「会計」>「会計属性」を選択します。作業領域に、「会計」ウィンドウが表示されます。
2. 「税金名」タブを選択します。
3. 該当する税金名を選択して、 を選択します。

追加の支払ルールの定義

このタスクについて

オーダーが支払承認のために送信されるときに使用される支払集金ルールをセットアップできます。

注: 見積のための追加の支払ルールを定義するには、追加の見積用支払ルールの定義を参照してください。

追加の支払ルールを定義するには、次の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「会計」>「会計ルール」を選択します。「会計ルール」ウィンドウが作業領域に表示されます。

Financial Rules : Sales Order (DEFAULT)

Hold Order For Authorization
 Use Same Authorization Multiple Times

Allow Refund To Exceed Charged Amount
 Validate Charge Name


Create Invoice Before Order Or Shipment
 Apply Price Change To Invoiced Quantity

Do Not Allow Debit And Credit Invoices To Settle Each Other
 Invoice Open Header Charges/Taxes On Invoice Complete

Allow Refunding Of Negative Debits Before Sufficient Collection Has Occurred
 Prioritize INVOICED Payment Status Over REQUEST_CHARGE For Asynchronous Processing

Disassociate Payment Processing of Advanced PrePaid Exchange Order From Return Order

Expiration For Authorization (Days)

Hold To Be Applied Due To Insufficient Funds In Customer Account 

Charge Name For Shipping


Create Shipment Invoice For Bundle Parent On Invoicing Of

All Bundle Components
 First Bundle Component

Date For Pricing Confirmed Orders

Use System Date
 Use Order Date

2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、以下の表を参照してください。

3.  を選択します。

タスクの結果

表 60. 支払ルール

フィールド	説明
承認が必要なオーダーの保留	承認目的のためにオーダーを保留する場合は、このチェック・ボックスを選択します。
同じ承認を複数回使用	同じ承認を複数のトランザクションで使用する場合は、このチェック・ボックスを選択します。
請求金額を超える返金を許可	請求金額を超える返金を許可する場合は、このチェック・ボックスを選択します。
料金名の確認	支払集金に進む前に、オーダー伝票に使用される料金名が有効であることを自動的に確認するには、このチェック・ボックスを選択します。
オーダー/出荷前のインボイス作成	オーダーまたは出荷の前に通知インボイスを作成できるようにするには、このチェック・ボックスを選択します。

表 60. 支払ルール (続き)

フィールド	説明
請求済み数量に価格変更を適用	価格変更を請求済み数量に適用するには、このチェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスを選択しない場合は、請求後の価格変更はオーダーに適用されません。
デビット・インボイスとクレジット・インボイスを相殺しない	ポジティブ・トランザクションとネガティブ・トランザクションによる相殺を禁止するには、このチェック・ボックスを選択します。
請求完了時の請求未完了ヘッダー料金/税	オーダーが「請求完了」ステータスになったときに、すべての未完了ヘッダー料金/税が請求されるようにするには、このチェック・ボックスを選択します。
十分な金額を回収する前に、負のデビットの返金を許可する	「デビット・インボイスとクレジット・インボイスを相殺しない」を選択している場合は、このルールによって、クレジット伝票の返金を直ちに行うのか、そのオーダーの返金のための十分なクレジットが確保されるまで待つかが決定されます。これは販売オーダーのみに適用されます。
返品オーダーから事前払い交換オーダーの支払処理の関連付けを解除	返品オーダーと事前払い交換オーダーの間で資金が転送されないようにするには、このチェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスを選択した場合は、返品オーダーが請求されると、その金額は対応する販売オーダーの支払方法に返金されます。事前払い交換オーダーの支払方法に対して、事前払い交換オーダーの全額が請求されて、返品オーダーの全額が返金されます。注: このチェック・ボックスを選択した場合は、返品オーダー・インボイスの詳細には返金の詳細も含まれます。注: 通知なし返品オーダーの場合は、このチェック・ボックスが選択されている場合、その金額はその通知なし返品オーダーの支払方法に対して返金されます。
非同期処理の際、INVOICED 支払ステータスを REQUEST_CHARGE よりも優先する	請求済みオーダーについて非同期支払要請が発行された場合に、それらのオーダーが INVOICED ステータスのままになるようにするには、このチェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスを選択しない場合は、オーダーは REQUESTED_CHARGE ステータスに移行します (このステータスはそれらのオーダーに対する保留中の料金が存在することを示します)。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

表 60. 支払ルール (続き)

フィールド	説明
承認の期限 (日数)	承認が期限切れになる何日前に、「支払集金」時間トリガー・トランザクションによって再承認要請を自動的に作成するのかを指定します。例えば、オーダーが 4 月 15 日に期限切れになる場合に、ここで指定した日数が「4」の場合は、再承認要請は 4 月 11 日に作成されます。
顧客アカウントの資金不足により適用する保留タイプ	顧客アカウントの資金不足のためにトランザクションを完了できない場合に適用される保留タイプを作成または選択します。保留はシステムによって内部的にトリガーされるため、保留構成で自動的に適用されるように設定してはいけません。
出荷の料金名	オーダーの出荷料を表す料金名を選択します (221 ページの『料金カテゴリーの作成』を参照)。注: 価格設定ルールで使用されているのと同じ料金名を使用しないでください。同じ料金名を使用した場合は、想定外の価格設定計算が行われます。
次のインボイス作成時にバンドル親の出荷インボイスを作成	
すべてのバンドル・コンポーネント	すべてのバンドル・コンポーネントが請求された後にバンドル親の出荷インボイスを作成するには、このチェック・ボックスを選択します。
最初のバンドル・コンポーネント	最初のバンドル・コンポーネントが請求された後にバンドル親の出荷インボイスを作成するには、このチェック・ボックスを選択します。
確認済みオーダーの価格設定日	
システム日付を使用する	現在のシステム日付に基づいて価格設定を行う場合は、このラジオ・ボタンを選択します。
オーダー日を使用する	オーダー日に基づいて価格設定を行う場合は、このラジオ・ボタンを選択します。

第 21 章 ドキュメントのページ条件の構成

ページ条件ビジネス・ルールは、各タイプのページに関連する制限を定義するために使用されます。ページは、システム・データベースから古いデータを削除するためのプロセスです。ページは、未使用のデータベース・レコードの数を最小化することで、検索効率を高め、必要な物理ディスクのサイズを削減します。ページ条件ルールでは、デフォルトのページ・ルールが提供されます。これらは、ご使用のシステム操作に合わせて変更できます。

表 61では、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のオーダー・ドキュメント・タイプ用に提供されたページ・ルールをリストしています。

表 61. オーダー・ドキュメント・タイプのページ・ルール

ルール	説明	デフォルトの保持日数
PRG_SHIP_STATS	出荷統計をページし、それらを履歴テーブルに保存します。	30
STATUSAUDITPRG	オーダー経過日数警告をページします (オーダー・ドキュメント・タイプが、指定された期間、特定の状態のままであるときに、システムが警告を起動するように構成されている場合)。	30
NEGOTIATIONPRG	交渉情報をページし、それを履歴テーブルに保存します。	30
NEGOTIATIONHISTPRG	交渉情報を交渉履歴テーブルからページします。	30
RECEIPTPRG	受入情報をページし、それを履歴テーブルに保存します。	30
RECEIPHISTPRG	受入情報を受入履歴テーブルからページします。	30
ORDERHISTPRG	オーダー情報をオーダー履歴テーブルからページします。	30
ORDERPRG	オーダー情報をページし、それを履歴テーブルに保存します。	30
ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE	数量 0 のオーダー・リリース・ステータス・レコードをページします。	30
PICKLISTPRG	ピック・リスト情報をページします。	30
SHIPMENTHISTPRG	出荷履歴テーブルから出荷情報をページします。	30
SHIPMENTPRG	出荷情報をページし、それを履歴テーブルに保存します。	30

表 61. オーダー・ドキュメント・タイプのパージ・ルール (続き)

ルール	説明	デフォルトの保持日数
DRAFTORDERNOLINEPRG	オーダー明細がないドラフト・オーダーをパージします。	30
DRAFTORDERNOLINEHISTPRG	オーダー明細がないドラフト・オーダーを履歴テーブルからパージします。	30
DRAFTORDERHISTPRG	ドラフト・オーダー情報をドラフト・オーダー履歴テーブルからパージします。	30
DRAFTORDERPRG	ドラフト・オーダー情報をパージし、それを履歴テーブルに保存します。	30

表 62では、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の案件伝票種別用に提供されたパージ・ルールをリストしています。

表 62. 案件伝票種別のパージ・ルール


ルール	説明	デフォルトの保持日数
OPPORTUNITYPRG	案件情報をパージし、それを履歴テーブルに保存します。	30
OPPORTUNITYHISTPRG	案件情報を案件履歴テーブルからパージします。	30

オーダー伝票種別のパージ条件ルールの変更

このタスクについて

オーダー伝票種別のパージ条件ルールを変更するには、以下の手順を実行します。

手順

1. アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「ドキュメント固有」>「(伝票種別)」>「パージ条件」を選択します。作業領域に、「パージ条件リスト」ウィンドウが表示されます。
2. 必要なフィールドに情報を入力します。フィールドの値の説明については、231ページの表 63 を参照してください。
3.  を選択します。

Purge Criteria Details

Purge Code: ORDERHISTPRG Description: Order History Purge

Rollback Segment: Retention Days: 30

Write To Log File Log File Name: Order_history_purge_data.log

Line Type	Additional Retention Days
[E1 line type]	600
*	

表 63. 「パージ条件の詳細」 ポップアップ・ウィンドウ

フィールド	説明
パージ・コード	パージ・プログラムを示します。これは、システム定義のコードです。
説明	パージのタイプを説明します。
ロールバック・セグメント	パージ・コードによって承認されたパージ・トランザクションで明示的に使用されるロールバック・セグメントを定義します。これは、大量の論理データ・セットをパージしなくてはならない場合に役立ちます。これはオプションで、オーダー関連のパージで使用します。
保持日数	データをデータベースに保持する日数を (プログラム実行の日時からさかのぼって) 入力します。ここで入力する保持日数が、テーブル・サイズで考慮されていることを確認します。
ログ・ファイルに書き込む	パージされたデータをログ・ファイルに書き込む場合は、このボックスにチェック・マークを付けます。ログ・ファイルはバックアップして、後日ジャーナルとして使用することができます。

表 63. 「ページ条件の詳細」 ポップアップ・ウィンドウ (続き)

フィールド	説明
ログ・ファイル名	<p>ログ・ファイル名を入力します。ログ・ファイルは、<code>yfs.purge.path</code> プロパティで指定されたディレクトリに作成されます。これが受け渡されない場合、<code>yfs.properties</code> ファイルに指定された値がデフォルトとなります。変数が導入された場合は、<code>yfs.purge.path</code> は無視されます。</p> <p>このプロパティをオーバーライドするには、これに関するエントリを <code><INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties</code> ファイルに追加します。<code>customer_overrides.properties</code> ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド</i>』を参照してください。</p> <p>ログ・ファイル・ディレクトリに対する変数の使用については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>国際化対応に関するファイル名の制限については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation ローカライズ・ガイド</i>』を参照してください。</p>
<p>追加ページ条件</p> <p>これらのパラメーターを使用して、オーダー履歴ページの保持日数をオーバーライドします。このオーバーライドは、エンタープライズおよび伝票種別のレベルで定義される各オーダー内の明細タイプに基づいて構成されます。</p> <p>注: これらの追加パラメーターは、オーダー履歴ページ (ORDHISTPRG) 条件に対してのみ定義できます。</p>	
明細タイプ	<p>ドロップダウン・リストから明細タイプを選択します。明細タイプの定義については、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide</i>』を参照してください。</p>
追加保持日数	<p>データをデータベースに保持する追加の日数 (オーダー履歴ページにより指定された保持日数とは別) を入力します。ここで入力する保持日数が、テーブル・サイズで考慮されていることを確認します。</p> <p>注: 追加保持日数を検討するには、オーダー明細にキャンセルまたは在庫切れしていない数量があることが必要です。</p>

注: パージされたオーダーをリストアした後に、履歴ページ日付をリセットすることはできません。例えば、オーダーがパージされて履歴ページ日付が 20070801 である場合に、オーダーを 2006 年のデータでリストアしても、履歴ページ日付は 20070801 のままです。

タスクの結果

以下の例では、オーダー発行シナリオにおける明細タイプ・ページのユース・ケースが示されています。

オーダーが以下の 4 つのオーダー明細で発行されたとします。

- オーダー明細 1 - テレビ
- オーダー明細 2 - 2 年間のテレビ・サービス・プラン (明細タイプは 2YR_WARRANTY)。したがって、追加保持日数は 721 です。
- オーダー明細 3 - ステレオ
- オーダー明細 4 - 4 年間のステレオ・サービス・プラン (明細タイプは 4YR_WARRANTY)。したがって、追加保持日数は 1451 です。

30 日を経過するとオーダーがパージされるように設定されているとします。1 日目に、オーダーはパージ可能ステータスに移動します。30 日目に、オーダーは履歴テーブルにパージされます。パージ履歴日付は、次のように設定されます。

本日 + 10 + 最大 (721, 1491) = 1491 日で、10 は履歴パージの保持日数です。

パージ履歴日付が設定されているため、40 日目に履歴パージ・エージェントによるこのオーダーのパージ対象としての選択は発生しません。正確には、オーダーは 1491 日目に履歴からパージされます。

第 22 章 時間トリガー・トランザクション参照

時間トリガー・トランザクション参照

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一群の時間トリガー・トランザクションを提供します。これは、さまざまな個別機能をそれぞれ自動的にまたは一定の時間間隔で実行するユーティリティです。

時間トリガー・トランザクションは、スケジュール・ベースで反復アクションを実行します。標準的な実行内容としては、データベースの更新、イベントの発行、または API の呼び出しなどがあります。1 タイプのトランザクションであるモニターは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すように設計されています。モニターは、常時ではないものの頻繁に、タスク・キューからタスクを取り出したり、パイプラインから作業を取り出したりします。

一部のトランザクションでは、アプリケーションの正常性に関する統計データを収集できます。このデータは、`yfs.properties` ファイルの `yantra.statistics.persist.interval` 属性に指定された値を使用して、定期的に収集されます。デフォルトでは、統計収集は `on` に設定されています。このプロパティをオーバーライドするには、項目を `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルに追加します。`customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

統計の持続性について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。使用される特定の統計パラメーターについて詳しくは、該当する時間トリガー・トランザクションを参照してください。

この章で説明されている時間トリガー・トランザクションは、固有のトランザクションであり、これは伝票種別に固有である場合もあれば、そうでない場合もあります。ドキュメント固有トランザクションの場合、命名法はそのベースとなる固有トランザクションを定義するのに役立ちます。トランザクション ID は `Unique_Transaction_ID.Document_Type_Code` という形式です。例えば、返品のパージのトランザクション ID が `PURGE.0003` であれば、それが固有トランザクション `PURGE` をベースとしており、伝票種別は返品オーダーの `0003` であることを示します。したがって、返品のパージを構成できるようにするには、この章で、オーダー・パージである `PURGE` トランザクション ID を探す必要があります。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、以下のタイプの時間トリガー・トランザクションを提供します。

- ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション - 処理を扱います。
- 時間トリガー・パージ・トランザクション - 処理の完了後に破棄できるデータをクリアします。

- タスク・キュー同期プログラムの時間トリガー・トランザクション - 最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新します。
- モニター - 処理の遅延および例外について監視し、警告を送信します。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、各時間トリガー・トランザクションの以下の統計を追跡します。

- ExecuteMessageCreated - 一定の時間間隔内に JMS キューに追加されたジョブ数。
- ExecuteMessageSuccess - 一定の時間間隔内に正常に実行されたジョブ数。
- ExecuteMessageError - 一定の時間間隔内で実行が失敗したジョブ数。
- GetJobsProcessed - 一定の時間間隔内で処理された GetJob メッセージの数。

注: 時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

時間トリガー・トランザクションの実行

すべての時間トリガー・トランザクションは、スレッド対応です。これはつまり、単一のプロセス内でトランザクションの複数のインスタンスを実行できるということです。時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* インストール・ガイド」を参照してください。システムを同時に実行しながらのシステム・パフォーマンスの微調整については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* パフォーマンス管理ガイド」を参照してください。

時間トリガー・トランザクションをスケジュールする前に完了しておくステップ

このタスクについて

時間トリガー・トランザクションの実行およびスケジューリングの前に、以下の手順を完了していることを確認してください。

手順

1. 時間トリガー・トランザクション用に構成された QCF 名に関連付ける JMS 接続ファクトリーを構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、JMS 接続ファクトリーとして AGENT_QCF が含まれます。JMS の構成について詳しくは、ご使用のアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。
2. 時間トリガー・トランザクションのグループまたは個別の名前に関連付ける JMS サーバーの宛先を構成します。Sterling Selling and Fulfillment Foundation のファクトリーのデフォルトには、サーバーの宛先として DefaultAgentQueue が含まれます。destination。JMS サーバーの宛先の名前にドット (.) を入れないでください (例えば、

「A.0001」)。ドットが入っている場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation はそのサーバーと通信できなくなります。

3. Applications Manager を使用して、ビジネス・プロセスで必要な時間トリガー・トランザクションごとに構成します。構成方法については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」の『トランザクションの定義』のセクションで説明されています。時間トリガー・トランザクションの条件パラメーターのセットごとに、JMS エージェント・サーバーとの適切な関連付けがされている必要があります。

エージェントと JMS サーバーの間の通信の構成

このタスクについて

エージェント (時間トリガー・トランザクション) とリモート JMS サーバーの間の通信をセットアップするには、JMS システムで前提条件のセットアップをいくつか行う必要があります。それから、アプリケーション内で構成をいくつか行います。構成は、以下の手順で構成されます。

- ご使用の JMS システムの初期コンテキスト・ファクトリー・コードがアプリケーションに提供されない場合、このコードを作成する必要があります。提供されるコードのリストについては、238 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
- トランザクションの詳細の定義 - 時間トリガー・トランザクション、またはエージェントは、編集して、JMS システムの接続情報および作成する初期コンテキスト・ファクトリーを含める必要があります。239 ページの『トランザクション情報の定義』を参照してください。

時間トリガー・トランザクションおよびそれがアプリケーション・ビジネス・プロセス・モデリングの全体像にどのように適合するかについて詳しくは、『プロセス・モデルの構成』の章を参照してください。また、キューおよびエージェントの追加情報については、『警告キューの構成』の章を参照してください。

前提条件

このタスクについて

開始する前に、JMS サーバーに対して以下の手順を実行します。これらタスクの実行に関する詳細は、JMS サーバーのドキュメンテーションを参照してください。

手順

1. JMS サーバー上の JMS キュー接続ファクトリー (QCF) とキューの構成を行います。
2. JMS サーバー上のキューの JNDI 表現を構成します。

タスクに関して以下の情報が使用可能であることを確認してください。

- 各キューの JNDI 名
- JNDI QCF ルックアップ
- JMS ロケーション - JMS サーバープロバイダー URL

タスクの結果

前述のタスクを完了した後に、以下の 2 つの手順を表示されている順番どおりに実行してください。これらはいずれもアプリケーション内で実行します。

初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成

このタスクについて

初期コンテキスト・ファクトリー (ICF) クラスを使用すると、リモート Java クライアントがアプリケーションに接続できます。このクラスはアプリケーション・ベンダーによって提供されます。アプリケーションは、エージェントを設定する際に、ICF コードを使用してこれらを識別します。以下の JMS ベンダー用の初期コンテキストのファクトリー・コードは、アプリケーションの中で事前定義されています。

- IBM WebSphere® MQ (IBM WebSphere Internet Inter-ORB Protocol URL を介してアクセスされる MQSeries® 用)
- ファイル (Oracle WebLogic などのように、ファイル URL を介してアクセスされる MQSeries 用)
- Oracle WebLogic (WebLogic JMS 用)
- JBoss (JBoss JMS 用)

上記のリストにない JMS サーバー (例えば ActiveMQ) を使用している場合、それに対する初期コンテキストのファクトリー・コードを、以下の手順にしたがってアプリケーションの中で作成する必要があります。

手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールのサイド・パネルのツリーから、「システム管理」>「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」を選択します。作業領域に、「初期コンテキスト・ファクトリー・コード」ウィンドウが表示されます。
2. 「+」アイコンを選択して、新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを作成します。「初期コンテキスト・ファクトリー」ウィンドウが表示されます。
3. 「初期コンテキスト・ファクトリー」フィールドに、JMS ベンダーによって提供されたクラス名を入力します。例えば、ActiveMQ の場合、クラス名は `org.apache.activemq.jndi.ActiveMQInitialContextFactory` です。
4. 「簡略説明」フィールドに、40 文字以内の記述名を入力します。この名前を次の手順で使うので、書き留めておいてください (239 ページの『トランザクション情報の定義』を参照)。ActiveMQ の場合、**ActiveMQ** と入力します。
5. 「詳細説明」フィールドに、初期コンテキスト・ファクトリーの詳細な説明を 100 文字以内で入力します。
6. 新しい初期コンテキストのファクトリー・コードを保存し、ウィンドウを閉じます。

タスクの結果

ICF について詳しくは、「初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成」を参照してください。

トランザクション情報の定義

このタスクについて

JMS サーバーが当アプリケーションと通信するためには、JMS サーバーと ICF 情報を使用して構成された時間トリガー・トランザクションが存在する必要があります。

手順

1. アプリケーション・マネージャーを開きます。アプリケーション・ルールของไซด์・パネルのツリーから、「プロセス・モデリング」をダブルクリックします。作業領域に、「プロセス・モデリング」ウィンドウが表示されます。
2. 希望のタブを選択して、「基本伝票種別」を選択してから、「プロセス・タイプ」をダブルクリックします。
3. 実行するエージェントに対応するトランザクションをダブルクリックします。
4. 「時間トリガー」タブを選択します。
5. 新しいエージェント条件の定義を作成するか、編集する既存のエージェント条件の定義を選択します。
6. 「エージェント条件の詳細」画面が表示されます。「実行時プロパティ」タブを選択します。
7. リストから既存のエージェント・サーバーを選択するか、独自のエージェント・サーバーを作成します (後者を推奨)。
8. リストから既存の警告キューを選択するか、独自の警告キューを作成します。
9. 「JMS キュー名」フィールドに、作成したキューの JNDI 名を入力します。237 ページの『前提条件』を参照してください。
10. このエージェントで実行するスレッドの希望数を入力します (5 スレッド以下を推奨。6 スレッド以上が必要な場合は、別のエージェントをそれ独自の JVM 内で開始してください)。
11. 作成した初期コンテキスト・ファクトリー・コードを選択します。238 ページの『初期コンテキスト・ファクトリー・コードの作成』を参照してください。
12. 「QCF ルックアップ」フィールドに、作成したキューの JNDI QCF ルックアップを入力します (これは該当する JMS サーバー用に作成したキュー接続ファクトリーです)。237 ページの『前提条件』を参照してください。
13. 「プロバイダー URL」に入力します。この URL は JMS システムが配置されている場所であり、JMS ベンダー固有のものです。
14. このエージェントに自己トリガーさせるのか (推奨)、外部トリガー (<install_dir>/install/bin ディレクトリー内の triggeragent.sh) を使用するのを選択します。前者の場合はトリガーの間隔 (分単位) を指定します。
15. JMS セキュリティー・オプションの設定については、『JMS セキュリティー・プロパティの設定』を参照してください。
16. 「条件パラメーター」タブの値はデフォルト値のままにします。
17. 「エージェント条件の詳細」の内容を保存して、このウィンドウを閉じます。
18. <install_dir>/install/bin ディレクトリー内の startagentserver.sh/cmd スクリプトを実行して、このエージェントをそれ独自の JVM 内で起動します。

タスクの結果

トランザクションの定義およびこの手順について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」で『トランザクションの定義』および『トランザクションを時間トリガーに指定』のセクションを参照してください。

ビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクション

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundationの次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのビジネス・プロセス時間トリガー・トランザクションには、CollectPendingJobs 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、このモニターに関係する保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

非同期要求プロセッサ

このトランザクションは、任意の API 要求またはサービス要請をオフライン・モードで作成します。YFS_ASYNC_REQ テーブルから API メッセージまたはサービス・メッセージが選択され、それに対応する API またはサービスが呼び出されます。createAsyncRequest API を使用して、メッセージを YFS_ASYNC_REQ テーブルに挿入することができます。Sterling Warehouse Management System の一部のビジネス・トランザクションも、YFS_ASYNC_REQ テーブルにメッセージを挿入します。

属性

この時間トリガー・トランザクション (time-triggered transaction) の属性は、以下のとおりです。

表 64. 「非同期要求プロセッサ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ASYNC_REQ_PROCESSOR
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 65. 「非同期要求プロセッサー」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リード日数	エージェントがレコードを消去するまでの日数です。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、30 がデフォルト設定されます。
最大エラー件数 (Maximum Error Count)	例外がスローされた場合にレコードが処理される最大回数です。失敗した回数がこの値と等しくなると、エージェントはそれ以上レコードを処理しません。空欄のままにするか、0 (ゼロ) を指定すると、20 がデフォルト設定されます。
再処理間隔 (分単位) (Reprocess Interval In Minutes)	トランザクションが処理されて例外がスローされてから、次にトランザクションが処理されるまでの、分単位の時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_ASYNC_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし

保留中のジョブの数

なし

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 66. 非同期要求プロセッサーによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
HAS_EXCEPTIONS	なし	YCP_ASYNC_REQ_PROCESSOR.HAS_EXCEPTIONS.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

大/小文字を区別しないデータ・ローダー

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、「大/小文字を区別しない検索 (CaseInsensitiveSearch)」のマークが付けられた列からシャドー列にデータをマイグレーションします。このエージェントは、トランザクション条件を使用して更新が必要なレコードを特定し、次に元の列の値をシャドー列内で小文字に変換します。大/小文字を区別しない検索の使用可能化について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースの拡張*』を参照してください。

「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントは、既存データを更新する場合に必要なです。シャドー列が作成されると、テーブルまたはテーブル・タイプごとに、「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」エージェントを一度だけ実行する必要があります。その後、アプリケーションによって、シャドー列がリアルタイムで入力されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 67. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DATA_LOADER
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 68. 「大/小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none">これを空欄のままにするか、10000 未満の数を指定した場合、5000 がデフォルト設定されます。10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。

表 68. 「大小文字を区別しないデータ・ローダー」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
テーブル・タイプ (TableType)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある場合、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。 有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。 これを CONFIGURATION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。 これを TRANSACTION に設定した場合、エージェントは、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられたレコードに対して実行されます。
テーブル名	必須。シャドー列にマイグレーションするレコードのテーブル名です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

集合・混載ステータスの変更

このトランザクションは、changeLoadStatus() API と等価です。このトランザクションについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』を参照してください。

集合・混載処理パイプラインの一部として構成するために、集合・混載ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。この自動変更では、集合・混載情報の集合・混載計画ソフトウェアへのエクスポートや集合・混載の運送会社への送信を表現できます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 69. 「集合・混載ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_LOAD_STATUS
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	changeLoadStatus()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 70. 「集合・混載ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 71. 「集合・混載ステータスの変更」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	ステータスが変更された集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が現在日付の値以下 (\leq) の、トランザクションによって処理可能な YFS_Task_Q テーブル内のレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `changeLoadStatus()` API の項に記載されたイベントが発生します。

出荷ステータスの変更

このトランザクションは、`changeShipmentStatus()` API と等価です。このトランザクションについて詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』を参照してください。

出荷処理パイプラインの一部として構成するために、出荷ステータスの自動変更が必要な場合、常にこのトランザクションを使用することができます。例えば、この自動変更では、倉庫管理システムへの出荷情報のエクスポートやバイヤーへの事前出荷通知の送信を表すことができます。

タスク・キューを処理するには、このトランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 72. 「出荷ステータスの変更」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHANGE_SHIPMENT_STATUS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 73. 「出荷ステータスの変更」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 74. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
ステータスに変更された出荷数 (NumShipmentsChanged)	ステータスに変更された出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の changeShipmentStatus() API の項に記載されたイベントが発生します。

配送計画の終了

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「配送計画のページ (Delivery Plan Purge)」が配送計画関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します (329 ページの『配送計画のページ (Delivery Plan Purge)』を参照してください)。

このトランザクションは、未完了の集合・混載や出荷が存在しない配送計画をすべて選択して、deliveryplan_closed_flag に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの計画にないことを示します。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「配送計画の終了」(CLOSE_DELIVERY_PLAN) 基本トランザクションに対応しています。

コンソールを使用するエンタープライズは、ページ・ジョブをスケジュールする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 75. 「配送計画の終了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_DELIVERY_PLAN
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし

表 75. 「配送計画の終了」の属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 76. 「配送計画の終了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 77. 「配送計画の終了」の統計

統計の名前	説明
クローズされた配送計画数 (NumDeliveryPlansClosed)	クローズされた配送計画の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (\leq) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 78. 「配送計画の終了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	delivery_plan_dbd.txt	YDM_CLOSE_DELIVERY_PLAN.ON_SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

集合・混載を閉じる

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「集合・混載ページ」が集合・混載関連のデータを削除するまで、一時的なページとして機能します（345 ページの『集合・混載ページ』を参照してください）。

このトランザクションは、集合・混載パイプラインにおける「集合・混載を閉じる」基本トランザクション (CLOSE_LOAD) に対応しています。

集合・混載処理パイプラインを使用する場合、このトランザクションをスケジュールする必要があります。閉じられた集合・混載のみが、ページ・トランザクションによって選択されます。したがって、このトランザクションをパイプラインの一部に含め、その日の最後に実行されるようにスケジュールする必要があります。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 79. 「集合・混載を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_LOAD
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 80. 「集合・混載を閉じる」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 80. 「集合・混載を閉じる」のパラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 81. 「集合・混載を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた集合・混載数 (NumLoadsClosed)	閉じられた集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、どの未完了の集合・混載、未完了の出荷にも関連付けられていない、未完了の配送計画の数です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 82. 「集合・混載を閉じる」トランザクションによって発生するイベント。

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YDM_CLOSE_LOAD_PLAN.ON_SUCCESS.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

積荷目録を閉じる (Close Manifest)

この時間トリガー・トランザクションは、積荷目録の MANIFEST_CLOSED_FLAG フラグを「Y」に設定し、積荷目録ステータスを CLOSED に更新します。この時間トリガー・トランザクションは、確認を保留しているすべての出荷を確認し、積荷目録を閉じます。

注: 条件を指定しないで「積荷目録を閉じる」エージェントを起動した場合、出荷ノード全体において対象となるすべての積荷目録が閉じられます。

yfs.properties_ysc_ext.in ファイル内の yfs.closemanifest.online プロパティは、この時間トリガー・トランザクションをオンライン・モードまたはオフライン・モードで動作するように設定するために使用されます。

- ・ **オンライン・モード:** オンライン・モードでは、通常どおり「積荷目録を閉じる」トランザクションが実行され、積荷目録内のすべての出荷が確認されてから、積荷目録が閉じられます。
- ・ **オフライン・モード:** オフライン・モードでは、「積荷目録を閉じる」トランザクションがエージェントを起動し、積荷目録ステータスを「終了要求済み」に変更します。エージェントが実行されると、1回の呼び出しで、積荷目録の各出荷が確認されるか、積荷目録が閉じられます。

操作モード (オンラインまたはオフライン) は、`yfs.properties_ycs_ext.in` ファイルの `yfs.closemanifest.online` プロパティに指定された値に基づいて決定されます。このプロパティをオーバーライドするには、これに関するエントリを `<INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties` ファイルに追加します。 `customer_overrides.properties` ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについては、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

デフォルトのすぐに使用可能な出荷済みプロパティを使用すると、「積荷目録を閉じる」トランザクションはオンライン・モードで実行されます。

「積荷目録を閉じる」トランザクションをオフライン・モードで実行する場合は、トランザクションに対して定義されたすべてのエージェント条件が正しく構成されていることを確認してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 83. 「積荷目録を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_MANIFEST
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	積荷目録作成
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	confirmShipment()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 84. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 84. 「積荷目録を閉じる」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
出荷ノード	オプション。「積荷目録を閉じる」の実行が必要な出荷ノードです。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 85. 「積荷目録を閉じる」の統計

統計の名前	説明
確認された出荷数 (NumShipmentsConfirmed)	確認された出荷の数。
閉じられた積荷目録数 (NumManifestsClosed)	閉じられた積荷目録の数。
エラーが発生した積荷目録数 (NumManifestsErrored)	エラーが発生した積荷目録の数。
エラーが発生した出荷数 (NumShipmentsErrored)	エラーが発生した出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、未完了の積荷目録数と積荷目録 (MANIFEST_STATUS が「1200」) に含まれる出荷数の合計です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 86. 「積荷目録を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	manifest_dbd.txt	YDM_CLOSE_MANIFEST .ON_SUCCESS.xml	あり

オーダーを閉じる

この時間トリガー・トランザクションは、オーダーの ORDER_CLOSED フラグを「Y」に設定し、ON_SUCCESS イベントを生成します。これらのアクションは、すべてのオーダー明細の ORDER_QTY が構成済みピックアップ・ステータスに達した場合のみ実行されます。オーダーの ORDER_CLOSED フラグが「Y」に設定された場合、そのオーダーはモニター対象として選択されません。

パイプライン内で、ページ・トランザクションと共に、「オーダーを閉じる」エージェントを構成する必要があります。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

キャンセル済みオーダーに対して警告が発生するのを避けるために、「オーダーを閉じる」エージェントを実行してからモニター・エージェントを実行する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 87. 「オーダーを閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 88. 「オーダーを閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 89. 「オーダーを閉じる」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
閉じられたオーダー数 (NumOrdersClosed)	閉じられたオーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Task_Q テーブル内の AVAILABLE_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 90. 「オーダーを閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YFS_CLOSE_ORDER.ON_SUCCESS.xml	あり

受入の完了

この時間トリガー・トランザクションは、指定された受入ルールを使用して受入を完了させます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 91. 「受入の完了」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPT_COMPLETE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	受入 (購入オーダー受入、返品受入、転送オーダー受入、受入)
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 92. 「受入の完了」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「受入の完了」の実行に必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	必須です。「受入の完了」の実行に必要なノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 93. 「受入の完了」の統計

統計の名前	説明
完了した受入数 (NumReceiptsClosed)	完了した受入の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、完了できる受入 (OPEN_RECEIPT_FLAG が「Y」) の数です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 94. 「受入の完了」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	receipt_dbd.txt	YFS_RECEIPT_COMPLETE .ON_SUCCESS.xml	あり

複数の入荷が同じロケーションに受け入れられ、受け入れた在庫にライセンス・プレートが付与されていない場合、エラー・メッセージ「格納する在庫がソース・ロケーションにありません (There is no inventory for put away at the SourceLocation)」が表示されます。この問題の解決方法は、以下の手順のいずれかです。

- 既に受け入れている入荷に対する移動要請を手動で作成します。移動要請の作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Warehouse Management System User Guide*』を参照してください。
- 受け入れる予定である入荷については、在庫にライセンス・プレートが付与されていることを確実にし、入荷と格納用の在庫を同じロケーションに受け入れることがないようにします。

出荷を閉じる (Close Shipment)

このトランザクションは、システム・パフォーマンスを高めるために、「出荷ページ」が出荷関連のデータをすべて削除するまで、一時的なページとして機能します (389 ページの『出荷ページ』を参照してください)。

このトランザクションは、CLOSE_SHIPMENT トランザクションの抽出についてのパイプライン構成に基づいて、完了の条件を満たすすべての出荷を抽出し、それらの shipment_closed_flag に「Y」のマークを付けます。このフラグは、これ以上実行できる操作がこの出荷にないことを示します。関連するステータスの変更はありません。

せん。出荷済みステータスまたは配達済みステータスを抽出するように、パイプライン内でこのトランザクションを構成できます。

このトランザクションは、出荷パイプライン内の「出荷を閉じる」基本トランザクション (CLOSE_SHIPMENT) に対応しています。

このトランザクションをパイプラインの一部に含める必要があります。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 95. 「出荷を閉じる」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CLOSE_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 96. 「出荷を閉じる」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 97. 「出荷を閉じる」の統計

統計の名前	説明
閉じられた出荷数 (NumShipmentsClosed)	閉じられた出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 98. 「出荷を閉じる」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CLOSE_SHIPMENT. ON_SUCCESS.xml	あり

出荷統計の収集

「出荷統計の収集」は、時間トリガー・トランザクションです。これを起動して出荷を処理し、日次出荷レポートに必要な情報を生成できます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 99. 「出荷統計の収集」の属性

属性	値
トランザクション名	出荷統計の収集
トランザクション ID	COLLECT_STATISTICS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 100. 「出荷統計の収集」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 101. 「出荷統計の収集」の統計

統計の名前	説明
統計収集日数 (NumDaysStatisticsCollected)	出荷統計が収集された日数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、出荷統計を収集する必要のある日数です。この日数は、現在の日付と出荷統計を最後に収集した日付との差 (日単位) によって計算します。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 102. 「出荷統計の収集」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	YDM_COLLECT_STATISTICS.ON_SUCCESS.xml	なし

追加在庫の統合

「追加在庫の統合」時間トリガー・トランザクションは、YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブルおよび YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブルの供給と需要を統合します。統合は、YFS_INVENTORY_SUPPLY テーブル内および YFS_INVENTORY_DEMAND テーブル内の追加の供給と需要の数量を合計することによって行います。

適合する供給または需要がない場合、YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブル内および YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内の変更の合計数量を使用して新しい供給または需要が作成されます。変更が適用された後、統合処理で使用された YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブル内および YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内のレコードは削除されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 103. 「追加在庫の統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_ADDNL_INV
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションのパラメーターは、以下のとおりです。

表 104. 「追加在庫の統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に検索および処理される、追加の供給と需要が統合された在庫アイテム・レコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブルおよび YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 105. 「追加在庫の統合」の統計

統計の名前	説明
統合で処理される追加の在庫供給レコード数 (NumInventorySupplyAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫供給レコードの数。
統合で処理される追加の在庫需要レコード数 (NumInventoryDemandAddnlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要レコードの数。
統合で処理される追加の在庫需要詳細レコード数 (NumInventoryDemandDtlsProcessed)	統合で処理される追加の在庫需要詳細レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、
YFS_INVENTORY_SUPPLY_ADDNL テーブル内および
YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内の個別の在庫アイテムの数を 2
倍した値です。

発生するイベント

なし。

出荷に統合

これは、オーダー・パイプライン内のタスク・キューに基づくトランザクションであり、CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT 基本トランザクションに対応します。このトランザクションは、指定されたオーダー・リリースを含めることができる出荷を検索します。既存の出荷が見つかり、changeShipment() API が呼び出されます。見つからない場合は、createShipment() API が呼び出されます。

トランザクションは、既存の出荷を検索するために、オーダー・リリースの出荷ノード、出荷先住所、セラー組織コード、運送会社、伝票種別などを既存の出荷と突き合わせます。トランザクションが突き合わせる属性のリストは、実際は、オーダーの伝票種別の伝票テンプレートに基づきます。

このトランザクションは、以下のいずれかのステータスの出荷にのみ適用可能です。

- 荷作成済み
- ESP チェックが必要
- ESP 保留時
- ESP 保留解除
- ルーティングのためにリリース済み
- ルーティング待機中
- 出荷ルーティング中 (Shipment Routing)
- ノードに送信

オーダー・リリースを既存の出荷と正常に統合するには、現在のステータスの出荷に対して「明細の追加」および関連する変更タイプが許可されている必要があります。

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・パイプラインの一部です。さらに、タスク・キューを処理するように、トランザクションを構成する必要があります。

GIFT_FLAG が Y に設定されたオーダー・リリースは、他のどのリリースとも統合できません。

詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipment() API、changeShipment() API、および releaseOrder() API についての記述を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 106. 「出荷に統合」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createShipment() および changeShipment()
ユーザー出口	<ul style="list-style-type: none"> トランザクションは、com.yantra.ydm.japi.ue の beforeConsolidateToShipment を呼び出します。 トランザクションは、処理を開始する前にリリースごとに YDMBeforeConsolidateToShipment を呼び出します。 トランザクションは、出荷を検索した後、com.yantra.ydm.japi.ue の determineShipmentToConsolidateWith を呼び出します。 <p style="text-align: center;">YDMDetermineShipmentToConsolidateWith。</p> <p>詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i>』を参照してください。</p>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 107. 「出荷に統合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 108. 「出荷に統合」の統計

統計の名前	説明
統合されたオーダー・リリース数 (NumOrderReleasesConsolidated)	統合されたオーダー・リリースの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (\leq) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 109. 「出荷に統合」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_CONSOLIDATE_TO_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipment() API および changeShipment() API の項に記載されたイベントも発生します。

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

カタログ・インデックスの作成 (Create Catalog Index)

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションは、カタログ検索で使用される Apache Lucene インデックス・ファイルを作成します。このインデックス・ファイルは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースから抽出された非正規化アイテム・データを格納することによって、検索パフォーマンスを向上させます。

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションを構成して、以下のタスクを実行できます。

- スケジュール済みインデックス作成またはユーザーが開始するインデックス作成の実行
- フル・インデックス・ファイルまたはインクリメンタル・インデックス・ファイルの作成
- インデックス・ファイルのアクティブ化

インデックス作成処理

「カタログ・インデックスの作成」トランザクションでは、インデックス作成用のエージェントが提供されます。インデックス作成はマルチスレッド処理になっており、各処理では、インデックス作成エージェントが Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベース内のアクティブな販売カタログから、アイテム情報およびアイテム関連情報を抽出します。対応する XML 構成ファイルが拡張されている場合、エージェントはこの情報を外部ソースから抽出することができます。

エージェントはこの情報を、最終的なインデックスに含める必要のあるアイテム・データを識別するための複数のファイルに書き込みます。エージェントは、ファイルへの書き込みを完了した後、各ファイルを最終的なインデックス・ファイルにマージします。

マルチスレッド処理には、並列に処理できるメリットがあります。大量のデータベース・データは、セグメント化されて同時に処理されます。これにより、1 つの大きなファイルを逐次処理する場合に比べて高速化され、拡張が容易になります。

インデックス作成エージェントは、情報を複数のファイルに書きこむときに、アイテムごとに以下のタスクを実行してから次のアイテムにループします。

- アイテムに関するデータについて、Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースまたは外部ソースに照会します。
- XML 構成ファイルおよび拡張ファイルの情報を使用して、照会によって取得するデータを決定します。
- Sterling Selling and Fulfillment Foundation データベースから、関連データを取得します。
- アイテムの Lucene ドキュメントを作成します。

トランザクションは、アイテムごとに Lucene ドキュメントを作成した後、組織および組織のロケールに基づいて、それらのドキュメントをインデックス・ファイルに書き込みます。

カタログ・インデックス・ファイルにアクセスするための構成オプション

ビジネス要件に応じて、以下の 2 つの方法のいずれかで「カタログ・インデックスの作成」を構成できます。

- 共有された集中型ディスク上にインデックスを作成し、すべてのサーバーからアクセスできるようにします。
 - メリット
 - 共有されたインデックスの集中制御
 - インデックスが複数のサーバー間でコピーされないため、ファイル転送問題が発生しません。
 - 制限
 - 共有ディスクが単一障害点になる可能性があります (予備ディスクが起動されない場合)。
 - 設定によっては、共有ディスクからの大量の読み取り/書き込みによって、パフォーマンスが低下する可能性があります。
- インデックスのコピーを作成し、ファイル転送を介してそれを複数のサーバーにプッシュします。インデックス作成の完了時にファイル転送処理は自動的に行われますが、インデックスは自動的にアクティブ化されません。すべてのサーバーからファイル転送完了の応答が返されたときに、`manageSearchIndexTrigger` API を呼び出してインデックスをアクティブ化します。
 - メリット
 - 障害の中心点がない
 - 制限
 - インデックス・ファイルを作成してサーバー間でプッシュするため、オーバーヘッドが生じる可能性があります。

1 つの場所にインデックスを作成して、別の場所からそれを読み取る方法を選択した場合、個々のプロセスで異なるプロパティを使用可能にする方法について、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* プロパティ・ガイド』を参照してください。

カタログ・インデックスの作成と検索について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* カタログ管理概念ガイド』を参照してください。

属性

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの属性を示します。

表 110. 「カタログ・インデックスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	Create_Catalog_Index
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCMParseAssetUE YCMGetAdditionalCatalogIndexInformationUE

条件パラメーター

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの条件パラメーターを示します。

表 111. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
組織コード	必須。検索インデックスを維持するカタログ組織またはサブカタログ組織の組織コード。
メッセージ数 (Number of Messages)	必須。インデックス・ファイルの作成時に使用するメッセージの数。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、スレッドあたり 1 つのメッセージのみを処理します。例えば、メッセージ数が 10、スレッド数が 3 に設定された場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は一度に 3 つのメッセージのみを処理します。システム・パフォーマンスの微調整については、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation パフォーマンス管理ガイド』を参照してください。

表 III. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
インクリメンタル・ビルド	<p>Y または N です。</p> <p>既存のインデックス・ファイルを再作成するには、Y を指定します。Y を指定した場合、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、最後に作成に成功したインデックスに基づいて、インデックスを再作成します。アイテムの属性が変更されたかどうかは、YFS_ITEM テーブルの MaxModifyTS 列によって判別されます。アイテムの外部属性が変更された場合、アイテムに対して manageItem API を呼び出すことによって MaxModifyTS 列を更新します。</p> <p>フル・インデックス・ファイルを作成するには、N を指定します。</p> <p>ユーザーがインデックス作成を開始した場合は、このパラメーターは無視されます。しかし、スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、インデックスのフル・ビルドまたはインクリメンタル・ビルドを指定していることを確認してください。</p>
カテゴリ・ドメイン	<p>オプション。インデックスを作成する元になるカタログです。カタログ組織またはサブカタログ組織のアクティブな販売カタログがデフォルトになります。スケジュールされたインデックス作成を構成している場合、カタログを指定していることを確認してください。</p>
自動的にアクティブ化する (Auto Activate)	<p>Y または N です (オプション)。</p> <p>インデックス・ファイルの作成後にインデックスをアクティブ化するには、Y を指定します。</p> <p>デフォルトは、N です。</p>

表 111. 「カタログ・インデックスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
検索インデックス・トリガーの自動挿入 (Auto Insert Search Index Trigger)	<p>Y または N です (オプション)。 スケジュールされたカタログ・インデックス・ファイルの作成を有効にするには、Y を指定します。エージェントは、YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルに格納された情報を参照して、スケジュールされたインデックス作成をいつ実行するかを決定します。インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) をエージェント条件に指定します。</p> <p>カタログ・インデックス・ファイルの作成をユーザーが開始できるようにするには、N を指定します。エージェントは、継続的に YFS_SEARCH_INDEX_TRIGGER テーブルを照会し、インデックス作成が指示されているかどうかを判定します。ユーザーが、IBM Sterling Business Center からインデックス作成を開始した場合、このテーブルのステータス設定が「スケジュール済み」に変わります。これによって、エージェントはインデックス作成を起動します。ユーザーは、Sterling Business Center から、インデックスのビルド・タイプ (フルまたはインクリメンタル) を指定します。</p> <p>スケジュールまたはユーザーによってインデックス作成が実行された後、インデックスを Sterling Business Center からアクティブ化することができます。あるいは、インデックスが自動的にアクティブ化されるようにエージェントを構成することもできます。</p> <p>スケジュールとユーザーの両方がインデックス作成を開始できるようにするには、トランザクションが 2 つのエージェントのインスタンスを含むように構成します。1 つのインスタンスによってユーザーが開始するインデックス作成を起動し、もう 1 つのインスタンスによってスケジュール済みインデックス作成を起動するように構成します。</p>
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

以下の表に、「カタログ・インデックスの作成」トランザクションの統計を示します。

表 112. 「カタログ・インデックスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された検索インデックス数 (SearchIndicesBuilt)	作成された検索インデックスの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 113. 「カタログ・インデックスの作成」 トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	非公開	CATALOG_INDEX_BUILD.ON_SUCCESS.xml	あり

連鎖オーダーの作成 (Create Chained Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の連鎖オーダーを作成します。連鎖可能なオーダー明細を含む新しい連鎖オーダーを作成する代わりに、それらの明細を既存の連鎖オーダーに追加することもできます。既存の連鎖オーダーは、`determineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、外部プログラムが空白文書を返す場合、1 つ以上の連鎖オーダーが新規作成されます。

連鎖オーダーの作成について詳しくは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createChainedOrder()` API および `YFSdetermineChainedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

このトランザクションは、オーダーをスケジュールした後に起動する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 114. 「連鎖オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CHAINED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createChainedOrder()</code>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 115. 「連鎖オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 116. 「連鎖オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「連鎖オーダーの作成」で処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された連鎖オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが連鎖オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された連鎖オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (\leq) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createChainedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

派生オーダーの作成 (Create Derived Order)

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上の派生オーダーを作成します。派生

オーダーが存在する場合、派生可能な明細を追加するか、それらの明細を含む派生オーダーを新規作成することができます。既存の派生オーダーは、`determineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムによって特定する必要があります。外部プログラムが実装されていないか、ヌル文書を返す場合、派生オーダーが新規作成されます。派生オーダーの作成については、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createDerivedOrder()` API および `YFSDetermineDerivedOrderForConsolidation` 外部プログラムについての記載内容を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 117. 「派生オーダーの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DERIVED_ORDER_CREATE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createDerivedOrder()</code>

タスク・キュー・オブジェクトにポストされるトランザクション・キーは、オーダーに関連付けられたプロセス・タイプの `DERIVED_ORDER_CREATE` 抽象化トランザクションのインスタンスである必要があります。それ以外の場合、例外がスローされます。

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 118. 「派生オーダーの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 119. 「派生オーダーの作成」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成された派生オーダーの数。

処理対象の 2 つのオーダーが存在し、最初のオーダーが派生オーダーを作成した場合、DetermineChainedOrderForConsolidation 外部プログラムによって、2 番目のオーダーの明細が最初のオーダーに追加されます。作成された派生オーダーの数は、2 つとしてカウントされます。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs』の createDerivedOrder() API の項に記載されたイベントが発生します。

オーダー・インボイスの作成

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納されたオーダー・ヘッダー・キーを持つオーダーから、1 つ以上のインボイスを作成します。オーダー・ヘッダー・キーのために、createOrderInvoice() API が呼び出されます。

数量または価格に影響する可能性のある処理がすべて完了している場合にのみ、このトランザクションをパイプライン内で構成します。インボイスの作成後に、明細の数量を請求済み数量よりも減らすことはできません。

「オーダー・インボイスの作成」トランザクションと「出荷インボイスの作成」トランザクションのどちらも、オーダーのインボイスを作成することができます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。詳しくは、273 ページの『出荷インボイスの作成』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 120. 「オーダー・インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_ORDER_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	createOrderInvoice()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 121. 「オーダー・インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 122. 「オーダー・インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成されたオーダー・インボイス数 (NumOrderInvoicesCreated)	作成されたオーダー・インボイスの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の `createOrderInvoice()` API の項に記載されたイベントが発生します。

出荷インボイスの作成

オーダーが決済処理を必要とする場合、インボイス作成は必須です。以下の条件が満たされる場合、インボイスが作成されます。

- ドキュメント・パラメーター・レベルでインボイス作成が可能。
- セラーが決済処理を必要とする。

このトランザクションは、タスク・キュー・オブジェクトに格納された出荷キーを持つ出荷に対して、1 つ以上のインボイスを作成します。出荷ヘッダー・キーに対して、`createShipmentInvoice()` API が呼び出されます。

このトランザクションは、出荷が出荷済みステータスに達した場合にのみ、出荷パイプライン内で構成する必要があります。

「オーダー・インボイスの作成」と「出荷インボイスの作成」のどちらも、オーダーのインボイスを作成できます。パイプラインを構成する場合、これら 2 つのトランザクションのうちの 1 つのみが、特定のオーダー明細のインボイスを作成するように構成されていることを確認してください。271 ページの『オーダー・インボイスの作成』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 123. 「出荷インボイスの作成」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CREATE_SHIPMENT_INVOICE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>createShipmentInvoice()</code>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 124. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 124. 「出荷インボイスの作成」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 125. 「出荷インボイスの作成」の統計

統計の名前	説明
作成された出荷インボイス数 (NumShipmentInvoicesCreated)	作成された出荷インボイスの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションでは、『*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*』の createShipmentInvoice() API の項に記載されたイベントが発生します。

ESP 評価者

「ESP 評価者」時間トリガー・トランザクションは、出荷が特定のエコノミック出荷パラメーターに適合するかどうかを検証します。出荷に対してどの運賃を適用するかを決定する運賃条件を使用して、バイヤーまたはエンタープライズについて ESP を構成することができます。

ESP のために出荷を保留するように構成を定義している場合、出荷は作成時に ESP のために保留されます (ステータスは「ESP 保留時」)。このタスク・キューに基づく時間トリガー・トランザクションは、ESP に対して出荷を評価し、その条件 (重量と容積の制限、および保留の最大日数) に適合する場合、出荷パイプライン内の次のステップに出荷を渡します。これで出荷ステータスは「ESP 保留解除」に設定され、ルーティング処理が開始されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 126. 「ESP 評価者」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ESP_EVALUATOR.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	出荷
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	getNodeMinimumNotificationTime

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 127. 「ESP 評価者」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「ESP 評価者」の実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 128. 「ESP 評価者」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	ESP_EVALUATOR.ON_SUCCESS.xml	あり

アイテム・ベースの割り当て

「アイテム・ベースの割り当て」トランザクションは、YFS_IBA_TRIGGER テーブルで「アイテム・ベースの割り当て」プロセス用にトリガーされている在庫アイテムおよび在庫ノードに基づいて、既存オーダーの約束していない需要と約束した需要をより適切な供給に割り当てます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、YFS_IBA_TRIGGER テーブルから、以下の条件に合致するすべての「アイテム・ベースの割り当て」トリガーを取得し、処理します。

- IBA_RUN_REQUIRED = "Y"
- LAST_IBA_PROCESSED_TS が現在時刻よりも「x」時間前である。ここで「x」は、インストール・ルール内の「アイテム・ベースの割り当てエージェントの実行間隔 (時間数)」のルールに定義されている時間です。インストール・ルールについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド*」を参照してください。このルールは、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントが、前に処理した YFS_IBA_TRIGGER テーブル内のトリガーを、再処理してはならない間隔を示すために使用されます。これによって、IBA エージェントは指定された時間間隔内にアイテムとノードの組み合わせを処理しすぎることがなくなるため、システムに対する高負荷を避けることができます。
- PROCESSING_BY_AGENT="N" または PROCESS_OVER_BY_TS が現在のタイム・スタンプより前である。PROCESSING_BY_AGENT フィールドを使用して、他のエージェントのインスタンスによって処理中の IBA トリガーがピックアップされないようにします。

「在庫組織コード」がエージェント条件に指定されている場合は、その在庫組織の在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが取り出されます。

トリガーされたアイテムとノードの組み合わせごとに、エージェントは、そのアイテムおよびノードを含むすべての該当するオーダー明細またはオーダー明細予約を見つけて、ユーザー構成の IBA 選択ルールまたは FIFO (先入れ先出し) IBA 選択ルールに基づいて、それらの約束していない需要と約束した需要を、より適切な入手可能な供給に移動しようとします。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、一致した供給の最初の出荷日で新規の正のオーダー明細予約を作成し、既存の需要の出荷日には負のオーダー明細予約を作成します。すべてのオーダーは、処理が完了すると保留状態になり、オーダー明細予約で変更が検出された場合に、再スケジュールされます。

「アイテム・ベースの割り当て」プロセスには、以下の構成が必要です。

- 「アイテム・ベースの割り当てを使用する」ルールを有効にする必要があります。
- アイテムおよびノードで「アイテム・ベースの割り当て許可」が有効でなければなりません。
- 再スケジュールのためオーダーを保留状態にできるように、保留タイプをオーダー明細予約変更の変更タイプ用にセットアップする必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

バックオーダーされた需要を再割り当てするために、「1 つの明細がバックオーダーされた場合は、優先度が最も高い出荷ノードに対してバックオーダーする」のルールにチェック・マークを付ける必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 分散オーダー管理 構成ガイド*」の『フルフィルメント・ルール (Fulfillment Rules)』セクションを参照してください。

「アイテム・ベースの割り当て」ロジックを処理する前に、「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガー上の以下のフィールドを更新します。

- PROCESSING_BY_AGENT = “Y”。これは、エージェントのインスタンスが、現在このトリガーを処理中であることを示します。
- PROCESS_OVER_BY_TS = 現在時刻 + 1 時間。これは、エージェントがこの IBA トリガーの処理を終了する予定時間を示します。1 時間は固定ウィンドウで、変更できません。Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、現在のタイム・スタンプがこのタイム・スタンプより後の場合は、実際の値に関係なく、PROCESSING_BY_AGENT フラグを「N」として扱います。
- IBA_RUN_REQUIRED = “N”。これは、IBA_RUN_REQUIRED フラグを「N」にリセットします。

該当するオーダー・リリース・ステータスおよび割り当て済みのオーダー明細予約に基づいて需要のリストを取得する

需要のリストは、該当するオーダー・リリース・ステータスおよびオーダー明細予約から派生し、これらには IBA トリガーにおけるアイテムおよびノードが含まれません。以下のタイプの需要が取り出されます。

- 連鎖オーダーの需要
- 作成済みの連鎖オーダーのあるオーダーの需要
- 調達ノードはあるが、連鎖オーダーがまだ作成されていないオーダーの需要

- 調達ノードがないオーダーの需要
- オーダー明細予約からの需要

需要数量は、需要タイプを保有する「ステータス在庫のタイプ」構成のステータスを持つオーダー・リリース・ステータスの量に基づいて派生します。ここでは、「アイテム・ベースの割り当てに、考慮された需要タイプを使用する」が有効である場合に供給タイプが考慮されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

割り当てる使用可能な供給のリストを取得する

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、約束していない需要および約束した需要を無視して、ノード上のアイテムの在庫状況に基づいて、使用可能な供給を取得します。在庫組織が在庫を外部で管理している場合、外部の在庫状況は、YFSGetExternalInventoryUE 外部プログラムによって読み取ることができます。「アイテム・ベース割り当て時に在庫を検索する需要タイプ」を考慮する供給の在庫状況のみが、割り当てロジックで使用されます。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

割り当てられた需要は、「リリース時に検索する需要」と同じ供給と一致しなければなりません。

需要を FIFO (先入れ先出し) 順序と突き合わせる

Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、使用可能な供給のリストを最初の出荷日 (ETA) 順にソートして、トップダウン・ロジックを使用して、取得した需要のリストと突き合わせます (最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われる、在庫状況取得における通常の突き合わせロジックとは異なります)。需要は、以下の順序で割り当てられます。

- 連鎖オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、連鎖オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 作成済みの連鎖オーダーがあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次に製品利用可能日の昇順になります。(これらのタイプの需要は、オーダーにおける変更を避けるために、最も近い ETA に基づいて突き合わせが行われます)。
- 調達ノードおよび連鎖オーダーの作成が迫っている (事前通知時刻ウィンドウ内にある) オーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 調達ノードがなくリリース・ウィンドウ (事前通知時刻ウィンドウ) 内にあるオーダーの需要 - 最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- オーダー明細でのオーダー明細予約からの需要は、要求された予約日の順序になり、調達ノードあり、または調達ノードなしのオーダーの余剰需要 (事前通知時刻ウィンドウ外) は、最初にユーザー構成の順序付けルールに基づき、次にオーダーの作成日の順序になります。
- 在庫予約からの需要は、出荷日の順序になります。

需要のタイプが異なると、その重要度に基づいて、優先順位が異なる点に注意してください。連鎖オーダーまたは連鎖オーダーに関連したオーダーの需要は、通常のオーダーの需要よりも高い優先順位で処理されます。また、出荷日が事前通知時刻ウィンドウ内にある需要も、事前通知時刻ウィンドウ外にある需要よりも優先順位が高くなります。

一致した需要のオーダー予約を更新する

ユーザー構成の順序付け、次に FIFO 順序で入手可能な供給と需要を突き合わせた後、システムはオーダー明細予約変更および在庫需要変更 (オーダー明細予約変更に対応) のリストを構築し、それらを要約して、オーダー予約更新と在庫更新の数を最適化します。一致した需要について、負のオーダー明細予約が追加されます。一致した需要について、正のオーダー明細予約が追加され、製品利用可能日が一致した供給の最初の出荷日に設定されます。

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、「アイテム・ベースの割り当て」トリガーに関するタスクの完了後、トリガーのフィールドを以下の値で更新します。

- IBA_REQUIRED = "N"
- LAST_IBA_PROCESSED_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESS_OVER_BY_TS = 現在のタイム・スタンプ
- PROCESSING_BY_AGENT = "N"

「アイテム・ベースの割り当て」エージェントは、再スケジュール・プロセスと合わせて使用する必要があります。再スケジュール・プロセスは、「アイテム・ベースの割り当て」プロセスで作成されたオーダー明細予約の使用によって影響を受けたオーダーを再スケジュールするためです。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 129. 「アイテム・ベースの割り当て」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ITEM_BASED_ALLOCATION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder - 「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの一部として作成されたオーダー明細予約を更新します。
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 130. 「アイテム・ベースの割り当て」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理される在庫アイテムの在庫組織コード。指定された場合、この在庫組織に属する在庫アイテムを持つ IBA トリガーのみが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_IBA_TRIGGER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 131. 「アイテム・ベースの割り当て」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	「アイテム・ベースの割り当て」エージェントによって処理されたオーダーの数。
再スケジュールを必要とするオーダー数	「アイテム・ベースの割り当て」プロセスの結果、再スケジュールを必要とするオーダーの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `changeOrder` API で指定されたイベントを引き起こします。

集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク

これは、「集合・混載パイプライン」上で動作する時間トリガー・トランザクションです。

この時間トリガー・トランザクションは、タスク・キューからレコードを取得します。このトランザクションは、集合・混載のすべての容器がトレーラー上にある場合に、その集合・混載を集合・混載済みトレーラーとしてマークするために使用されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 132. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	MARK_AS_TRAILER_LOADED
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 133. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
再処理間隔	オプション。「再処理間隔」は、集合・混載の再処理に使用する時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 134. 「集合・混載済みトレーラーとして集合・混載をマーク」の統計

統計の名前	説明
変更された集合・混載数 (NumLoadsChanged)	変更されたトレーラー集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

在庫の照合

「在庫の照合」は、YFS_INVENTORY_SHIPMENT テーブルにあるすべての保留レコードを処理します。保留レコードは、POSTED_QUANTITY の数字が QUANTITY の数字よりも小さくなります。

各保留レコードは、在庫コスト決定ロジックを適用することによって、YFS_INVENTORY_RECEIPT テーブル内の受入レコードと照合されます。販売と受入のデータが照合されたユニット・コストは、YFS_INVENTORY_MATCH テーブルにも計上されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 135. 「在庫の照合」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 136. 「在庫の照合」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 136. 「在庫の照合」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
供給停止日 (CutOffDate)	オプション。渡された場合、レコードは最大でこの日付まで照合されます。デフォルトでは、データベース内のすべての照合未済のレコードが対象になります。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SHIPMENT、YFS_INVENTORY_RECEIPT、および YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 137. 「在庫の照合」の統計

統計の名前	説明
処理された在庫出荷数 (NumInventoryShipmentsProcessed)	処理された在庫出荷の数。
挿入された在庫一致数	挿入された在庫一致の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、QUANTITY の値が POSTED_QUANTITY の値と等しくない、YFS_INVENTORY_SHIPMENT テーブルに存在する個別の在庫アイテムの数になります。

発生するイベント

なし。

支払集金

このトランザクションは、承認または請求を保留中のオーダーについて、クレジットの検証を要求します。

承認要請および請求要請作成にこのトランザクションを使用します。

このトランザクションは、「支払実行」トランザクションと組み合わせて動作します。このトランザクションは「支払実行」トランザクションとは独立して実行可能ですが、承認と集金は支払実行の依存関係が満たされた後にのみ、発生します。詳しくは、286 ページの『支払実行』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 138. 「販売オーダーの支払集金」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

表 139. 返品オーダーの支払集金属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_COLLECTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	requestCollection()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 140. 「支払集金」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。このトランザクションを実行する必要があるエンタープライズ。空欄のままにした場合、すべてのエンタープライズのオーダーが処理されます。指定した場合、そのエンタープライズのオーダーのみ処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

表 140. 「支払集金」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)	<p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力され、requestCollection エージェントが例外をスローする場合 (getFundsAvailable 外部プログラムからなど)、「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」が使用されて、オーダーは保留状態に置かれます。古いオーダー保留機能を使用している場合、保留の理由として使用されます。保留タイプが存在しない場合、例外がスローされます。</p> <p>「ロールバック時の保留タイプ (HoldTypeOnRollback)」条件が入力されていない場合、例外がスローされてもオーダーは保留されません。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 141. 「支払集金」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された請求要請数 (NumChargeReqsCreated)	作成された請求要請の数。
作成された承認要請数 (NumAuthorizationReqsCreated)	作成された承認要請の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AUTHORIZATION_EXPIRATION_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) の、該当する支払ステータスにあるオーダーの数になります。オーダーの該当する支払ステータスは以下のとおりです。

- Awaiting Pay Info
- Awaiting Auth
- Requested Auth
- Request Charge
- Authorized, Invoiced
- Paid
- Release Hold
- Failed Auth
- Failed Charge
- Verify
- Failed

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 142. 「支払集金」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
INCOMPLETE_PAYMENT_INFORMATION	modifyOrder_dbd.txt	YFS_PAYMENT_COLLECTION.INCOMPLETE_PAYMENT_INFORMATION.xml	あり
PAYMENT_STATUS	YFS_PAYMENT_COLLECTION.PAYMENT_STATUS.dtd.txt	YFS_PAYMENT_COLLECTION.PAYMENT_STATUS.xml	あり
REQUEST_PAYMENT_STATUS		YFS_PAYMENT_COLLECTION.REQUEST_PAYMENT_STATUS.xml	あり
ON_LIABILITY_TRANSFER	modifyOrder_dbd.txt	YFS_PAYMENT_COLLECTION.ON_LIABILITY_TRANSFER.xml	あり
ON_INVOICE_COLLECTION	order_dbd/txt	YFS_CREATE_ORDER_INVOICE.ON_INVOICE_COLLECTION.xml	あり

支払実行

このトランザクションは、承認および請求を保留するすべての要請を処理します。

すべての承認要請および請求要請処理にこの時間トリガー・トランザクションを使用します。

このトランザクションには、会計サービスを提供する製品とのインターフェースが必要です。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 143. 「販売オーダーの支払実行」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION
基本伝票種別	オーダー

表 143. 「販売オーダーの支払実行」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、collectionOthers、collectionCustomerAcct

表 144. 返品オーダーの支払実行属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PAYMENT_EXECUTION.0003
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	executeCollection()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	collectionCreditCard、collectionOthers、collectionCustomerAcct

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 145. 「支払実行」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
料金タイプ	クレジット・カード・プロセスのタイプ。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • AUTHORIZATION - クレジット・カード・アカウントを検証 • CHARGE - クレジット・カードに請求を適用
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 146. 「支払実行」の統計

統計の名前	説明
処理された承認トランザクション数 (NumAuthTransProcessed)	処理された承認トランザクションの数。
処理が完了した承認トランザクション数 (NumAuthTransSuccessfullyProcessed)	処理された承認トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
処理された請求トランザクション数 (NumChargeTransProcessed)	処理された請求トランザクションの数。
処理が完了した請求トランザクション数 (NumChargeTransSuccessfullyProcessed)	処理された請求トランザクションについて外部プログラムからの正常な戻りの数。
集金検証数 (NumCollectionValidations)	起動された集金検証外部プログラムからの正常な戻りの数。
クレジット・カード集金数 (NumCreditCardCollections)	クレジット・カード集金の数。
顧客アカウント集金数 (NumCustomerAccountCollections)	顧客アカウント集金外部プログラムからの正常な戻りの数。
その他の集金数 (NumOtherCollections)	その他の集金外部プログラムからの正常な戻りの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンな請求および承認トランザクションの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 147. 「支払実行」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
CHARGE_FAILED	modifyOrder dbd.txt	PAYMENT_EXECUTION_ CHARGE_FAILED_dbd.txt	なし

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `executeCollection()` API で指定されたイベントを引き起こします。

在庫一致の公示

このトランザクションは、`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のすべてのオープンなレコードを処理し、そのレコードを会計システムに公示します。

`YFS_INVENTORY_MATCH` テーブル内のオープンなレコードのステータスは、01 です。公示後、ステータスは 02 に変更されます。

構成された出荷ノードが在庫コストを管理している場合、このトランザクションを使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 148. 「在庫一致の公示」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POST_INVENTORY_MATCH
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 149. 「在庫一致の公示」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_MATCH テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 150. 「在庫一致の公示」の統計

統計の名前	説明
公示された在庫一致数 (NumInventoryMatchPosted)	公示された在庫一致レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、オープンなステータスを持つ在庫一致の数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 151. 「在庫一致の公示」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
POST_INVENTORY_MATCH	POST_INVENTORY_MATCH_dbd.txt	YFS_postInventoryMatch_output.xml	なし

オーダー保留タイプの処理

PROCESS_ORDER_HOLD_TYPE 抽象化トランザクションから派生した、時間トリガー・トランザクションを作成できます。これは、1 つ以上の保留タイプの処理トランザクションとして構成できます。オーダーが、処理トランザクションとして構成されたトランザクションを持つ保留タイプに関連付けられている場合、そのトランザクションを処理するために、レコードが YFS_TASK_Q テーブルに作成されます。

処理トランザクションがトリガーされると、保留タイプ構成に基づいて、処理できる保留タイプをチェックします。処理できる保留タイプがない場合、YFS_TASK_Q レコードは削除されます。処理できる保留タイプがある場合、処理対象の保留タイプのリストと共に、processOrderHoldType 外部プログラムが起動されます。processOrderHoldType 外部プログラムは、オーダーから削除可能な保留タイプのリストを戻します。

次に、このトランザクションは、processOrderHoldType 外部プログラムによって戻される出力に基づいて、オーダーを変更し、オーダー保留タイプ・リストを更新します。これで処理できる保留タイプがなくなった場合、YFS_TASK_Q レコードは削除されます。処理可能な保留タイプがまだ存在する場合、YFS_TASK_Q は次の利用可能日で更新されます。

また、processOrderHoldType 外部プログラムを呼び出して、新規の保留タイプを追加するか、またはオーダーに既に適用されている保留タイプのステータスを変更することもできます。processOrderHoldType 外部プログラムについて詳しくは、*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs* を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 152. 「オーダー保留タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	オーダー

表 152. 「オーダー保留タイプの処理」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	changeOrder

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 153. 「オーダー保留タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_TASK_Q テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 154. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ORDER_ CHANGE.ON_ SUCCESS.xml	あり *
ON_HOLD_TYPE _STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスに変更され ます。	modifyOrder_ dbd.txt	YFS_ON_ HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE.xml	あり

表 154. 「オーダー保留タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント (続き)

トランザクション/イベント	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE	保留タイプのステータスが変更されます。	modifyOrder_dbd.txt	YFS_ON_ORDER_LINE_HOLD_TYPE_STATUS_CHANGE.xml	あり
* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。				

保留作業オーダー・タイプの処理

この時間トリガー・トランザクションは、「オーダー保留タイプの処理」トランザクションと同じですが、このトランザクションは作業オーダーに使用されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 155. 「保留作業オーダー・タイプの処理」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PROCESS_WO_ORDER_HOLD_TYPE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	modifyWorkOrder

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 156. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。

表 156. 「保留作業オーダー・タイプの処理」のパラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 157. 「保留作業オーダー・タイプの処理」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/ イベント	発生するタイミン グ	キー・データ	公開されるデー タ	テンプレート がサポートさ れるか
ON_SUCCESS	成功時	workOrder_ dbd.txt	VAS_MODIFY_ WORK_ORDER .ON_SUCCESS. xml	あり *
ON_HOLD_TYPE_ STATUS_ CHANGE	保留タイプのステ ータスが変更され ます。	workOrder_ ldbd.txt	VAS_ON_HOLD _TYPE_STATUS _CHANGE.xml	あり
* 注: 要素および属性には、テンプレート駆動型でないものがあります。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。				

交渉の発行結果

このトランザクションは、交渉条件をオーダーに発行します。

オーダーで交渉フェーズを使用する必要がある環境で、このトランザクションを使用します。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 158. 「交渉の発行結果」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PUBLISH_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー

表 158. 「交渉の発行結果」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 159. 「交渉の発行結果」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 160. 「交渉の発行結果」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。
発行された交渉数 (NumNegotiationsPublished)	発行された交渉の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 161. 「交渉の発行結果」トランザクションによって発生するイベント

基本トランザクション	発生するタイミング	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
PUBLISH_ORDER_NEGOTIATION/ON_SUCCESS	成功時	Negotiation_dbd.txt	YCP_get 交渉 Details_output.xml	あり *
RECEIVE_ORDER_NEGOTIATION/ON_SUCCESS	成功時 (伝票種別が 0001 で、エンティティ・タイプが ORDER の場合)。	同時に実行中の時間トリガー・トランザクションの数。	receiveOrder Negotiation_dbd.txt	なし
* 注: このイベントで使用されるテンプレートは、出力 XML を形成するために getNegotiationDetails() API が使用するテンプレートと同じです。				

リリース

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してリリースし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

このトランザクションは、プロセスのスケジューリング後に起動する必要があります。

詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `releaseOrder()` API で提供される情報を参照してください。

組み合わせられた「スケジュールおよびリリース」エージェントを実行する場合、個別のスケジュール・エージェントおよび個別のリリース・エージェントを実行しないでください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 162. リリース属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RELEASE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	releaseOrder()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 163. リリースの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスが明細のリリース日付条件を無視するかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。 • N - デフォルト値。リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。
在庫の確認 (CheckInventory)	オプション。在庫のチェックが必要かどうかを判断します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。在庫のチェックが必要です。 • N - 在庫のチェックは不要です。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 164. リリース条件の統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	将来の日付エラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	リリースを試行されたオーダーの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理をできないエラーが原因でリリースを試行しなかったオーダーの数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
リリースされたオーダー数 (NumOrdersReleased)	リリースされたオーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。

表 164. リリース条件の統計 (続き)

統計の名前	説明
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	処理エラーが原因でリリースされなかったオーダーの数。

リリース・プロセスの結果、オーダー明細が分割される場合、NumOrderLinesReleased、NumOrderLinesBackordered、および NumOfReleasesCreated の結果は、1 より大きくなることがあります。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Task_Q テーブル内の AVAILABLE_DATE の値が現在の日付の値以下 (<=) となる、トランザクションによって処理可能なレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の releaseOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

出荷のルーティング

この時間トリガー・トランザクションは、出荷のルーティングに使用され、出荷パイプラインに属しています。構成されたルーティング・ガイドに基づき、出荷用の運送会社コードおよび運送会社サービス・コードを割り当てます。

出荷のルーティング・トランザクションは、既存の集合・混載に出荷を含めるか、新規の集合・混載を作成し、そこに出荷を含めます。

出荷は、以下の条件を満たす場合のみ、1 つの集合・混載にまとめることができます。

- 予定出荷日 - 出荷の予定出荷日が集合・混載の出荷期限日以前であること。
- 集合・混載出発予定日 - 集合・混載出発予定日が集合・混載内の出荷品の出荷期限日以前であること。

出荷期限日は、集合・混載に含まれるすべての出荷に基づき、集合・混載用に計算される日付です。例えば、1 つの集合・混載に 3 つの出荷があり、それぞれの出荷期限日が 2005/12/22、2005/12/12、および 2005/12/19 の場合、2005/12/12 が 3 つの日付の中で最も早いいため、集合・混載の出荷期限日は 2005/12/12 と計算されます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 165. 出荷のルーティング

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ROUTE_SHIPMENT.0001
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	ORDER_DELIVERY
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	com.yantra.ydm.japi.ue.YDMOverrideDetermineRoutingUE com.yantra.ydm.japi.ue.YDMBeforeDetermineRoutingUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 166. 出荷のルーティングの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 167. 出荷のルーティングの統計

統計の名前	説明
ルーティング数 (NumRouted)	ルーティングされる出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 168. 出荷のルーティング・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_SUCCESS.xml	あり
ON_FAILURE	shipment_dbd.txt	YDM_ROUTE_SHIPMENT.ON_FAILURE.xml	あり

ただし、テンプレート名は、<TransactionId>.ON_SUCCESS.xml になりますので注意してください。

スケジュール

このトランザクションは、オーダーを特定の出荷ノードに対してスケジュールし、スケジュール済み出荷ノードでオーダーを処理するための十分な在庫があるようにします。

オーダー作成後にこのトランザクションを実行します。

個別のスケジュール・エージェントまたはリリース・エージェントは、組み合わされた「スケジュールおよびリリース」エージェントの実行中は実行しないでください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 169. スケジュールの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SCHEDULE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
呼び出される API (APIs Called)	scheduleOrder()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 170. スケジュールの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
最大レコード数 (MaximumRecords)	スケジュール・エージェントが検出可能で、考えられるソリューションの最大数を判別します。このパラメーターにより、検出される最適なソリューションが改善される可能性があります。このエージェントのパフォーマンスにも影響を及ぼします。 これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5 に設定されます。
最適化タイプ (OptimizationType)	オプション。スケジューリング処理に適用する最適化ルールを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 01 - 日付で最適化 (デフォルト) • 02 - 出荷ノードの優先順位で最適化 • 03 - 出荷数で最適化
フィルターするオーダー (OrderFilter)	オプション。フィルターするオーダー・タイプを決定します。指定できる値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • A - 全オーダー (デフォルト) • B - バックオーダーのみ • N - 新規オーダーのみ
スケジュールおよびリリース (ScheduleAndRelease)	オプション。スケジュール・プロセスに対してリリース可能なすべての明細数量をリリースするように通知します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - スケジュール済み明細数量を正常にリリースします。 • N - デフォルト値。明細数量のスケジュールのみ行います。 <p>このパラメーターを使用可能にすると、リリース・トランザクションに構成される保留タイプは妥当性検査されません。</p>
リリース日付を無視 (IgnoreReleaseDate)	オプション。スケジュール・プロセスが明細のリリース日付条件を無視するかどうかを決定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - リリース日付条件にかかわらず明細数量をリリースします。 • N - リリース日付条件が満たされた後でのみ、明細数量をリリースします。これがデフォルトです。
次のタスク・キュー間隔	未使用。このエージェントは、失敗したタスクを更新し、適切にスケジュールされたルール内のバック・オーダー再試行間隔セットアップに対して保留になるようにします。

表 170. スケジュールの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 171. スケジュールの統計

統計の名前	説明
将来の日付エラー数 (NumFutureDateFailures)	<p>将来の日付エラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> OrderFilter が「B」(バックオーダーのみ) でバックオーダー済み明細およびスケジュール解除明細がない場合。 OrderFilter が「N」(新規オーダーのみ) でバックオーダー済み明細またはスケジュール解除明細がいくつかある場合。 オーダーに、バックオーダー済みステータスまたはスケジュール解除ステータスのみのオーダー明細があり、ステータス変更タイム・スタンプが現在時刻からスケジューリング・ルールに指定されるバック・オーダー待機期間を減算した日時よりも後の場合。
試行されたオーダー数 (NumOrdersAttempted)	スケジュールを試行したオーダーの数。この統計には、NumFutureDateFailures 統計および NumOrdersCannotBeProcessedFailures 統計の値は含まれません。
リリースされたオーダー明細数 (NumOrderLinesReleased)	リリースされたオーダー明細の数。

表 171. スケジュールの統計 (続き)

統計の名前	説明
処理できなかったオーダー数 (NumOrdersCannotBeProcessed Failures)	<p>処理をできないエラーが原因で、Sterling Selling and Fulfillment Foundation がスケジュールを試行しなかったオーダーの数。</p> <p>エラーは、以下のいずれかが原因である可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YFSCheckOrderBeforeProcessingUE 外部プログラムの結果が false として戻される。 • オーダーの HoldFlag 属性に「Y」が設定される。 • オーダーの SaleVoided 属性に「Y」が設定される。 • オーダーの PaymentStatus が、「承認済み」、「請求済み」、「支払済み」、および「該当せず」のいずれでもない。
作成されたオーダー数 (NumOrdersCreated)	作成されたオーダーの数。これには、作成された調達オーダーの数も含まれます。
作成されたオーダー明細数 (NumOrderLinesCreated)	作成されたオーダー明細の数。
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
スケジュールされた明細数 (NumOrdersScheduled)	<p>スケジュールされた明細が少なくとも 1 つはあるオーダーの数。</p> <p>これには、「バック・オーダー」を除くあらゆるステータスのスケジュール済み明細が含まれます。</p>
作成された調達オーダー数 (NumOrdersProcOrdersCreated)	作成された調達オーダーの数。
作成された作業オーダー数 (NumWorkOrdersCreated)	作成された作業オーダーの数。
バックオーダーされたオーダー数 (NumOrdersBackordered)	バックオーダーされたオーダーの数。
スケジュールされたオーダー明細数 (NumOrderLinesScheduled)	スケジュールされたオーダー明細の数。
バックオーダーされたオーダー明細数 (NumOrderLinesBackordered)	バックオーダーされたオーダー明細の数。
作成されたオーダー・リリース数 (NumReleasesCreated)	作成されたオーダー・リリースの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能な、保留以外のオーダーを表すレコードの数になります。保留中の各タスクの処理準備ができていないことが条件になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `scheduleOrder()` API で指定されるイベントを発生させます。

Oracle ヒントの指定

Oracle ヒントを指定して、`scheduleOrder` エージェントのパフォーマンスを向上させることができます。`scheduleOrder` エージェントのそれぞれの条件 ID に指定できるヒントは、外部ヒントおよび内部ヒントの 2 つです。外部ヒントは、`YFS_TASK_Q` テーブルで必ず使用されます。内部ヒントは、初期の保留機能が使用される場合のみ、`YFS_ORDER_HEADER` テーブルで使用されます。それ以外の場合、内部ヒントは、`YFS_ORDER_RELEASE_STATUS` テーブルで使用されます。

Oracle ヒントを使用可能にするには、以下のエントリを `yfs.properties` ファイルに挿入します。

1. `<INSTALL_DIR>/properties/yfs.properties` ファイルを編集します。
2. `yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.outer=/** parallel(YFS_TASK_Q 8) full(yfs_task_q) */` を挿入します。

`yfs.<agent_criteria_id>.getjobs.hint.inner=/** NL_SJ */` を挿入します。

インボイスの送付

このトランザクションは、外部の売掛システムに送信できるインボイス・データを公開します。

売掛システムとのインターフェースを必要とする環境では、このトランザクションをスケジュールに入れる必要があります。このトランザクションは、インボイス向けのイベントの発生を、以下の構成に基づきオーダー・ライフサイクルの次のタイミングで行います。

- 出荷作成時にインボイス発行 - これは、ご使用の買掛システムが支払集金を行うことを示します。インボイスは、作成されると即時に発行できます。
- 支払集金後にインボイス発行 - これは、コンソールで支払集金を行うことを示します。支払いが `AT_COLLECT` ステータスにあり、支払いが外部システムからは行われない場合、すべての支払い金額が集金済みのときのみインボイスが発行されます。支払いが `AT_CREATE` ステータス、または支払いが外部システムから行われる場合、インボイスは無条件に発行されます。

このトランザクションの要素および属性の多くは、テンプレート駆動型です。要素レベルの詳細については、XML を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 172. インボイスの送付の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_INVOICE

表 172. インボイスの送付の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	getOrderInvoiceDetails()

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 173. インボイスの送付の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 174. インボイスの送付の統計

統計の名前	説明
送信されたインボイス数 (NumInvoicesSent)	送信されたインボイスの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、作成済み (「00」) ステータスのオーダー・インボイスの数です。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 175. インボイスの送付トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
PUBLISH_INVOICE_DETAIL	modifyOrder_dbd.txt および sendInvoice_dbd.txt	YFS_getOrderInvoice Details_output.xml	あり

追加のイベントが `getOrderInvoiceDetails()` API により発生することがあります。イベントについて詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」のこの API で提供される詳細情報を参照してください。

アイテム変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信されるアイテム・データの変更を公開します。

アイテム変更が *Sterling Selling and Fulfillment Foundation* で発生すると、アイテム変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、すべてのアイテムの同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、`sendItemChanges` エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを抽出します。また、`SyncTS` が `NULL` か `MaxModifyTS` が `SyncTS` より大きいすべてのアイテムを抽出します。

アイテムの `MaxModifyTS` は、アイテムが変更されるたびに現在のタイム・スタンプを使用して更新されます。次に、トランザクションはそれらのアイテムに関する詳細情報を取得し、`ON_SUCCESS` イベントを発生させます。このイベントは、「アイテム変更を送信」アクションの起動のために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 176. アイテム変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ITEM_CHANGES
基本伝票種別	なし

表 176. アイテム変更の送信の属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 177. アイテム変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。アイテムの同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とするアイテムの数です。これは、論理キット・アイテムでも動的物理キット・アイテムでもないすべてのアイテムを算出します。また、SyncTS が NULL か MaxModifyTS が SyncTS より大きいアイテムを算出します。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 178. アイテム変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
ON_SUCCESS	なし	YCM_SEND_ITEM_CHANGES_ON_SUCCESS.XML	あり

顧客変更の送信

統合環境においてこのトランザクションは、外部システムに送信される顧客変更データを公開します。

顧客変更が Sterling Selling and Fulfillment Foundation で発生すると、顧客変更を外部システムに送信する必要があります。

ビジネス・プロセスでは、顧客の同期をバッチにより一度に行うことが必要な場合があります。例えば、sendItemChanges エージェントを構成して、アイテムを、各営業日の終わりに同期ロジックに基づき同期化するようにできます。このトランザクションは、ユーザー ID を現在有するコンシューマーであり、同期化を必要とするすべての顧客を抽出します。また、このトランザクションは、2 つのシステム間でユーザーの初期の同期を実行するのにも使用できます。例えば、外部システムが既に存在しており、Sterling Selling and Fulfillment Foundation が追加される場合、SendCustomerChanges エージェントは外部システムのユーザーを同期化します。

sendCustomerChanges エージェントは、バックアップ手段としても機能します。顧客の同期イベントが失敗した場合、エージェントは、指定された時間の経過後に自動的に同期を再試行します。

顧客の MaxModifyTS の更新は、顧客が変更される場合と syncTS が MaxModifyTS より小さい場合には常に、現在のタイム・スタンプを使用して行われ、また syncTS が NULL の場合にも現在のタイム・スタンプを使用して行われます。次に、トランザクションはそれらの顧客に関する詳細情報を取得し、ON_SUCCESS イベントを発生させます。このイベントは、顧客変更の送信アクションを起動するために構成する必要があります。

この統合の実装方法について詳しくは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合ガイド」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 179. 顧客変更の送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_CUSTOMER_CHANGES
基本伝票種別	なし
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 180. 顧客変更の送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
組織コード	オプション。顧客の同期の基になる組織。このフィールドは空欄がデフォルトです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、同期を必要とする顧客の数です。これは、コンシューマーであり、ユーザー ID を現在有し、さらに同期化を必要とする、顧客について算出されます。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 181. 顧客変更の送信トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開されるデータ	テンプレートがサポートされるか
SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS	なし	YSC_SEND_CUSTOMER_CHANGES.ON_SUCCESS.XML	あり

オーダーの送信

このトランザクションは、OrderHeaderKey がタスク・キュー・オブジェクトに格納されるオーダーに関して、ON_SUCCESS イベントを発生するように試行します。イベントが発生するのは、オーダーのすべてのオーダー明細が特定のステータス (複数の場合あり) に完全に達するときのみです。つまり、明細ごとの ORDERED_QTY 全体が特定のステータス (複数の場合あり) になる必要があります。イベントの発生に加え、明細のステータスもドロップ・ステータスに変更されて、ピックアップ・ステータスに対応します。抽象化トランザクション SEND_ORDER から派生する

SendOrder トランザクションでは、イベント、ピックアップ、およびドロップの各ステータスを構成する必要があります。詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の `sendOrder()` API で提供される詳細情報を参照してください。

オーダーでサード・パーティーとの通信が必要な場合は、このトランザクションを使用します。

タスク・オブジェクトにポストされる `TransactionKey` は、オーダーに関連付けられる `ProcessType` の抽象化トランザクション `SEND_ORDER` のインスタンスであることが必要です。それ以外の場合、例外がスローされます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 182. オーダーの送信の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SEND_ORDER
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	あり
呼び出される API (APIs Called)	<code>sendOrder()</code>

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 183. オーダーの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs」の sendOrder() API で指定されるイベントを発生させます。

リリースの送信

リリースの送信エージェントは、リリースを出荷ノードにディスパッチします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 184. リリースの送信の属性

属性	値
トランザクション名	リリースの送信
トランザクション ID	SHIP_ADVICE
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	com.yantra.yfs.agent.YFSWMSShipAdviceAgent

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 185. リリースの送信の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 186. リリースの送信の統計

統計の名前	説明
処理されたりリース数 (NumReleasesProcessed)	処理されたオーダー・リリースの数。
送信されたりリース数 (NumReleasesSent)	送信されたオーダー・リリースの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 187. リリースの送信トランザクションで発生するイベント

トランザクションイベント	公開されるデータ
PUBLISH_SHIP_ADVICE	YFS_publishShipAdvice_output.xml

オーダー開始交渉

このトランザクションは、交渉プロセスを経るよう構成される、オーダーの交渉を作成します。

このトランザクションは、オーダーが、リリース前に交渉フェーズを経る必要のある環境で使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 188. オーダー開始交渉の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	START_ORD_NEGOTIATION
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	createNegotiation()
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YCPBeforeCreateNegotiationUE、YCPGetNegotiationNoUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 189. オーダー開始交渉の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
ノード	必須。レコードが処理される倉庫管理出荷ノードです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 190. オーダー開始交渉の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
作成された交渉数 (NumNegotiationsCreated)	作成された交渉の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

このトランザクションは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」の createNegotiation() API で指定されるイベントを発生させます。

コロニー・マップの同期化

コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェントは、PLT_COLONY_MAP テーブル内の組織およびユーザーのコロニー・マップの挿入または更新を行います。エージェントを最初に実行する場合、エージェントはこのテーブルにデータを入れま

す。これは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation のインストール後および更新後、マルチ・スキーマ・モードにアップグレードする際に必要なステップです。

マルチ・スキーマ・モードへのアップグレードについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Multi-Tenant Enterprise Guide*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 191. コロニー・マップ・シンクロナイザーの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	COLONY_MAP_SYNC
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 192. コロニー・マップ・シンクロナイザーの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	同期されるコロニー。 エージェントが PLT_COLONY_MAP テーブルにデータを設定するように、Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール済み環境に備わっているデフォルトのコロニーで、最初にエージェントを実行する必要があります。この後に、別の ColonyID でエージェントを実行できます。
InsertDefaultMappings	「Y」が設定されている場合、コロニーが特定できないユーザーは、コロニー・マップ・シンクロナイザー・エージェント実行対象のコロニーにマッピングされます。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

なし。

ベスト・マッチ地域の更新

ベスト・マッチ地域の更新トランザクションは、YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルを管理し、このテーブルは、ベスト・マッチ地域データをレポートするデータウェアハウス分析で使用されます。ベスト・マッチ地域は、個人情報レコード内の以下の 5 つの住所属性により定義されます。

- ADDRESS_LINE6
- CITY
- 都道府県 (STATE)
- SHORT_ZIP_CODE
- COUNTRY

ベスト・マッチ地域の更新トランザクション用のエージェントは、2 つのモードで稼働します。このモードを使用して、YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルのセットアップおよび更新を行うことができます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 193. ベスト・マッチ地域の更新の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	UPDATE_BEST_MATCH_REGION
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YSCGetShortZipCode UE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 194. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 UpdateOnly = N の場合、エージェントを呼び出すごとに特定のレコードのみ戻されます。空欄のままにすると、デフォルトは 1000 です。
テーブル・タイプ (TableType)	YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。 有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。 CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。 TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。 エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_Person_Info レコードに対しても実行されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。
UpdateOnly	実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • N - デフォルト値。レコードを YFS_PERSON_INFO テーブルから YFS_REGION_BEST_MATCH テーブルに追加し、地域キーを YFS_BEST_MATCH テーブルに入れます。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行するには、UpdateOnly に N を設定します。 • Y - 更新モード。地域キーを YFS_REGION_BEST_MATCH 内の住所に基づき更新します。分析用にベスト・マッチ地域の初期セットアップを実行後、この値に Y を設定して更新モードを指定します。
LastPersonInfoKey	オプション。UpdateOnly に N が設定される場合、LastPersonInfoKey は、最初に入れる個人情報レコードを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

表 194. ベスト・マッチ地域の更新の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
LastRegionBest MatchKey	オプション。UpdateOnly に Y が設定される場合、LastRegionBestMatchKey は、更新する最初の地域ベスト・マッチ・キーを決定します。キーが指定されない場合、デフォルト値は Null です。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

なし。

所有権転送サマリーの読み込み

このメソッドは、YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルを更新します。

このトランザクションは、YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブル内のレコードをチェックすることによって、YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルを更新します。

また、このトランザクションによってレコードが使用された後、YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブル内の IS_STATISTICS_UPDATED を「Y」に更新します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 195. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	POPULATE_OWN_TRANS_SUMM
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし (None)

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 196. 「YFS 所有権転送の読み込み (YFSPopulateOwnershipTransfer)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」（唯一の有効値）に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_OWNERSHIP_TRANSFER_SUMMARY テーブルおよび YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし

保留中のジョブの数

なし

発生するイベント

なし

時間トリガー・ページ・トランザクション

一定の時間間隔でデータベース表をページするために使用できる、いくつかのトランザクションがあります。

ページ・トランザクションは、現在日付を判別し、ページに指定された保持日数を差し引くことで、表をページする時を決定します。表のタイム・スタンプが「現在日付から保持日数を差し引いた日付」を経過していれば、表はページされます。

場合によっては、ページが表のタイム・スタンプ以外の別のフィールドを参照することもあります。これらは資料内で示されています。

エンティティーがページされる場合、他の表に存在する関連情報または従属情報を一緒にページするかを考慮する必要があります。例えば、ライブ出荷があるオーダーがページされると、オーダー出荷コンソール内のそのオーダーの相互参照は不正確になります。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべての時間トリガー・ページ・トランザクションには、CollectPendingJobs 条件パラメーターがあります。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、その時間トリガー・トランザクションの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。1 つの特定の時間トリガー・トランザクションがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

ページ方法

各ページ・トランザクションに対してページ方法を計画するには、以下の推奨事項を考慮に入れる必要があります。

- 「ライブ」を「N」に設定して、ページをテストします。
- ページ内容をテストするためにロギングをオンにします。
- System Management Console でページ・トレースをセットアップし、情報を分析します。

ページ・トランザクション・ログ・ファイルの構成

このタスクについて

ページを構成して、指定するディレクトリーにログ・ファイルを書き込むことができます。特定のページを実行するたびに、新規データがこのファイルに追加されます。ファイルが存在しない場合、作成されます。

ページ・ログ・ファイル・ディレクトリーを指定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. yfs.purge.path プロパティを <INSTALL_DIR>/properties/customer_overrides.properties ファイルに構成します。例えば、UNIX では、ログ・ファイルが /app/yfs/logs/purges ディレクトリーに書き込まれるように指定できます。

customer_overrides.properties ファイルを使用したプロパティのオーバーライドについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation プロパティ・ガイド』を参照してください。
2. UNIX で <INSTALL_DIR>/bin/setupfiles.sh スクリプトを実行するか、Windows で <INSTALL_DIR>/bin/setupfiles.cmd スクリプトを実行します。

使用可能なページ

このセクションでは、すべてのページ・トランザクションの詳細を英字順に記載しています。

アクセス・トークン・ページ

このページは、アクセス・トークンをシステムから削除します。以下の条件がすべて満たされる場合、PLT_ACCESS_TOKEN テーブルからページ対象が選択されます。

- アクセス・トークンが期限切れか、非アクティブ状態にある。
- 最終変更日時が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付以前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 197. 「アクセス・トークン・ページ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ACCESSTOKPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 198. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 198. 「アクセス・トークン・ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 199. 「アクセス・トークン・ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたアクセス・トークン数 (NumAccessTokenPurged)	ページされたアクセス・トークンのレコード数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT_ACCESS_TOKEN テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

PLT_ACCESS_TOKEN

キャパシティー・ページ

このページは、システムからキャパシティー・データを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、ページ対象のキャパシティー・データが選択されます。

- すべてのリソース・プールの標準キャパシティー期間の有効終了日が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのオーバーライド済みキャパシティーの日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の日付が、現在の日付からページ条件の保持日数を引いた日付と等しいか古い。
- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、予定日が、システム日付からページ条件の保持日数 (手動で作成された予約の場合は「手動予約のページ・リード日数 (ManualReservationPurgeLeadDays)」) を引いた日付よりも古い。

- すべてのリソース・プールのキャパシティー消費の詳細情報において、有効期限が過ぎており、予約 ID が空欄ではない。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 200. 「キャパシティー・パージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CAPACITYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 201. 「キャパシティー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 202. 「キャパシティー・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた標準キャパシティー期間数 (NumStdCapacityPeriodsPurged)	パージされた標準キャパシティー期間の数。
パージされたキャパシティー・オーバーライド数 (NumCapacityOverridesPurged)	パージされたキャパシティー・オーバーライドの数。
パージされたキャパシティー消費数 (NumCapacityConsumptionsPurged)	パージされたキャパシティー消費の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_RES_POOL_STD_CAPCTY_PERD、YFS_RES_POOL_CAPCTY_OVERRIDE、YFS_RES_POOL_CONSMPTN_DTLS、およびYFS_RES_POOL_CAPCTY_CONSMPTN の各テーブルからパージできるレコードの総数です。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_RES_POOL_STD_CAPCTY_PERD テーブルは、EFFECTIVE_TO_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS_RES_POOL_CAPCTY_OVERRIDE テーブルは、CAPACITY_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

YFS_RES_POOL_CAPCTY_CONSMPTN テーブルは、CONSUMPTION_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合、または手動で予約された場合は、CONSUMPTION_DATE <= (現在日付 - 手動予約の保持日数) の場合にパージされます。このテーブルがパージされると、YFS_RES_POOL_CONSMPTN_DTLS もパージされます。

YFS_RES_POOL_CONSMPTN_DTLS テーブルは、RESERVATION_EXPIRATION_DATE <= (現在日付 - リード日数) の場合にパージされます。

ドラフト・オーダー履歴パージ

このパージは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルからデータを削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。

ページ・コードの疑似論理を使用して、ページを分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴をページするためにドラフト・オーダーが選択されま

- 最後に変更されたドラフト・オーダーの日付が、保持日数の期間を過ぎている。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

注: ドラフト・オーダーをページして履歴テーブルに移動してから、ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする必要があります。325 ページの『ドラフト・オーダー・ページ』を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、ドラフト・オーダー履歴をページするトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダー履歴テーブルをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード `DRAFTORDERHISTPRG` を指定することができます。ドラフト・オーダー履歴テーブルをページするための「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、359 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

条件パラメーター

ドラフト・オーダー履歴トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 203. 「ドラフト・オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。資格を満たすレコードを、「ページされるテーブル」に記載された履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。

表 203. 「ドラフト・オーダー履歴パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERHISTPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ANSWER_SET_TRAN_H

YFS_ANSWER_TRAN_H

YFS_CHARGE_TRAN_DIST_H

YFS_CHARGE_TRANSACTION_H

YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION_H

YFS_ENTITY_ADDRESS_H

YFS_HEADER_CHARGES_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

YFS_INVOICE_COLLECTION_H

YFS_LINE_CHARGES_H

YFS_NOTES_H

YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL_H

YFS_ORDER_AUDIT_H

YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL_H

YFS_ORDER_DATE_H

YFS_ORDER_HEADER_H

YFS_ORDER_HOLD_TYPE_H

YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG_H
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL_H
YFS_ORDER_INVOICE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_LINE_H
YFS_ORDER_LINE_OPTION_H
YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG_H
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC_H
YFS_ORDER_RELEASE_H
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS_H
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM_H
YFS_PAYMENT_H
YFS_PROMOTION_AWARD_H
YFS_PROMOTION_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_H
YFS_REFERENCE_TABLE_H
YFS_TAX_BREAKUP_H

ドラフト・オーダー・ページ

このページは、指定された時間間隔の後に、履歴テーブルにデータを保存します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルへの負荷が低減します。履歴テーブルからのドラフト・オーダーのページについて詳しくは、322 ページの『ドラフト・オーダー履歴ページ』を参照してください。

Sterling Selling and Fulfillment Foundation では、ドラフト・オーダー・ページ用のトランザクションは提供されていません。ドラフト・オーダーをページするトランザクションを定義する場合、トランザクション条件に関する以下の条件パラメーターのセクションを参照してください。

ドラフト・オーダーをページする独自のトランザクションを定義しない場合、「オーダー・ページ」トランザクションを使用してページ・コード DRAFTORDERPRG

を指定することができます。ドラフト・オーダー・ページ用の「オーダー・ページ」トランザクションを構成するには、359 ページの『オーダー・ページ』で詳細を参照してください。

コンソールを使用しているすべてのエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

ドラフト・オーダーは、以下の条件が満たされる場合に、検証用のエージェントによって選択されます。

- ドラフト・オーダー・フラグが、Y に設定されている。
- 変更時のタイム・スタンプが、保存日付に対して設定されている。

ドラフト・オーダーの選択後、以下の条件に基づいて、各ドラフト・オーダーのページについて妥当性が検証されます。

- オーダーに、資格を満たすオーダー・リリース・ステータス・レコード (ゼロより大きなステータスを持つレコード) が存在しない。
- オーダーの未完了の子オーダー (派生、連鎖、返品、交換、または返金フルフィルメント) が既にすべてページされている。

ドラフト・オーダーが上記の一連の検証条件を満たす場合、エージェントは以下の条件について引き続きドラフト・オーダーを検証します。

- 「ドラフト作成済み」ステータス (1000) およびすべての拡張「ドラフト作成済み」ステータスが含まれる。
- 保持日数に適合しないオーダー・リリース・ステータス・レコードが含まれない。
- オーダーの最後の変更が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。
- 交換オーダーが返品オーダーの一部である場合、返品オーダーをページする前に交換オーダーが履歴テーブルからページされている。
- オーダー明細予約の場合、ドラフト・オーダーのページは不可。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが N に設定されている場合、ドラフト・オーダーはページされる。
- 「ドラフト・オーダー支払処理 (Draft Order Payment Processing)」フラグが Y に設定され、ドラフト・オーダーに料金が存在する場合、ドラフト・オーダーはページされない。ただし、ドラフト・オーダーのページを検証する場合、承認は考慮されない。
- オーダー明細の場合、以下のサービス・オーダー明細は除外されます。
 - セラーの在庫更新が必要で、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンに設定され、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。(「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが使用可能なカスタム・セラー供給タイプでも可。)
 - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
 - バイヤーの在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄の場合。

条件パラメーター

「ドラフト・オーダー・ページ」トランザクションを定義するための条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 204. 「ドラフト・オーダー・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次回のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクの再処理を検討するまでの中断期間を、時間単位で指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	必須。「ドラフト・オーダー・ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 エンタープライズ・コードが空欄の場合、デフォルト・エンタープライズに対して構成されたページ条件が使用され、ドラフト・オーダーのエンタープライズに対して構成されたページ条件は使用されません。
タイプ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。DRAFTORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ACTIVITY_DEMAND

YFS_ANSWER_SET_TRAN

YFS_ANSWER_TRAN
YFS_CHARGE_TRANSACTION
YFS_CHARGE_TRAN_DIST
YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION
YFS_ENTITY_ADDRESS
YFS_HEADER_CHARGES
YFS_INSTRUCTION_DETAIL
YFS_INVOICE_COLLECTION
YFS_LINE_CHARGES
YFS_MONITOR_ALERT
YFS_NOTES
YFS_ORDER_AUDIT
YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL
YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL
YFS_ORDER_HEADER
YFS_ORDER_HOLD_TYPE
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG
YFS_ORDER_INVOICE
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL
YFS_ORDER_KIT_LINE
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE
YFS_ORDER_LINE_OPTION
YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG
YFS_ORDER_LINE_RESERVATION
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE_SRC_CNTRL
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC

YFS_ORDER_RELEASE

YFS_ORDER_RELEASE_STATUS

YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM

YFS_ORDER_DATE

YFS_PAYMENT

YFS_PMNT_TRANS_ERROR

YFS_PROMOTION

YFS_PROMOTION_AWARD

YFS_RECEIVING_DISCREPANCY

YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL

YFS_REFERENCE_TABLE

YFS_TAX_BREAKUP

配送計画のパージ (Delivery Plan Purge)

配送計画が通常のライフサイクルを完了した場合、このパージによって配送計画を削除します。配送計画に関連付けられたすべての集合・混載と出荷をパージしてから、このパージ・エージェントを実行する必要があります。

条件パラメーターで指定された保持日数を超える期間「完了」のマークが付けられていた配送計画、および、どの出荷、集合・混載も含まない配送計画が、すべてパージされます。設定されたリード・タイム (日単位) より前に、オーダーを履歴に移動しておく必要があります。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、配送計画がパージ対象として選択されます。

- 配送計画が「完了」ステータスにある。
- 配送計画が、どの集合・混載、出荷にも関連付けられていない。
- 配送計画に関連付けられたすべてのオーダーが、パージされている。
- 配送計画に対して最後に行われた変更が、設定されたリード・タイム (日単位) より前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 205. 「配送計画のバージ」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	DELIVERYPLANPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 206. 「配送計画のバージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「配送計画のバージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - レコードは 1 件ずつ削除されます。

表 206. 「配送計画のパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_DELIVERY_PLAN テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 207. 「配送計画のパージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた配送計画数 (NumDeliveryPlansPurged)	パージされた配送計画の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_DELIVERY_PLAN テーブルからパージできるレコードの数です。

7 発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_DELIVERY_PLAN

エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)

このパージは、システムからエクスポート・テーブルのデータを削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、パージ対象として YFS_EXPORT テーブルから選択されます。

- YFS_EXPORT レコードに、処理済み (ステータス = 10) のマークが付けられている。
- 最後に変更された時刻が、リード・タイム (日単位) 設定よりも前である。
このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このパージは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

アプリケーション・コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 208. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 209. 「エクスポート・テーブルのパージ (Export Table Purge)」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 209. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」 の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_EXPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 210. 「エクスポート・テーブルのページ (Export Table Purge)」 の統計

統計の名前	説明
ページされたエクスポート数 (NumExportsPurged)	ページされたエクスポートの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Export テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_EXPORT

インポート・テーブル・ページ

このページは、インポート・テーブル・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS_IMPORT テーブルがページ対象としてピックアップされます。

- YFS_IMPORT レコードが「処理済み」としてマークされている (Status = "10")。
- 「最終変更時刻」がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
このページは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 211. 「インポート・テーブル・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	IMPORTTBLPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 212. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - デフォルト値。レコードは 1 件ずつ削除されます。
パージ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 212. 「インポート・テーブル・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID	YFS_IMPORT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 213. 「インポート・テーブル・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたインポート数 (NumImportsPurged)	パージされたインポート・テーブルの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Import テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_IMPORT

在庫監査パージ

このパージは、在庫監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

現在日付からパージ条件の保持日数を引いた日付より前の変更時のタイム・スタンプを持つ、指定された組織のすべての在庫監査を、「在庫監査パージ」でピックアップされるように構成できます。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、在庫監査レコードはパージ対象としてピックアップされます。

- 在庫監査レコードの最終変更日時が、現在のタイム・スタンプから保持日数を引いた日時よりも前である。

このパージのエージェント条件の詳細のスレッド数が 1 に設定されている必要があります。エージェント条件について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* アプリケーション・プラットフォーム構成ガイド」を参照してください。

「在庫監査パージ」は、そうするように構成されていた場合でも、過去 60 日以内のレコードはパージしません。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 214. 「在庫監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYAUDITPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 215. 「在庫監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫監査ページ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 216. 「在庫監査」の統計

統計の名前	説明
ページされた在庫監査数 (NumInventoryAuditsPurged)	ページされた在庫監査の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Inventory_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_INVENTORY_AUDIT

在庫ページ

このページは、在庫データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このページは、ページの際に保持日数を考慮しません。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

YFS_INVENTORY_SUPPLY では、以下の条件を満たす場合、在庫供給はページ対象としてピックアップされます。

- 供給レコードとノードの在庫状況タイプが同じである。例えば、「追跡」または「無限」である。
- 供給レコードの量が 0 である。
- 供給レコードに、「情報」の供給タイプが含まれていない。

YFS_INVENTORY_DEMAND では、以下の条件を満たす場合、在庫需要はページ対象としてピックアップされます。

- 需要レコードの量が 0 以下である。
- YFS_INVENTORY_DEMAND_ADDNL テーブル内に需要の詳細および一致する需要レコードがない。

YFS_INVENTORY_TAG の場合、INVENTORY_TAG_KEY を使用する既存の供給および需要がない場合に、ページされます。

YFS_INVENTORY_RESERVATION では、以下の条件を満たす場合、在庫予約はページ対象としてピックアップされます。

- 在庫予約レコードの量が 0、または出荷日が、システム日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前である。

YFS_INVENTORY_NODE_CONTROL では、INV_PIC_INCORRECT_TILL_DATE が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

YFS_IBA_TRIGGER では、IBA_REQUIRED = 'N'、IBA_RUN_REQUIRED = 'N'、および LAST_IBA_PROCESSED_TS が現在のタイム・スタンプからパージ条件の保持日数を引いた日時より前の場合に、パージされます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 217. 「在庫パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORYPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 218. 「在庫パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	「在庫パージ」を実行する対象の在庫組織。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 218. 「在庫パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 219. 「在庫パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫需要数 (NumInventoryDemandsPurged)	パージされた在庫需要の数。
パージされた在庫ノード管理数 (NumInventoryNodeControlsPurged)	パージされた在庫ノード管理の数。
パージされた在庫予約数 (NumInventoryReservationsPurged)	パージされた在庫予約の数。
パージされた在庫タグ数 (NumInventoryTagsPurged)	パージされた在庫タグの数。
パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガー数 (NumItemBasedAllocationTriggersPurged)	パージされたアイテム・ベースの割り当てトリガーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Inventory_Supply、YFS_Inventory_Demand、YFS_Inventory_Tag、YFS_Inventory_Reservation、YFS_IBA_Trigger、および YFS_Inventory_Node_Control テーブルからパージできるレコードの総数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_IBA_TRIGGER

YFS_INVENTORY_DEMAND

YFS_INVENTORY_TAG

YFS_INVENTORY_RESERVATION

YFS_INVENTORY_SUPPLY

YFS_INVENTORY_NODE_CONTROL

在庫供給一時パージ

「在庫供給一時パージ」エージェントは、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の在庫ピクチャーとノード上の実際の在庫ピクチャーの同期プロセスによって生成された、一時在庫テーブルのコンテンツをクリーンアップします。

ノード在庫ピクチャーは、ロードのプロセス時に、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルに保管されます。同期フェーズが完了し、YFS_INVENTORY_SUPPLY テーブルの更新が終了したら、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルをパージする必要があるため、このエージェントがそのパージを実行します。

ノード在庫との同期の構成については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

「在庫供給一時パージ」エージェントを使用して、YantraMessageGroupID のグループについて、現在日時からパージ条件の保持日数を引いた日時より前の変更時のタイム・スタンプを持つ YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP 内のすべてのレコードがパージされます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 220. 「在庫供給一時パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SUPPLYTEMPPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 221. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。

表 221. 「在庫供給一時パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「在庫供給一時パージ」を実行する対象の在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 222. 「在庫供給一時パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた在庫一時供給数 (NumInventorySupplyTempsPurged)	パージされた YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブル内のエントリーの数。

保留中のジョブの数

最大の変更時のタイム・スタンプが現在のタイム・スタンプからパージ条件のリード日数を引いた日時より前である、YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP テーブルの固有の YantraMessageGroupID の数。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_INVENTORY_SUPPLY_TEMP

アイテム監査パージ

このパージは、YFS_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このパージ

は、以下の条件を満たした場合、YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブル内のレコードをパージします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS_AUDIT レコード、および「YFS_ITEM」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS_ITEM テーブル内のレコードを変更したときに、YFS_ITEM が監査され、監査レコードが YFS_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このパージ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションを適宜スケジュールする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 223. 「アイテム監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ITEM_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 224. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。 • N - テスト・モード。

表 224. 「アイテム監査パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 225. 「アイテム監査パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたアイテム監査レコード数 (NumItemAuditRecords Purged)	パージされたアイテム監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS_AUDIT テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_AUDIT、YFS_AUDIT_HEADER

集合・混載履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、集合・混載データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。集合・混載に行われた最終変更が、リード・タイム (日単位) が満たされるより前の場合、パージ対象として集合・混載がピックアップされます。

このトランザクションを実行する前に、必ず集合・混載をパージして、履歴テーブルに移動してください。集合・混載のパージに関する詳細は、345 ページの『集合・混載パージ』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 226. 「集合・混載履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADHISTPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 227. 「集合・混載履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 228. 「集合・混載履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載履歴数 (NumLoadHistoriesPurged)	パージされた集合・混載履歴の数。
パージされた集合・混載の出荷履歴数 (NumLoadShipmentHistoriesPurged)	パージされた集合・混載の出荷履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Load_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_LOAD_H

YFS_LOAD_STOP_H

YFS_LOAD_SHIPMENT_CHARGE_H

YFS_LOAD_STATUS_AUDIT_H

YFS_SHIPMENT_CONTAINER_H

YFS_CONTAINER_ACTIVITY_H

YFS_LOADED_CONTAINER_H

YFS_LOAD_SHIPMENT_H

YFS_ADDITIONAL_DATE_H

YFS_LOAD_HOLD_TYPE_H

YFS_LOAD_HOLD_TYPE_LOG_H

集合・混載パージ

このパージは、集合・混載データをシステムから削除します。「クローズ」としてマークされているすべての集合・混載をピックアップしてパージします。空の集合・混載 (出荷のない集合・混載など) は、パージ対象と見なされません。このパージの一部として、関連した子テーブルもパージされます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、集合・混載はページ対象としてピックアップされます。

- 集合・混載の最終変更が、リード・タイム設定 (日単位) より前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 229. 「集合・混載ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	LOADPRG
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 230. 「集合・混載ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「集合・混載ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 230. 「集合・混載パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 231. 「集合・混載パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた集合・混載の出荷数 (NumLoadShipmentsPurged)	パージされた集合・混載の出荷の数。
パージされた集合・混載数 (NumLoadsPurged)	パージされた集合・混載の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Load テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ADDITIONAL_DATE

YFS_LOAD

YFS_LOAD_HOLD_TYPE

YFS_LOAD_HOLD_TYPE_LOG

YFS_LOAD_STOP

YFS_LOAD_SHIPMENT

YFS_LOAD_SHIPMENT_CHARGES (この集合・混載に関する料金)

YFS_LOAD_STATUS_AUDIT

YFS_LOADED_CONTAINER

YFS_SHIPMENT_CONTAINER

交渉履歴ページ

このページは、交渉履歴データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これによって、オーダー交渉履歴テーブルからデータがページされます。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉は履歴ページ対象としてピックアップされます。

- 交渉の最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 232. 「交渉履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	NEGOTIATIONHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 233. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 233. 「交渉履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 234. 「交渉履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた交渉履歴数 (NumNegotiationHistoriesPurged)	ページされた交渉履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Negotiation_Hdr_H テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_NEGOTIATION_HDR_H

YFS_NEGOTIATION_LINE_H

YFS_RESPONSE_H

YFS_RESPONSE_HDR_H

YFS_RESPONSE_LINE_H

YFS_RESPONSE_LINE_DTL_H

交渉ページ

このページは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キュー (YFS_TASK_Q) テーブルから動作します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、交渉はページ対象としてピックアップされます。

- 交渉に対して行われた最終変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- 交渉がピックアップ可能なステータスにある。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 235. 「交渉ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 236. 「交渉ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 236. 「交渉ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
次回のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 237. 「交渉ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたオーダー交渉数 (NumOrderNegotiationsPurged)	ページされたオーダー交渉の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_NEGOTIATION_HDR

YFS_NEGOTIATION_LINE

YFS_RESPONSE

YFS_RESPONSE_HDR

YFS_RESPONSE_LINE

案件履歴パージ

このトランザクションは、案件パージによって前にアーカイブされたタスクを削除します。353 ページの『案件パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件パージ・エージェントによって前にパージされた案件が、履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 見積履歴がパージされている。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 238. 「案件履歴パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYHISTPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 239. 「案件履歴パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。

表 239. 「案件履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたページ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたページ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 240. 「案件履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた案件履歴数 (NumOpportunityHistoryPurged)	ページされた案件履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_OPPORTUNITY_H テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_OPPORTUNITY_H

案件ページ

この時間トリガー・トランザクションは、「案件ページ」条件で指定された保持日数より長い期間のすべての案件、および「キャンセル済み」または「完了済み」のいずれかのステータスにあるすべての案件をページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、案件はページ対象としてピックアップされます。

- 案件の最終変更日時が保持日数期間を超えている。
- 案件に関連付けられた見積がページされている。
- 案件が、ページ・トランザクションによってピックアップ可能なステータスにある。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 241. 「案件ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	OPPORTUNITYPRG
基本伝票種別	案件
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	案件フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 242. 「案件ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 242. 「案件パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「案件パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、案件のエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 243. 「案件パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた案件数 (NumOpportunityPurged)	パージされた案件の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_OPPORTUNITY テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_OPPORTUNITY

オーダー履歴パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

このトランザクションを実行するには、オーダーがパージされ、履歴テーブルに移動されている必要があります。これについて詳しくは、359 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーは履歴パージ対象としてピックアップされます。

- オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

明細タイプに基づいた追加ページ条件については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation* 分散オーダー管理 構成ガイド」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 244. 「オーダー履歴ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDERHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 245. 「オーダー履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー履歴ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 245. 「オーダー履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 246. 「オーダー履歴ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたオーダー履歴数 (NumOrderHistoriesPurged)	ページされたオーダー履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Order_HEADER_H テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ANSWER_SET_TRAN_H

YFS_ANSWER_TRAN_H

YFS_CHARGE_TRAN_DIST_H

YFS_CHARGE_TRAN_REQUEST_H

YFS_CHARGE_TRAN_RQ_MAP_H

YFS_CHARGE_TRANSACTION_H

YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION_H

YFS_ENTITY_ADDRESS_H

YFS_HEADER_CHARGES_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

YFS_INVOICE_COLLECTION_H

YFS_LINE_CHARGES_H

YFS_NOTES_H

YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL_H

YFS_ORDER_AUDIT_H
YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL_H
YFS_ORDER_DATE_H
YFS_ORDER_HEADER_H
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_H
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG_H
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL_H
YFS_ORDER_INVOICE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_H
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_LINE_H
YFS_ORDER_LINE_OPTION_H
YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG_H
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE_H
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC_H
YFS_ORDER_RELEASE_H
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS_H
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM_H
YFS_PAYMENT_H
YFS_PROMOTION_AWARD_H
YFS_PROMOTION_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL_H
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_H
YFS_REFERENCE_TABLE_H
YFS_TAX_BREAKUP_H
YIC_BOM_HEADER_H
YIC_BOM_LINE_H
YIC_BOM_MESSAGE_H

オーダー・パージ

このパージは、標準のライフサイクルの完了後に、データを履歴テーブルにアーカイブします。オーダーを履歴テーブルからパージするには、355 ページの『オーダー履歴パージ』を参照してください。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。これは、タスク・キューで動作します。トランザクション PURGE で使用可能なオーダーを、YFS_TASK_Q テーブルからピックアップします。

パージ条件が一致しない場合、AVAILABLE_DATE が YFS_ORDER_HEADER テーブルおよび YFS_TASK_Q テーブル内のオーダーの変更タイム・スタンプで、どちらか最大の方に基づいて計算されます。この値については、保持日数が新規の AVAILABLE_DATE に追加されます。

このトランザクションは、「パージ」トランザクションによってピックアップ可能なステータスにあるオーダーの、すべての明細に依存します。

以下のステータスが、オーダー・パージでピックアップされる構成で使用可能です。

- 「ドラフト作成済み (1000)」、およびすべての拡張された「ドラフト作成済み」ステータス。
- 「作成済み (1100)」およびすべての拡張された「作成済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「販売オーダー」、「購入オーダー」および「転送オーダー」のみです。
- 「リリース済み (3200)」およびすべての拡張された「リリース済み」ステータス。
- 「出荷済み (3700)」およびすべての拡張された「出荷済み」ステータス。
- 「完了済み (3700)」およびすべての拡張された「完了済み」ステータス。これらのステータスが使用可能な伝票種別は、「マスター・オーダー」のみです。
- 「受入済み (3900)」およびすべての拡張された「受入済み」ステータス。
- 「キャンセル (9000)」およびすべての拡張された「キャンセル」ステータス。
- 「不足 (9020)」およびすべての拡張された「不足」ステータス。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダーはパージ対象としてピックアップされます。

- オーダーのすべてのオープンな子オーダー (派生、チェーン、返品、交換、調達または返金のフルフィルメント) がパージ済み。
- 転入を超える他のオーダーへの保留中の転出料金が無い。
- 保留中の調整インボイスが無い。

前述の 3 つの条件に一致した場合、オーダーは即時にパージされ、支払集金が完了すると完全にキャンセルされます。

パージ・エージェントがキャンセルされたオーダーをピックアップするには、オーダーの支払ステータスが以下のいずれかでなければなりません。

- 支払済み

- 該当せず

オーダーが前述の条件のいずれにも一致しない場合、以下に示す条件についてチェックが続行されます。

- 保持日数に一致しないオーダー・リリース・ステータス・レコードがないこと。
- パージ対象となる正しいステータスにある。例:
 - オーダーのすべてのサービス要請のステータスが「出荷済み」または拡張された「出荷済み」である。
 - オーダーの支払ステータスが「支払済み」または「該当せず」である。
 - パージ未済の交渉がない。
- サービス要請の明細以外のすべてのオーダー明細について、以下が該当する。
 - セラー在庫更新が必要な場合、「ステータス在庫のタイプ」の「セラーの供給を更新する」オプションがオンになっており、「セラー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。（「セラー供給タイプ」は、「手持ちの供給」チェック・ボックスが有効になっているカスタム・セラー供給タイプでも構いません。）
 - 「セラー需要タイプ」が空欄の場合。
 - バイヤー在庫更新が必要で、「バイヤー供給タイプ」が「手持ち在庫」または空欄である。
- オーダーの最終変更は、リード・タイム設定（日単位）より前でなければなりません。
- コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。
- オーダーは、配達未済のサービス明細を保有してはいけません。
- 返品オーダー処理のための交換オーダーの場合、返品オーダーをパージするには、その前に交換オーダーを履歴からパージする必要があります。

ステータス在庫のタイプに変更がない場合、バイヤーが渡されないと、「出荷済み(3700)」ステータスまたはその拡張ステータスにあるオーダーがパージされます。

デフォルト・パイプラインで「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスにあるオーダーは、渡されたバイヤーが在庫を追跡している場合、パージされません。これによって、在庫を追跡しているバイヤーの保留中の供給に関連したオーダーがパージされることを防ぎます。

そのようなオーダーをパージするには、「出荷済み」ステータスまたは拡張された「出荷済み」ステータスのステータス在庫のタイプを構成して、「バイヤー供給タイプ」がステータス在庫タイプで ONHAND になるようにします。

パージ・エージェントが実行されている場合、明細のないドラフト・オーダーが、オーダー履歴テーブルにパージされます。パージ履歴エージェントが実行されると、明細のないドラフト・オーダーは永久に削除されるようになります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 247. 「オーダー・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 248. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。

表 248. 「オーダー・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
パージ・コード (PurgeCode)	<p>必須。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。このパラメーターを、以下の値に設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DRAFTORDERHISTPRG。ドラフト・オーダー情報をオーダー履歴テーブルからパージします。 • DRAFTORDERNOLINEHISTPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをオーダー履歴テーブルからパージします。 • DRAFTORDERNOLINEPRG。オーダー明細のないドラフト・オーダーをパージします。 • DRAFTORDERPRG。ドラフト・オーダー情報をパージし、オーダー履歴テーブルにアーカイブします。 <p>「パージ・コード」の値は ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定できません。</p>
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	<p>オプション。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。</p> <p>詳しくは、364 ページの『オーダー・リリース・ステータスのパージ』を参照してください。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 249. 「オーダー・パージ」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
パージされたオーダー数 (NumOrdersPurged)	パージされたオーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ACTIVITY_DEMAND
YFS_ANSWER_SET_TRAN
YFS_ANSWER_TRAN
YFS_CHARGE_TRANSACTION
YFS_CHARGE_TRAN_DIST
YFS_CHARGE_TRAN_REQUEST
YFS_CHARGE_TRAN_RQ_MAP
YFS_CREDIT_CARD_TRANSACTION
YFS_ENTITY_ADDRESS
YFS_HEADER_CHARGES
YFS_INSTRUCTION_DETAIL
YFS_INVOICE_COLLECTION
YFS_LINE_CHARGES
YFS_MONITOR_ALERT
YFS_NOTES
YFS_ORDER_AUDIT
YFS_ORDER_AUDIT_DETAIL
YFS_ORDER_AUDIT_LEVEL
YFS_ORDER_HEADER
YFS_ORDER_HOLD_TYPE
YFS_ORDER_HOLD_TYPE_LOG
YFS_ORDER_INVOICE
YFS_ORDER_INVOICE_DETAIL
YFS_ORDER_KIT_LINE
YFS_ORDER_KIT_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE
YFS_ORDER_LINE_OPTION

YFS_ORDER_LINE_REQ_TAG
YFS_ORDER_LINE_RESERVATION
YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE
YFS_ORDER_LINE_SRC_CNTRL
YFS_ORDER_PROD_SER_ASSOC
YFS_ORDER_RELEASE
YFS_ORDER_RELEASE_STATUS
YFS_ORDER_SER_PROD_ITEM
YFS_ORDER_DATE
YFS_PAYMENT
YFS_PMNT_TRANS_ERROR
YFS_PROMOTION
YFS_PROMOTION_AWARD
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY
YFS_RECEIVING_DISCREPANCY_DTL
YFS_REFERENCE_TABLE
YFS_TAX_BREAKUP
YIC_BOM_HEADER
YIC_BOM_LINE
YIC_BOM_MESSAGE
YIC_BOM_PROP

オーダー・リリース・ステータスのパージ

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントは、「オーダー・パージ」エージェントがデータを履歴テーブルに完全にパージする前に、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージすることによって、「オーダー・パージ」エージェントの機能を拡張します。

オーダーがパージ対象の条件を満たした場合、数量 0 のオーダー・リリース・ステータス・レコードは YFS_ORDER_RELEASE_STATUS テーブルから削除され、履歴テーブルに入れられません。

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」エージェントが完了すると、タスク・キューの AVAILABLE_DATE は、「オーダー・パージ」のパージ条件で指定

された日付にリセットされます。これによって、「オーダー・パージ」エージェントは、必要に応じてオーダーをピックアップし、処理することができます。「オーダー・パージ」は、通常どおりオーダー・リリース・ステータス・レコードのページを続行します。

以下の条件を満たす場合、「オーダー・パージ」エージェントは、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージします。

- 「オーダー・パージ」のすべての条件が一致。「オーダー・パージ」の条件については、359 ページの『オーダー・パージ』を参照してください。
- オーダー・リリース・レコードの数量が 0 である。
- 「オーダー・パージ」条件の「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」が ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定されている。
- 「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」の「オーダー・パージ」リード日数内にオーダーが変更されている。

条件パラメーター

「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 250. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get) (唯一の有効値)」に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
次のタスク・キュー間隔	オプション。失敗したタスクを、再処理を検討するまで中断する時間数を指定します。デフォルトは 5 時間です。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・パージ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。 「エンタープライズ・コード」が空欄の場合、デフォルトのエンタープライズに構成されたパージ条件が使用され、オーダーのエンタープライズに構成されたパージ条件は使用されません。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。「オーダー・パージ」エージェントを拡張して、オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、ORDERPRG に設定します。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。また、「追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)」も設定する必要があります。

表 250. 「オーダー・リリース・ステータスのパージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
追加パージ・コード (AdditionalPurgeCode)	必須。オーダー・リリース・ステータス・レコードをパージするには、このパラメーターを ORDER_RELEASE_STATUS_PURGE に設定します。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) の「オーダー・パージ」によって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ORDER_RELEASE_STATUS

オーダー・ステータス監査パージ

このパージは、オーダー・ステータス監査データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、オーダー・ステータス監査は履歴パージ対象としてピックアップされます。

- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

このトランザクションは、交渉が完了した後に実行する必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 251. 「オーダー・ステータス監査パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	STATUSAUDITPRG
基本伝票種別	オーダー

表 251. 「オーダー・ステータス監査ページ」属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 252. 「オーダー・ステータス監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・ステータス監査ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_STATUS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 253. 「オーダー・ステータス監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたステータス監査数 (NumStatusAuditsPurged)	ページされたステータス監査の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Status_Audit テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_STATUS_AUDIT

組織監査ページ

このページは、YFS_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定された保持日数よりも大きい「変更時のタイム・スタンプ」を持つ YFS_AUDIT レコード、および「YFS_ORGANIZATION」というテーブル名のレコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

エンタープライズが Applications Manager によって YFS_ORGANIZATION テーブル内のレコードを変更したときに、YFS_ORGANIZATION が監査され、監査レコードが YFS_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 254. 「組織監査ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_ORGANIZATION_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 255. 「組織監査ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、値はデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。• N - テスト・モード。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 256. 「組織監査ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた組織監査レコード数 (NumOrganizationAudit RecordsPurged)	ページされた組織監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_AUDIT_HEADER

個人情報のページ

このページは、個人情報レコード・カウントを持つ日付のリストを取得し、日付の昇順にソートします。次に、バッファーに入れる指定済みのレコード数および変更タイム・スタンプに基づいて、該当するレコードをページし、YFS_PERSON_INFO_H テーブルに配置します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 257. 「個人情報ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 258. 「個人情報ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none">空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 258. 「個人情報ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PERSON_INFO テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

空欄のままにするか、10000 よりも小さい数字が指定された場合、デフォルトの 10000 に設定されます。しかし、10000 より大きい数字が指定された場合、その値が使用されます。

表 259. 「個人情報ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされた個人情報数 (NumPersonInfoPurged)	ページされた個人情報レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_PERSON_INFO テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_PERSON_INFO

個人情報履歴のページ

これは、ページ基準に基づいて、YFS_PERSON_INFO_H テーブルからレコードを削除します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 260. 「個人情報履歴のページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PERSONINFOHISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 261. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。 <ul style="list-style-type: none">空欄のままにするか、または 10000 より小さい数字を指定した場合、デフォルトで 10000 に設定されます。10000 よりも大きい数字を指定した場合、その値が使用されます。

表 261. 「個人情報履歴ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	<p>オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	<p>必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。</p>
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	<p>このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。</p>
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	<p>オプション。「個人情報ページ」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。</p>
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_Person_Info テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION に設定された場合、テーブル・タイプが CONFIGURATION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Organization、YFS_Ship_Node など) についてページが実行されます。</p> <p>TRANSACTION に設定された場合、テーブル・タイプが TRANSACTION のテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコード (YFS_Order_Header、YFS_Shipment など) についてページが実行されます。</p> <p>ページは、渡されたものと同じスキーマに存在するすべてのテーブル・タイプについて実行されることに注意してください。例えば、TRANSACTION に設定された場合、同じスキーマに存在するため、MASTER のテーブル・タイプを持つテーブルに関連付けられた YFS_Person_Info レコードについても、ページは実行されます。</p>
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_PERSON_INFO_H テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 262. 「個人情報履歴パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた個人情報履歴レコード数 (NumPersonInfoHlstoryRecords Purged)	パージされた個人情報履歴レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_PERSON_INFO_H テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_PERSON_INFO_H

ピック・リスト・パージ

このパージは、条件パラメーターで指定された保持日数より長い期間存在し、出荷を保有していない、すべてのピック・リストをピックアップします。

コンソールを使用しているエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、ピック・リストはパージ対象としてピックアップされます。

- ピック・リストが指定された保持日数よりも長い期間存在する。
- ピック・リストが出荷に関連付けられていない。

ピック・リストに関連付けられたすべての出荷は、このパージ・エージェントを実行する前に、パージ済みでなければなりません。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 263. 「ピック・リスト・パージ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PICKLISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 263. 「ピック・リスト・パージ」属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 264. 「ピック・リスト・パージ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_PICK_LIST テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 265. 「ピック・リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされたピック・リスト数 (NumPickListsPurged)	パージされたピック・リストの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_PICK_LIST テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_PICK_LIST

価格リスト・ページ

このページは、価格リスト・データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、価格リストはページ対象としてピックアップされます。

- 価格リストが、現在日付からページ条件の保持日数を引いた日付より前の有効な日付である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 266. 「価格リスト・ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRICELISTPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 267. 「価格リスト・ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 267. 「価格リスト・パージ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 268. 「価格リスト・パージ」の統計

統計の名前	説明
パージされた価格セット数 (NumPriceSetsPurged)	パージされた価格セットの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Price_Set テーブルからパージできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

現在日付からリード日数を引いた日付以前の VALID_TILL_DATE を持つ YFS_PRICE_SET テーブル

YFS_PRICE_PROGRAM_DEFN

YFS_ITEM_PRICE_SET

YFS_ITEM_PRICE_SET_DTL

カタログ一括監査のパージ

このパージでは、YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルから古い監査レコードを削除します。このテーブルには、属性および属性値をカテゴリーおよびアイテムに対して割り当てたことに起因する、カタログに対する変更についてのデータが含ま

れています。また、継承される属性および属性値に関する情報が含まれます。ページ・トランザクションは、指定された日数の間に変更されなかった一括監査レコードを検出し、このレコードをデータベースから削除します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 269. カタログ一括監査のページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	CATALOG_MASS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 270. カタログ一括監査のページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 271. カタログ一括監査のページの統計

統計の名前	説明
ページされる一括監査レコード数 (NumCatalogMassAuditsPurged)	ページされる一括監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、
YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルからページできるレコードの合計数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_CATALOG_MASS_AUDIT テーブルは、MODIFYTS < (CurrentDate -
LeadDays) の条件を満たす場合にページされます。

受入履歴ページ

このトランザクションは、以前、受入ページでアーカイブされた受入を削除しま
す。381 ページの『受入ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケ
ジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の
条件を満たす場合、受入ページ・エージェントで以前にページされた受入は、履歴
をページするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷が履歴テーブルからページされること。

受入履歴をページするには、受入を閉じて、出荷をページするようにします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 272. 受入履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし

表 272. 受入履歴ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 273. 受入履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入履歴ページの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 274. 受入履歴ページの統計

統計の名前	説明
ページされた受入明細履歴数 (NumReceiptLineHistoriesPurged)	ページされた受入明細履歴の数。
ページされた受入履歴数 (NumReceiptHistoriesPurged)	ページされた受入履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Receipt_Header_H テーブルからバージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

バージされるテーブル

YFS_RECEIPT_HEADER_H

YFS_RECEIPT_LINE_H

YFS_RECEIPT_STATUS_AUDIT_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

受入バージ

このバージは、受入データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、開かれておらず検査が保留されていない受入をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。379 ページの『受入履歴バージ』を参照してください。また、受入の子テーブルのアーカイブおよびバージを行います。

これはパイプライン・トランザクションで、タスク・キューから動作します。

コンソールを使用しているエンタープライズは、バージ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

バージは、バージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、受入はバージするためにピックアップされます。

- 受入の最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 受入に関連付けられる出荷がバージされること。
- 受入がバージ・トランザクションに対してピックアップ可能ステータスであること。
- OpenReceiptFlag フィールドの値に「N」が設定されていること。
- 受入に保留中の検査がないこと。
- 受入のウェアハウスに在庫がないこと。

受入をバージするには、受入を閉じて、出荷をバージするようにします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 275. 受入ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RECEIPTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 276. 受入ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。受入ページの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 277. 受入パージの統計

統計の名前	説明
パージされた受入明細数 (NumReceiptLinesPurged)	パージされた受入明細の数。
パージされた受入数 (NumReceiptsPurged)	パージされた受入の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、AVAILABLE_DATE の値が YFS_Task_Q テーブルの現在の日付の値以下 (<=) のトランザクションによって処理可能なレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_RECEIPT_HEADER

YFS_RECEIPT_LINE

YFS_RECEIPT_STATUS_AUDIT

YFS_INSTRUCTION_DETAIL

再処理エラー・パージ

このパージは、再処理エラーをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルはパージするためにピックアップされます。

- 状態 (State) = 固定 (Fixed) または状態 (State) = 無視 (Ignored) の YFS_REPROCESS_ERROR レコードが処理されること。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

このパージは、ハブで定義されたルールのみを読み取ります。エンタープライズによってオーバーライドされたルールは、考慮されません。

ConsoleConsole を使用するあらゆるエンタープライズは、パージ・トランザクションをスケジュールに入れる必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 278. *Reprocess Error Purge Attributes*

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REPROCESSPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 279. 再処理エラー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_REPROCESS_ERROR テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 280. 再処理エラー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた再処理エラー数 (NumReprocessErrorsPurged)	ページされた再処理エラーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_REPROCESS_ERROR テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_REPROCESS_ERROR

予約ページ

このページは、有効期限が切れた在庫予約をシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減するとともに、有効期限切れの予約で使用される需要を解放します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブル内のすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- EXPIRATION_DATE が現在日付よりも早いか、数量が 0 以下である

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 281. 予約ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RESERVATIONPRG
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

表 281. 予約ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 282. 予約ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 283. Reservation Purge Statistics

統計の名前	説明
NumReservationsPurged	ページされた予約の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_INVENTORY_RESERVATION テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_INVENTORY_RESERVATION

出荷履歴ページ

このトランザクションは、以前、出荷ページでアーカイブされた出荷を削除します。389 ページの『出荷ページ』を参照してください。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、履歴テーブルにアーカイブされたすべてのレコードはページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。255 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 284. 出荷履歴ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTHISTPRG
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 285. 出荷履歴ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 285. 出荷履歴パージの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷履歴パージの実行が必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 286. 出荷履歴パージの統計

統計の名前	説明
パージされた出荷履歴数 (NumShipmentHistoriesPurged)	パージされた出荷履歴の数。
パージされた出荷明細履歴数 (NumShipmentLineHistoriesPurged)	パージされた出荷明細履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Shipment_H テーブルからパージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_ADDITIONAL_ATTRIBUTE_H

YFS_ADDITIONAL_DATE_H

YFS_AUDIT

YFS_CONTAINER_DETA ILS_H

YFS_CONTAINER_STS_AUDIT_H

YFS_INSTRUCTION_DETAIL_H

YFS_SHIPMENT_CONTAINER_H

YFS_SHIPMENT_H

YFS_SHIPMENT_LINE_H

YFS_SHIPMENT_LINE_REQ_TAG_H

YFS_SHIPMENT_STATUS_AUDIT_H

YFS_SHIPMENT_TAG_SERIAL_H

YFS_CONTAINER_ACTIVITY_H

出荷ページ

このページは、出荷データをシステムから削除します。これは、頻繁にアクセスするテーブルの負荷を軽減します。このトランザクションは、「クローズ」とマークが付いた出荷をすべてピックアップし、履歴テーブルにアーカイブします。387 ページの『出荷履歴ページ』を参照してください。また、出荷の子テーブルのアーカイブおよびページを行います。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

出荷に関連するオーダーは、オーダー・ページによりページされている必要があります。出荷は、出荷のクローズ・トランザクションによりクローズされている必要があります。詳しくは、255 ページの『出荷を閉じる (Close Shipment)』を参照してください。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、出荷はページするためにピックアップされます。

- 出荷で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。
- ShipmentClosedFlag フィールドの値に「Y」が設定されていること。
- オーダー・レコードがすべての出荷明細に関して既にページ済みであること。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 287. 出荷ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENTPRG
基本伝票種別	オーダー

表 287. 出荷バージの属性 (続き)

属性	値
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 288. 出荷バージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
実行する日数	オプション。バージする出荷レコードをエージェントが探すリード日数より前の最大日数。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷バージの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、バージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・バージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「バージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 289. 出荷バージの統計

統計の名前	説明
NumShipmentsPurged	バージされる出荷の数。
NumShipmentLinesPurged	バージされる出荷明細の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_Shipment テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_ADDITIONAL_ATTRIBUTES

YFS_ADDITIONAL_DATE

YFS_AUDIT

YFS_CONTAINER_DETAILS

YFS_LOAD_SHIPMENT_CHARGE

YFS_MONITOR_ALERT

YFS_SHIPMENT_CONTAINER

YFS_SHIPMENT_STATUS_AUDIT

YFS_SHIPMENT

YFS_INSTRUCTION_DETAIL

YFS_SHIPMENT_MONITOR_ALERT

YFS_HEADER_CHARGES

YFS_LINE_CHARGES

YFS_TAX_BREAKUP

YFS_SHIPMENT_HOLD_TYPE

YFS_SHIPMENT_HOLD_TYPE_LOG

YFS_SHIPMENT_TAG_SERIALS

YFS_SHIPMENT_LINE

YFS_SHIPMENT_LINE_REQ_TAG

YFS_ACTIVITY_DEMAND

YFS_CONTAINER_STS_AUDIT

YFS_CONTAINER_ACTIVITY

出荷統計ページ

このトランザクションは、指定される保持日数を経過したテーブルから出荷統計を削除します。

このエージェントは、出荷統計レコードの削除が必要な場合 (アプリケーション・サーバーの再始動後など) は常に使用する必要があります。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件が満たされる場合、出荷統計はページするためにピックアップされます。

- 出荷統計で行われた最後の変更がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 290. 出荷統計ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PRG_SHIP_STATS
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 291. 出荷統計ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷統計ページの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。

表 291. 出荷統計パージの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_SHIPMENT_STATISTICS テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

統計パラメーター

このトランザクションの統計パラメーターは、以下のとおりです。

表 292. 出荷統計パージの統計

パラメーター	説明
パージされた出荷統計数 (NumShipmentStatisticsPurged)	パージされた出荷統計の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_SHIPMENT_STATISTICS テーブルからパージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_SHIPMENT_STATISTICS

ユーザー・アクティビティ・パージ

このパージは、ユーザー・アクティビティ・データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコード、およびログアウトのステータスにあるレコードをパージします。このパージは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをパージする際は、以下の制限が想定されます。

このパージは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもパージしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最

後のアクティビティー時刻またはログアウト時刻には値が入りません。ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、これらのレコードを手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 293. ユーザー・アクティビティー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTIVITYPRG
基本伝票種別	なし
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 294. ユーザー・アクティビティー・ページのパラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。

表 294. ユーザー・アクティビティ・ページのパラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッチ削除 (BatchDelete)	<p>必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - レコードは 1 件ずつ削除されます。
コロニー ID (ColonyID)	<p>YFS_USER_ACTIVITY テーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。</p>

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 295. 統計ページの統計

統計の名前	説明
ページされた統計数 (NumStatisticsPurged)	ページされた統計の数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_USER_ACTIVITY

ユーザー・アクティビティ・監査ページ

このページは、ユーザー・アクティビティ・監査データをシステムから削除します。指定される保持日数より古いすべてのレコードをページします。ページするのは、ログアウトのステータス (ログイン・タイプが「T」または「N」のレコード) にあるレコードのみです。このページは、バッチ削除モード (バッチ削除 (BatchDelete)=Y) で実行された場合、単一スレッド化されます。

レコードをページする際は、以下の制限が想定されます。

- このページは、アプリケーション・サーバーが突然停止した場合は、いかなるレコードもページしません。これは、サーバー停止時にアプリケーション・サーバーに接続されていたユーザーの監査レコードは、更新できないためです。この結果、最後のアクティビティ時刻またはログアウト時刻には値が入らず、ページでは、ユーザーがログアウトしているのか、それとも引き続きログインしているかどうかを分かりません。したがって、このレコードは手動で削除する必要があります。

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 296. ユーザー・アクティビティ監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	USERACTAUDPURGE
基本伝票種別	なし
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 297. ユーザー・アクティビティ監査ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、の下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
バッファーに入れるレコード数	必須。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 100 に設定されます。
バッチ削除 (BatchDelete)	必須。すべてのレコードをテーブルから削除するメソッド。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。レコードがバッチ処理で削除されます。 • N - レコードは 1 件ずつ削除されます。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_USER_ACT_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 298. 統計パージの統計

統計の名前	説明
パージされた統計数 (NumStatisticsPurged)	パージされた統計の数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

パージされるテーブル

YFS_USR_ACT_AUDIT

作業オーダー履歴パージ

このトランザクションは、以前、作業オーダー・パージでアーカイブされたタスクを削除します。399 ページの『作業オーダー・パージ』を参照してください。

パージは、パージ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を超えている場合、作業オーダー・パージ・エージェントで以前にパージされた作業オーダーは、履歴をパージするためにピックアップされます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 299. 作業オーダー履歴パージの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_HISTORY_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 300. 作業オーダー履歴パージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは N です。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、パージされるテーブルの下にリストされている履歴テーブルから削除します。 • N - テスト・モード。削除する行を、実際に削除せずに決定します。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー履歴パージの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされません。
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 301. 作業オーダー履歴パージの統計

統計の名前	説明
パージされた作業オーダー履歴数 (NumWorkOrderHistoriesPurged)	パージされた作業オーダー履歴の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_WORK_ORDER_H テーブルからパージできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_WO_APPT_USER_H

YFS_WORK_ORDER_H

YFS_WORK_ORDER_APPT_H

YFS_WORK_ORDER_ACTIVITY_H

YFS_WORK_ORDER_ACTY_DTL_H

YFS_WORK_ORDER_AUDT_DTL_H

YFS_WORK_ORDER_COMPONENT_H

YFS_WORK_ORDER_COMP_TAG_H

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE_H

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE_LOG_H

YFS_WORK_ORDER_PROD_DEL_H

YFS_WORK_ORDER_SERVICE_LINE_H

YFS_WORK_ORDER_STS_AUDIT_H

YFS_WORK_ORDER_TAG_H

作業オーダー・ページ

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダー・ページ条件に指定される保持日数を超えている作業オーダー、および「キャンセル」ステータスまたは「完了」ステータスの作業オーダーをすべてページします。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。以下の条件を満たす場合、作業オーダーはページするためにピックアップされます。

- 作業オーダーの最終変更日時が保持日数期間を過ぎていること。
- 作業オーダーに関連付けられるオーダーがページされること。
- 作業オーダーがページ・トランザクションによりピックアップ可能なステータスであること。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 302. 作業オーダー・ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_PURGE
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 303. 作業オーダー・ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
ライブ	オプション。実行モード。デフォルトは Y です。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ノード	オプション。作業オーダー・ページの実行が必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。

表 303. 作業オーダー・ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
エージェント条件グループ (AgentCriteriaGroup)	オプション。ノードの分類に使用されます。この値は、一致するノード・トランザクション回転値を持つノード上でのみタスクを実行する、Sterling Warehouse Management System 時間トリガー・トランザクションによる受諾が可能です。 有効な値は、「LOW」、「HIGH」、および「アプリケーション・プラットフォーム」>「システム管理」>「エージェント条件グループ」からのハブによって定義された追加の値です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 304. 作業オーダー・ページの統計

統計の名前	説明
ページされた作業オーダー数 (NumWorkOrdersPurged)	ページされた作業オーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、YFS_WORK_ORDER テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT

YFS_WO_APPT_USER

YFS_WORK_ORDER

YFS_WORK_ORDER_ACTIVITY

YFS_WORK_ORDER_ACTY_DTL

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE

YFS_WORK_ORDER_HOLD_TYPE_LOG

YFS_WORK_ORDER_APPT

YFS_WORK_ORDER_AUDT_DTL

YFS_WORK_ORDER_COMPONENT

YFS_WORK_ORDER_COMP_TAG

YFS_WORK_ORDER_PROD_DEL

YFS_WORK_ORDER_SERVICE_LINE

YFS_WORK_ORDER_STS_AUDIT

YFS_WORK_ORDER_TAG

YFS 監査ページ

このページは、YFS_AUDIT テーブル・データをシステムから削除します。これによって、頻繁にアクセスされるテーブルにおける負荷が削減されます。このページは、以下の条件を満たした場合、YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブル内のレコードをページします。

- 指定される保持日数より大きい modifyts を有し、かつ YFS_AUDIT テーブル内に一致するテーブル名の値を有する YFS_AUDIT レコード。
- 最終変更時刻がリード・タイム設定 (日単位) より前である。

YFS 監査ページの構成方法によっては、構成データ・バージョン管理ツールの機能に何らかの影響を及ぼすおそれがあります。データ・バージョン管理ツールの構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 構成デプロイ・ツール・ガイド*」を参照してください。

エンタープライズがエンティティを拡張し、拡張エンティティ属性 AuditTable="Y" を設定する場合、拡張されたテーブルは監査されて、監査レコードは YFS_AUDIT テーブルに挿入されます。監査レコードをクリーンアップするために、このページ・トランザクションを使用できます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 305. YFS 監査ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	YFS_AUDIT_PURGE
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

表 305. YFS 監査パージの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	YFSBeforePurgeUE

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 306. YFS 監査パージの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。 • N - テスト・モード。
パージ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・パージ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「パージ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
テーブル名	必須。監査レコードのパージが必要なテーブル名。
テーブル・タイプ (TableType)	<p>YFS_AUDIT テーブルが複数のスキーマに存在する可能性がある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。</p> <p>有効な値は、CONFIGURATION、TRANSACTION、および MASTER です。</p> <p>CONFIGURATION が設定される場合、エージェントは、TableType が CONFIGURATION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Organization、YFS_Ship_Node などです。</p> <p>TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が TRANSACTION のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対して実行されます。例えば、YFS_Order_Header、YFS_Shipment などです。</p> <p>エージェントは、渡されるスキーマと同じスキーマ内に存在するすべての TableType に対して実行される点に注意してください。例えば、TRANSACTION が設定される場合、エージェントは、TableType が同じスキーマ内にあるため、TableType が MASTER のテーブルに関連付けられる YFS_AUDIT レコードに対しても実行されます。</p>

表 306. YFS 監査ページの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	YFS_AUDIT テーブルおよび YFS_AUDIT_HEADER テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 307. YFS 監査ページの統計

統計の名前	説明
ページされる監査レコード数 (NumAuditRecordsPurged)	ページされる監査レコードの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、条件値に一致した、YFS_AUDIT テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

YFS_AUDIT、YFS_AUDIT_HEADER

YFSInventoryOwnershipAudit ページ

このトランザクションは、条件パラメーターに指定されるリード日数より前の YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD からすべてのレコードをページします。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 308. YFSInventoryOwnership ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	PURGE_INV_TRANSFR_RECORD
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

表 308. YFSInventoryOwnership ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 309. YFSInventoryOwnership ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、この値にデフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) が設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、値はデフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。YFSInventoryOwnership 監査ページの実行が必要な在庫組織。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。実動モード。通常のテーブルからレコードが削除されます。 • N - テスト・モード。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
リード日数	エージェントがレコードをページする、現在日付より前の日数。
コロニー ID (ColonyID)	YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

ページされるテーブル

YFS_INV_OWN_TRANSFER_RCD

パスワードのリセット要求ページ

このページは、パスワードのリセット要求データをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 310. 「パスワードのリセット要求ページ」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 311. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。• N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。

表 311. 「パスワードのリセット要求ページ」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	PLT_PWD_REQ テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 312. 「パスワードのリセット要求ページ」の統計

統計の名前	説明
ページされたパスワード要求数 (NumPasswordRequestPurged)	ページされたパスワード要求の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT_PWD_REQ テーブルからページできるレコードの数になります。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

PLT_PWD_REQ

ユーザー・ログイン失敗ページ

このページは、ユーザーのログイン試行失敗数に関するデータをシステムから削除します。

ページは、ページ・コードの疑似論理を使用して分析することができます。

コンソールを使用しているエンタープライズは、ページ・トランザクションをスケジューリングする必要があります。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 313. ユーザー・ログイン失敗ページの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	なし
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし

表 313. ユーザー・ログイン失敗ページの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし
呼び出されるユーザー出口 (User Exits Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 314. ユーザー・ログイン失敗ページの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
ライブ	オプション。実行モード。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - デフォルト値。適格なレコードを、ページされるテーブルの下にリストされている通常のテーブルから、対応する履歴テーブルに移動します。 • N - テスト・モード。履歴テーブルに移動する行を、実際に移動せずに決定します。
ページ・コード (PurgeCode)	必須。これは変更できません。保持日数の決定など、内部の計算に使用されます。これは、「ビジネス・ルール・ページ条件 (Business Rules Purge Criteria)」で使用されている「ページ・コード (PurgeCode)」に対応しています。
コロニー ID (ColonyID)	PLT_USER_LOGIN_FAILED テーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 315. ユーザー・ログイン失敗ページの統計

統計の名前	説明
ページされたログイン失敗数 (NumUserLoginFailPurged)	ページされたログイン試行失敗の数

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、PLT_USER_LOGIN_FAILED テーブルからページできるレコードの数です。

発生するイベント

なし。

ページされるテーブル

PLT_USER_LOGIN_FAILED

タスク・キューの同期プログラムの時間トリガー・トランザクション

多くのトランザクションは、タスク・キューをその作業リポジトリとして使用します。パイプラインで構成済みの次の処理ステップを取り扱うために、ワークフロー・マネージャーはトランザクションのタスクを自動的に作成します。

状況によっては、タスク・キュー・リポジトリは期限切れになる場合もあります。例えば、パイプラインがアクティブであるときに処理パイプラインを再構成すると、キューが新規パイプライン構成と同期しなくなることがあります。

ビジネス・ドキュメントのライフサイクル内の一時停止を示す警告は、期限切れのタスク・キュー・リポジトリを示す場合があります。

タスク・キュー同期プログラム・トランザクションは、最新のパイプライン構成に基づいて、各トランザクションにより実行される未完了タスクの最新リストでタスク・キュー・リポジトリを更新するように設計されています。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、次のリリースで変更される可能性があります。

集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューを同期化します。

以下の疑似論理を使用して、この時間トリガー・トランザクションを分析できます。以下の条件を満たす場合、その集合・混載実行プロセス・タイプのタスク・キューは同期化されます。

- 集合・混載の `LOAD_CLOSED_FLAG` が「Y」でない。
- 集合・混載が、パイプラインのトランザクションでピック可能なステータスにある。
- タスク・キュー・テーブルに集合・混載のタスク・キュー・レコード、トランザクションの組み合わせがない。この場合、システムは、この集合・混載のとトランザクションの組み合わせについて、利用可能日として現在のデータベース時刻を設定したタスク・キュー・レコードを 1 つ挿入します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 316. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_L_D
基本伝票種別	集合・混載
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	集合・混載実行
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 317. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 318. 「集合・混載実行タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

オーダー配達タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー配達プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 319. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_D
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 320. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 321. 「オーダー配達タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー・フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 322. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 323. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 324. 「オーダー・フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、オーダー交渉プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 325. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_O_N
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 326. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 327. 「オーダー交渉タスク・キュー同期プログラム」の統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラム

このトランザクションは、見積フルフィルメント・プロセス・タイプを同期化します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 328. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	TASK_QUEUE_SYNCER_Q_F
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このトランザクションの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 329. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。

表 329. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 330. 見積フルフィルメント・タスク・キュー同期プログラムの統計

統計の名前	説明
作成されたタスク数 (NumTasksCreated)	作成されたタスクの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

なし。

モニター

モニターとは、通常の境界を越えているプロセスや状況を監視し、警告を出すトランザクションのことです。

時間トリガー・トランザクション、モニター、および統合サーバーとアプリケーション・サーバー用にリリース 9.1 で収集および追跡されるいくつかの統計は、Sterling Selling and Fulfillment Foundation の次のリリースで変更される可能性があります。

すべてのモニターは、CollectPendingJobs 条件パラメーターを持ちます。このパラメーターが「N」に設定されている場合、エージェントは、そのモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。デフォルトでは、CollectPendingJobs は「Y」に設定されます。これは、1 つのモニターがかなりの量の getPendingJobs 照会を実行している場合、オーバーヘッド・コストが高すぎるため、これを「N」に設定することが有益なことがあります。

在庫状況モニター

この時間トリガー・トランザクションは、在庫状況をモニターします。在庫量が、当日、今後の ATP 時間フレーム内の日数、および今後の ATP 時間フレーム外の日数に対して構成されている数量を下回った場合、在庫状況モニターはグローバル警告を発します。ATP 時間フレーム外の日数に対する数量は、最大モニター日数によ

って決定されます。在庫状況モニターは、スケジュールやリリースのトランザクションとは異なり、無限在庫を想定するのではなく、ATP 水準を上回る実際の在庫量を計算します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 331. 「在庫状況モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 332. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
MonitorOption	オプション。在庫のモニター方法を指定します。有効な値は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 - 現在の在庫 • 0 - ATP 時間フレームの範囲内と範囲外の在庫。これはデフォルト値です。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス	モニターしている交渉ステータスです。

表 332. 「在庫状況モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに対して公開されるデータは、AVAILABILITY_MONITOR_dbd.txt です。

例外モニター

この時間トリガー・トランザクションは、以下に示すようにシステムの例外をモニターします。このトランザクションは、システムのログに記録された例外をモニターし、以下の場合にそれらの例外を上申します。

- 特定の時刻までに例外がユーザーに割り当てられなかった場合。
- 特定の時刻までに例外が解決されなかった場合。
- キューのアクティブ・サイズが、特定の最大サイズを超えた場合。

例外モニターを実行するたびに例外に対して再警告するのを防ぐために、Applications Manager の警告管理を使用して再警告時間間隔を指定します。この属性はキューに関連付けられており、キューごとに構成できます。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 333. 「例外モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	EXCEPTION_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 334. 「例外モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
キュー ID	オプション。このモニターの例外を格納する警告キューを定義します。
組織コード	オプション。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
キュー・グループ	オプション。例外のモニター対象となるキューのセットを定義します。キュー ID とキュー・グループの両方が指定された場合、キュー ID は無視されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 335. 「例外モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された警告数 (NumInboxProcessed)	処理された警告の数。
キュー・サイズ超過警告数 (NumExceededQueueSizeAlerts)	未解決の警告数がキューの最大アクティブ・サイズを超えた場合に発生するアクションの数。
未解決警告数 (NumUnResolvedAlerts)	警告の未解決警告時間がキューの解決時間を超えた場合に発生するアクションの数。
未割り当て警告数 (NumUnAssignedAlerts)	警告の未割り当て警告時間がキューの割り当て時間を超えた場合に発生するアクションの数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

在庫モニター

この時間トリガー・トランザクションは、出荷ノードのレベルで在庫状況をモニターします。使用可能な在庫が構成済みの量を超えたとき、または下回ったときに、出荷ノード・レベルで警告を発行します。

このモニターは、OPEN_ORDER 需要タイプを使用して、指定されたノードで使用可能な在庫を計算します。OPEN_ORDER 需要タイプによって考慮される供給タイプに割り当て済みの、すべての供給が考慮されます。在庫供給と需要の考慮の構成について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 336. 「在庫モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	INVENTORY_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	checkAvailability()

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 337. 「在庫モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	オプション。有効な在庫所有者の組織です。この実行で処理する対象となる組織です。これが渡されない場合は、すべての在庫組織が処理されます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。

表 337. 「在庫モニター」の条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)	このパラメーターが「Y」に設定された場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライドの値を、エージェントのトリガー時に以下の形式でコマンド・ラインで指定できます。 <AgentCriteriaAttribute> <OverriddenValue> これらの属性を渡す場合の詳細については、「 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> インストール・ガイド」を参照してください。
出荷ノード	オプション。この実行で処理する必要のある有効な出荷ノードのコンマ区切りリスト。これが渡されない場合は、すべての出荷ノードが処理されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

アクションに公開されるデータは、<INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/dbd/INVENTORY_MONITOR_dbd.txt です。

交渉モニター

この時間トリガー・トランザクションは、交渉が一定時間特定のステータスのままの場合に、エンタープライズに警告します。また、交渉の有効期限をモニターします。この時間トリガー・トランザクションは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。交渉の有効期限をモニターするには、ステータス「期限切れ (2000)」を構成します。

オーダーまたはオーダー・リリースに交渉フェーズが必要な環境で、その交渉をモニターしたい場合に、このモニターを使用します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 338. 「交渉モニター」属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORD_NEGOTIATION_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー交渉
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 339. 「交渉モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「交渉モニター」を実行する必要があるエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
ステータス	モニターしている交渉ステータスです。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 340. 「交渉モニター」の統計

統計の名前	説明
処理された交渉数 (NumNegotiationsProcessed)	処理された交渉の数。

表 340. 「交渉モニター」の統計 (続き)

統計の名前	説明
警告を要する交渉数 (NumNegotiationsRequiringAlert)	少なくとも 1 つの警告が発行されている交渉の数。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

これは、交渉ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず。

公開されるデータ - YCP_getNegotiationDetails_output.xml

強化したオーダー・モニター

「強化したオーダー・モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。
- オーダーが y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。
- オーダーが日付タイプ z の前の y 時間の間、保留タイプ x の状態にあった。

オーダー・モニターを構成して、以下のシステム日付タイプと購入オーダー・ドキュメント・タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの ORDER_DATE 列から読み取られます。
- 実際の次の反復日 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの NEXT_ITER_DATE 列から読み取られます。
- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_SHIP_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS_ORDER_LINE テーブルの REQ_SHIP_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。

- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化したオーダー・モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについては、252 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されません。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 341. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	ORDER_MONITOR_EX
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー・フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 342. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 343. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT_ALERT_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

発生するイベント

「強化したオーダー・モニター」トランザクションは、ON_AUTO_CANCEL イベントを生成しますが、オーダーのキャンセルは行いません。オーダーをキャンセルするには、このイベントに対するサービスを構成する必要があります。

表 344. 「強化したオーダー・モニター」トランザクションによって発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
ON_AUTO_CANCEL	ORDER_MONITOR_dbd.txt	YFS_ORDER_MONITOR_EX.ON_AUTO_CANCEL.html	あり

* これらのファイルは、以下のディレクトリにあります。
<INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

強化した見積モニター

「強化した見積モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

見積モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際の有効期限 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの EXPIRATION_DATE 列から読み取られます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』を参照してください。

「強化した見積モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、252 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されま
す。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 345. 「強化した見積モニター」の属性

属性	値
トランザクション ID	ORDER_MONITOR_EX.0015
ドキュメント・タイプ	見積
プロセス・タイプ	見積フルフィルメント
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 346. 「強化した見積モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「見積モニター」の実行が必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントで必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 347. 「強化した見積モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理された見積の数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT_ALERT_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、ORDER_MONITOR_EX.0015.xml です。

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

```
<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、  
<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/  
ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの  
MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。
```

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

強化した返品モニター

「強化した返品モニター」を使用して、以下の状態をモニターすることができます。

- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- マイルストーン z の y 時間以内にマイルストーン x に達しなかった。
- 指定された日付タイプの y 時間前にマイルストーン x に達した。
- 指定された日付タイプの y 時間以内にマイルストーン x に達した。
- マイルストーン z の y 時間後にマイルストーン x に達した。
- オーダーが y 時間の間、ステータス x の状態にあった。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間前である。
- 日付タイプ x が日付タイプ z の y 時間後である。

強化した返品モニターを構成して、以下のシステム日付タイプをモニターすることができます。

- 実際のオーダー日 - YFS_ORDER_HEADER テーブルの ORDER_DATE 列から読み取られます。

- 出荷指定日 - オーダー・リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_SHIP_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS_ORDER_LINE テーブルの REQ_SHIP_DATE から読み取られます。
- 出荷予定日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、出荷指定日と同じロジックが使用されます。
- 実際の出荷日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_SHIPMENT_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
- 指定配達日 - リリースが存在する場合、YFS_ORDER_RELEASE テーブルの REQ_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。それ以外の場合は、YFS_ORDER_LINE テーブルの REQ_DELIVERY_DATE から読み取られます。
- 予定配達日 - YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。これが NULL の場合、指定配達日と同じロジックが使用されます。
- 実際の配達日 - 日付が 2500 年 1 月 1 日の前である場合、YFS_ORDER_LINE_SCHEDULE テーブルの EXPECTED_DELIVERY_DATE 列から読み取られます。日付が 2500 年 1 月 1 日以後の場合、日付タイプは NULL で返されます。
 オーダー・フルフィルメント、計画済みオーダー実行、返品物流、および購入オーダー実行の各パイプラインの場合、出荷や配達などのシステム定義日付は、時刻コンポーネントを伴わずに格納されます。したがって、これらの日付を使用してルールを構成する場合、すべての時刻計算は、常に 12:00:00 AM を仮定して実行されます。

マイルストーン、日付タイプ、およびルールのモニターについては、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide』、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide』、および『Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide』を参照してください。

「強化した返品モニター」を実行する場合、該当するすべてのパイプラインで、「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションを構成して実行する必要があります。「オーダーを閉じる」時間トリガー・トランザクションについて詳しくは、252 ページの『オーダーを閉じる』を参照してください。

すべてのドキュメント・タイプに対して、同じ再ログ記録の時間間隔が使用されません。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 348. 「強化したオーダー・モニター」の属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	RETURN_MONITOR_EX

表 348. 「強化したオーダー・モニター」の属性 (続き)

属性	値
基本伝票種別	返品オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	返品物流
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 349. 「強化したオーダー・モニター」の条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。「オーダー・モニター」の実行に必要なエンタープライズです。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ステータス最小値 (FromStatus)	オプション。渡されたステータス以上のステータスがモニターされます。
ステータス最大値 (ToStatus)	オプション。渡されたステータス以下のステータスがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このモニターでは、以下の統計が追跡されます。

表 350. 「強化したオーダー・モニター」の統計

統計の名前	説明
処理されたオーダー数 (NumOrdersProcessed)	処理されたオーダーの数。
発生した警告数 (NumAlertsRaised)	発生した警告の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、現在の日付の値以下 (<=) の NEXT_ALERT_TS の値を持つ未完了のオーダーの数になります。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。

公開されるデータは、RETURN_MONITOR_EX.xml です。

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、オーダーの詳細と評価するモニター・ルールの詳細の両方を取得するために、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX_CONDITION.xml テンプレート・ファイルがない場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/ORDER_MONITOR_EX.xml ファイルのデフォルト・モニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Order 要素が使用されます。

デフォルト・モニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Order->OrderStatuses-> OrderStatus-> MonitorRule 要素は無視され、条件に渡されません。

リアルタイム在庫状況モニター

リアルタイム在庫状況モニターの時間トリガー・トランザクションは、在庫アイテムの在庫状況をモニターします。このトランザクションは、Global Inventory Visibility モジュール内の Applications Manager で定義されるしきい値の間で、特定のアイテムの在庫レベルが変わった場合に REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントが発生するように構成できます。

このトランザクションは、以下の 3 つのモードで実行できます。

- アクティビティー・ベース: アイテムがしきい値のいずれかを上回るか下回るたびにリアルタイムにイベントを発生させます。
- クイック同期: 最も近くに公開された在庫状況情報を再送します。
- 完全同期: アクティビティーにかかわらずすべてのアイテムをモニターし、すべてのアイテムの在庫情報を公開します。

すべての場合、将来の在庫状況のパーセンテージは検索時に在庫状況を検討する際に使用されます。将来の在庫状況について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

在庫状況ピクチャーを把握するには、OPEN_ORDER タイプの要求を使用します。供給が維持されていれば、リアルタイム在庫状況モニターは、ノード全体の総合在庫状況または個々のノードの在庫状況をモニターできます。在庫状況モニター・ルールのない在庫アイテム、または使用できないルールがある在庫アイテムは、この時間トリガー・トランザクションで処理することはできません。

ノード全体の総合在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫組織のデフォルトの分配グループ内のすべてのノードをモニターします。

個別のノードの在庫状況をモニターする場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定された分配グループ内のすべてのノードをモニターします。分配グループの構成およびノード・レベルの在庫モニターについては、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」を参照してください。

構成する場合、リアルタイム在庫状況モニターでは、モニターする際の、手持ちおよび将来の在庫状況のセーフティー要因も考慮します。在庫状況のセーフティー要因および findInventory() API については、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より大きい場合、REALTIME_ONHAND 警告タイプが発生し、警告レベルは手持ち数量がベースになります。

手持ち数量が、構成される下限しきい値より小さくなった場合、REALTIME_FUTURE_MAX 警告タイプが発生します。その場合、警告レベルのベースになるのは将来の供給合計 (FutureAvailableQuantity) で、FirstFutureAvailableDate に最も早く供給される日付が設定され、FutureAvailableDate に最も遅く供給される日付が設定されます。

リアルタイム在庫状況モニターがアクティビティー・ベース・モードで稼働する場合、在庫アイテムのしきい値のいずれかを変更しても、アクティビティーで変更がない限りエージェントはその在庫アイテムをモニターしません。例えば、在庫数量が 700 のアイテム I が 600 の下限しきい値でモニターされており、下限しきい値が 1000 に変更される場合、I のアクティビティーに変更がない限りイベントは公開されません。このようなシナリオで I がモニター対象外のままにされないようにするには、アイテムのモニター・ルールを変更する場合に createInventoryActivity API を呼び出します。

在庫数量の最大出荷日の計算および公開

使用可能な場合、リアルタイム在庫状況モニターは、在庫数量の最大出荷日のマトリックスを計算し、公開します。マトリックスには、以下の情報が含まれます。

- 在庫数量 - 最大出荷日に出荷できるアイテムの数を表します。
- 最大出荷日 - 在庫数量が出荷される日時を表します。
- 有効期限日 - オーダーが最大出荷日に出荷される場合に、オーダーを起票できる最後の日時を表します。

マトリックスは、REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントに対して公開され、YFS_INVENTORY_ALERTS 表の AVAILABILITY_INFO フィールドに XML 形式で保管されます。マトリックスの更新には monitorItemAvailability() API が使用

できます。monitorItemAvailability() API について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs*」を参照してください。

在庫数量の最大出荷日のマトリックスの計算および公開を行うためのリアルタイム在庫状況モニターの使用について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 統合在庫管理 構成ガイド*」の在庫ルールの構成に関する章を参照してください。

最大出荷日の計算

最大出荷日は、考慮対象のノード全体での最大予定出荷日と同じです。予定出荷日の計算について詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation 製品概念の手引き*」を参照してください。さらに、以下のオプションを最大出荷日の一部として構成できます。

- 最大出荷日時
- 最大出荷日時を相殺する日数

最大出荷日時 - 最大出荷日の時刻を指定する場合、リアルタイム在庫状況モニターは、先に説明したように、最大出荷日を計算してから、以下のロジックを適用します。

- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より遅い場合、リアルタイム在庫状況モニターは、指定される時刻で最大出荷日をリセットします。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 21 日の午前 10 時と計算し、最大出荷日時に午前 11 時が設定される場合、最大出荷日は 7 月 21 日の午前 11 時と再計算されます。
- 最大出荷日に指定される時刻が、計算された出荷日の時刻より早い場合、最大出荷日に 1 日加算されて、指定される時刻でリセットされます。例えば、最大出荷日が 7 月 21 日の午前 11 時と計算され、最大出荷日時に午前 10 時が設定される場合、リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日を 7 月 22 日の午前 10 時と再計算します。

最大出荷日時を相殺する日数 - 最大出荷日を相殺する日数を指定できます。リアルタイム在庫状況モニターは、最大出荷日時を含む最大出荷日を計算してから、相殺日数で指定される日数を最大出荷日に加算します。例えば、リアルタイム在庫状況モニターが、最大出荷日を 7 月 19 日の午前 11 時と計算し、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定される場合、最大出荷日は 7 月 20 日の午前 11 時と再計算されます。

有効期限日の計算

リアルタイム在庫状況モニターは、有効期限日を、最大出荷日からノードの最小通知時間を減算することで計算してから、ノードの通知スケジュール上の先行する通知時間に調整します。有効期限日は、供給がノードで提供される間のみ有効です。

例えば、在庫数量の最大出荷日が 7 月 19 日の午後 4 時で、出荷ノードの通知スケジュールが以下のような場合、有効期限日は 7 月 18 日の午後 3 時と計算されます。

- 24 時間の最小通知時間
- 午後 3 時と午後 5 時の通知時刻

この例で有効期限日は、最初に 24 時間の最小通知時間を 7 月 19 日の午後 4 時の最大出荷日から減算し、次に午後 3 時の通知時刻に調整します。オーダーが 7 月 18 日の午後 3 時より前に起票されない場合、7 月 19 日の午後 4 時まででアイテムを出荷する前に少なくとも 24 時間前の通知がノードには必要なため、7 月 19 日の最大出荷日はもはや使用できません。また、該当のオーダーが 7 月 19 日の午後 3 時に起票される前に、別のオーダーによりノードの在庫数量が減少する場合、最大出荷日の条件に合わないため、有効期限日は無効になります。

さらに、有効期限日を計算する場合、調整日数は考慮されません。このため、先の例の最大出荷日が、最大出荷日時を相殺する日数に 1 を指定して 7 月 20 日の午後 4 時に更新される場合、有効期限日は 7 月 19 日の午後 3 時と更新されます。

例 1: 在庫数量の最大出荷日の計算

ノード 1 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 24 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 3 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

ノード 2 の供給ピクチャーは以下のとおりです。

- 48 時間の最小通知時間
- 通知時刻は毎日午後 2 時および午後 5 時
- 作業日は週 7 日、1 日 24 時間

以下の表は、次の条件が真の場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。

- 現在日付は 7 月 19 日
- 到着予定時刻 (ETA) は数量がノードで使用可能になると推定される日時と同一
- 最大出荷日時に午後 4 時を設定
- 最大出荷日時を相殺する日数に 0 を設定

表 351. 例: 在庫数量の最大出荷日の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 20 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 3 時
7/22/2010	10	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 21 日、午後 4 時	7 月 19 日、午後 2 時
7/22/2010	20	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 20 日、午後 2 時

この例で、7 月 19 日は、ノード 1 の 80 アイテムおよびノード 2 の 100 アイテムの数量の ETA です。表で、ノード 1 の使用可能な 80 アイテムの最大出荷日は 7 月 20 日の午後 4 時、ノード 2 の使用可能な 100 アイテムの最大出荷日は 7

月 21 日の午後 4 時と示されます。ノード 1 の場合、最大出荷日は、7 月 19 日午後 3 時の通知時刻に 24 時間の最小通知時間を加算し、さらに午後 4 時の最大出荷日時に調整することで計算します。有効期限日は、24 時間の最小通知時間を最大出荷日から減算してから、午後 3 時の通知時刻に調整することで計算します。ノード 2 の場合、最大出荷日および有効期限日は、ノード 2 の最小通知時間が 48 時間で通知時刻が午後 2 時であることを除いて同様に計算されます。

さらに、例では、ノード 1 の 10 アイテムおよびノード 2 の 20 アイテムの数量の ETA として 7 月 22 日を表示しています。ノード 1 の 10 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時、ノード 2 の 20 アイテムの最大出荷日は 7 月 22 日の午後 4 時です。現在日付と ETA の間の差が、ノードの最小通知時間よりも大きい場合、ETA 日付は最大出荷日に使用されます。この例で、現在日付 (7 月 19 日) および ETA 日付 (7 月 22 日) の間の差は、両方のノードで最小通知時間よりも大きくなっています。したがって、最大出荷日には、ETA 日付の最大出荷日時 (ノード 1 およびノード 2 とともに 7 月 22 日の午後 4 時) が設定されます。

例 2: 作業日でないノードでの最大出荷日の計算

以下の表は、例 1 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、7 月 19 日および 7 月 20 日は作業日ではありません。

表 352. 例: 作業日ではないノードの在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 22 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 3 時
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 21 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 には 7 月 19 日時点で 80 の在庫数量があり、最小通知時間は 24 時間です。7 月 19 日および 20 日はノード 1 の作業日ではないため、80 アイテムは 7 月 21 日までは使用可能と見なされません。この場合、最大出荷日は 24 時間の最小通知時間を 7 月 21 日に加算し、午後 4 時の最大出荷日時に調整します。ノード 2 の場合、最大出荷日は、最小通知時間が 48 時間であることを除いて同様に計算されます。

例 3: 最大出荷日の相殺

以下の表は、例 2 の供給ピクチャーおよび条件が適用される場合のノード 1 およびノード 2 の在庫状況マトリックスを示します。ただし、このシナリオでは、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されます。

表 353. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 1			
7/19/2010	80	7 月 23 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 3 時

表 353. 例: 最大出荷日を相殺する場合の在庫状況マトリックス (続き)

ETA	数量 (Quantity)	最大出荷日	有効期限日
ノード 2			
7/19/2010	100	7 月 24 日、午後 4 時	7 月 22 日、午後 2 時

この例で、ノード 1 およびノード 2 の最大出荷日は、例 2 と同様に計算されます。ただし、最大出荷日時を相殺する日数に 1 が設定されるため、最大出荷日に 1 加算されます。この例で、ノード 1 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 3 時が設定され、ノード 2 の有効期限日には 7 月 22 日の午後 2 時が設定されます。相殺日数は有効期限日を計算する際に考慮されないためです。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 354. リアルタイム在庫状況モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	REALTIME_ATP_MONITOR
基本伝票種別	一般
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	一般
抽象化トランザクション	なし
呼び出される API (APIs Called)	FindInventory

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 355. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
在庫組織コード	MonitorOption に 3 が渡される場合に使用される在庫組織コード。在庫組織はエンタープライズであることが必要です。 このコードが渡されない場合、モニターはすべての在庫組織に対して実行されます。

表 355. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
MonitorOption	<p>1 - アクティビティー・ベース (YFS_INVENTORY_ACTIVITY テーブルの別個の在庫アイテムをベースにモニター)。</p> <p>2 - クイック同期 (YFS_INVENTORY_ALERTS テーブルから情報を公開するためにイベントを再発生)。</p> <p>3 - 完全同期 (指定された在庫組織で管理される全在庫をベースにモニター。在庫組織コードが入力されない場合、全在庫アイテムがモニター対象。)</p> <p>指定されない場合、デフォルト値は 1 です。</p>
アイテムのステータス (ItemStatuses)	<p>処理されるアイテムの有効なステータスのリスト。ステータスは、で区切られる必要があります (例: 3000,2000)。これは、MonitorOption が 2 または 3 として渡される場合のみに使用されます。指定されれば、ステータスに一致するアイテムのみモニターされます。</p>
警告開始タイム・スタンプ (FromAlertTimestamp)	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡される場合のみ使用されます。指定される場合、エージェントは REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントを発生させ、エージェントが開始された時刻と FromAlertTimestamp の間に公開された在庫状況情報を再公開します。</p> <p>指定されない場合、全在庫状況情報が公開されてから、エージェントが開始された時刻が再公開されます。</p>
条件のオーバーライドを許可 (AllowedOverriddenCriteria)	<p>Y が設定される場合、エージェント条件パラメーターのオーバーライド値は、エージェントをトリガーする際に以下の形式でコマンド・ラインから指定できます。</p> <p><AgentCriteriaAttribute> <OverriddenValue></p> <p>これらの属性を渡す場合の詳細については、「Sterling Selling and Fulfillment Foundation インストール・ガイド」を参照してください。</p>
開始経過時間 (FromLastNumberOfHours)	<p>これは、MonitorOption が 2 として渡されて FromAlertTimestamp パラメーターを計算する場合のみに使用されます (必要な場合)。</p> <p>FromAlertTimestamp パラメーターは、指定されない場合、現在のタイム・スタンプから FromLastNumberOfHours を減じた時刻として計算されます。</p>

表 355. リアルタイム在庫状況モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
すべての在庫変更についてイベントを発生 (RaiseEventsOnAllAvailability Changes)	「Y」が設定される場合、すべての在庫状況の変更について REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE イベントが発生します。発生条件については、在庫状況が、指定されるしきい値を上回ったのか下回ったのかを問いません。これは、MonitorOption が 1 として渡される場合のみに使用されます。有効値は「Y」か「N」で、デフォルト値は「N」です。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

なし。

保留中のジョブの数

なし。

発生するイベント

この時間トリガー・トランザクションによって、以下のイベントが発生します。

表 356. リアルタイム在庫状況モニター・トランザクションで発生するイベント

トランザクション/イベント	キー・データ	公開済みデータ*	テンプレートがサポートされるか
REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE	なし	YFS_REALTIME_ATP_MONITOR、 REALTIME_AVAILABILITY_CHANGE.html	あり
* これらのファイルは、以下のディレクトリーにあります。 <INSTALL_DIR>/xapidocs/api_javadocs/XSD/HTML			

「リアルタイム」と説明されていますが、処理するメッセージのバックログがエージェントにある場合、在庫の変更が発生する際にも在庫状況の変更は即時にはトリガーされない可能性があります。さらに、このモニターは、時間トリガー・トランザクションとして存在するため、在庫アイテムの在庫状況のモニターを、構成される実行時プロパティをベースにモニターがトリガーされる場合のみ行います。

出荷モニター

この時間トリガー・トランザクションは、YFS_MONITOR_RULE テーブル内のルールに基づき、出荷の状態をレポートします。このトランザクションを使用して、以下の状態をモニターできます。

- 出荷のステータスが指定される合計時間を超えている場合。
- 出荷に関連付けられて、指定される日付が以下の場合。
 - 指定される別の日付の n 時間前
 - 指定される別の日付の n 時間後
 - 指定される別の日付の n 時間前ではない
 - 指定される別の日付の n 時間後ではない
- 出荷が、指定される時間数に対して保留タイプである場合。
- 出荷が、指定される日付の n 時間前の保留タイプである場合。

モニター・ルールは、出荷品の出荷元ポイントおよび宛先ポイントについて構成できます。

モニター・ルールは、出荷の中間ピックアップ・ポイントおよびドロップオフ・ポイントについては構成できません。出荷は、複数のピックアップ・ポイントまたはドロップオフ・ポイントがある場合のみ、中間のピックアップまたはドロップオフを設けることができます。例えば、出荷には出荷品を運ぶ複数の集合・混載があります。集合・混載の最初の荷降ろし、2 番目の荷降ろし、さらにその次の荷降ろしと、出荷ステータスをモニターすることはできません。最後の集合・混載で出荷品が宛先に荷降ろしされると、その時点で出荷ステータスにマークが付けられてモニターすることができます。

これは、パイプライン・トランザクションではありません。また、タスク・キューからは動作しません。

マイルストーン、日付タイプ、およびモニター・ルールについては詳しくは、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Supply Collaboration Configuration Guide*」、「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Distributed Order Management Configuration Guide*」、および「*Sterling Selling and Fulfillment Foundation: Reverse Logistics Configuration Guide*」を参照してください。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 357. 出荷モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	SHIPMENT_MONITOR
基本伝票種別	オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	オーダー配達
抽象化トランザクション	なし

表 357. 出荷モニターの属性 (続き)

属性	値
呼び出される API (APIs Called)	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 358. 出荷モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値) に設定されます。
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。出荷モニターの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 359. 出荷モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる出荷数 (NumShipmentsMonitored)	モニターされる出荷の数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT_ALERT_TS の値が現在日付以下 (<=) のオープン状態の出荷の数になります。

発生するイベント

これは、出荷ステータスに対して構成されたアクションを起動します。

キー・データ - 該当せず。

公開済みデータ - SHIPMENT_MONITOR.xml

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、出荷の詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デフォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->Shipment エlement、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/SHIPMENT_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->Shipment-> MonitorRule Elementは無視されて、条件に渡されません。

作業オーダー・モニター

この時間トリガー・トランザクションは、作業オーダーが一定の長さの時間にわたり特定状態または保留タイプのみである場合、エンタープライズに警告します。

このモニターを使用して、作業オーダーがどれくらいの間、特定状態または保留タイプのみであるかを追跡します。

属性

この時間トリガー・トランザクションの属性は、以下のとおりです。

表 360. 作業オーダー・モニターの属性

属性	値
基本トランザクション ID (Base Transaction ID)	WORK_ORDER_MONITOR
基本伝票種別	作業オーダー
基本プロセス・タイプ (Base Process Type)	VAS プロセス
抽象化トランザクション	なし

条件パラメーター

このモニターの条件パラメーターは、以下のとおりです。

表 361. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター

パラメーター	説明
アクション	必須。トランザクションをトリガーします。これを空欄のままにすると、デフォルトである「取得 (Get)」(唯一の有効値)に設定されます。

表 361. 作業オーダー・モニターの条件パラメーター (続き)

パラメーター	説明
バッファーに入れるレコード数	オプション。一度に取得および処理するレコードの数。これを空欄のままにしたり、0 (ゼロ) と指定したりすると、デフォルトである 5000 に設定されます。
エンタープライズ・コード (EnterpriseCode)	オプション。作業オーダー・モニターの実行に必要なエンタープライズ。これが渡されない場合は、すべてのエンタープライズがモニターされます。
ノード	オプション。作業オーダー・モニターの実行に必要なノード。これが渡されない場合は、すべてのノードがモニターされます。
保留中のジョブの収集 (CollectPendingJobs)	このパラメーターが「N」に設定された場合、エージェントは、このモニターの保留中のジョブの情報を収集しません。この保留中のジョブの情報は、System Management Console 内のモニターのモニタリングに使用されます。
コロニー ID (ColonyID)	1 つのテーブルが複数のスキーマに存在する可能性のある、マルチ・スキーマのデプロイメントが必要です。コロニーのエージェントを実行します。

追跡対象の統計

このトランザクションの場合、以下の統計が追跡されます。

表 362. 作業オーダー・モニターの統計

統計の名前	説明
モニターされる作業オーダー数 (NumWorkOrdersMonitored)	モニターされる作業オーダーの数。

保留中のジョブの数

このトランザクションの場合、保留中のジョブの数は、NEXT_ALERT_TS が現在の日付の値以下 (\leq) の条件でモニターされる作業オーダーの数になります。

発生するイベント

イベントは発生しません。モニター・ルールに関連付けられている個別のアクションが実行されます。アクションに対して公開されるデータは、workOrder_dbd.txt です。

モニター・ルールの条件テンプレート

モニター・ルールに条件が含まれる場合、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/monitor/WORK_ORDER_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが使用されて、作業オーダーの詳細および評価モニター・ルールの詳細が取得されます。詳しくは、提供されている <INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/WORK_ORDER_MONITOR_CONDITION.xml.sample ファイルを参照してください。

<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/
WORK_ORDER_MONITOR_CONDITION.xml テンプレート・ファイルが存在しない場合、デ
フォルトのモニター・テンプレートの MonitorConsolidation->WorkOrder エlemen
ト、<INSTALL_DIR>/repository/xapi/template/source/smcfs/monitor/
WORK_ORDER_MONITOR.xml ファイルが使用されます。

デフォルトのモニター・テンプレートが使用される場合、MonitorConsolidation->
WorkOrder-> MonitorRule エレメントは無視されて、条件に渡されません。

第 23 章 オーダー変更タイプ

オーダー変更タイプ

デフォルトのオーダー変更タイプおよび関連付けられた変更レベルは、以下のとおりです。

表 363. オーダー伝票変更タイプ

変更タイプ	説明	変更レベル
AD	オーダー伝票のヘッダー、明細または出荷に指示を追加することができます。 例えば、明細アイテムに贈答品用の包装が必要であることを示した指示を追加したい場合などです。	ヘッダー 明細 出荷 受入
明細の追加	明細は、オーダー伝票のヘッダー、リリース、交渉または出荷に追加することができます。 重要: 明細をオーダーに追加する際、価格が構成されていない場合、「明細の追加」変更タイプは監査されません。	ヘッダー リリース 交渉 出荷
メモの追加	オーダー伝票のヘッダーまたはリリースにメモを追加することができます。	ヘッダー リリース
オプションの追加	提供サービスまたは配送サービスのオーダー明細にオプションを追加できます。	明細
数量の追加 (Add Quantity)	オーダー伝票の明細またはリリース明細に新たな数量を追加することができます。	明細 リリース明細
新たな日付の追加と削除	出荷モニターで使用される日付タイプ（「出荷日」など）を、オーダー伝票の出荷に追加、またはそこから削除することができます。 例えば、出荷をモニターするために組織が使用する配達日を追加したい場合などです。	出荷

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
料金の追加/削除	<p>料金を、オーダー伝票の出荷に追加、またはそこから削除することができます。</p> <p>例えば、出荷に危険物が含まれており、組織が危険物の出荷について追加の出荷料を課す場合、この出荷に対して追加料金を追加することができます。</p>	出荷
容器の追加/削除	<p>容器を、オーダー伝票の出荷に追加、またはそこから削除することができます。</p>	出荷
製品明細に配達明細を関連付ける	<p>製品オーダー明細の配達方法が配達の場合、製品明細と配達明細を関連付けて、製品明細を配達する方法を示すことができます。</p>	明細
配達明細に製品明細を関連付ける	<p>製品オーダー明細の配達方法が配達の場合、製品明細と配達明細を関連付けて、製品明細を配達する方法を示すことができます。</p>	明細
サービス明細に製品明細を関連付け	<p>提供サービスを製品明細に関連付けて、サービスが何らかの形で製品明細に依存していることを示すことができます。</p>	明細
製品明細にサービス明細を関連付け	<p>提供サービスを製品明細に関連付けて、サービスが何らかの形で製品明細に依存していることを示すことができます。</p>	明細
属性変更	<p>受入属性は変更可能です。変更可能な属性のリストについては、「<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation Javadocs</i>」の <code>changeReceipt</code> API を参照してください。</p>	受入
バックオーダー	<p>オーダー伝票の明細、リリース、またはリリース明細は、バックオーダー可能です。</p> <p>例えば、オーダーがノードにリリースされ、そのノードにオーダーを履行するために必要な量がない場合、リリースをバックオーダーすることができます。</p>	<p>明細</p> <p>リリース</p> <p>リリース明細</p>

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
キャンセル (Cancel)	オーダー伝票のヘッダー、明細、リリース、またはリリース明細は、手動でアプリケーション・コンソールからキャンセルできます。	ヘッダー 明細 リリース リリース明細
追加住所の変更	オーダー伝票のヘッダーまたは明細に追加住所を構成した場合、その追加住所のフィールドを変更することができます。	ヘッダー 明細
予定の変更	配達および提供サービス・オーダー明細について、予定を取得し変更することができます。	明細
請求先の変更	オーダー伝票のヘッダーまたはリリースに関連付けられた請求先住所フィールドを変更することができます。	ヘッダー リリース
バンドル定義の変更	<p>既存のバンドル定義を新規のバンドル定義と置き換えることができます。</p> <p>例えば、 「REPLACE_BUNDLE」アクションをバンドル親に渡して、既存のバンドル定義を変更できます。渡されたすべてのコンポーネントは、オーダーおよびバンドルと共に残ります。残ったすべてのコンポーネントは削除されます。</p> <p>重要: これに加えて、削除されるすべてのコンポーネントで変更タイプ DELETE が実行され、追加されるコンポーネントで変更タイプ ADD_LINE が実行されます。この変更は、バンドル親の即時コンポーネントに適用されます。</p>	明細
バイヤーの組織を変更	オーダー伝票のヘッダーに関連付けられたバイヤー組織は、変更可能です。この変更は、「オーダーの詳細」画面でのみ行うことができます。	ヘッダー

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
運送会社の変更	<p>オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリースに関連付けられた、「運送会社/サービス」または「運送会社」フィールドを変更することができます。</p> <p>例えば、運送会社およびサービスを UPS Next Day Air から FedEx Express® Saver Pack に変更できます。</p> <p>重要: この変更タイプを許可する場合、「運送会社サービス・コードの変更」も許可する必要があります。</p>	<p>ヘッダー</p> <p>明細</p> <p>リリース</p>
運送会社アカウント番号の変更	<p>オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリースに関連付けられた、「運送会社のアカウント番号」フィールドを変更することができます。</p>	<p>ヘッダー</p> <p>明細</p> <p>リリース</p>
運送会社サービス・コードの変更	<p>オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリースに関連付けられた、「運送会社/サービス」フィールドを変更することができます。</p> <p>例えば、運送会社およびサービスを UPS Next Day Air から FedEx Express Saver Pack に変更できます。</p> <p>重要: この変更タイプを許可する場合、「運送会社の変更」も許可する必要があります。</p>	<p>ヘッダー</p> <p>明細</p> <p>リリース</p>
連絡先情報の変更	<p>オーダー伝票のヘッダーに関連付けられたバイヤー/セラーの連絡先情報のフィールドを変更することができます。</p>	<p>ヘッダー</p>
費用の変更 (Change Cost)	<p>オーダー伝票のリリースまたはリリース明細に関連付けられた、「ユニット・コスト」フィールドを変更することができます。</p>	<p>リリース</p> <p>リリース明細</p>

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
通貨の変更	<p>オーダー伝票のヘッダーに関連付けられた通貨は、変更可能です。通貨を変更すると、Sterling Selling and Fulfillment Foundation は、自動的にオーダーの価格を再計算します。ただし、既存の料金と税は、手動で変換する必要があります。</p>	ヘッダー
カスタム日付の変更	<p>オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリースに関連付けられた、オーダーのモニターで使用される日付タイプ・フィールドを変更することができます。</p> <p>次のカスタム日付フィールドは、この変更タイプが許可されている場合、変更可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 要求済み • 予定 • 実際の日付 <p>例えば、リリースの処理で遅延がある場合、予定配達日を変更できます。</p>	ヘッダー 明細 リリース
配送コードの変更	<p>オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリースに関連付けられた、「配送コード」フィールドを変更することができます。</p> <p>例えば、オーダーの運賃がエンタープライズによって支払われることを示す場合、ENTERPRISE の配送コードを選択できます。</p>	ヘッダー 明細 リリース
配達方法の変更	<p>製品オーダー明細は、製品 ID が最終宛先に送信される方法を示します。これは、SHIP、DELIVER または PICKUP に変更できます。</p>	明細
有効期限の変更	<p>オーダー伝票の交渉に関連付けられた有効期限を変更することができます。</p>	交渉

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
運賃条件の変更	<p>オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリースに関連付けられた、「運賃条件」フィールドを変更することができます。</p> <p>例えば、オーダー明細の運賃条件を CIF (保険料および運賃) から CFR (費用および運賃) に変更できます。</p>	<p>ヘッダー</p> <p>明細</p> <p>リリース</p>
指示の変更	<p>オーダー伝票のヘッダー、明細または出荷に関連付けられた指示を変更することができます。</p> <p>次の指示フィールドは、この変更タイプが許可されている場合、変更可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指示タイプ • テキスト • URL 	<p>ヘッダー</p> <p>明細</p> <p>出荷</p> <p>受入</p>
アイテム説明の変更	<p>オーダー伝票の明細に関連付けられたアイテムの「説明」フィールドを変更することができます。</p>	<p>明細</p>
反復の変更	<p>オーダー伝票のヘッダーまたは明細に関連付けられた反復フィールドを変更することができます。</p> <p>例えば、マスター・オーダーの次の反復日を将来のある時点に変更できます。</p>	<p>ヘッダー</p> <p>明細</p>
マークの変更	<p>オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリースに関連付けられた住所について、マークのあるフィールドを変更することができます。</p>	<p>ヘッダー</p> <p>明細</p> <p>リリース</p>
オーダー名の変更	<p>オーダー伝票のヘッダーに関連付けられた「オーダー名」フィールドを変更することができます。</p>	<p>ヘッダー</p>

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
他の属性の変更	システムまたはユーザー定義の変更タイプが関連付けられていないフィールドを変更することができます。	ヘッダー 明細 リリース 交渉 交渉明細 出荷
他の関係の変更	このバージョンでは使用しません。	出荷
支払方法の変更	オーダー伝票のヘッダーまたはリリースに関連付けられた「支払タイプ」フィールドを変更することができます。 例えば、オーダーの支払タイプを「小切手」から「クレジット・カード」に変更できます。	ヘッダー リリース
支払ルール ID の変更 (Change Payment Rule ID)	オーダー伝票のヘッダーに関連付けられた「支払ルール」フィールドは、変更可能です。 例えば、支払ルールをデフォルトのルールから、そのオーダーのカスタム・ルールに変更できます。	ヘッダー
支払ステータスの変更	オーダー伝票のヘッダーに関連付けられた「支払ステータス」フィールドは、変更可能です。 例えば、オーダーの支払ステータスを「承認待ち」から「承認済み」に変更できます。	ヘッダー
価格の変更	オーダー伝票のヘッダーまたは明細に料金を追加することができます。	ヘッダー 明細
受入ノードの変更	オーダー伝票の明細に関連付けられた「受入ノード」フィールドは、変更可能です。 例えば、何らかの理由で、オーダー明細の元の受入ノードが明細を受け入れることができない場合、他の受入ノードに変更できます。	明細

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
参照の変更	API を使用して、YFS_REFERENCE_TABLE 内の名前/値のペアを変更することができます。	ヘッダー 明細
出荷指定日の変更	オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリースに関連付けられた、「出荷指定日」を変更することができます。 例えば、顧客が当初要求していた日付よりも後にオーダーが出荷されるように決定した場合、出荷指定日を変更できます。	ヘッダー 明細 リリース
スケジュールの変更	オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリース明細に関連付けられたスケジュール属性 (出荷予定日、予定配達日、ロット番号など) を変更することができます。	ヘッダー 明細 リリース リリース明細
スケジュール・ルール ID の変更	オーダー伝票のヘッダーに関連付けられたスケジュール・ルールを変更することができます。これによって、ユーザーは、「オーダーのスケジュール」ポップアップ・ウィンドウの「スケジュールリング・ルール」ドロップダウン・リストから、オーダーで使用するスケジュールリング・ルールを選択できます。	ヘッダー
出荷ノードの変更	オーダー伝票のヘッダーまたは明細に関連付けられた「出荷ノード」フィールドは、変更可能です。 例えば、何らかの理由で、オーダー明細の元の出荷ノードがオーダー明細を処理できない場合、他のノードに変更できます。	ヘッダー 明細
出荷先の変更	オーダー伝票のヘッダー、明細またはリリースに関連付けられた、出荷先住所のフィールドを変更することができます。	ヘッダー 明細 リリース

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
状況の変更	<p>オーダー伝票のヘッダー、明細、リリース、リリース明細または交渉に関連付けられたオーダー・ステータス(「作成済み」など)は、変更可能です。</p> <p>この変更タイプで影響を受けるのは、プロセス・タイプ・リポジトリーに存在するオーダー・ステータスのみです。オーダー伝票に対して実行されるアクション(オーダーの保留やキャンセルなど)は、影響を受けません。</p>	<p>ヘッダー</p> <p>明細</p> <p>リリース</p> <p>リリース明細</p> <p>交渉</p>
税の変更	<p>オーダー伝票のヘッダーまたは明細に関連付けられた「税の金額」を変更することができます。</p>	<p>ヘッダー</p> <p>明細</p>
出荷の削除	<p>オーダー伝票の出荷は、削除可能です。</p>	<p>出荷</p>
保留	<p>オーダー伝票のヘッダーまたはリリースは、手動で保留にすることができます。</p> <p>例えば、特定のバイヤーに対してセキュリティー検査を実行する場合、オーダーがスケジュールされる前に、必要な情報を明確にできるまでそのオーダーを保留状態にすることができます。</p>	<p>ヘッダー</p> <p>リリース</p>
集合・混載に含める	<p>オーダー伝票の出荷は、集合・混載ドキュメントに含めることができます。</p>	<p>出荷</p>
配送計画に出荷を含める	<p>オーダー伝票の出荷は、配送計画に含めることができます。</p>	<p>出荷</p>
出荷の梱包	<p>オーダー伝票の出荷は、梱包できます。</p>	<p>出荷</p>
価格プログラム	<p>オーダー伝票のヘッダーに関連付けられた価格プログラムは、変更可能です。</p>	<p>ヘッダー</p>
受入完了	<p>オーダー伝票の受入は、完了としてマークすることができます。</p>	<p>受入</p>
保留解除	<p>オーダー伝票のヘッダーは、保留解除できます。</p>	<p>ヘッダー</p>

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
製品明細の関連付けから配達明細を削除	配達明細は、製品オーダー明細から削除できます。	明細
明細の削除	オーダー伝票のヘッダー、明細および出荷から明細を削除できます。	ヘッダー 明細 出荷
オプションの削除	配送サービスおよび提供サービスからオプションを削除できます。	明細
配達明細の関連付けから製品明細を削除 (Remove Product Line From Delivery Line Association)	製品明細は、配達明細から削除できます。	明細
サービス明細の関連付けから製品明細を削除 (Remove Product Line From Service Line Association)	製品明細は、提供サービス・オーダー明細から削除できます。	明細
製品明細関連付けからサービス明細を削除	提供されたサービス明細は、製品オーダー明細から削除できます。	明細
配送計画からの出荷の削除	オーダー伝票の出荷は、配送計画から削除できます。	出荷
不足	オーダー伝票のヘッダー、明細、リリース、リリース明細および受入は、不足する可能性があります。予定数量が不足するとこの状況が発生します。	ヘッダー 明細 リリース リリース明細 受入
分割明細	オーダー伝票の明細またはリリース明細は、複数の明細に分割できます。	明細 リリース明細
出荷の開梱	オーダー伝票の出荷は、開梱可能です。	出荷
未受入	オーダー伝票の受入は、完全な未受入または部分的な未受入が可能です。これによって、未受入と識別された数量は「出荷済み」のステータスに戻ります。	受入

表 363. オーダー伝票変更タイプ (続き)

変更タイプ	説明	変更レベル
スケジュール解除	<p>オーダー伝票のヘッダーまたは明細は、スケジュール済みノードからスケジュール解除することができます。これによって、スケジュール済みノードのオーダーで予約済みのすべての在庫はキャンセルされます。</p>	<p>ヘッダー 明細</p>

第 24 章 条件ビルダーの属性

条件ビルダーの属性

条件ビルダーのステートメントは、Applications Manager 全体で定義されている属性を使用して構築されます。

これらの属性は、以下のようにグループ化されています。

販売オーダー

- オーダー・フルフィルメント
- オーダー交渉
- 出荷
- 受入

計画済みオーダー

- 計画済みオーダー実行
- 計画済みオーダー交渉

返品オーダー

- 返品物流
- 返品出荷
- 返品受入

テンプレート・オーダー

- テンプレート・オーダー

購入オーダー

- 購入オーダー実行
- 購入オーダー交渉
- 入荷
- 購入オーダー受入

転送オーダー

- 転送オーダー実行
- 転送オーダー配達
- 転送オーダー受入

マスター・オーダー

- マスター・オーダー・フルフィルメント

見積

- 見積フルフィルメント

集合・混載

- 集合・混載実行

一般

- 一般
- WMS 格納
- WMS レイアウト定義
- WMS 在庫
- トレーラー積み付け
- タスク実行
- 移動要請実行
- 積荷目録作成
- 超過梱包作成

棚卸

- 棚卸実行

容器

- パック・プロセス

ウェーブ

- 出庫ピッキング

作業オーダー

- VAS プロセス

案件

- 案件フルフィルメント

アイテム・ベース割り当て (IBA)

- アイテム・ベース割り当て (IBA) オーダー

販売オーダー

オーダー・フルフィルメント

「オーダー・フルフィルメント」、「オーダー実行」、「見積フルフィルメント」、「転送オーダー実行」、および「テンプレート・オーダー」の条件ビルダー属性は同じです。

表 364. オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性

属性	説明
オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。

表 364. オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	オーダーの配達方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
処分コード	アイテムの処分コード。このフィールドは、「返品物流」および「供給コラボレーション」に対してのみ適用されます。
明細タイプ	オーダー明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
オーダー・タイプ	オーダー・タイプ。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー・タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	オーダーの支払ステータス。
販売取り消し済み	オーダーが取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	オーダーで実行された最終トランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	オーダーの請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
入荷ノード	オーダーの出荷を受け入れるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	オーダーの出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	オーダー上の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
「出荷先 ID」	オーダーの出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	オーダーのサプライヤーのコード。
製品属性	
製品 ID	オーダー明細上のアイテムの ID。
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	オーダー明細上のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	オーダーのフルフィルメント・タイプ。
計画的なバックオーダー	オーダーが、オーダー作成時に意図的に「バックオーダー済み」ステータスに入れられたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	オーダー上のノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	オーダーのオーダー・ソーシング分類。

表 364. オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したオーダー属性	
チェーン・タイプ	オーダーのチェーン・タイプ。
連鎖明細	オーダー明細が他のオーダー明細に連鎖されているかどうかを示すフラグ。
派生明細	オーダー明細が他のオーダー明細から派生しているかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	オーダーの目的。交換オーダーの場合、このフィールドは EXCHANGE に設定されます。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

オーダー交渉

「オーダー交渉」および「計画済みオーダー交渉」の条件ビルダー属性は同じです。

表 365. オーダー交渉の条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
イニシエーター組織コード	交渉を開始する組織のコード。
ネゴシエーター組織コード	イニシエーターの提案を承認、修正申し込み、または拒否できる組織のコード。
交渉パイプライン・キー	このオーダーで使用される交渉パイプラインのキー。
交渉の番号	このオーダーの交渉の番号。
交渉ルール・キー	このオーダーの交渉ルールのキー。
ヘッダー・エンティティ	交渉が開始された対象のエンティティ。現在、適用可能なエンティティは「オーダー」のみです。
交渉ステータス	このオーダーの交渉のステータス。
ドキュメント・タイプ	このオーダーの伝票種別。標準の値は「販売オーダー」です。
運賃条件	このオーダーに関する運賃条件。
支払条件 (Payment Terms)	このオーダーに関する支払条件。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

出荷

「出荷」、「入荷」、「転送オーダー配達」、および「返品出荷」の条件ビルダー属性は同じです。

表 366. 出荷条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	出荷上のエンタープライズのコード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	この出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	オーダー上の出荷ノードのインターフェース・タイプ（「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」）。
入荷ノード	この出荷を受け取ったノード。
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
運賃条件	この出荷に関する運賃条件。
運送会社タイプ	この出荷の運送会社タイプ。
危険物フラグ (Hazardous Materials Flag)	これらの材料が危険物かどうかを示すフラグ。
ESP チェックが必要	出荷集約時にエコノミック出荷パラメーター・チェックが必要かどうかを示すフラグ。
予約が必要	サービス実行で予約が必要かどうかを示すフラグ。
ルーティング・ガイド保守	この出荷でルーティング・ガイドを保守するかどうかを示すフラグ。
配送業者 (Carrier)	この出荷の運送会社。
WMS 6.2 とリアルタイムの統合	この出荷品の出荷元のノードが Sterling Warehouse Management System と統合しているかどうかを示すフラグ。このフィールドを「N」に設定すると、ユーザーが WMS 6.2、またはその他の倉庫管理システムと統合していることを意味します。
手動で入力されました	この出荷がコンソールを使用して入力されたかどうかを示すフラグ。
配送コード	輸送コストを支払うエンティティのコード。
国/地域	出荷品の出荷先の国または地域。
配達方法	出荷の配達方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
要請されたシリアル	出荷が、特定のシリアル番号が渡された明細を保有するかどうかを示すフラグ。保有している場合、異なる出荷プロセスがバイラインで選択できます。
提供サービス	出荷が、関連付けられた提供サービス・アイテムを保有するかどうかを示すフラグ。
出荷タイプ	同じ性質の出荷のセットを示す。

表 366. 出荷条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

受入

受入条件ビルダーの属性は、返品受入の属性と同じです。

計画済みオーダー

計画済みオーダー実行

「計画済みオーダー実行」の条件ビルダー属性は、「オーダー・フルフィルメント」属性と同じです。

計画済みオーダー交渉

「計画済みオーダー交渉」の条件ビルダー属性は、「オーダー交渉」属性と同じです。

返品オーダー

返品物流

表 367. 返品フルフィルメントの条件ビルダー属性

属性	説明
オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	返品のパッケージング方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
処分コード	アイテムの処分コード。
明細タイプ	返品明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、返品明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。

表 367. 返品フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
オーダー・タイプ	返品の種類。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、返品タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	返品の実行ステータス。
販売取り消し済み	返品が取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	返品で実行された最後のトランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	返品のリクエスト先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	返品のリクエスト先住所のコード。
入荷ノード	返品の出荷を受け付けるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	返品の出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	返品に関する出荷ノードのインターフェース・タイプ (外部アプリケーション、コンソール、Sterling WMS、または WMS 6.2)。
「出荷先 ID」	返品の出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	返品のリクエスト先住所のコード。
製品属性	
製品 ID	返品明細のアイテムの ID。
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	返品明細のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	返品のリクエスト先住所のタイプ。
計画的なバックオーダー	返品が、返品作成時に計画的にバックオーダー済みステータスにされたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	返品のリクエスト先住所のノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	返品のリクエスト先住所のオーダー・ソーシング分類。
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したオーダー属性	
チェーン・タイプ	返品のリクエスト先住所のチェーン・タイプ。
連鎖明細	返品明細が別の返品明細に関連付けられているかどうかを示すフラグ。
派生明細	返品明細が別の返品明細から派生したものであるかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	このフィールドは、販売オーダーのみに適用されます。

表 367. 返品フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

返品出荷

返品出荷の条件ビルダー属性は、出荷属性と同じです。

返品受入

受入、購入オーダー受入、返品受入、転送オーダー受入の条件ビルダーの属性は同じです。

表 368. 返品受入の条件ビルダー属性

属性	説明
ドキュメント・タイプ	受入の伝票種別。通常値は、返品オーダーです。
エンタープライズ・コード	受入を保有するエンタープライズ・コード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	出荷品の出荷元のノード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
入荷ノード	出荷を受け取ったノード。
受入ノード・インターフェース・タイプ	オーダーに関する受入ノードのインターフェース・タイプ (外部アプリケーション、コンソール、Sterling WMS、または WMS 6.2)。
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
運賃条件	受入の運賃条件。
運送会社タイプ	受入の運送会社タイプ。
危険物	このフラグは、受入に危険物があるかどうかを示します。
検査保留中	この返品に検査保留中のものがあるかどうかを示すフラグ。
受入ノードをリアルタイムに統合 (Is Receiving Node Integrated Real Time)	このフラグは、受入ノードが WMS 6.2 と統合されるか、別の WMS システムと統合されるかどうかを示します。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

テンプレート・オーダー

テンプレート・オーダーの条件ビルダー属性は、オーダー・フルフィルメント属性と同じです。

購入オーダー

購入オーダー実行

表 369. 購入オーダー実行の条件ビルダー属性

属性	説明
オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	入庫オーダー (出荷、ピックアップまたは配達) の配達方法。
処分コード	アイテムの処分コード。
明細タイプ	入庫オーダー明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、入庫オーダー明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
オーダー・タイプ	入庫オーダーのタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、入庫オーダー・タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	入庫オーダーの支払ステータス。
販売取り消し済み	入庫オーダーが取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	入庫オーダーで実行された最後のトランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	入庫オーダーの請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	入庫オーダーのエンタープライズ・コード。
入荷ノード	入庫オーダーの出荷を受け付けるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	入庫オーダーの出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	入庫オーダーに関する出荷ノードのインターフェース・タイプ (外部アプリケーション、コンソール、Sterling WMS、または WMS 6.2)。
「出荷先 ID」	入庫オーダーの出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	入庫オーダーのサプライヤーのコード。
製品属性	
製品 ID	入庫オーダー明細上のアイテムの ID。

表 369. 購入オーダー実行の条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	入庫オーダー明細のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	入庫オーダーのフルフィルメント・タイプ。
計画的なバックオーダー	入庫オーダーが、入庫オーダー作成時に計画的にバックオーダー済みステータスにされたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	入庫オーダーのノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	入庫オーダーのオーダー・ソーシング分類。
予約が必須	予約が必須かどうかを示すフラグ。
関連したオーダー属性	
チェーン・タイプ	入庫オーダーのチェーン・タイプ。
連鎖明細	入庫オーダー明細が別の入庫オーダー明細に紐付けられているかどうかを示すフラグ。
派生明細	入庫オーダー明細が別の入庫オーダー明細から派生したものであるかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	このフィールドは、販売オーダーのみに適用されます。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについては、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

購入オーダー交渉

表 370. 購入オーダー交渉の条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	入庫オーダーのエンタープライズ・コード。
イニシエーター組織コード	交渉を開始する組織のコード。
ネゴシエーター組織コード	イニシエーターの提案を承認、修正申し込み、または拒否できる組織のコード。
交渉パイプライン・キー	この入庫オーダーが通る交渉パイプラインのキー。
交渉の番号	この入庫オーダーの交渉の番号。
交渉ルール・キー	この入庫オーダーの交渉ルールのキー。
ヘッダー・エンティティ	交渉が開始された対象のエンティティ。現在、適用可能なエンティティは「オーダー」のみです。
交渉ステータス	この入庫オーダーの交渉ステータス。

表 370. 購入オーダー交渉の条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
ドキュメント・タイプ	この在庫オーダーのドキュメント・タイプ。通常の値は、「購入オーダー」です。
運賃条件	この在庫オーダーの運賃条件。
支払条件 (Payment Terms)	この在庫オーダーの支払条件。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

入荷

「入荷」条件ビルダー属性は、「出荷」属性と同じです。

購入オーダー受入

購入オーダー受入の条件ビルダー属性は、返品受入属性と同じです。

転送オーダー

転送オーダー実行

転送オーダー実行の条件ビルダー属性は、オーダー・フルフィルメント属性と同じです。

転送オーダー配達

転送オーダー配達の条件ビルダー属性は、出荷属性と同じです。

転送オーダー受入

転送オーダー受入の条件ビルダー属性は、返品受入属性と同じです。

マスター・オーダー・フルフィルメント

表 371. マスター・オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性

属性	説明
マスター・オーダー属性	
条件変数 1	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。

表 371. マスター・オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
条件変数 2	条件のビルドに使用可能な変数。これは、YFS_ORDER_LINE データベース・テーブルの既存フィールドであり、データベースを拡張せずに条件を作成するために使用できます。
配達方法	オーダーの配達方法 (出荷、ピックアップまたは配達)。
処分コード	アイテムの処分コード。このフィールドは、「返品物流」および「供給コラボレーション」に対してのみ適用されます。
明細タイプ	オーダー明細のタイプ。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー明細タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
オーダー・タイプ	オーダー・タイプ。 Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、オーダー・タイプに関連付けられたアプリケーション・ロジックはありません。このフィールドは、ユーザーのビジネス慣習に応じて設定することができます。
支払ステータス	オーダーの支払ステータス。
販売取り消し済み	オーダーが取り消し済みかどうかを示すフラグ。
トランザクション ID	オーダーで実行された最終トランザクションの ID。
参加者属性	
「請求先 ID」	オーダーの請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
入荷ノード	オーダーの出荷を受け入れるノード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷ノード	オーダーの出荷品を出荷するノード。
出荷ノード・インターフェース・タイプ	オーダー上の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
「出荷先 ID」	オーダーの出荷先住所の ID。
サプライヤー・コード	オーダーのサプライヤーのコード。
製品属性	
製品 ID	オーダー明細上のアイテムの ID。
アイテム・グループ・コード	サービス・アイテムのグループ・コード。例えば、サービスが提供サービス・アイテムの場合、アイテム・グループ・コードは PS です。
アイテム明細 (Product Line)	オーダー明細上のアイテムの製品明細。
ソーシング属性	
フルフィルメント・タイプ	オーダーのフルフィルメント・タイプ。
計画的なバックオーダー	オーダーが、オーダー作成時に意図的に「バックオーダー済み」ステータスに入れられたかどうかを示すフラグ。
固定事前定義ノード	オーダー上のノードが固定事前定義ノードかどうかを示すフラグ。
オーダー・ソーシング分類	オーダーのオーダー・ソーシング分類。

表 371. マスター・オーダー・フルフィルメントの条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
予約が必須	予約 (reservation) が必須かどうかを示すフラグ。
関連したマスター・オーダー属性	
チェーン・タイプ	オーダーのチェーン・タイプ。
連鎖明細	オーダー明細が他のオーダー明細に連鎖されているかどうかを示すフラグ。
派生明細	オーダー明細が他のオーダー明細から派生しているかどうかを示すフラグ。
オーダー目的	オーダーの目的。交換オーダーの場合、このフィールドは EXCHANGE に設定されます。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

見積

見積フルフィルメント

見積フルフィルメントの条件ビルダー属性は、オーダー・フルフィルメント条件ビルダー属性と同じです。

集合・混載実行

表 372. 集合・混載実行条件ビルダー属性

属性	説明
集合・混載タイプ	集合・混載ドキュメントのタイプ。
エンタープライズ・コード	集合・混載ドキュメント上のエンタープライズのコード。
所有者の組織コード	集合・混載ドキュメントを所有する組織のコード。
配送業者 (Carrier)	集合・混載の輸送に使用される運送会社。
運送会社サービス・コード	集合・混載の輸送に使用される運送会社サービスのコード。
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
危険物	この集合・混載で危険物が輸送されるかどうかを示すフラグ。
出荷元ノード	集合・混載の出荷元ノード。
移動先ノード	集合・混載の出荷先のノード。
複数の集合・混載場所	追加の出荷を集合・混載または荷降ろしするために、複数の集合・混載場所を経由するかどうかを示すフラグ。

表 372. 集合・混載実行条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

一般

以下の条件ビルダーの属性は、「WMS 格納」、「WMS レイアウト定義」、「WMS 在庫」、「トレーラー積み付け」、「タスク実行」、「移動要請実行」、「積荷目録作成」、および「超過梱包作成」の属性と同一です。

表 373. 一般条件ビルダーの属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	エンタープライズのコード。
組織コード	組織のコード。
供給業者コード	サービスを提供する組織のコード。
出荷ノード	この出荷品を出荷するノード。
供給タイプ	在庫ステータスに関連付けられた供給タイプ。代表的な値は、「手持ち在庫」、「保留」などです。
製品 ID	オーダー明細上のアイテムの ID。
単位	製品の単位。
製品クラス	製品の特性に基づくアイテムの在庫分類です。代表的な値は、FQ (一級品)、SQ (二級品) などです。
在庫ステータス (Inventory Status)	倉庫内の在庫管理プロセスの結果に基づく、製品の在庫サブ分類。代表的な値は、「良品」(良品の在庫)、「破損品」(損傷した在庫)、「品質保留 (Qty-Hold)」(品質の保留) などです。
価格調整タイプ (Adjustment Type)	在庫調整のタイプ。代表的な値は、「循環棚卸」、「受入」、「ピッキング」、「バック」、「出荷 (Shipping)」などです。
アラート・タイプ	例外が発生したときに生成される警告のタイプです。
配送業者 (Carrier)	出荷の輸送に使用される運送会社。
タスク・タイプ (Task Type)	タスクに適用可能なタスク・タイプ。代表的な値は、「受入」、「品質管理」、「棚卸 (Count)」、「補充」、「取り出し」、「格納」、「VAS」、「梱包」、「出荷」、および「ピッキング」です。
ユーザー ID に割り当て (Assigned To User ID)	タスクが割り当てられるユーザーの ID。
タスク・ステータス (Task Status)	タスクが通過するパイプライン内でのタスク・ステータス。代表的な値は、「未完了」、「提案済み」、「進行中」、「保留」、「完了」、「キャンセル」などです。

表 373. 一般条件ビルダーの属性 (続き)

属性	説明
ドキュメント・タイプ	このオーダーの伝票種別。代表的な値は、「販売オーダー」、「購入オーダー」、「転送オーダー」、および「返品オーダー」です。
SC UI クライアントのバージョン (SC UI Client Version)	リッチ・クライアント・プラットフォーム・アプリケーションのバージョン番号。
アクティビティ・グループ ID	アクティビティ・グループの ID。
{自分の属性を入力してください}	カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『 <i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i> 』を参照してください。 このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。

WMS 格納

WMS 格納の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

WMS レイアウト定義

WMS レイアウト定義の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

WMS 在庫

WMS レイアウト在庫の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

トレーラー積み付け

トレーラー積み付けの条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

タスク実行

タスク実行の条件ビルダー属性は、一般属性と同じです。

移動要請実行

「移動要請実行」の条件ビルダー属性は、「一般」属性と同じです。

積荷目録作成

「積荷目録作成」の条件ビルダー属性は、「一般」属性と同じです。

超過梱包作成

「超過梱包作成」の条件ビルダー属性は、「一般」属性と同じです。

棚卸実行

表 374. 棚卸実行条件ビルダーの属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	棚卸要請を作成する対象となるエンタープライズのコードです。
要請タイプ	要請される棚卸のタイプ。
棚卸プログラム名	棚卸要請を作成する対象となる棚卸プログラムの名前です。
ノード・キー	棚卸要請が処理されるノード。
ゾーン ID	棚卸を実行する必要があるゾーンです。
ロケーション・サイズ・コード	棚卸を実行する必要があるロケーションのキャパシティーです。
LPN レベル	LPN レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
ケース・レベル	ケース・レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
パレット・レベル	パレット・レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
アイテム・レベル	アイテム・レベルで棚卸タスクを実行するかどうかを示すフラグです。
解決可能	この棚卸結果の差異が解決可能かどうかを示すフラグです。
製品クラス	製品の特性に基づくアイテムの在庫分類です。代表的な値は、FQ (一級品)、SQ (二級品) などです。
単位	棚卸を行ったアイテムの計測単位です。
アイテム分類 1	棚卸方法を決定するための 1 番目のアイテム分類属性です。
アイテム分類 2	棚卸方法を決定するための 2 番目のアイテム分類属性です。
アイテム分類 3	棚卸方法を決定するための 3 番目のアイテム分類属性です。
差異あり	棚卸要請に差異があるかどうかを示すフラグです。
絶対差異あり	棚卸要請に絶対差異があるかどうかを示すフラグです。
差異数量	棚卸結果とシステム数量との間の数量の差 (+/-) です。
絶対差異数量	棚卸結果とシステム数量との間の絶対差です。
差異値	棚卸結果とシステム数量との間のコストまたは値の差 (+/-) です。
絶対差異値	棚卸結果とシステム数量との間のコストまたは値の絶対差です。
前の棚卸との差異あり	このフラグは、現在の棚卸結果と以前の棚卸結果との間の差異を表示するかどうかを示します。

表 374. 棚卸実行条件ビルダーの属性 (続き)

属性	説明
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation</i> で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

バック・プロセス

表 375. バック・プロセス条件ビルダー属性

属性	説明
ノード属性	
出荷ノード	この出荷品を出荷するノード。
入荷ノード	この出荷を受け取ったノード。
出荷元の出荷ノード・インターフェース・タイプ	出荷元の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
出荷元サプライヤー・コード	出荷品を出荷するサプライヤーのコード。
出荷元 DCM リアルタイム統合	出荷元のノードが WMS 6.2 を使用するかどうかを示すフラグ。
出荷元の国/地域	出荷元の国または地域のコード。
出荷先の出荷ノード・インターフェース・タイプ	出荷先の出荷ノードのインターフェース・タイプ (「外部アプリケーション」、「コンソール」、「Sterling WMS」、または「WMS 6.2」)。
出荷先サプライヤー・コード	出荷先のサプライヤーのコード。
出荷先 DCM リアルタイム統合 (Ship to DCM Integration Real Time)	出荷先のノードが WMS 6.2 を使用するかどうかを示すフラグ。
出荷先の国/地域	出荷先の国または地域のコード。
組織属性	
エンタープライズ・コード	出荷を所有するエンタープライズのコード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
出荷属性	
出荷モード	出荷に使用される出荷モード。例えば、「小包」、「小口貨物」、「小口貨物未満」などです。
配送業者 (Carrier)	出荷の輸送に使用される運送会社。
運賃条件	出荷の運賃条件。
配送コード	輸送コストを支払うエンティティのコード。

表 375. バック・プロセス条件ビルダー属性 (続き)

属性	説明
梱包して保管 (Pack And Hold)	出荷を梱包して、後日取り出せるように格納する必要があるかどうかを示すフラグ。
出荷容器棚卸	出荷での容器の数。
容器詰めされた出荷フラグ (Shipment Containerized Flag)	出荷の容器詰めの状態を示すフラグ。値「01」は容器詰めされていないこと、値「02」は容器詰め途中であること、値「03」は容器詰めが完了したことを示します。
容器属性	
出荷容器	容器が出荷に属するかどうかを示すフラグ。
集合・混載容器	容器が集合・混載の一部かどうかを示すフラグ。
在庫パレット	容器が在庫パレットかどうかを示すフラグ。
LPN から変換される	在庫容器が出荷容器に変換済みかどうかを示すフラグ。
シリアル・キャプチャー保留中	容器についてシリアル・キャプチャーが保留中かどうかを示すフラグ。
梱包プロセスが完了している	容器について保留中の梱包アクティビティがないかどうかを示すフラグ。
製品配置が完了している	システムの推奨に従った製品の容器への配置が完了したかどうかを示すフラグ。
VAS が必要	容器に付加価値サービスが必要かどうかを示すフラグ。
子容器あり	容器が、他の容器を持つ親容器かどうかを示すフラグ。
アイテム数	容器に含まれているアイテムの数。
容器タイプ	出荷容器がケースまたはパレットのいずれかを指定する属性。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

出庫ピッキング

表 376. 出庫ピッキング条件ビルダー属性

属性	説明
アクティビティ・グループ ID	アクティビティ・グループの ID。
出荷グループ ID	出荷グループの ID。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

VAS プロセス

表 377. VAS プロセスの条件ビルダー属性

属性	説明
エンタープライズ・コード	アイテムまたはライセンス・プレートを所有するエンタープライズのコード。
供給業者コード	サービスを提供する組織のコード。
ノード・キー	作業オーダーが実行されるノード。
目的 (Purpose)	作業オーダー (オーダー (ORDER) / 在庫 (STOCK) / 出荷 (SHIP)) の目的。
サービス・アイテム・グループ・コード	サービス・アイテム・グループのコード (KIT/DKIT/COMPL/INVC/PS)。
サービス製品 ID (Service Item ID)	サービス・アイテムの ID。
セグメント・タイプ	セグメントのタイプ。これは MTO (オーダー用) または MTC (顧客用) にできます。
セグメント	作業オーダー内で起動される在庫が属する先のセグメント。
コンポーネントあり	作業オーダーにコンポーネント・アイテムがあるかどうかを示すフラグ。
ステータス	作業オーダーのステータス。
事前電話ステータス	事前電話プロセスのステータスを示すフラグ。
予定ステータス	予定のステータス。これは、サービス・オーダー明細と同期しています。予定ステータスは、提供サービス作業オーダーの場合に使用されます。
試行回数	作業オーダーの実行試行回数。
予定までの時間数	サービス・アイテムの予定までに残された時間数。
予定後の時間数	サービス・アイテムの最後の予定からの時間数。
最後に実行してからの時間数	サービス実行を最後に試行してからの時間数。
前回の実行は成功しました	このフラグは、サービス実行の最後の試行が成功したかどうかを示します。
未完了作業オーダー・フラグ	作業オーダーの実行が終了したかどうかを示すフラグ。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

案件

案件フルフィルメント

表 378. 案件フルフィルメント条件ビルダー属性

属性	説明
案件属性	
案件 ID	案件の ID。
案件名 (Opportunity Name)	案件の名前。
ステータス	案件のステータス。
通貨値	案件の通貨値。
成功の確率	オーダーが案件から作成される可能性。
参加者属性	
「請求先 ID」	案件の請求先住所の ID。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する可能性のある組織のコード。
エンタープライズ・コード	案件のエンタープライズのコード。
所有者ユーザー ID	案件の所有者のユーザー ID。
共同所有者ユーザー ID	案件の共同所有者のユーザー ID。
顧客連絡先 ID	案件の顧客連絡先の ID。
チーム・コード	案件を管理するチームのコード。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『<i>Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張</i>』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

アイテム・ベース割り当て (IBA) オーダー

表 379. IBA 属性

属性	説明
オーダー属性	
交換タイプ	オーダーの交換タイプ。
優先コード	オーダーのカスタマイズ可能優先コード。
優先番号	オーダーの数字の優先コード。
ドキュメント・タイプ	このオーダーの伝票種別。標準の値は 0001 (販売オーダー) です。
オーダー・タイプ	オーダー分類属性。このフィールドは、レポート作成目的、またはビジネス・プロセスのモデル化のための条件作成に使用できます。Sterling Selling and Fulfillment Foundation には、このフィールドに基づくデフォルト・ロジックはありません。
入力タイプ	このオーダーの作成で使用したチャンネル。
部門コード	オーダーが発行された宛先の部門コード。

表 379. IBA 属性 (続き)

属性	説明
検索条件 1	検索可能なカスタマイズ可能フィールド。
検索条件 2	検索可能なカスタマイズ可能フィールド。
オーダー明細	
明細タイプ	この明細タイプは、パイプラインの決定または条件付き処理のプロセス・モデリングで使用できます。
条件変数 1	プロセス・モデリングで条件の作成に使用可能なユーザー定義の変数。
条件変数 2	プロセス・モデリングで条件の作成に使用可能なユーザー定義の変数。
出荷属性	
サービス・レベル	オーダーまたは明細のサービスのレベル。
「出荷先 ID」	出荷先の ID。バイヤー組織を表す顧客定義が、Sterling Selling and Fulfillment Foundation 内にある場合、出荷先 ID は顧客 ID を表すことができます。そうでない場合、出荷先 ID は、出荷先の住所の担当者 ID またはオーダーの受入ノードを表すことができます。
運送会社サービス・コード	集合・混載の輸送に使用される運送会社サービスのコード。
参加者属性	
エンタープライズ・コード	オーダー上のエンタープライズのコード。
バイヤー組織コード	商品またはサービスを購入する組織のコード。
セラー組織コード	商品またはサービスを販売する組織のコード。
「請求先 ID」	オーダーの請求先となる顧客の ID。
{自分の属性を入力してください}	<p>カスタマイズ可能な条件ビルダー属性。このフィールドのカスタマイズについて詳しくは、『Sterling Selling and Fulfillment Foundation 条件ビルダーの拡張』を参照してください。</p> <p>このフィールドは、入力可能な XML 属性とは異なり、Sterling Selling and Fulfillment Foundation で事前に定義された非公開のキー属性のみに制限されます。</p>

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation

J46A/G4

555 Bailey Avenue

San Jose, CA 95141-1003

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、**IBM** 所定のプログラム契約の契約条項、**IBM** プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、**IBM** より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。**IBM** は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。**IBM** 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている **IBM** の価格は **IBM** が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© IBM 2012. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムの派生物です。© Copyright IBM Corp. 2012.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

IT Infrastructure Library は、英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 Office of Government Commerce の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Cell Broadband Engine, Cell/B.E は、米国およびその他の国における Sony Computer Entertainment, Inc. の商標であり、同社の許諾を受けて使用しています。

Linear Tape-Open, LTO, LTO ロゴ、Ultrium および Ultrium ロゴは、米国およびその他の国における HP、IBM Corp. および Quantum の商標です。

Connect Control Center[®]、Connect:Direct[®]、Connect:Enterprise[™]、Gentran[®]、Gentran[®]:Basic[®]、Gentran:Control[®]、Gentran:Director[®]、Gentran:Plus[®]、Gentran:Realtime[®]、Gentran:Server[®]、Gentran:Viewpoint[®]、Sterling Commerce[™]、Sterling Information Broker[®]、および Sterling Integrator[®] は、Sterling Commerce[™]、Inc.、IBM Company の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アイテム価格リスト
変更 49
アイテムの検証フラグ 109
アクション 149, 161, 178, 189, 201, 209, 210
作成 161, 189, 210
「宛先 (To)」フィールド 42, 43
アプリケーション・ルールのサイド・パネル 9
イベント 161, 189, 210
「イベント ID」フィールド 174, 194
インデックス
カタログ検索 263
「運送会社サービス・コード」フィールド 43
運送会社変更理由
削除 30
作成 29
定義 29
変更 30
運賃条件
削除 29
作成 27
定義 27
変更 29
「運賃条件のオーバーライド」フィールド 43
エンタープライズ 2
オーダー検証 4, 109
オーダー属性 3
オーダー住所タイプ 101, 102
外部参照
オーダー明細レベル 100, 101
オーダー・レベル 98, 99
他の属性 104
主要明細番号の生成 104
明細タイプ 103, 104
「オーダーの依頼日が変更された場合に予定日を再計算しない」フィールド 164
オーダー元 97, 98
オーダー・タイプ 95, 96, 123, 124

[カ行]

会計 3
会計コンポーネント 219
回答オプション 90
価格設定組織 10, 12
価格リスト
アイテム・リストの変更 49
「下限 (From)」フィールド 42, 43
カタログ
インデックス作成 263
「簡略説明」フィールド 214
基本ポジトリ 149, 178, 202
共通コード 113
許可に関する質問
質問も参照 91
「国/地域」フィールド 42
「ケース内容の入力が必要」フィールド 212
「警告を自動的に解決」フィールド 174, 194
継承
決定 10
交渉 149, 178, 201
構成画面
アクセス 10
顧客 3
顧客 ID の確認フラグ 109
顧客 ID マスター 67
顧客コンポーネント 67
定義 70
「顧客の分類」フィールド 212

[サ行]

サード・パーティー物流管理モデル 2
サービス 149, 178, 201
サービス実行
コンポーネントの構成 85
サービスの管理者
削除 87
設定 85
定義 85
デフォルト 85
変更 86
「再警告が必要」フィールド 174, 194
「再警告間隔」フィールド 174, 194
「最終処分」フィールド 214
作成
カタログ・インデックス 263
指示タイプ 4, 114

指示タイプ (続き)

削除 114
作成 113
変更 114
「事前輸送時間計算を使用」フラグ 31
「実際の日付」フィールド 170, 172, 190, 192
質問、参照、住所に関する質問を 87
支払条件 219, 220
支払ルール 225
住所に関する質問 87
キャパシティーへの影響
キャパシティーのインパクトの乗数 91
固定キャパシティーのインパクト 91
削除 93
定義 91
変更 92
再編成 93
削除 91
質問も参照 91
定義 89
変更 90
住所に関する質問グループ
削除 89
変更 88
住所に関する質問のグループ
定義 87
「集約者」フィールド 42, 43
出荷 149, 178, 201
「出荷先のオーバーライド」フィールド 43
出荷モード
削除 35
作成 34
定義 34
変更 35
在庫制約
定義 35
受入処分
削除 215
作成 213
変更 214
「受入処分」フィールド 213
受入処分の変更 214
受入不一致理由 215, 217
受入プリファレンス 210
削除 212
作成 211
変更 212

条件 149, 158, 159, 178, 187, 201, 208
作成 159, 187, 208
条件ビルダー 473
承認取り消し 58
承認の取り消し 58
「数量タイプ」フィールド 172, 192
ステータス 149, 155, 178, 184, 201, 206
作成 156, 185, 207
「ステータス」フィールド 172, 192
「ストア」フィールド 42, 43
税金名 223, 224, 225
「製品 ID」フィールド 211
「製品クラス」フィールド 214
「製品分類」フィールド 211
「説明」フィールド 170, 171, 174, 190,
192, 194
セラー 2
「セラー組織」フィールド 211
組織のルール 12
オーバーライド 13
別の組織のルールをロード 15
組織レベル 10
ルール 12

[タ行]

「超過出荷率」フィールド 212
超過受入 210
超過受入許容度定義 210
追加の物流ルール
定義 31
「デフォルトの管理者」フィールド 86
伝票種別 230
「都道府県」フィールド 42
トランザクション 149, 152, 178, 181,
201, 204
作成 153, 182, 205
ドロップ・ステータス 155, 184, 206

[ナ行]

入荷 149, 178, 201
「ノード」フィールド 43

[ハ行]

ページ条件 5, 229, 232
ルール 229
「ページ・コード」フィールド 231
「配送業者/サービス」フィールド 43
配送コード
削除 34
作成 33
定義 32
変更 33

パイプライン 149, 178, 201
作成 151, 180, 203
返品出荷
アクションの詳細の表示 189
条件の詳細の表示 187
詳細情報の表示 179
ステータスの詳細の表示 184
トランザクションの詳細の表示
181
返品受入
アクションの詳細の表示 210
条件の詳細の表示 208
詳細情報の表示 202
ステータスの詳細の表示 206
トランザクションの詳細の表示
204
返品物流
アクションの詳細の表示 161
条件の詳細の表示 159
詳細情報の表示 150
ステータスの詳細の表示 155
トランザクションの詳細の表示
152

パイプラインの決定 150, 178, 202

バイヤー 2

「バイヤー組織」フィールド 211
「バイヤーのルーティング・ガイドを考
慮」フィールド 28

「破損品」フィールド 214

バックオーダー理由 4, 119, 120

「バルク仕分けノード」フィールド 43

ビジネス・モデル 1

ピックアップ・ステータス 155, 184, 206

日付タイプ 169, 189

削除 170, 191

作成 169, 189

変更 170, 190

「日付タイプ」フィールド 170, 171,
172, 190, 192

表示管理タイプ 90

複数事業部制コーポレーション 2

物流管理 3

属性の定義 27

フルフィルメント 149, 178, 201

プロセス・タイプ 133, 177, 201

プロセス・タイプの構成 4

プロセス・タイプ・パイプライン 149,
178, 201

変更コンポーネント 130

タイプ 128, 130

ルール 125, 127

変更理由 4, 116

削除 116

作成 115

変更 116

ベンダー ID の検証フラグ 109

「返品」フィールド 174
「返品明細」フィールド 174
返品理由
削除 112
作成 111
変更 112
「保持日数」フィールド 231

[マ行]

マーケットプレイス 2

マイルストーン 171, 191

削除 173, 193

作成 171, 191

変更 172, 192

「マスター・オーダーの日付とオーダー明
細およびスケジュールの日付を同期す
る」フィールド 164

「明細タイプ (Line Type)」フィールド
211

メモ記載理由 122

モニター・イベント 173, 193

削除 175, 195

作成 173, 193

変更 175, 195

モニター・コンポーネント 169, 189

イベント 173, 193

削除 175, 195

作成 173, 193

変更 175, 195

日付タイプ 169, 189

削除 170, 191

作成 169, 189

変更 170, 190

マイルストーン 171, 191

削除 173, 193

作成 171, 191

変更 172, 192

[ヤ行]

「優先順位」フィールド 43

「郵便番号」フィールド 42

輸送の最適化 36

「要求済み」フィールド 170, 171, 190,
192

「予定」フィールド 170, 171, 190, 192

[ラ行]

リポジトリ 149, 178, 201

料金カテゴリ

削除 223

作成 221

追加、料金名 222

料金カテゴリー (続き)
 変更 223
 料金名の削除 223
 料金名の変更 222
料金の定義 220
ルーティング・ガイド 37
 削除 46
 作成 38
 変更 40
ルーティング・ガイド明細
 削除 46
 作成 40
 定義 40
 変更 45
「レベル」フィールド 172, 192
「ロールバック・セグメント」フィールド
 231

[数字]

「1 つの出荷内に混在させない」フラグ
 36

A

Applications Manager
 アクション 20
 コンテキスト・ヘルプ 25
 伝票種別 21
 特殊文字 25
 トラブルシューティング 25
 日時の入力 24
 ユーザー 23
 リスト 23
 ルックアップ 機能 21
 開始 7
 作業領域 16
 レイアウト 7

Q

「QC が必要」フィールド 212



Printed in Japan